
福知山市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和7年3月

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の実施方法	1
3.	調査票の回収状況	1
4.	報告書の見方	1
5.	標本誤差	2
II	調査結果のまとめ	3
1.	回答者の属性	3
2.	男女平等意識について	3
3.	性別役割分担について	6
4.	仕事について	10
5.	教育について	11
6.	社会活動への参加について	12
7.	防災について	12
8.	ワーク・ライフ・バランスについて	13
9.	女性に対する人権侵害について	14
10.	暴力について	14
11.	男女共同参画社会について	16
III	調査結果からみる考察と課題	18
1.	男女共同参画にかかわる意識の多様な側面	18
2.	性別役割分担の意識と実態	20
3.	女性と仕事について	21
4.	地域活動における男女の役割	22

IV 調査結果.....	24
1. 回答者の属性.....	24
2. 男女平等意識について.....	31
3. 性別役割分担について.....	60
4. 仕事について.....	81
5. 教育について.....	89
6. 社会活動への参加について.....	96
7. 防災について.....	101
8. ワーク・ライフ・バランスについて.....	104
9. 女性に対する人権侵害について.....	112
10. 暴力について.....	117
11. 男女共同参画社会について.....	131
調査票.....	140

I 調査概要

1. 調査の目的

「第4次福知山市男女共同参画計画はばたきプラン2021」を見直し、市の実情にあった後期計画の策定に資する基礎資料とするために、男女共同参画に関する市民意識調査を実施しました。

2. 調査の実施方法

調査対象者	市内に在住の16歳以上の市民（無作為抽出）
調査期間	令和6（2024）年9月4日（水）～令和6（2024）年9月30日（月）
調査方法	郵送による配布、郵送またはWebによる回答

3. 調査票の回収状況

調査票	調査対象者数 （配布数）	有効回収数	有効回収率
満16歳以上の福知山市民	1,600件	820件	51.2%

4. 報告書の見方

- ① 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
- ② 「MA」は「Multiple Answer（複数回答）」の略で、1つの質問に対して複数の選択肢を提示し、該当するものをすべて選んでもらう形式を指します。複数回答の場合、図中にMA（Multiple Answer = いくつでも）、3LA（3 Limited Answer = 3つまで）と記載しています。
- ③ 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
- ④ 不明（無回答）はグラフから除いている場合があります。
- ⑤ 表内において、**上位1位**、**上位2位**には色付けをしています。また、全体と比べて10ポイント以上高い場合には△、10ポイント以上低い場合には▼の記号を付けています。
- ⑥ 母数が少ない場合、分析から除外する場合があります。

5. 標本誤差

市民意識調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができます。

調査結果の信頼度 95%レベル（同一の調査を 100 回行った場合 95 回まではこの結果になるであろうという推定）における信頼区間は以下のとおりです。

主な%について求めたのが下表です。

この表から、例えば問「あなたの職業を教えてください。」の質問で女性は「正社員（従業員）・公務員」に約 20%の人が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が 3.8%であるので 100 回調査すると 95 回までは 16.2%から 23.8%の間の答えが得られるということになります。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし
 N = 母集団数
 n = 有効回答数
 P = 母集団の比率 (%)

		母集団数 (N)	有効 回答数 (p)	母集団の比率(P)				
				10% 90%	20% 80%	30% 70%	40% 60%	50%
全体		64,580	820	±2.0	±2.7	±3.1	±3.3	±3.4
性別	女性	32,622	422	±2.8	±3.8	±4.3	±4.6	±4.7
	男性	31,958	367	±3.1	±4.1	±4.7	±5.0	±5.1
性・ 年齢別	女性 20歳代以下	4,480	34	±10.0	±13.4	±15.3	±16.4	±16.7
	30歳代	3,572	39	±9.4	±12.5	±14.3	±15.3	±15.6
	40歳代	4,525	64	±7.3	±9.7	±11.1	±11.9	±12.2
	50歳代	4,954	58	±7.7	±10.2	±11.7	±12.5	±12.8
	60歳代	4,463	97	±5.9	±7.9	±9.0	±9.6	±9.8
	70歳以上	10,628	128	±5.2	±6.9	±7.9	±8.4	±8.6
	男性 20歳代以下	5,506	36	±9.8	±13.0	±14.9	±16.0	±16.3
	30歳代	4,074	38	±9.5	±12.7	±14.5	±15.5	±15.8
	40歳代	4,958	47	±8.5	±11.4	±13.0	±13.9	±14.2
	50歳代	5,304	49	±8.4	±11.1	±12.8	±13.7	±13.9
60歳代	4,455	81	±6.5	±8.6	±9.9	±10.6	±10.8	
70歳以上	7,661	115	±5.4	±7.3	±8.3	±8.9	±9.1	

Ⅱ 調査結果のまとめ

1. 回答者の属性

- 性別は、「女性」が51.5%、「男性」が44.8%で女性の方が約5%多くなっています。
- 年齢は、60歳以上が52.3%で母集団全体の構成比に比べて高いことから、全体の回答結果は、60歳以上の人の意見がやや強く反映されていることとなります。性別で見ると、すべての年代で女性の方が回答率が多くなっています。
- 職業別で見ると、女性は「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等、非正規雇用」が多く、男性は「正社員（従業員）・公務員」が多くなっています。
- 結婚している人の自身と配偶者の就業状況は、「夫婦とも働いていない（退職の場合も含む）」（23.2%）、「夫は正規雇用、妻はパート等非正規雇用で働いている」（21.1%）、「夫婦とも正規雇用で働いている」（17.9%）の順で多くなっています。
- 家族構成は、「二世帯世帯（夫婦と子、親と子等）」が41.1%で最も多く、次いで「夫婦のみ（同棲、事実婚を含む）」が37.1%、「一人世帯（ひとり暮らし）」が13.7%となっています。母集団全体の家族構成と比べて単独世帯の割合が少なくなっています。

2. 男女平等意識について

問1 社会の各分野における男女平等感

- 学校教育の場では「平等になっている」が6割近いですが、その他の分野ではいずれも「平等になっている」よりも「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が多くなっています。特に多いのは、社会の習慣やしきたり（70.9%）で、政治・経済活動への参加（67.3%）、賃金や待遇（63.5%）、雇用の機会や働く分野（61.0%）と続いています。社会全体でも“男性優遇”が61.3%と多くなっています。

①家庭生活では

- 家庭生活では、“男性優遇”は全体では53.5%、女性58.3%、男性48.3%で女性の方が10.0ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性50歳代は“男性優遇”が70.7%と他の年齢に比べて特に多くなっています。男性の30歳代以下は他の年齢に比べて“男性優遇”の割合が相対的に少なく、30歳代の男女を比較すると約20ポイントの差があります。
- 全体では、“男性優遇”の回答割合はほとんど変わりません。性別で見ると、“男性優遇”は、女性では前回調査よりも少なくなっていますが、男性では多くなっています。

②雇用の機会や働く分野では

- 雇用の機会や働く分野では、“男性優遇”は全体では61.0%、女性63.8%、男性58.3%で女性の方が5.5ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、“男性優遇”は女性20歳代以下の73.5%と女性40歳代の73.4%が特に多くなっています。20歳代以下の男性は“男性優遇”が少なく同年代の女性に比べて約20ポイントの差があります。
- 全体では、前回調査と比べて“男性優遇”の回答割合が少なくなっている一方で、そのうちの「男性が優遇されている」は多くなっています。男女とも同様の傾向です。

③賃金や待遇では

- 賃金や待遇では、“男性優遇”は全体で 63.5%、女性が 68.4%で男性に比べて 8.7 ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、20 歳代以下の男性は「平等になっている」が5割を超えています。女性 20 歳代以下では約3割でその差が大きくなっています。男女とも70歳以上では“男性優遇”が特に多くなっています。
- 全体では、前回調査と比べて“男性優遇”の回答割合が少なくなっている一方で、そのうちの「男性が優遇されている」は多くなっています。性別で見ると、男女とも全体と同様の傾向です。

④学校教育の場では

- 学校教育の場では、「平等になっている」が 58.0%で最も多く、“男性優遇”（13.6%）は他の分野に比べて少ないですが、“女性優遇”（2.3%）に比べると多くなっています。男女とも「平等になっている」が半数を超えています。
- 性・年齢別では、30 歳代の女性は「平等になっている」が 82.1%ですが、男性は 55.3%で、その差が大きくなっています。
- 全体では、「平等になっている」は調査ごとに少なくなっています。性別でも男女とも全体と同様の傾向です。

⑤自治会や地域では

- 自治会や地域では、“男性優遇”は全体で 48.3%、女性 51.9%、男性 45.0%で女性の方が多くなっています。
- 性・年齢別では、女性 40 歳代は“男性優遇”が 67.2%で他の年齢に比べて多くなっています。男性 20 歳代以下と 50 歳代では、“男性優遇”よりも「平等になっている」の方が多くなっています。
- 全体では、前回調査と比べて「どちらともいえない」が約10ポイント多くなっている分“男性優遇”の回答割合が少なくなっています。性別でも男女とも全体と同様の傾向です。

⑥政治・経済活動への参加では

- 政治・経済活動への参加では、“男性優遇”は全体で 67.3%、女性は 72.3%で、男性 63.0%に比べて 10 ポイント近く多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の 30 歳代以下では“男性優遇”は8割を超えて特に多くなっています。
- 全体では、前回調査と比べて「平等になっている」が10ポイント近く少なくなっています。性別で見ると、男女とも全体の傾向と同様です。

⑦法律や制度の上では

- 法律や制度の上では、全体では「平等になっている」（34.4%）と“男性優遇”（38.5%）の差が小さいですが、男性は「平等になっている」が 44.7%で、女性の 25.6%に比べて 19.1 ポイント多い一方、女性では“男性優遇”が 45.8%で、男性の 29.7%に比べて 16.1 ポイント多く、男女の意識の違いが大きくなっています。
- 性・年齢別では、女性 40 歳代は“男性優遇”が 57.8%と他の年齢に比べて多くなっている一方、男性の 20 歳代以下と 50 歳代では「平等になっている」が5割を超えています。
- 全体では、「平等になっている」が平成 26 年 49.0%、令和元年 41.2%、今回 34.4%で調査ごと

に少なくなっています。性別で見ると、男女とも全体と同様の傾向です。

⑧社会の習慣やしきたりでは

- 社会の習慣やしきたりでは、“男性優遇”は全体で70.9%、女性は74.6%で、男性68.1%に比べて多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の40歳代と50歳代は“男性優遇”が8割を超えて特に多くなっています。男性は概ね年齢が若いほど“男性優遇”が少ない傾向です。
- 全体では、“男性優遇”はほとんど変わりませんが、そのうちの「男性が優遇されている」は調査ごとに多くなっています。性別で見ると、男女とも全体の傾向と同様です。

⑨社会全体では

- 社会全体では、“男性優遇”は全体で61.3%、女性は65.4%で、男性の57.2%に比べて多くなっています。
- 性・年齢別では、男性の30歳代以下と50歳代は“男性優遇”が5割以下で他の年齢に比べて少なくなっています。
- 全体では、多くの分野と同様に“男性優遇”は大きく変わっていませんが、そのうちの「男性が優遇されている」は調査ごとに多くなっています。男女とも同様の傾向です。

問2 ジェンダー平等に関する意識

①「女（男）だから」「女（男）のくせに」といった言い方、考え方

- 「『女（男）だから』『女（男）のくせに』といった言い方、考え方」に対して、「少し抵抗を感じる」と「非常に抵抗を感じる」を合わせた“抵抗を感じる”は全体で80.1%となっています。女性84.6%、男性75.7%で、女性の方が8.9ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の30歳代は“抵抗を感じる”が89.8%で特に多くなっています。
- 全体では、前回調査と大きな変化はありません。性別では、女性は前回調査とほぼ同じですが、男性は「抵抗を感じない」がやや増えています。

②子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい

- 「子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい」に対して、“抵抗を感じる”は全体で59.4%、女性62.6%、男性55.6%で、女性の方が7.0ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の30歳代と60歳代は、“抵抗を感じる”が7割を超えて多くなっています。

③女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ

- 「女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ」に対して、“抵抗を感じる”は全体で74.2%、女性82.2%、男性66.7%で、女性の方が15.5ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性はいずれの年齢でも“抵抗を感じる”が約8～9割と多く、特に30歳代は“抵抗を感じる”89.7%のうち「非常に抵抗を感じる」が71.8%と特に多くなっています。

④男性が育児休業、介護休業をとること

- 「男性が育児休業、介護休業をとること」に対して、「抵抗を感じない」が全体で71.6%、女性80.1%、男性63.5%で、女性の方が16.6ポイント多くなっています。

- 性・年齢別では、女性はいずれの年齢でも「抵抗は感じない」が8割前後を占めています。男性では、20歳代以下は「抵抗は感じない」が9割を占めています。40歳代は「抵抗を感じる」が約5割で、男性は年齢による意識の違いが大きくなっています。
- 全体では、前回調査と大きな変化はありません。性別では、男性は「抵抗は感じない」がわずかに増えています。

⑤女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること

- 「女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること」に対して、「抵抗は感じない」が全体で84.5%、女性82.9%、男性87.2%で、男性の方がわずかに多くなっています。
- 性・年齢別では、男女とも年齢の若い方が「抵抗は感じない」がやや多い傾向です。
- 全体、性別ともに前回調査と大きな変化はありません。

⑥夫婦別姓にすること

- 「夫婦別姓にすること」に対して、「抵抗は感じない」が全体では44.8%で、「非常に抵抗を感じる」と「少し抵抗を感じる」を合わせた「抵抗を感じる」(38.5%)よりも多くなっています。女性は「抵抗は感じない」(50.5%)が過半数を占めていますが、男性は「抵抗を感じる」が48.5%で「抵抗は感じない」(38.4%)を約10ポイント上回っています。
- 性・年齢別では、女性30歳代は、「抵抗は感じない」が74.4%にのぼります。男性の40歳代以上では「非常に抵抗を感じる」が約2割となっています。
- 前回調査と比べて「抵抗は感じない」が、全体、男女とも多くなって、意識の変化がうかがえます。

3. 性別役割分担について

問3 「男は仕事 女は家庭」という固定的性別役割分担意識について

- 全体では「そう思わない」が67.2%を占め、「そう思う」(5.5%)を大きく上回っています。「そう思わない」は女性71.1%、男性63.8%で、女性の方が7.3ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の30歳代と50歳代で「そう思わない」が8割以上、男性の20歳代以下と30歳代で7割を超えています。
- 性・就業状況別では、夫婦とも正規雇用の場合、「そう思わない」が男女とも多い(女性83.9%、男性75.0%)ですが、夫正規雇用、妻パート等の場合は、女性では「そう思わない」が78.8%で全体より多いものの、男性では57.6%で意識のギャップがみられます。

問4 家庭における役割の分担

- 家庭における様々な役割を「夫(父)と妻(母)で分担」している割合は2割台の項目が多く、子どもの教育(進学等)・しつけが38.8%で他に比べて多くなっています。
- 食事のしたく、片付け、掃除、洗濯、ごみ出し、日常の買い物などの家事にかかわる項目のうち、ごみ出しのみが「主として夫(父)」(29.6%)の方が「夫(父)と妻(母)で分担」(20.2%)よりも多いものの、その他いずれの項目も「主として妻(母)」が5割を超えており、特に食事のしたくは72.3%と多くなっています。
- 他に「主として夫(父)」の割合が「夫(父)と妻(母)で分担」よりも多い項目としては、住宅、自動車等の高額な買い物、生活費の確保、地域の活動があげられます。

①食事のしたく

- 食事のしたくについて、「主として妻（母）」が全体では72.3%ですべての項目の中で最も多くなっています。女性は78.4%、男性は67.3%で女性の方が10ポイント以上多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の40歳代、50歳代、70歳以上では「主として妻（母）」が8割以上と多く、男性の30歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」が31.6%と他の年齢よりも多くなっています。
- 性・就業状況別では、夫婦とも正規雇用の男性では、他の就業状況と比べて「主として妻（母）」が52.3%と少なく、逆に「夫（父）と妻（母）で分担」が25.0%多くなっていますが、夫婦とも正規雇用の女性をみると「主として妻（母）」が75.0%で他の就業状況と比べてやや少ないものの、男性ほどの違いはみられません。男女でそれぞれの役割分担意識にギャップがみられます。

②食事の後片付け、食器洗い

- 食事の後片付け、食器洗いについて、「主として妻（母）」は全体では56.3%、女性64.5%、男性48.8%で、女性の方が15.7ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の40歳代以上では「主として妻（母）」が6割を超えており、30歳代以下と比べて10ポイント以上の差がみられます。男性の30歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」（36.8%）が「主として妻（母）」（28.9%）よりも多くなっています。
- 性・就業状況別では、女性は就業状況による違いはほとんどみられませんが、男性の夫婦とも正規雇用では「夫（父）と妻（母）で分担」（38.6%）が「主として妻（母）」（36.4%）を上回っています。

③掃除

- 掃除について、「主として妻（母）」は全体では54.5%、女性62.6%、男性46.9%で、女性の方が15.7ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性では、20歳代以下と50歳以上の各年齢で「主として妻（母）」が6割以上となっています。男性30歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」（39.5%）が「主として妻（母）」（28.9%）よりも多くなっています。
- 性・就業状況別では、夫婦とも正規雇用の男性は「夫（父）と妻（母）で分担」（47.7%）が半数近くを占めていますが、夫婦とも正規雇用の女性では分担しているのは28.6%と3割に満たず男性とのギャップが大きくなっています。

④洗濯

- 洗濯について、「主として妻（母）」は全体が65.4%で、女性73.5%、男性57.5%で、女性の方が16.0ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の50歳代以上で「主として妻（母）」が7割以上と多くなっています。男性30歳代では、「夫（父）と妻（母）で分担」（44.7%）が他の年齢と比べて多くなっています。
- 性・就業状況別では、男性の夫婦とも正規雇用の場合、「夫（父）と妻（母）で分担」（36.4%）が「主として妻（母）」よりも多くなっています。

⑤ごみ出し

- ごみ出しについて、「主として妻（母）」は全体が36.5%で、女性は44.5%で最も多くなっていますが、男性では「主として夫（父）」（29.2%）が最も多くなっています。

- 性・年齢別では、男女とも 40 歳代以下では「主として夫（父）」または「夫（父）と妻（母）で分担」が多くなっています。
- 性・就業状況別では、男女とも夫婦とも正規雇用の場合、「主として夫（父）」または「夫（父）と妻（母）で分担」が多くなっています。

⑥食品等、日常の買い物

- 食品等、日常の買い物について、「主として妻（母）」は全体が 55.4%で、女性 63.5%、男性 48.0%で、女性の方が 15.5 ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の 40 歳代～60 歳代で「主として妻（母）」が約 7 割と特に多く、男性の 30 歳代と 50 歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」が 3 割を超えています。
- 性・就業状況別では、夫婦とも正規雇用の男性では、「夫（父）と妻（母）で分担」が 40.9%と他の就業状況に比べて多くなっています。

⑦住宅、自動車等の高額な買い物

- 住宅、自動車等の高額な買い物について、「主として夫（父）」は全体では 45.4%で、女性 47.6%、男性 43.3%と男女で大きな違いはみられません。
- 性・年齢別では、男性の 60 歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」（42.0%）が「主として夫（父）」（38.3%）よりも多くなっています。

⑧日常の家計管理

- 日常の家計管理について、「主として妻（母）」は全体では 58.7%、女性 63.3%、男性 55.0%で、女性の方が 8.3 ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、男性 30 歳代では、「主として妻（母）」が 36.8%と他の年齢と比べて少なく、「夫（父）と妻（母）で分担」が 31.6%と多くなっています。

⑨預貯金等の資産の管理

- 預貯金等の資産の管理について、「主として妻（母）」は全体では 46.1%、女性 48.1%、男性 44.4%で、女性の方が 3.7 ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性 20 歳代以下では「主として妻（母）」が 70.6%を占めています。男性 30 歳代では、「夫（父）と妻（母）で分担」（36.8%）が「主として妻（母）」（28.9%）よりも多くなっています。

⑩生活費の確保

- 生活費の確保について、全体では「主として夫（父）」（34.9%）と「夫（父）と妻（母）で分担」（31.8%）の差が小さく、女性は「主として夫（父）」（37.0%）、分担（30.1%）で「主として夫（父）」の方が多いたりますが、男性はそれぞれ 33.0%、33.8%でほぼ同じとなっています。
- 性・年齢別では、男性の 20 歳代以下、40 歳代、70 歳以上は「夫（父）と妻（母）で分担」と「主として夫（父）」が同率、60 歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」（38.3%）の方が「主として夫（父）」（30.9%）よりも多くなっています。
- 性・就業状況別では、夫婦とも正規雇用の場合と夫婦とも働いていない場合では、男女とも「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が最も多くなっています。

⑪育児（乳幼児の世話）

- 育児（乳幼児の世話）について、「主として妻（母）」は全体では 52.0%、女性 57.1%、男性 46.9%で、女性の方が 10.2 ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、男性 20 歳代以下は「夫（父）と妻（母）で分担」（41.7%）が「主として妻（母）」（36.1%）よりも多いですが、女性の 20 歳代以下は「夫（父）と妻（母）で分担」（11.8%）に比べて「主として妻（母）」（61.8%）が多く、男性との違いが大きくなっています。
- 性・就業状況別では、夫婦とも正規雇用の場合、男性では「夫（父）と妻（母）で分担」（45.5%）の方が「主として妻（母）」（38.6%）よりも多いですが、女性ではそれぞれ 25.0%、58.9%と男性との回答の違いが顕著です。

⑫子どもの教育（進学等）・しつけ

- 子どもの教育（進学等）・しつけについて、「夫（父）と妻（母）で分担」が全体では 38.8%で最も多いですが、女性は「主として妻（母）」（38.9%）、男性は「夫（父）と妻（母）で分担」（46.0%）が最も多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の 30 歳代は「夫（父）と妻（母）で分担」（61.5%）が特に多くなっています。男性の 40 歳代以下で「夫（父）と妻（母）で分担」が 5 割を超えており、50 歳代以上に比べて多くなっています。

⑬高齢者の介護

- 高齢者の介護について、全体では「夫（父）と妻（母）で分担」（29.6%）と「主として妻（母）」（28.0%）はほとんど変わりませんが、女性は「主として妻（母）」（34.4%）が、男性では「夫（父）と妻（母）で分担」（35.1%）がそれぞれ最も多くなっています。
- 性・年齢別では、男女とも 40 歳代以下では「わからない」の割合が最も多くなっています。女性の 60 歳代以上では「主として妻（母）」が最も多い一方で、男性の 50 歳代以上では「夫（父）と妻（母）で分担」が最も多くなっています。

⑭地域の活動

- 地域の活動について、全体では「主として夫（父）」（36.5%）と「夫（父）と妻（母）で分担」（32.0%）は大きく変わりませんが、男性は「主として夫（父）」（44.4%）の方が 13.6 ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の 40 歳代以下では「夫（父）と妻（母）で分担」が多い傾向で、男性の 60 歳代以上は「主として夫（父）」が 5 割を超えています。

問5 男性が家事・育児・介護を行うことについて考え

- 「男性も家事・育児・介護を行うことは当然である」（75.2%）、「子どもにいい影響を与える」（51.2%）、「仕事と両立させることは、現実として難しい」（33.3%）の順となっています。
- 「子どもにいい影響を与える」は女性が 58.1%、男性が 43.9%と女性の方が 14.2 ポイント多く、「男性も家事・育児・介護を行うことは当然である」「男性自身も充実感が得られる」も女性の方が 5 ポイント以上多くなっています。
- 一方、「仕事と両立させることは、現実として難しい」「家事・育児・介護は女性のほうが向いている」は男性の方が女性よりも 5 ポイント以上多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の 30 歳代と男性の 40 歳代では「男性も家事・育児・介護を行うことは当

然である」が約9割と特に多く、男性の50歳代では「仕事と両立させることは、現実として難しい」が約5割で他の年齢と比べて多くなっています。

問6 男性が家事・育児・介護を行うために必要だと思うこと

- 男性が家事・育児・介護を行うために必要なことについて、「男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること」(42.3%)、「労働時間の短縮や休暇制度(育児・介護休業制度等)の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること」(41.5%)、「夫婦や家族の間でコミュニケーションを図ること」(39.6%)が上位にあげられています。女性は男性よりも「男性が家事・子育て等を行うことに対する抵抗感をなくすこと」「子どものころから家庭や学校で男女平等に関する教育をすること」「夫婦や家族の間でコミュニケーションを図ること」「役割分担等について、まわりの人が、当事者の考え方を尊重すること」、男性は女性よりも「子育てや介護をすることが、仕事への評価につながること」の割合が多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の30歳代は「労働時間の短縮や休暇制度(育児・介護休業制度等)の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること」が79.5%で特に多くなっています。男性では、20歳代以下と70歳代以上では「男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること」が約5割で他の年齢よりも多くなっています。

4. 仕事について

問7 女性が仕事をすることについての考え

- 「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」が、全体では52.2%で、女性55.5%、男性47.4%で、女性の方が8.1ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性40歳代では「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」が64.1%と特に多くなっています。
- 性・職業別では、「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」の割合が、女性では正社員で72.1%、パート等で59.3%と差が大きいです。男性は職業による違いはさほど大きくありません。
- 前回調査と比べて「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」が、全体では11.4ポイント多くなっています。女性では17.0ポイントの大きな増加がみられますが、男性では3.3ポイントで増加幅は小さくなっています。

問8 女性が働き続ける上で支障となること

- 全体では、「家事・育児の負担が大きいこと」(77.8%)、「夫の理解や協力がいないこと」(43.2%)、「保育体制が不備」(40.5%)の順となっています。「家事・育児の負担が大きいこと」(女性83.2%、男性71.9%)、「夫の理解や協力がいないこと」(女性48.1%、男性37.3%)とも女性の方が10ポイント以上多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の30歳代以下で「保育体制が不備」が5割を超えており、50歳代では「家事・育児の負担が大きいこと」が91.4%と特に多くなっています。

問9 男女が共に働き活躍できるように必要なこと

- 全体では、「男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること」(64.6%)、「保育所、放課後児童クラブ等、就労と子育ての両立ができる環境を整えること」(52.0%)、「労働時間の短縮や在宅勤務ができる等、多様な働き方ができること」(43.4%)の順となっています。上位3項

目の順位は男女とも同じですが、女性は男性と比べて、「保育所、放課後児童クラブ等、就労と子育ての両立ができる環境を整えること」「労働時間の短縮や在宅勤務ができる等、多様な働き方ができること」「子育てや介護による離職後、職場復帰ができる制度を作ること」の割合が約5ポイント多くなっています。

- 性・年齢別では、女性30歳代では「保育所、放課後児童クラブ等、就労と子育ての両立ができる環境を整えること」と「労働時間の短縮や在宅勤務ができる等、多様な働き方ができること」がともに64.1%で最も多くなっています。男性では、20歳代以下は「男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること」が77.8%と特に多くなっています。
- 「男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること」「保育所、放課後児童クラブ等、就労と子育ての両立ができる環境を整えること」「労働時間の短縮や在宅勤務ができる等、多様な働き方ができること」の上位3項目は前回調査と同様ですが、第1位の「男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること」は前回調査に比べて約10ポイント高くなっています。

5. 教育について

問10 子育てに関する考え方

①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい

- 全体では“賛成派”（「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計）は40.8%、“反対派”（「どちらかといえば反対」「反対」の合計）は37.2%で概ね拮抗しています。男性は“賛成派”が52.0%で女性に比べて多く、逆に女性は“反対派”が46.7%で男性に比べて多くなっています。それぞれ男女間で20ポイント前後の差がみられます。
- 性・年齢別では、男性の40歳代と50歳代は“賛成派”が6割を超えており、女性の40歳代以下は“反対派”が5割を超えています。

②女の子も男の子も家事ができるように育てるのがよい

- 全体、性別とも“賛成派”が9割を超えて多数を占めています。
- 性・年齢別では、男性の70歳以上は“賛成派”が他の年齢に比べて少なくなっています。

③女の子も男の子も経済的に自立できるように育てるのがよい

- 全体、性別とも“賛成派”が9割を超えて多数を占めています。
- 性・年齢別では、女性の70歳以上は“賛成派”が他の年齢に比べてやや少なくなっています。

④男の子は理系、女の子は文系に進んだ方がよい

- 全体では、“反対派”は66.8%となっています。男女とも“反対派”が多数ですが、女性70.8%、男性64.3%で、女性がやや多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の30歳代以下では“反対派”が8割を超えており、他の年齢と10ポイント以上の差があります。男性の50歳代は“反対派”が55.1%で他の年齢よりも少ない分「わからない」の回答が多くなっています。

⑤女の子は浪人をしてまで志望校にいかなくてもよい

- 全体では、“反対派”は63.9%となっています。男女とも“反対派”が多数ですが、女性68.5%、男性59.9%で、女性の方が8.6ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の50歳代と60歳代は“反対派”が75%を超えて、他の年齢に比べて多く

なっています。男性の 20 歳代以下では“反対派”が 44.4%と他の年齢に比べて少ない分「わからない」の回答が多くなっています。

問11 男女共同参画を進めていくために、学校教育の現場に必要なこと

- 全体では、「男女の平等と、相互理解や協力についての学習を充実する」(63.4%)、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」(62.4%)、「お互いの性を尊重しあえる教育を行う」(55.4%)の順となっています。男女で順位は異なりますが上位3項目は同じです。「わからない」「その他」を除くすべての選択肢で女性の回答割合の方が男性よりも多くなっています。
- 性・年齢別では、男性30歳代は「男女の平等と、相互理解や協力についての学習を充実する」が76.3%で他の年齢に比べて多くなっています。女性の60歳以上は「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」が7割を超えています。女性の30歳代と40歳代は「お互いの性を尊重しあえる教育を行う」が他の年齢に比べて多くなっています。

6. 社会活動への参加について

問12 現在参加している社会活動

- 全体では、「自治会等の地域活動」(50.2%)、「特に何もしていない」(34.6%)、「スポーツ・文化活動」(15.0%)となっています。男性は「自治会等の地域活動」が58.9%で女性と比べて15.8ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、「自治会等の地域活動」が男性60歳代は76.5%で特に多い一方で、男女とも20歳代以下では10%台で他の年齢に比べて少なくなっています。「PTAや子ども会等の青少年活動」は女性の30歳代と40歳代がそれぞれ30.8%、35.9%で他の年齢に比べて多くなっています。
- 「自治会等の地域活動」が最も多く、次いで「特に何もしていない」が多いのは、前回調査と同様で、回答割合もほとんど変わっていません。「防災・減災に関する活動」と「福祉・ボランティア活動」が前回調査に比べてやや少なくなっています。

問13 地域（自治会等）での男女の役割の違い

- 全体では、「女性が役職になりたがらない」(37.6%)、「会議や行事等で、女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い」(32.7%)、「団体の長には男性がなり、女性は補助的な役職になる慣行がある」(29.3%)の順となっています。「男女の役割に違いや差はない」は19.3%となっています。「役員の選出に女性が出づらい、また選ばれにくい状況がある」「女性が役員になりたがらない」「男女の役割に違いや差はない」は男性の方が女性より多くなっていますが、その他の選択肢はいずれも女性の方が多くなっています。
- 性・年齢別では、男性の60歳代以上では「女性が役職になりたがらない」が5割前後で他の年齢に比べて多くなっています。女性70歳以上は「会議や行事等で、女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い」が41.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

7. 防災について

問14 防災・災害復興対策における性別に配慮した対応の必要性

- 「そう思う」は、全体では68.5%、女性72.3%、男性65.4%で、女性の方が6.9ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、女性の40歳代と60歳代は「そう思う」が8割前後で他の年齢に比べて多くな

っており、男性の40歳代以上に「そう思わない」の回答がやや多い傾向です。

問15 「（「そう思う」と答えた方に）性別に配慮した必要な対応

- 全体では、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・洗濯干場・授乳室等）」（97.7%）、「避難所運営や被災者対応に男女が共に参画し、男女両方の視点が入ること」（59.3%）、「防災会議に男女が共に参画し、計画に男女両方の視点が入ること」（57.8%）の順となっています。性別による回答の違いはほとんどありません。
- 性・年齢別では、いずれの年齢とも「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・洗濯干場・授乳室等）」が最も多いことは共通しています。男性70歳代以上では「防災会議に男女が共に参画し、計画に男女両方の視点が入ること」が72.2%と他の年齢に比べて多くなっています。女性20歳代以下は「備蓄品の備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が75.0%と他の年齢に比べて多くなっています。

8. ワーク・ライフ・バランスについて

問16 生活の中での、「仕事」、「家庭・個人の生活」、「地域・社会活動」の優先度

【現実】

- 優先度の現実は、全体では、「家庭・個人の生活」を優先（26.0%）、「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先（24.4%）、「仕事」を優先（22.6%）の順となっています。男性は「仕事」を優先が27.8%で女性に比べて約10ポイント多い一方で、女性は「家庭・個人の生活」を優先が31.8%で男性と比べて約10ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、「仕事」を優先は男性の40歳代と50歳代が4割を超えて特に多く、「家庭・個人の生活」を優先は女性70歳以上が43.0%で他の年齢と比べて多くなっています。「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先は男女とも30歳代は他の年齢に比べて多くなっています。
- 性・職業別では、「仕事」を優先は男女とも正社員と自営業で他の職業に比べて多くなっています。「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先は女性のパート等が特に多いですが、男女とも正社員でも3割を超えています。
- 前回調査と比べて、全体では、「仕事」を優先と「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先がわずかに増加しています。男女とも全体と同様の傾向となっています。

【希望】

- 優先度の希望は、全体では、「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先（25.0%）、「家庭・個人の生活」を優先（24.0%）、「仕事」と「家庭・個人の生活」と「地域・社会活動」を両立（16.7%）の順となっています。希望は現実と異なり、性別による回答の差は小さくなっています。
- 性・年齢別では、女性30歳代は「家庭・個人の生活」を優先が48.7%で特に多くなっています。「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先は女性の50歳代、男性の30歳代、40歳代で4割を超えており、他の年齢に比べて多くなっています。
- 性・職業別では、男女とも正社員は「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先が他の職業に比べて多くなっています。
- 前回調査と比べて、全体では、「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先が減少しています。それ以外の選択肢では大きな変化はみられませんが、「わからない」と不明・無回答の割合

が前回調査に比べて 10.0 ポイント増加しています。男女とも概ね全体と同様の傾向です。

問17 生活の中での優先度をあなたの希望に近付けるために必要なこと

- 全体では、「年次休暇を取得しやすくすること」(40.0%)、「長時間労働を見直すこと」(38.9%)、「短時間勤務や在宅勤務制度等多様な働き方を導入すること」(37.3%)の順となっています。男性は「長時間労働を見直すこと」(45.0%)が女性に比べて多く、女性は「保育・介護サービスを充実すること」(40.0%)が男性に比べて多く、それぞれ約 10 ポイントの差があります。
- 性・年齢別では、男性の 40 歳代以下と女性の 20 歳代以下と 40 歳代では「長時間労働を見直すこと」が 5 割を超えています。女性 30 歳代は「短時間勤務や在宅勤務制度等多様な働き方を導入すること」が 56.4%で他の年齢に比べて多くなっています。女性 60 歳代は「保育・介護サービスを充実すること」が 52.6%と他の年齢に比べて多く、介護との両立の課題がうかがえます。

9. 女性に対する人権侵害について

問18 女性の人権は守られていると思うか

- 全体では「守られている」が 61.6%、「守られていない」が 34.4%となっています。女性は「守られていない」が 37.9%で男性の 30.0%に比べて多くなっています。
- 性・年齢別では、女性 40 歳代は「守られていない」が 48.4%と半数近くを占めて特に多く、男性 60 歳代も 40.7%で他の年齢に比べて多くなっています。男女とも 30 歳代以下では「守られている」が 40 歳代以上に比べて多い傾向です。
- 全体では、前回調査と比べて「守られている」が 4.7 ポイント増加しています。男女とも全体と同様の傾向となっています。

問19 (「守られていない」と答えた方) 守られていないと思う理由

- 全体では、「女性を下位にみて侮辱する言葉を投げつけたり、からかいの対象にしたりすること」(55.3%)、「雑誌、テレビ、インターネット等のメディアで、女性を性的な対象として描くこと」(45.4%)、「夫やパートナー(事実婚・内縁関係を含む)、恋人からの暴力」(29.4%)の順となっています。女性は「女性を下位にみて侮辱する言葉を投げつけたり、からかいの対象にしたりすること」が 65.0%で男性に比べて約 20 ポイント多く、男性は「夫やパートナー(事実婚・内縁関係を含む)、恋人からの暴力」が 40.0%で女性に比べて約 20 ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、男性 60 歳代は「夫やパートナー(事実婚・内縁関係を含む)、恋人からの暴力」が 6 割を超えて特に多く、また、「夫やパートナー、恋人からの一方的な性的強要」も他の年齢に比べて多くなっています。女性 40 歳代は「雑誌、テレビ、インターネット等のメディアで、女性を性的な対象として描くこと」が 64.5%で他の年齢に比べて多くなっています。

10. 暴力について

問20 過去3年間にドメスティック・バイオレンスに当たる行為の経験

①身体的な暴力

- 全体では、「常にある」「ときどきある」「一、二度ある」を合わせた“ある”は 5.1%となっています。女性は“ある”が 5.9% (25 人)、男性は 4.3% (16 人) となっています。女性では 0.7% (3 人) が「常にある」と回答しています。
- 性・年齢別では、“ある”は、女性 30 歳代 (10.3%)、女性 40 歳代 (12.6%)、男性 50 歳代 (10.2%) がそれぞれ 1 割を超えています。

②精神的な暴力

- 全体では、“ある”は14.5%で、女性は18.3%（77人）、男性は10.7%（39人）となっています。女性の2.4%（10人）、男性の1.4%（5人）が「常にある」と回答しています。
- 性・年齢別では、“ある”は女性の40歳代（26.6%）、50歳代（31.0%）が他の年齢に比べて多くなっています。

③社会的な暴力

- 全体では、“ある”は4.0%で、女性は6.6%（28人）、男性は1.0%（4人）となっています。女性の0.7%（3人）が「常にある」と回答しています。
- 性・年齢別では、“ある”は女性の40歳代（15.6%）、50歳代（12.0%）が他の年齢に比べて多くなっています。

④経済的な暴力

- 全体では、“ある”は3.8%で、女性は5.0%（21人）、男性は1.9%（7人）となっています。
- 性・年齢別では、“ある”は女性の30歳代と40歳代がそれぞれ7.8%、50歳代が10.3%と他の年齢に比べて多くなっています。

⑤性的な暴力

- 全体では、“ある”は2.2%で、女性は4.1%（17人）、男性は0.3%（1人）となっています。
- 性・年齢別では、“ある”は女性40歳代（9.4%）が他の年齢に比べて多くなっています。また、女性はどの年齢層にも“ある”と回答した人がいます。

⑥子どもを巻き添えにした暴力

- 全体では、“ある”は2.8%で、女性は3.6%（15人）、男性は2.1%（8人）となっています。
- 性・年齢別では、“ある”は女性40歳代（9.4%）が他の年齢に比べて多くなっています。
- ドメスティック・バイオレンスに当たる行為で前回調査よりも被害経験の割合が多くなっている項目をみると、女性では、②精神的な暴力、③社会的な暴力、④経済的な暴力、⑤性的な暴力があげられます。男性では、①身体的な暴力、⑥子どもを巻き添えにした暴力があげられます。

問21 （ドメスティック・バイオレンスに当たる行為を受けたことがある人）

ドメスティック・バイオレンスに当たる行為についての相談

- 全体では、「だれ（どこ）にも相談しなかった」が43.0%で最も多く、次いで「家族や親族に相談した」が16.2%となっています。男女とも「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も多いのは共通していますが、女性に比べて男性は相談した割合が少なくなっています。

問22 だれ（どこ）にも相談しなかった理由（〇はいくつでも）

- 全体では、「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ45.9%で最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が23.0%、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」が18.0%となっています。女性は「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ約半数を占めています。男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が39.1%で女性よりも多くなっ

ています。男女とも約1割が「どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから」と回答しています。

問23 ドメスティック・バイオレンスに当たる行為を行った経験

- 全体では、「ない」が83.7%、「ある」が4.0%となっています。「ある」は男性が6.3%、女性が2.4%となっています。
- 性・年齢別では、「ある」は男性40歳代が10.6%で他の年齢に比べてやや多くなっています。
- ドメスティック・バイオレンスに当たる行為を行った経験で「ある」の回答は、女性では減少していますが、男性では増加しています。

問24 ドメスティック・バイオレンス等、暴力を防止するために必要なこと

- 全体では、「相談先の女性・男性の担当者を増やす等相談しやすいようにする」(43.2%)、「法律・制度の制定や見直しを行う」(36.6%)、「学校での男女平等や性についての教育を充実させる」(36.0%)の順となっています。上位3項目の回答割合は男女で大きな違いはありませんが、「過激な内容のインターネット動画やビデオソフト、ゲームソフト、DVD等の販売や貸し出しを制限する」は女性が28.0%と男性に比べて10ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、「相談先の女性・男性の担当者を増やす等相談しやすいようにする」は女性の30歳代以下と60歳代、男性の20歳代以下と40歳代、50歳代がそれぞれ5割を超えており、他の年齢よりも多くなっています。「法律・制度の制定や見直しを行う」は男性30歳代が65.8%と特に多くなっています。「犯罪の取締りを強化する」は男女とも30歳代以下では5割を超えており、他の年齢に比べて多くなっています。

11. 男女共同参画社会について

問25 ジェンダー平等についての認知状況

- 全体では、「言葉も内容も知っている」が50.7%で最も多く、次いで「言葉は知っている」が36.3%、「言葉も内容も知らない」が10.4%となっています。「言葉も内容も知っている」は女性が53.1%、男性が49.0%で女性の方がやや多くなっています。
- 性・年齢別では、「言葉も内容も知っている」は男性の20歳代以下が75.0%と特に多く、女性では30歳代から50歳代は6割を超えて他の年齢よりも多くなっています。一方で、70歳以上は男女とも3割台で少なくなっています。

問26 政策や企業運営に女性の意見がもっと反映されるようになればよいと思うか

- 全体では、「思う」(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)は82.7%となっています。女性の方が「思う」がやや多いものの男女の差はあまりありません。
- 性・年齢別では、女性20歳代以下は「思う」が94.1%と他の年齢に比べて多くなっています。一方で、男性20歳代以下では「思う」が69.5%で他の年齢に比べて少なく、20歳代以下の男女の意識差が大きくなっています。また、30歳代も「思う」が女性は84.6%に対して、男性は71.1%で10ポイント以上の差がみられます。
- 性・職業別では、女性の正社員と男性のパート等は「思う」が9割を超えて多くなっています。
- 前回調査と比べて、全体でも性別でみても、ほとんど変化がありません。

問27 政治や行政、企業の運営等において女性の参画が少ない原因

- 全体では、「男性優位の組織運営がなされているため」(53.8%)、「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強いため」(35.6%)、「家庭の支援、協力を得ることができないため」(29.5%)となっています。性別で大きな違いはみられていません。
- 性・年齢別では、「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強いため」は女性の30歳代が46.2%、40歳代が50.0%で他の年齢に比べて多くなっています。「男性優位の組織運営がなされているため」は女性20歳代以下が70.6%で特に多いほか、女性の30歳代、男性の40歳代でも他の年齢に比べて多くなっています。

問28 男女共同社会を築くため、福知山市が力を入れていくべきこと

- 全体では、「保育サービス等の子育て支援を充実させる」(30.7%)、「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」(30.0%)、「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」(28.2%)の順となっています。女性は「保育サービス等の子育て支援を充実させる」(34.4%)が、男性は「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」(34.6%)が最も多くなっています。「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」は女性の方が男性より約10ポイント多くなっています。
- 性・年齢別では、「保育サービス等の子育て支援を充実させる」は男女とも30歳代は4割を超えており、特に女性は48.7%と半数近くなっています。「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」は男性の40歳代が40.4%と他の年齢に比べて多くなっています。「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」は男性20歳代以下が50.0%と特に多くなっています。「高齢者や障害のある人に対する介護支援等福祉対策を推進する」は女性の60歳代が37.1%、70歳以上が37.5%と他の年齢に比べて多くなっています。
- 前回調査の上位2項目である「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」と「高齢者や障害のある人に対する介護支援等福祉対策を推進する」は、前回調査に比べて回答割合が減少しています。前回調査で第3位であった「保育サービス等の子育て支援を充実させる」が今回調査では第1位になっていますが、回答割合はほとんど変わっていません。
- 前回調査よりも回答割合が増加した項目としては、「男女が共に女性の人権問題を理解するようさらに啓発を行う」「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」「学校の男女平等についての教育を充実させる」「各種団体の女性のリーダーを養成する」があげられます。

Ⅲ 調査結果からみる考察と課題

1. 男女共同参画にかかわる意識の多様な側面

社会における男女不平等感は根強い

- 学校教育の場では「平等」と思う人の割合が6割近くになっていますが、それ以外の分野ではいずれも「男性優遇」と思う人が多数派であり、その傾向は過去の調査結果と大きく変わっていません。「平等」と思う人が多い、学校教育の場でさえ「男性優遇」の回答が1割強存在し、「女性優遇」の割合とは差があります。
- 特に男性優遇感が強い、社会の習慣やしきたりをはじめとして、社会全体で男性が優遇されているという意識は共有されているといえます。また、いずれの分野でも男性よりも女性の方が男性優遇感を強く感じているのは、自らの経験に照らしての意識であると考えられます。
- 過去の調査結果との経年変化をみると、選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計割合は減少していても「男性が優遇されている」のみの回答割合は増加している分野が多くみられます。つまり、よりはっきりと男女の不平等を感じている人の増加傾向がうかがえます。

ジェンダー問題可視化の進行

- 社会における男性優遇感に変化がない、一部には、よりはっきりと男女の不平等を感じている人の増加傾向がうかがえる背景として、次のようなことが考えられます。
 - ・ジェンダーギャップといった言葉やジェンダーにまつわる情報に触れる機会が増えたことによりジェンダー問題が可視化、意識化されている。
 - ・そのことにより、自分が漠然と感じていた違和感を言語化できるようになり、社会構造的な問題であることに気づく。
- つまり、ジェンダー問題に敏感な人が増加したことにより、男女共同参画の取組が一定進んでいるにもかかわらず、社会における男性優遇感が根強く残る結果となっていると考えられます。

ゆるるジェンダー平等意識

- 次の6項目の内容は、①～③はジェンダー不平等、④～⑥はジェンダー平等な内容ですが、同じ不平等・平等な内容でも項目によって、また性別や年齢によって抵抗感は異なります。
 - ①「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方
 - ②子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい
 - ③「女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ」
 - ④男性が育児休業、介護休業をとること
 - ⑤女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること
 - ⑥夫婦別姓にすること
- ①「『女(男)だから』『女(男)のくせに』といった言い方、考え方」に対して抵抗を感じる割合は全体では約8割で大半を占めていますが、②「子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい」に対して抵抗を感じる割合は約6割と差がみられます。③「女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ」に対して抵抗を感じる割合は7割台となっています。いずれも、女らしさ・男らしさの強要や性別役割分担意識につながる考え方です。②は、いわゆ

る「三歳児神話^{1※}」として流布している考え方で、女性の社会参加を制限する方向に働きますが、女性自身も一定割合はこの考え方を肯定している傾向がうかがえます。③も同様で、女性が仕事を通じて自らの能力を向上させ、社会に貢献する意欲をそぐことにつながりかねません。いずれの項目も男性よりも女性の方が抵抗を感じる割合が多くなっていますが、特に③に対しては男女の差が大きく意識差が顕著な傾向です。

- これら3項目に対して、もっとも強く抵抗感を持つのは女性の30歳代であり、抵抗感が弱いのは男性の40歳代という傾向がみられます。30歳代の女性は、仕事と子育ての両立問題の当事者であることが抵抗感の強さに表れていると考えられます。40歳代の男性は、長時間労働が多い年代であり、子育てにかかわる時間が取りにくいいため、できれば女性に任せたいという意識があるのかもしれない。

社会の変化で変わるジェンダー意識

- ジェンダー平等な内容である、④男性が育児休業、介護休業をとること、⑤女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること、⑥夫婦別姓にすることの3項目は、①～③と異なり、抵抗を感じない人が多数派となっています。
 - ④「男性が育児休業、介護休業をとること」に対して抵抗を感じない割合は約7割、⑤「女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること」に対しては8割台なかばと大半を占めています。⑥「夫婦別姓にすること」に対しては、抵抗を感じない割合が、抵抗を感じる割合より多いもののその差は小さい状況です。
 - ④と⑥については、男性よりも女性の方が抵抗を感じない割合が10ポイント以上多くなっていますが、⑤については、男性の方が抵抗を感じない割合が約5ポイント多くなっています。
- ④「男性が育児休業、介護休業をとること」では、男性のなかで世代間の意識差が大きく、20歳代以下では、抵抗を感じない割合が9割を超えているのに対して、40歳代は、抵抗を感じる割合が約5割となっています。この10年あまりに男性の育児休業取得を促す情報が増えて、実際の取得も増加していることが反映していると考えられます。
- ⑤「女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること」について、抵抗を感じない人が大半を占めるなかで、女性の50歳代以上でやや抵抗を感じる割合が多くなっているのは、仕事と家庭、介護などとの両立に加えて、さらに責任を負う立場になることへの負担感があるのかもしれない。
- ⑥「夫婦別姓にすること」に対して、女性の20歳代以下と30歳代では意識差が大きくなっています。20歳代以下は女性の他の年齢層よりも抵抗を感じる割合が多いですが、30歳代は最も少なく20歳代以下との差は20ポイントを超えています。30歳代では仕事をする上での弊害を感じていたり、後述する20歳代以下の保守化傾向があったりすることが推察されます。

「夫婦別姓」は、前回調査と比べて抵抗を感じない割合が10ポイント以上多くなっており、他の項目に比べて意識の変化が大きい項目です。

「選択的夫婦別姓制度」は、女性差別撤廃条約に関する政府報告書に対する国連女性差別撤廃委員会からの総括所見が2024年10月に公表され、そのなかで早期の実現に向けた勧告が行われています。今後、国でも議論が予定されており、そうした状況の変化に伴って市民意識の更なる変化も予想されます。

※ 三歳児神話…子どもが3歳頃までに母親のもとで適切に育てられなければ、その後の発達に悪影響があるという考え方。乳幼児期に大人との愛着関係は必要であるが、それは母親だけとは限らない。

子育てとジェンダー平等意識

- 子育てに関する次の5項目の内容は、①④⑤はジェンダー不平等、②③はジェンダー平等な内容ですが、②家事や③経済的自立については、女の子・男の子にかかわらずできるように育てることに賛成する人がほとんどを占めています。また、進路選択（④⑤）で女の子と男の子で選択肢を狭めることには反対する人が多数となっています。一方で、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」に対しては賛成と反対が拮抗しています。
 - ①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい
 - ②女の子も男の子も家事ができるように育てるのがよい
 - ③女の子も男の子も経済的に自立できるように育てるのがよい
 - ④男の子は理系、女の子は文系に進んだ方がよい
 - ⑤女の子は浪人をしてまで志望校にいかなくてもよい

■男女平等意識浸透の課題

社会における男性優遇感に変化がない、一部には、よりはっきりと男女の不平等を感じている人の増加傾向がみられる要因として、男女共同参画の取組や人々の意識が一定変化しているのに対して、社会的な男女の役割やおかれた状況が大きく変化していないことによると考えられます。そこには、性別に基づく様々な固定観念や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が影響していると考えられます。

性差に関する固定観念や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）は、誰もがもつものですが、思い込みによる決めつけや判断は、時として相手に不快感を与えたり、傷つけたりすることがあります。また、自分自身の選択肢を狭めたり、生きづらさにつながったりすることもあります。一人ひとりが、性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づくような機会を提供することが必要です。

男女平等にかかわる意識を様々な設問でたずねた結果をみると、男性の育児・介護への参加や女性が地域活動等で方針決定に参画することへの抵抗感は少なく、また、政策や企業運営に女性の意見がもっと反映されるようになればよいと思う人が多いことは、家庭や地域等における男女共同参画の促進要因であると言えます。

一方で、いわゆる三歳児神話が女性も含めて根強い傾向は、女性に育児負担が偏ることにつながり、仕事と育児の両立に対する阻害要因となります。また、子育てにおいて「女らしく、男らしく育てるのがよい」に対して肯定的な人が多いことは、性別役割分担意識の再生産につながりかねません。

性別にかかわらず子ども一人ひとりの個性を伸ばすためには、まずは周囲の大人が自分自身の固定観念や無意識の思い込みに気づいて、子どもたちには偏りのない声かけをすることが必要です。

さらに、幼少期から、固定的な性別イメージを払拭する男女平等・男女共同参画の視点に立った教育を推進するとともに、子どもの個性を伸ばし、自分らしい多様な選択が可能になるように、性別にかかわらず一人ひとりが自分の持てる力を最大限発揮できるよう支援することが必要です。

2. 性別役割分担の意識と実態

男女で異なる若年層の意識

- 「男は仕事 女は家庭」といった固定的な性別役割分担を肯定する人はわずかで、否定的な人が大半を占めています。男性よりも女性の方が否定的な意識が強い傾向です。各年代でも総じて

て否定的な割合は男性よりも女性の方が多くなかで、20歳代以下のみ、男性の方が否定的な割合が多くなっており、20歳代以下の男女の意識は他の年代と異なっています。夫婦別姓に対する意識で触れたように、女性の方が保守的な傾向がうかがえています。

- 女性が仕事と家事・育児等を両立することの困難さを回避したいという気持ちだが、20歳代以下の女性にあるのかもしれない。30歳代の女性に否定的な意識が強い傾向と対照的な状況です。社会経済構造の変化する時代にあつて、性別にかかわらず共に仕事と家庭を両立して暮らす意識を持つことは、対等な関係にも結びつきます。

意識と就業状況の関連

- 夫婦の就業状況が、夫婦とも正規雇用の場合と夫正規雇用・妻パート等の場合では、性別役割分担に対する意識が女性では大きく変わらないのに比べて男性の意識に違いがみられ、妻がパート等の男性は性別役割分担に肯定的な意識が強い傾向です。こうした意識は、実際の家庭内での役割にもつながっていると思われれます。

家庭における役割の現状

- 家庭における様々な役割では、ごみ出し以外の家事と乳幼児の世話が女性に偏っている現状が顕著にみられます。家事・育児の負担が女性に偏っていることは、女性が職業を持つうえで大きな課題となり、正社員としての就労を希望していてもパート等を選択する女性が多いことにつながっています。
- 生活費の確保は、「主として夫（父）」（34.9%）と「夫（父）と妻（母）で分担」（31.8%）がほぼ同程度ですが、「主として妻（母）」が19.0%で、正社員として継続就労する女性の増加の影響もうかがえます。生活費の確保を男性だけに頼ることは、社会経済状況の変化や家族の事故や病気などに直面した時の対応に不安を残します。

■家庭における男女共同参画の課題

「男は仕事 女は家庭」という考え方に否定的な人は多いですが、家庭における実際の役割分担は性別による偏りがみられます。

家事と乳幼児の世話が女性に偏っている現状は、この20年間で共働き世帯が増加し、女性の就労率が大きく上昇しているものの、女性は依然、非正規雇用が多い状況です。女性が希望しても経済的に安定した職業に就けないことは、将来的に経済困窮に陥る恐れも考えられます。

男性が家事・育児を分担することは、良好な家族関係につながる、妻が正社員で働くことで家計の安定化につながるなどの効果が考えられます。一方で自分の身の回りのことを人まかせにしていると将来一人暮らしになった時のリスクになりえます。

男女が対等に家庭責任を担うことで、男女双方の多様な選択が可能になることへの理解を広め、男女共同参画によって家庭をともに支えていく意識を醸成する必要があります。

3. 女性と仕事について

女性の仕事に対する意識の変化

- 女性の働き方について、「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」と考える人が前回調査と比べて大きく増加しています。特に女性の増加幅が大きく、意識の変化が顕著にみられます。現実には女性の就労継続が増加していることと意識の変化が連動していると考えられます。現実社

会のありようと人々の意識は相互に影響を与え、それぞれが変化していくものといえます。

■男女のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）実現の課題

男女の生活時間の国際比較をみると、家事・育児等の無償労働の男女比が日本は突出して大きく、有償労働（仕事）の時間は、日本の男性は欧米各国に比べて極めて長い状況です。こうした背景には、家事・育児・介護等を女性の役割とみなす意識に加えて、男性の長時間労働や育児休業等を取りづらい職場の雰囲気あげられ、働く女性に家事・育児・介護等の負担が大きくなっています。

前述した通り、女性が結婚・出産にかかわらず仕事を継続するためには、女性自身の意思や努力だけでなく、家庭においてはパートナーと対等に家事・育児を分担できることが必要で、職業分野における女性活躍を進めていくためには、家庭における役割の男女平等が不可欠となります。

育児・介護休業法が改正されて、柔軟な育児休業の枠組みの創設や育児休業の分割取得が可能になるなど、男性が育児休業を取りやすい環境整備が進んでいることを市内事業所に周知して、事業所における両立支援の取組を促進する必要があります。

広く市民に向けては、誰もが充実した人生を送ることにつながるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現できるように意識啓発を進めるとともに、育児や介護を行う市民が仕事との両立が可能になるような支援体制の充実が求められています。

4. 地域活動における男女の役割

男女の役割に違いや差がある

- 現在参加している社会活動のなかで最も多いのは自治会等の活動ですが、その活動における男女の役割では、「女性が役職になりたがらない」「会議や行事等で、女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い」「団体の長には男性がなり、女性は補助的な役職になる慣行がある」が上位にあげられて、男女の役割に違いや差があることが認識されています。
- また、男性では、福知山市が今後力を入れていくこととして「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」が最も多くなっています。女性の登用を実現するためには、阻害している要因としてあげられている、男性優位の組織運営や性別による役割分担や性差別意識、家族の支援・協力の不足を市民一人ひとりが理解して、変えていけるような働きかけが必要です。

■地域における男女共同参画の課題

市民の暮らしに最も身近な地域の活動においては、多様な市民が意見を出し合ってまちづくりを進めていくことが誰にとっても暮らしやすい地域社会につながります。そのためには、地域活動の方針決定に地域住民の意見を十分に反映できるよう、男女ともに役職を担い方針決定に対等に参画するとともに、役割の分担も平等に行うことが必要です。

自分たちが暮らしやすいまちをつくるためには、誰もが対等な立場で責任を分かち合い成果を享受するのが原則であることの啓発と身近な地域の活動からその実践が進むような働きかけが求められます。

5. ドメスティック・バイオレンスの状況

誰もが相談しやすい体制

- ドメスティック・バイオレンスにあたる暴力の経験についてたずねたところ、受けた経験は男性よりも女性の方が多く、行った経験は男性の方が多くなっています。
- 受けた経験のある人のうち、どこにも相談しなかった人は、4割を超えており、相談しなかった

人は男性の方が多い傾向です。

- 相談しなかった理由は様々ですが、「どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから」の回答からは、必要な人に相談先の情報が届いていないことがわかります。
- 暴力を防止するために必要なこととして、「相談先の女性・男性の担当者を増やす等相談しやすいようにする」が最も多くあげられているように、相談しやすい体制をつくることと相談窓口の情報の周知を一層進める必要があります。

■ジェンダーに基づく暴力根絶の課題

ドメスティック・バイオレンスは、男女間の経済的・社会的な力関係の格差や暴力を容認する社会意識などの社会構造的な問題が背景にあり、被害者の多くが女性であるという実態がありますが、男性が被害者となることもあります。

ジェンダーに基づく暴力を許さない社会意識を広げるとともに、被害者支援の相談対応、被害者保護から自立支援の取組まで庁内の各課及び関係機関との連携強化などの支援体制の強化が必要です。相談することをためらう人に対しては、SNS やメールによる相談、24 時間対応など多様な相談窓口の周知を積極的に進めるなど、必要な人が相談しやすい情報発信も必要です。

また、児童虐待の背景にはドメスティック・バイオレンスが存在していることが多いため、子どもの安全とドメスティック・バイオレンス被害者支援の連携を深める体制も重要です。

IV 調査結果

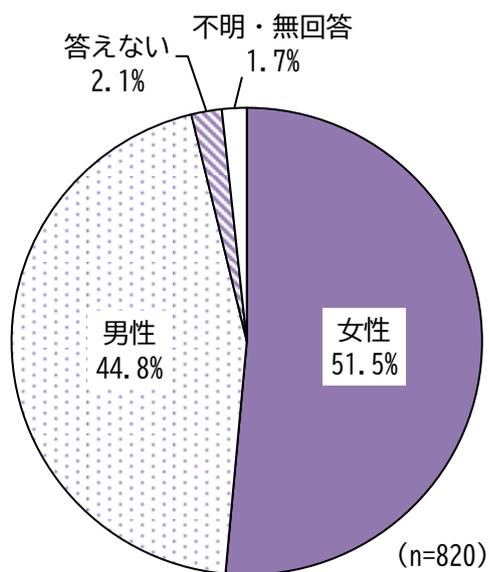
1. 回答者の属性

① 性別

【全体】

性別について、「女性」が51.5%、「男性」が44.8%、「答えない」が2.1%となっています。

【性別】

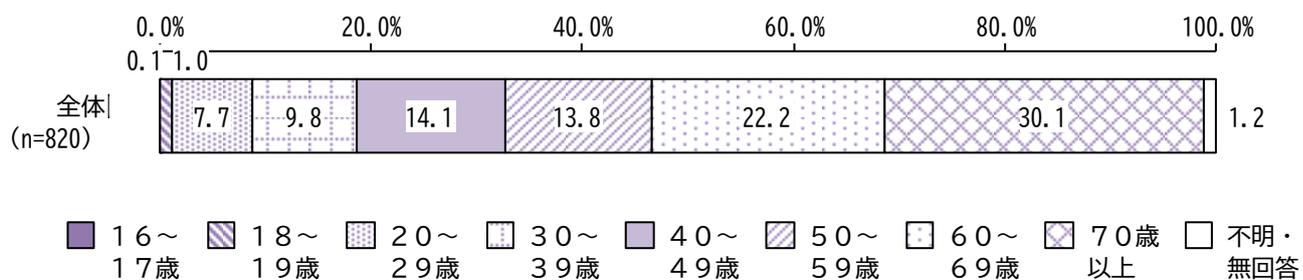


② 年齢

【全体】

年齢について、「70歳以上」が30.1%で最も多く、次いで「60～69歳」が22.2%、「40～49歳」が14.1%となっています。60歳以上が5割以上を占めています。

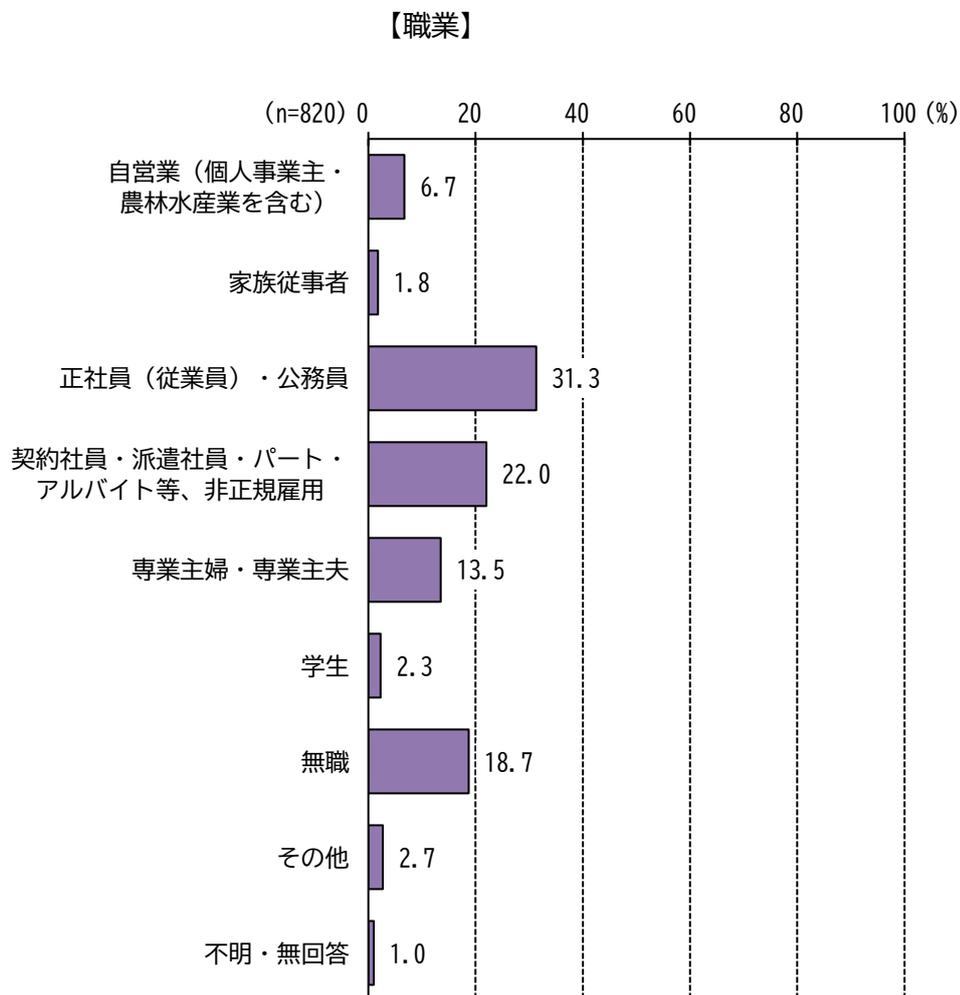
【年齢】



③ 職業

【全体】

職業について、「正社員（従業員）・公務員」が31.3%で最も多く、次いで「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等、非正規雇用」が22.0%、「無職」が18.7%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性は「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等、非正規雇用」が最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」となっています。男性は「正社員（従業員）・公務員」が最も多く、次いで「無職」となっています。

【性・年齢別】

女性の30歳代以下では「正社員（従業員）・公務員」が5割を超えていますが、40歳代以上はその割合が低くなっています。男性では30歳代から50歳代は8～9割が「正社員（従業員）・公務員」となっています。

単位：%

		母数 (n)	職業												
			農 林 水 産 業 （ 個 人 事 業 主 ・ 含 む ）	自 営 業 （ 個 人 事 業 主 ・ 含 む ）	家 族 従 事 者	公 務 員	正 社 員 （ 従 業 員 ）	等 、 非 正 規 雇 用	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	契 約 社 員 ・ 派 遣 社 員 ・ 正 社 員 （ 従 業 員 ）	専 業 主 婦 ・ 専 業 主 夫	学 生	無 職	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体		820	6.7	1.8	31.3	22.0	13.5	2.3	18.7	2.7	1.0				
性別	女性	422	3.8	2.6	20.4	28.0	26.1	1.9	15.2	1.9	0.2				
	男性	367	9.8	1.1	45.0	14.2	0.3	3.0	23.4	3.3	-				
	答えない	17	5.9	-	29.4	47.1	-	-	11.8	5.9	-				
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	-	50.0	11.8	11.8	23.5	2.9	-	-				
	30歳代	39	5.1	-	51.3	28.2	12.8	-	2.6	-	-				
	40歳代	64	3.1	3.1	32.8	42.2	12.5	-	4.7	1.6	-				
	50歳代	58	3.4	6.9	36.2	34.5	13.8	-	3.4	1.7	-				
	60歳代	97	5.2	4.1	5.2	38.1	29.9	-	14.4	3.1	-				
	70歳以上	128	3.9	0.8	0.8	14.8	43.8	-	33.6	2.3	-				
	男性 20歳代以下	36	-	-	58.3	5.6	-	30.6	5.6	-	-				
	30歳代	38	-	-	92.1	2.6	-	-	2.6	2.6	-				
	40歳代	47	4.3	4.3	87.2	4.3	-	-	-	-	-				
	50歳代	49	10.2	-	79.6	6.1	-	-	4.1	-	-				
60歳代	81	13.6	1.2	28.4	38.3	1.2	-	11.1	6.2	-					
70歳以上	115	15.7	0.9	5.2	11.3	-	-	61.7	5.2	-					

④ 結婚の有無

【全体】

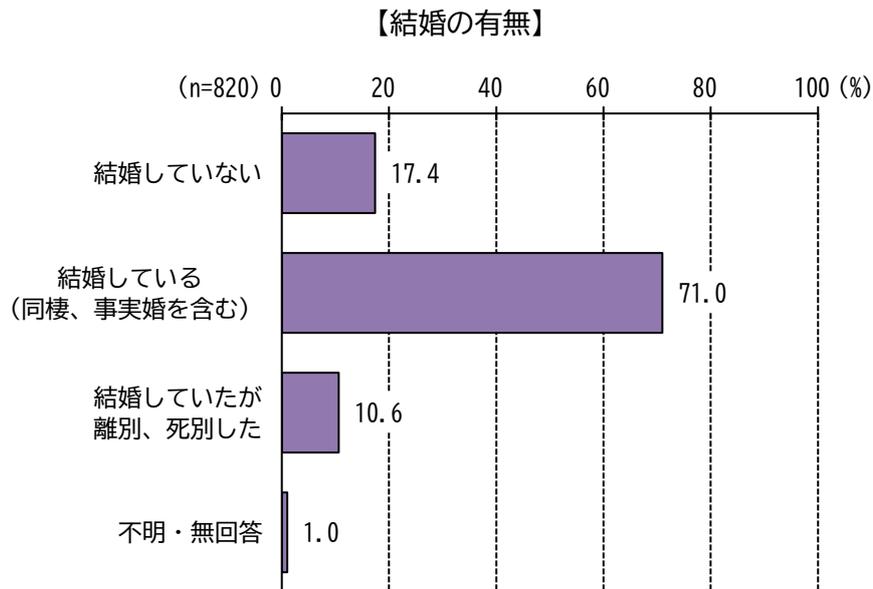
結婚の有無について、「結婚している（同棲、事実婚を含む）」が71.0%で最も多く、次いで「結婚していない」が17.4%、「結婚していたが離別、死別した」が10.6%となっています。

【性別】

男女で結婚している人の割合は、ほとんど変わりません。

【性・年齢別】

性・年齢別では、女性では50歳代、男性では60歳代で、結婚している人の割合が他の年齢に比べて多くなっています。



単位：%

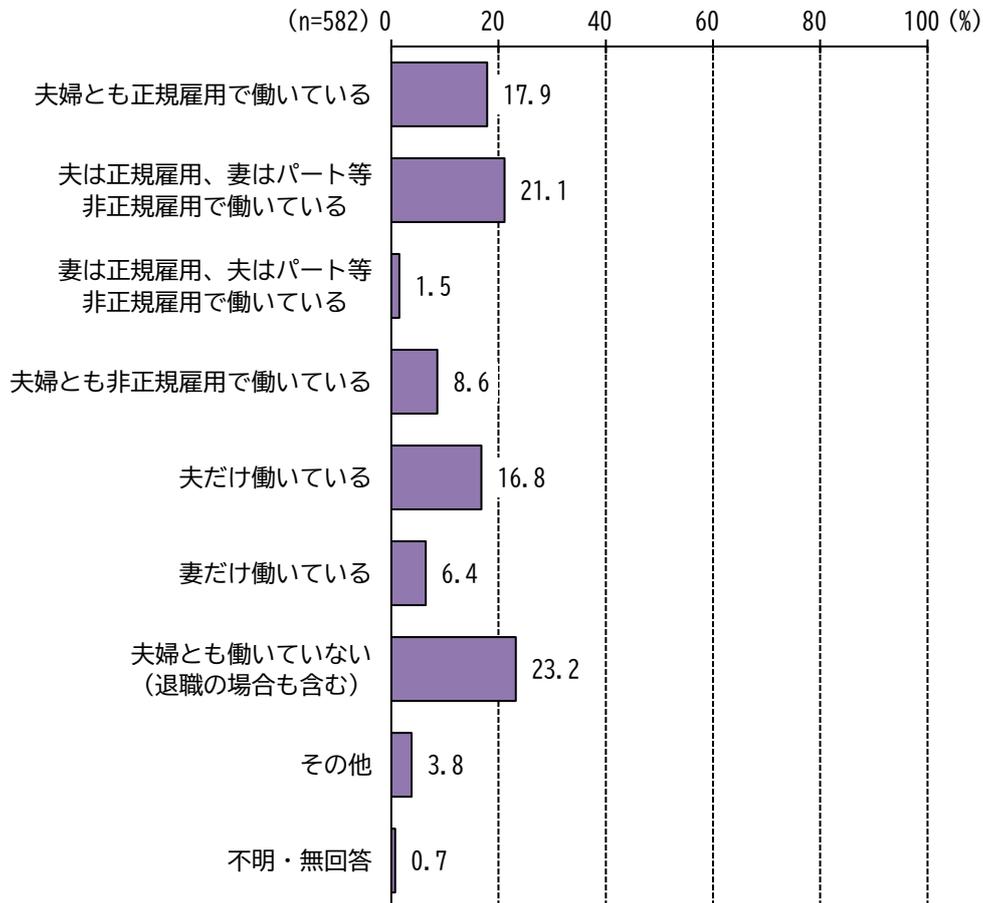
	母数 (n)	結婚の有無				
		結婚していない	(結婚している 同棲、事実婚を含む)	離別、死別した	不明・無回答	
全体	820	17.4	71.0	10.6	1.0	
性別	女性	422	15.2	70.9	13.7	0.2
	男性	367	19.9	72.8	7.4	-
	答えない	17	35.3	58.8	5.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	70.6	26.5	2.9	-
	30歳代	39	25.6	64.1	10.3	-
	40歳代	64	23.4	70.3	6.3	-
	50歳代	58	10.3	84.5	5.2	-
	60歳代	97	5.2	76.3	18.6	-
	70歳以上	128	3.1	74.2	21.9	0.8
	男性 20歳代以下	36	86.1	13.9	-	-
	30歳代	38	31.6	65.8	2.6	-
	40歳代	47	17.0	76.6	6.4	-
	50歳代	49	16.3	77.6	6.1	-
60歳代	81	8.6	86.4	4.9	-	
70歳以上	115	6.1	80.0	13.9	-	

⑤ 配偶者の就業状況

【全体】

自身と配偶者の就業状況について、「夫婦とも働いていない（退職の場合も含む）」が 23.2%で最も多く、次いで「夫は正規雇用、妻はパート等非正規雇用で働いている」が 21.1%、「夫婦とも正規雇用で働いている」が 17.9%となっています。

【自身と配偶者の就業状況】



【性別】

性別でみると、女性は「夫婦とも働いていない（退職の場合も含む）」が最も多く、男性は「夫は正規雇用、妻はパート等非正規雇用で働いている」が最も多くなっています。

【性・年齢別】

男女とも 30 歳代は「夫婦とも正規雇用で働いている」が4割台となっています。40 歳代では「夫は正規雇用、妻はパート等非正規雇用で働いている」が、女性は約4割、男性は約5割となっています。

単位：%

		母数 (n)	自身と配偶者の就業状況								
			働いて いる 夫婦とも 正規雇用 で	非 正 規 雇 用 で 働 い て い る 夫 は 正 規 雇 用 、 妻 は パ ー ト 等	非 正 規 雇 用 で 働 い て い る 妻 は 正 規 雇 用 、 夫 は パ ー ト 等	夫 婦 と も 非 正 規 雇 用 で 働 い て い る	夫 だ け 働 い て い る	妻 だ け 働 い て い る	夫 婦 と も 働 い て い な い (退 職 の 場 合 も 含 む)	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体		582	17.9	21.1	1.5	8.6	16.8	6.4	23.2	3.8	0.7
性別	女性	299	18.7	17.4	1.0	7.4	17.7	5.7	26.8	4.7	0.7
	男性	267	16.5	24.7	2.2	10.1	16.1	7.5	19.1	3.0	0.7
	答えない	10	10.0	50.0	-	10.0	10.0	-	20.0	-	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	9	33.3	22.2	-	-	44.4	-	-	-	-
	30歳代	25	40.0	40.0	-	-	20.0	-	-	-	-
	40歳代	45	33.3	42.2	-	2.2	15.6	-	2.2	4.4	-
	50歳代	49	40.8	26.5	4.1	2.0	10.2	6.1	2.0	6.1	2.0
	60歳代	74	6.8	10.8	-	24.3	20.3	6.8	28.4	1.4	1.4
	70歳以上	95	2.1	-	1.1	2.1	16.8	9.5	60.0	8.4	-
	男性 20歳代以下	5	40.0	40.0	-	-	20.0	-	-	-	-
	30歳代	25	44.0	40.0	-	-	16.0	-	-	-	-
	40歳代	36	25.0	52.8	-	-	19.4	2.8	-	-	-
	50歳代	38	28.9	50.0	-	5.3	13.2	-	-	-	2.6
	60歳代	70	10.0	20.0	8.6	25.7	20.0	7.1	5.7	2.9	-
70歳以上	92	4.3	2.2	-	7.6	13.0	15.2	50.0	6.5	1.1	

⑥ 家族構成

【全体】

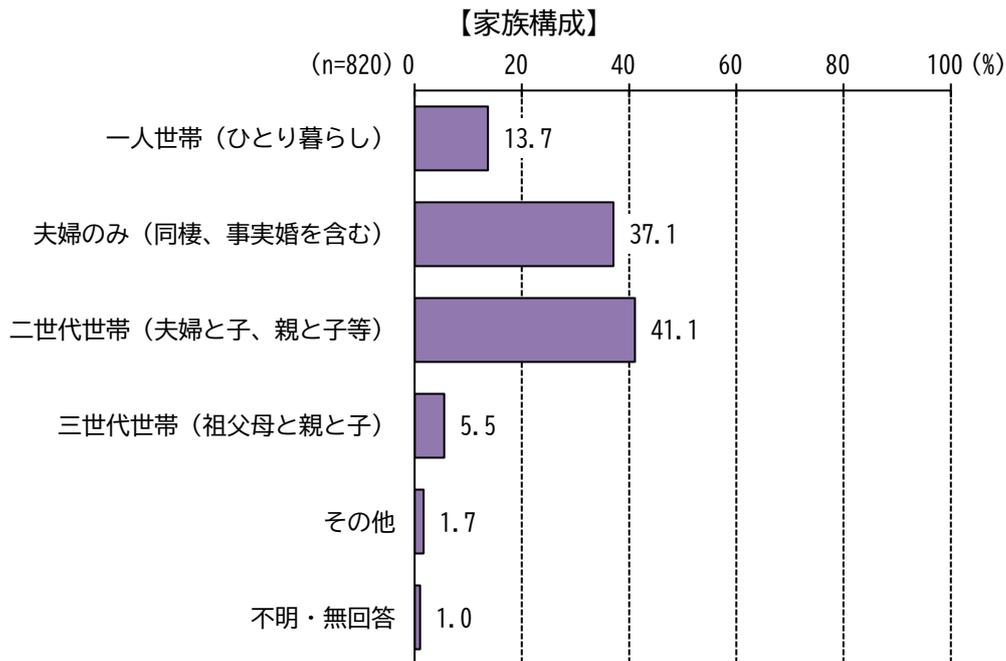
家族構成について、「二世世代世帯（夫婦と子、親と子等）」が41.1%で最も多く、次いで「夫婦のみ（同棲、事実婚を含む）」が37.1%、「一人世帯（ひとり暮らし）」が13.7%となっています。

【性別】

男性の方が「一人世帯（ひとり暮らし）」がやや多く、女性の方が「二世世代世帯（夫婦と子、親と子等）」がやや多いが、大きな違いはみられません。

【性・年齢別】

性・年齢別では、男性の20歳代以下では半数近くが「一人世帯（ひとり暮らし）」となっています。



単位：%

	母数 (n)	家族構成						
		一人世帯 (ひとり暮らし)	事実婚のみ (同棲、 事実婚を含む)	夫婦と子 (夫婦と子等)	二世世代世帯 (夫婦と親と子)	三世世代世帯 (祖父母と親と子)	その他	不明・無回答
全体	820	13.7	37.1	41.1	5.5	1.7	1.0	
性別	女性	422	11.8	36.7	43.6	6.2	1.4	0.2
	男性	367	16.1	38.1	39.0	4.6	2.2	-
	答えない	17	11.8	41.2	41.2	5.9	-	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	20.6	17.6	52.9	2.9	5.9	-
	30歳代	39	10.3	12.8	69.2	7.7	-	-
	40歳代	64	9.4	10.9	70.3	9.4	-	-
	50歳代	58	5.2	37.9	51.7	3.4	1.7	-
	60歳代	97	9.3	47.4	34.0	7.2	2.1	-
	70歳以上	128	16.4	53.9	22.7	5.5	0.8	0.8
	男性 20歳代以下	36	47.2	13.9	27.8	11.1	-	-
	30歳代	38	10.5	15.8	68.4	2.6	2.6	-
	40歳代	47	12.8	12.8	68.1	4.3	2.1	-
	50歳代	49	10.2	22.4	61.2	4.1	2.0	-
60歳代	81	12.3	51.9	28.4	6.2	1.2	-	
70歳以上	115	14.8	60.9	18.3	2.6	3.5	-	

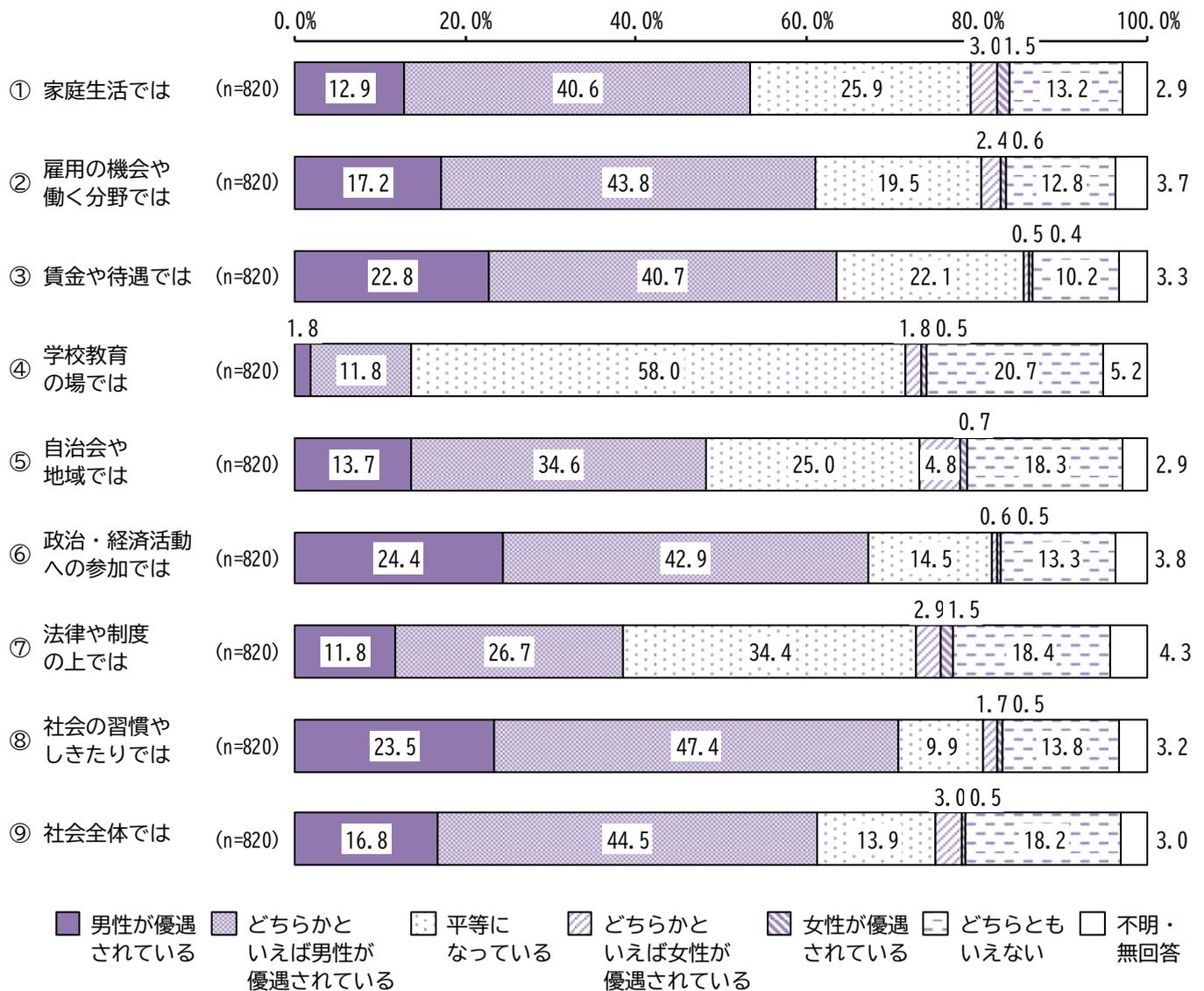
2. 男女平等意識について

問1 今、日本の社会において男女のおかれている状況はどの程度平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

【全体】

社会の各分野における男女平等感をみると、④学校教育の場では「平等になっている」が58.0%と6割近くになっていますが、その他の分野ではいずれも「平等になっている」よりも「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が多くなっています。特に多いのは⑧社会の習慣やしきたりで“男性優遇”が70.9%に上ります。次いで⑥政治・経済活動への参加(67.3%)、③賃金や待遇(63.5%)、②雇用の機会や働く分野(61.0%)と続いています。

①から⑧の分野すべてを含む⑨社会全体でも“男性優遇”が61.3%と多くなっています。



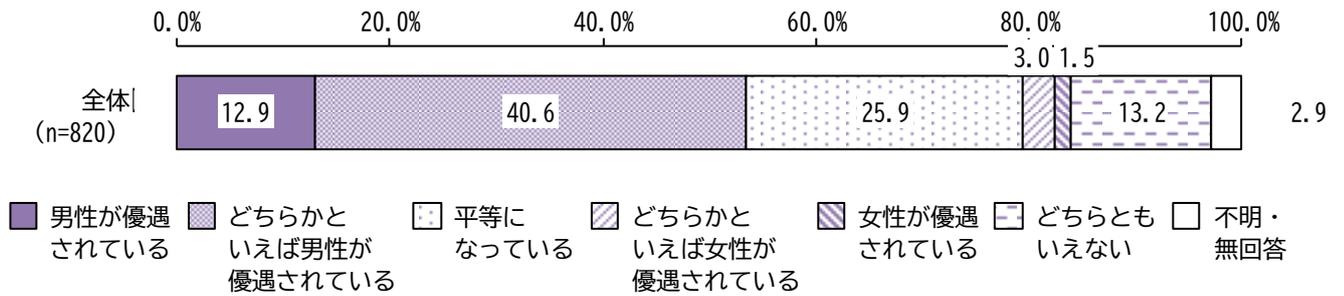
① 家庭生活では

【全体】

家庭生活では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が40.6%で最も多く、次いで「平等になっている」が25.9%、「どちらともいえない」が13.2%となっています。

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は53.5%で半数を超えています。「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は4.5%となっています。

【①家庭生活】



【性別】

“男性優遇”は女性が58.3%、男性が48.3%で女性の方が10.0ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

“男性優遇”は女性50歳代が70.7%と他の年齢に比べて特に多くなっています。

男性の30歳代以下は他の年齢に比べて“男性優遇”の割合が相対的に少なくなっており、30歳代の男女を比較すると約20ポイントの差があります。

単位：%

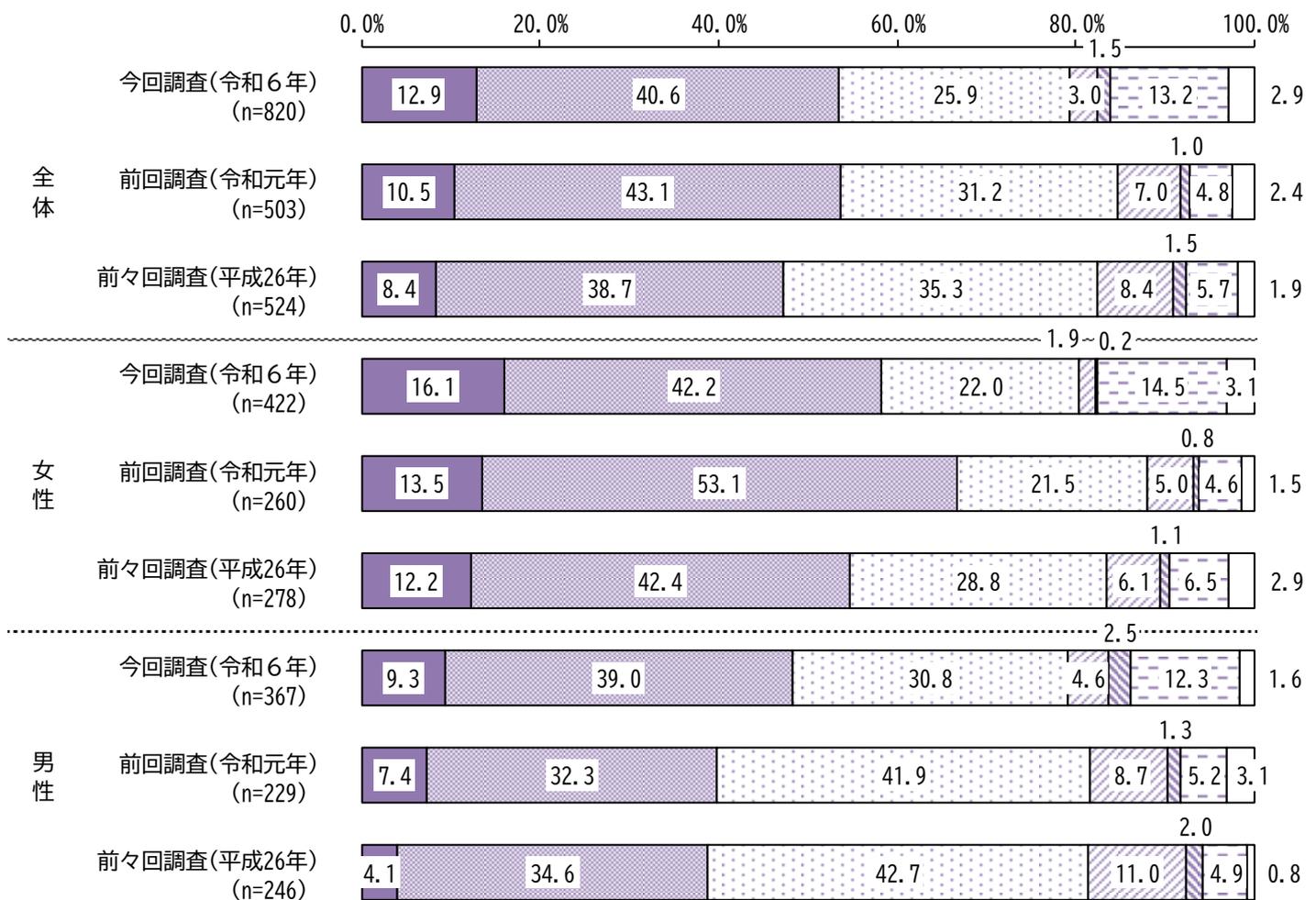
		母数 (n)	男女の置かれている状況（家庭生活）							男性優遇	女性優遇
			優遇 男性 さが れて いる	男ど 性ち 性が ら優 かか ら遇 とさ れえ てば い る	平 等 に な っ て い る	女ど 性ち 性が ら優 かか ら遇 とさ れえ てば い る	優 女 遇 性 さが れて い る	ど ち ら と も い え な い	不 明 ・ 無 回 答		
	全体	820	12.9	40.6	25.9	3.0	1.5	13.2	2.9	53.5	4.5
性別	女性	422	16.1	42.2	22.0	1.9	0.2	14.5	3.1	58.3	2.1
	男性	367	9.3	39.0	30.8	4.6	2.5	12.3	1.6	48.3	7.1
	答えない	17	11.8	41.2	23.5	-	11.8	11.8	-	53.0	11.8
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	47.1	29.4	8.8	-	14.7	-	47.1	8.8
	30歳代	39	10.3	46.2	20.5	5.1	-	15.4	2.6	56.5	5.1
	40歳代	64	21.9	34.4	21.9	-	1.6	18.8	1.6	56.3	1.6
	50歳代	58	20.7	50.0	20.7	-	-	5.2	3.4	70.7	-
	60歳代	97	20.6	38.1	22.7	2.1	-	14.4	2.1	58.7	2.1
	70歳以上	128	14.1	43.0	20.3	0.8	-	16.4	5.5	57.1	0.8
	男性 20歳代以下	36	5.6	30.6	38.9	5.6	5.6	13.9	-	36.2	11.2
	30歳代	38	7.9	28.9	28.9	7.9	-	26.3	-	36.8	7.9
	40歳代	47	8.5	36.2	31.9	4.3	2.1	17.0	-	44.7	6.4
	50歳代	49	10.2	44.9	28.6	6.1	2.0	8.2	-	55.1	8.1
	60歳代	81	4.9	44.4	29.6	6.2	2.5	9.9	2.5	49.3	8.7
70歳以上	115	13.9	40.0	30.4	1.7	2.6	8.7	2.6	53.9	4.3	

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「どちらともいえない」がやや多くなっている分「平等になっている」が少なくなっているところに違いがみられますが、“男性優遇”の回答割合はほとんど変わりません。ただし、「男性が優遇されている」は、調査ごとにわずかずつですが多くなっています。

性別でみると、“男性優遇”は、女性では前回調査よりも少なくなっていますが、男性では多くなっています。また、男性はこの10年間で「平等になっている」が10ポイント以上減少しています。

【①家庭生活（経年比較）】



※1 男性が優遇されている
 ※2 どちらかといえば男性が優遇されている
 ※3 女性が優遇されている
 ※4 どちらともいえない
 不明・無回答

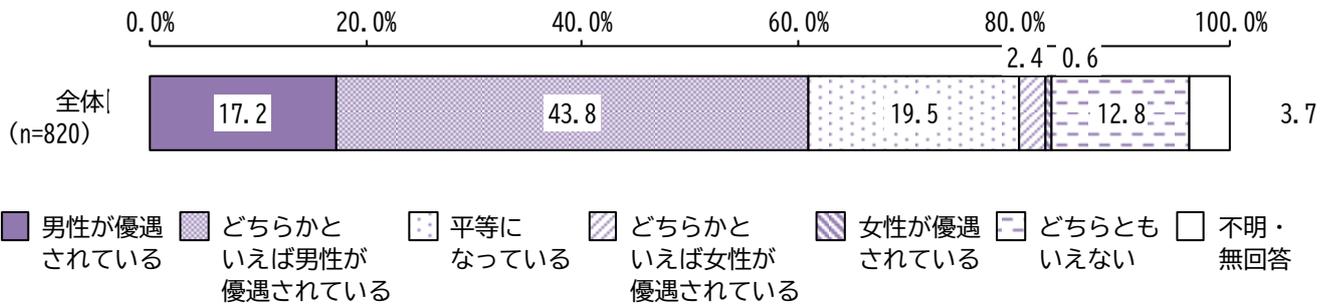
※1 前回調査、前々回調査では「男性の方が非常に優遇されている」
 ※2 前回調査、前々回調査では「平等だと思う」
 ※3 前回調査、前々回調査では「女性の方が非常に優遇されている」
 ※4 前回調査、前々回調査では「わからない」

② 雇用の機会や働く分野では

【全体】

雇用の機会や働く分野では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が43.8%で最も多く、次いで「平等になっている」が19.5%、「男性が優遇されている」が17.2%となっています。
 “男性優遇”は61.0%、“女性優遇”は3.0%となっています。

【②雇用の機会や働く分野】



【性別】

“男性優遇”は女性が63.8%、男性が58.3%で女性の方が5.5ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

“男性優遇”は女性20歳代以下の73.5%と女性40歳代の73.4%が特に多くなっています。
 “男性優遇”について20歳代以下の男女を比較すると約20ポイントの差があります。

単位：%

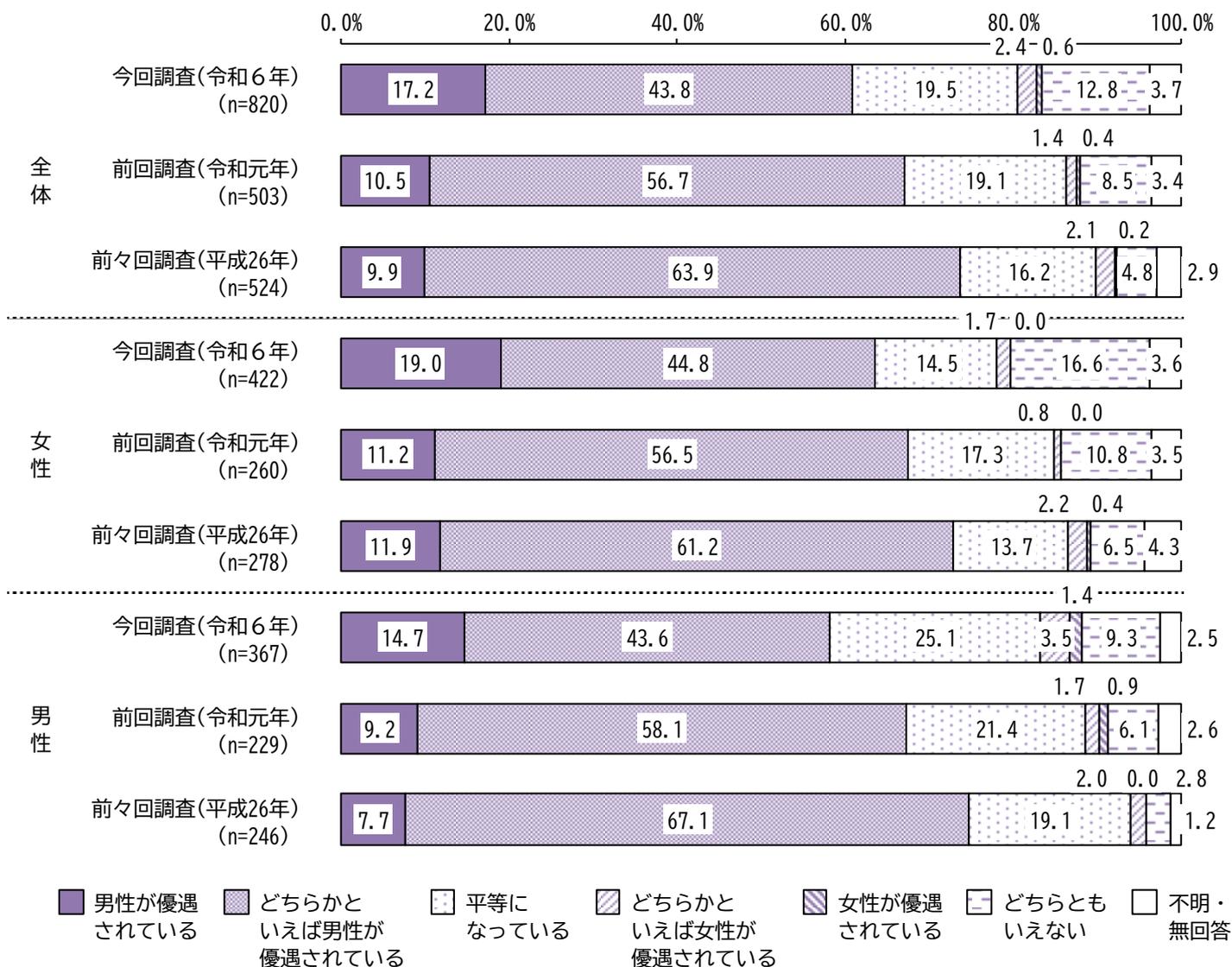
	母数 (n)	男女の置かれている状況（雇用の機会や働く分野）							男性優遇	女性優遇	
		優男性さがれている	男性どちらが優遇されている	平等になっている	女性どちらが優遇されている	優女性が優遇されている	どちらともいえない	不明・無回答			
全体	820	17.2	43.8	19.5	2.4	0.6	12.8	3.7	61.0	3.0	
性別	女性	422	19.0	44.8	14.5	1.7	-	16.6	3.6	63.8	1.7
	男性	367	14.7	43.6	25.1	3.5	1.4	9.3	2.5	58.3	4.9
	答えない	17	29.4	41.2	23.5	-	-	-	5.9	70.6	-
	女性 20歳代以下	34	14.7	58.8	14.7	2.9	-	8.8	-	73.5	2.9
性・年齢別	30歳代	39	15.4	48.7	23.1	2.6	-	10.3	-	64.1	2.6
	40歳代	64	28.1	45.3	9.4	1.6	-	14.1	1.6	73.4	1.6
	50歳代	58	20.7	39.7	19.0	3.4	-	17.2	-	60.4	3.4
	60歳代	97	15.5	41.2	18.6	1.0	-	20.6	3.1	56.7	1.0
	70歳以上	128	18.8	44.5	8.6	0.8	-	18.8	8.6	63.3	0.8
	男性 20歳代以下	36	13.9	38.9	36.1	5.6	2.8	2.8	-	52.8	8.4
	30歳代	38	15.8	34.2	26.3	-	5.3	18.4	-	50.0	5.3
	40歳代	47	19.1	44.7	19.1	4.3	-	12.8	-	63.8	4.3
	50歳代	49	10.2	38.8	28.6	8.2	-	12.2	2.0	49.0	8.2
	60歳代	81	6.2	48.1	27.2	6.2	1.2	8.6	2.5	54.3	7.4
	70歳以上	115	20.0	47.0	20.9	-	0.9	6.1	5.2	67.0	0.9

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて“男性優遇”の回答割合が少なくなっている一方で、そのうちの「男性が優遇されている」は多くなっています。

性別でみると、全体の傾向と同様に、男女とも”男性優遇”が調査ごとに少なくなっている一方で、そのうちの「男性が優遇されている」は多くなっています。

【②雇用の機会や働く分野（経年比較）】



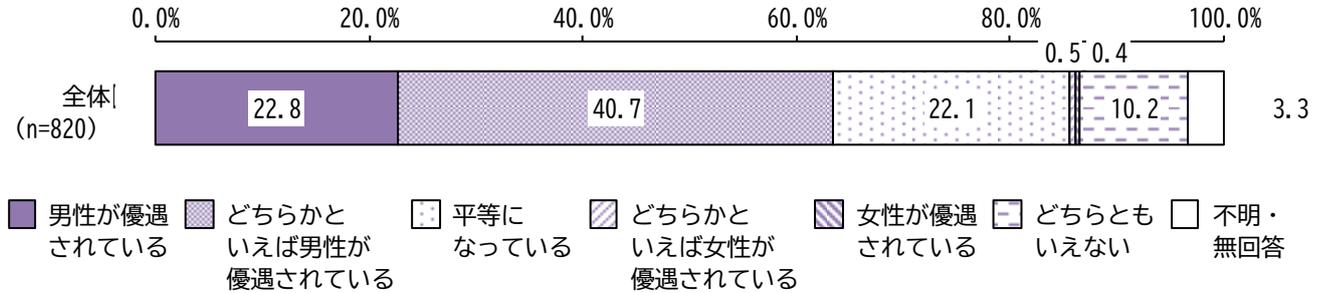
③ 賃金や待遇では

【全体】

賃金や待遇では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が40.7%で最も多く、次いで「男性が優遇されている」が22.8%、「平等になっている」が22.1%となっています。

“男性優遇”は63.5%、“女性優遇”は0.9%となっています。

【③賃金や待遇】



【性別】

“男性優遇”は女性が68.4%で男性に比べて8.7ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

男性 20歳代以下は「平等になっている」が5割を超えて、他の年齢に比べて多くなっていますが、女性の20歳代以下では“男性優遇”が5割を超えています。

男女とも30歳代以下では「平等になっている」が40歳代以上に比べて多い傾向です。

“男性優遇”は男女とも70歳以上では特に多くなっています。

単位：%

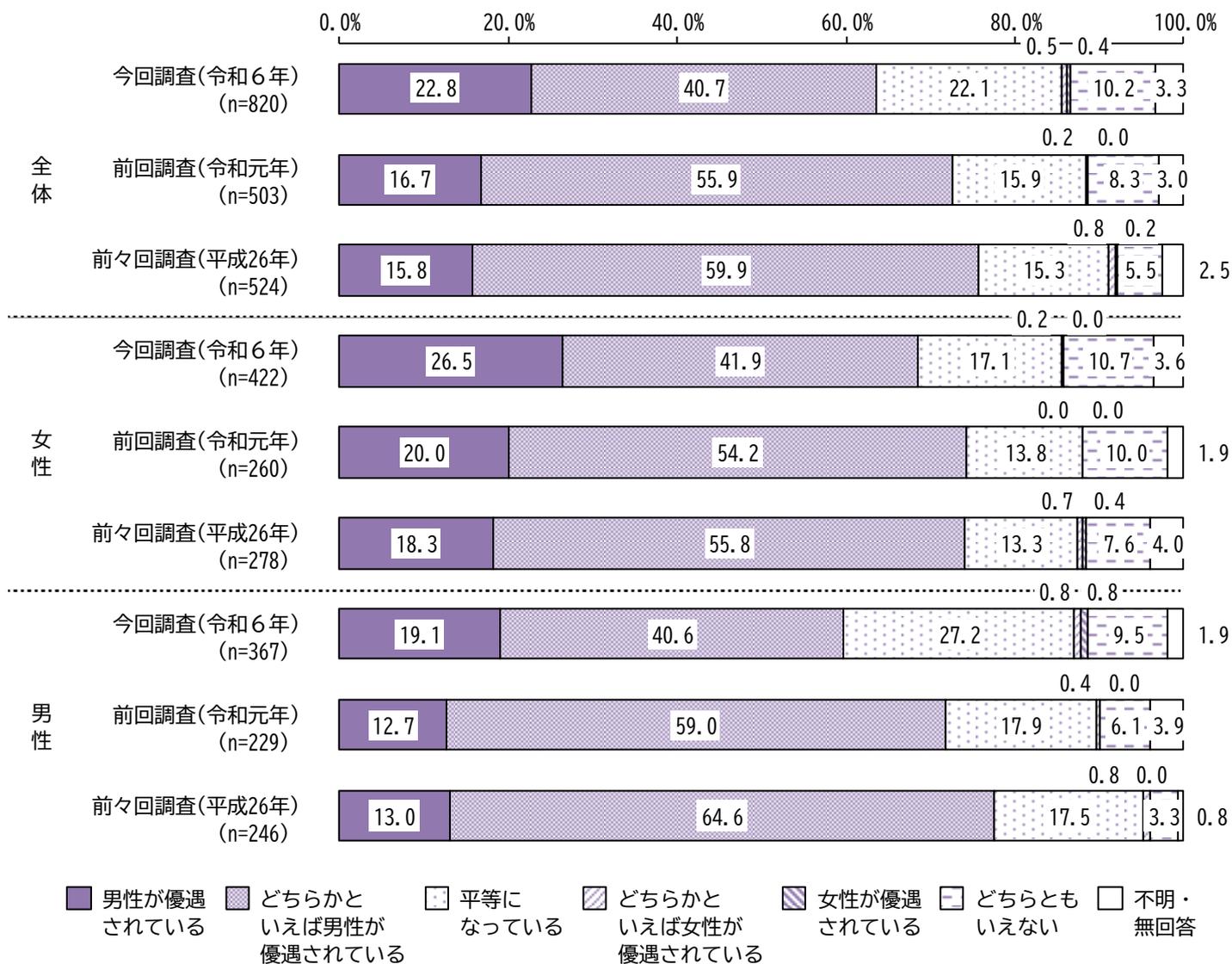
	母数 (n)	男女の置かれている状況 (賃金や待遇)							不明・無回答	男性優遇	女性優遇
		男性が優遇されている	男性が優遇されている	平等になっている	女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない	不明・無回答			
全体	820	22.8	40.7	22.1	0.5	0.4	10.2	3.3	63.5	0.9	
性別	女性	422	26.5	41.9	17.1	0.2	-	10.7	3.6	68.4	0.2
	男性	367	19.1	40.6	27.2	0.8	0.8	9.5	1.9	59.7	1.6
	答えない	17	23.5	29.4	29.4	-	-	17.6	-	52.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	20.6	32.4	32.4	-	-	14.7	-	53.0	-
	30歳代	39	30.8	28.2	28.2	-	-	12.8	-	59.0	-
	40歳代	64	35.9	39.1	12.5	-	-	12.5	-	75.0	-
	50歳代	58	27.6	37.9	20.7	-	-	10.3	3.4	65.5	-
	60歳代	97	19.6	42.3	18.6	1.0	-	15.5	3.1	61.9	1.0
	70歳以上	128	26.6	52.3	8.6	-	-	4.7	7.8	78.9	-
	男性 20歳代以下	36	5.6	27.8	52.8	5.6	5.6	2.8	-	33.4	11.2
	30歳代	38	21.1	28.9	34.2	-	-	15.8	-	50.0	-
	40歳代	47	21.3	38.3	27.7	-	-	12.8	-	59.6	-
	50歳代	49	20.4	36.7	28.6	-	-	14.3	-	57.1	-
	60歳代	81	8.6	51.9	24.7	1.2	-	9.9	3.7	60.5	1.2
70歳以上	115	28.7	42.6	18.3	-	0.9	6.1	3.5	71.3	0.9	

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて“男性優遇”の回答割合が少なくなっている一方で、そのうちの「男性が優遇されている」は多くなっています。「平等になっている」は6.2ポイント多くなっています。

性別でみると、女性は前2回の調査ではほとんど違いがないのに対して、今回は“男性優遇”が少なくなっている一方で、そのうちの「男性が優遇されている」は多くなっています。男性では、前2回の調査と比べて「平等になっている」が10ポイント近く多くなっています。

【③賃金や待遇（経年比較）】



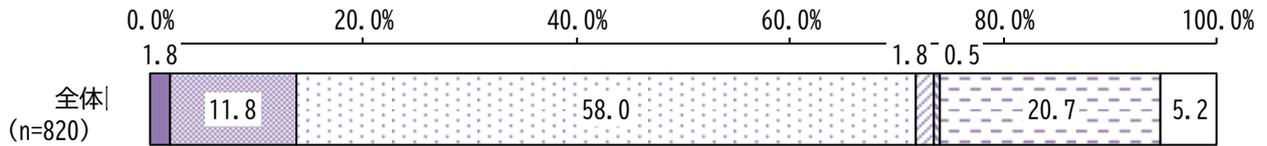
④ 学校教育の場では

【全体】

学校教育の場では、「平等になっている」が58.0%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が20.7%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が11.8%となっています。

“男性優遇”は13.6%で他の分野に比べて少ないですが、“女性優遇”に比べると多くなっています。

【④学校教育の場】



男性が優遇されている
 どちらかといえば男性が優遇されている
 平等になっている
 どちらかといえば女性が優遇されている
 女性が優遇されている
 どちらともいえない
 不明・無回答

【性別】

男女とも「平等になっている」が半数を超えており、男性では6割を超えています。

【性・年齢別】

女性の30歳代は「平等になっている」が82.1%で、おの年齢に比べて特に多くなっています。

男性の30歳代は「平等になっている」が55.3%で、同じ年齢の女性に比べて少ない一方で「どちらともいえない」が多くなっています。

単位：%

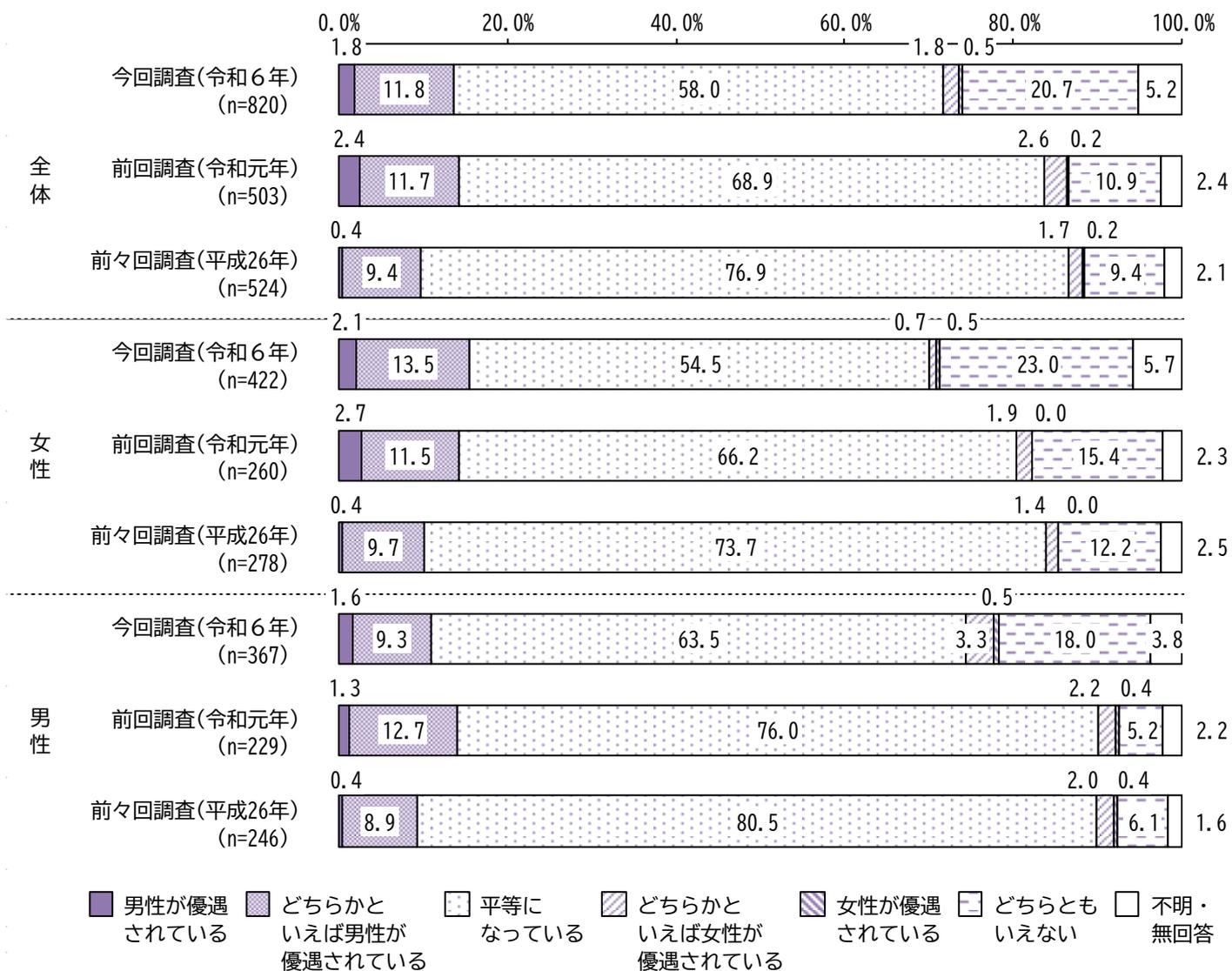
		母数 (n)	男女の置かれている状況 (学校教育の場)							男性優遇	女性優遇
			男性が優遇されている	男性が優遇されたい	平等になっている	女性が優遇されたい	女性が優遇されている	どちらともいえない	不明・無回答		
全体		820	1.8	11.8	58.0	1.8	0.5	20.7	5.2	13.6	2.3
性別	女性	422	2.1	13.5	54.5	0.7	0.5	23.0	5.7	15.6	1.2
	男性	367	1.6	9.3	63.5	3.3	0.5	18.0	3.8	10.9	3.8
	答えない	17	-	23.5	41.2	-	-	35.3	-	23.5	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	2.9	11.8	61.8	-	-	23.5	-	14.7	-
	30歳代	39	2.6	2.6	82.1	-	2.6	10.3	-	5.2	2.6
	40歳代	64	4.7	14.1	54.7	-	1.6	25.0	-	18.8	1.6
	50歳代	58	1.7	17.2	55.2	1.7	-	24.1	-	18.9	1.7
	60歳代	97	-	14.4	47.4	1.0	-	26.8	10.3	14.4	1.0
	70歳以上	128	2.3	14.8	49.2	0.8	-	21.9	10.9	17.1	0.8
	男性 20歳代以下	36	-	2.8	69.4	16.7	-	11.1	-	2.8	16.7
	30歳代	38	2.6	7.9	55.3	-	2.6	31.6	-	10.5	2.6
	40歳代	47	4.3	4.3	63.8	6.4	-	21.3	-	8.6	6.4
	50歳代	49	2.0	14.3	67.3	-	-	16.3	-	16.3	-
	60歳代	81	-	8.6	65.4	1.2	-	17.3	7.4	8.6	1.2
70歳以上	115	1.7	11.3	61.7	1.7	0.9	15.7	7.0	13.0	2.6	

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「どちらともいえない」が約10ポイント多くなっている分「平等になっている」が約10ポイント少なくなっています。「平等になっている」は調査ごとに少なくなっています。

性別でみると、全体の傾向と同様に、男女とも「どちらともいえない」が多くなっている分「平等になっている」が少なくなっています。

【④学校教育の場（経年比較）】



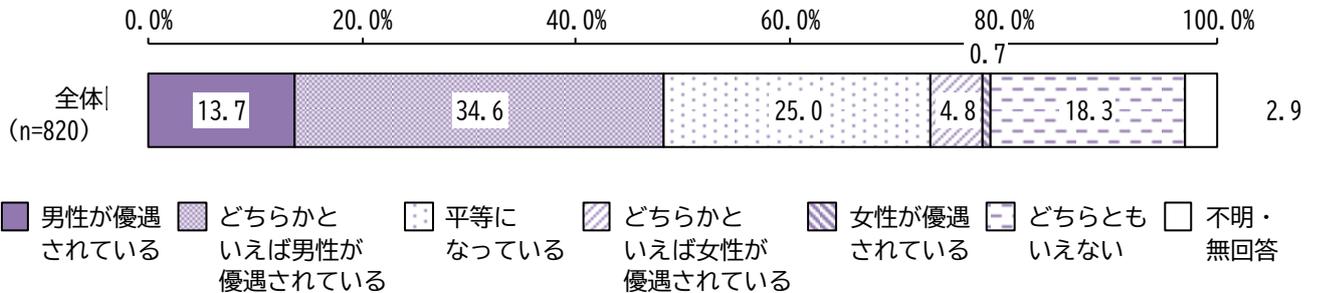
⑤ 自治会や地域では

【全体】

自治会や地域では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が34.6%で最も多く、次いで「平等になっている」が25.0%、「どちらともいえない」が18.3%となっています。

“男性優遇”は48.3%となっています。“女性優遇”は5.5%となっています。

【⑤自治会や地域】



【性別】

“男性優遇”は女性が51.9%と男性に比べて多くなっています。

【性・年齢別】

“男性優遇”は女性40歳代が67.2%と他の年齢に比べて多くなっています。

“男性の20歳代以下と50歳代では、“男性優遇”よりも「平等になっている」の方が多くなっています。

単位：%

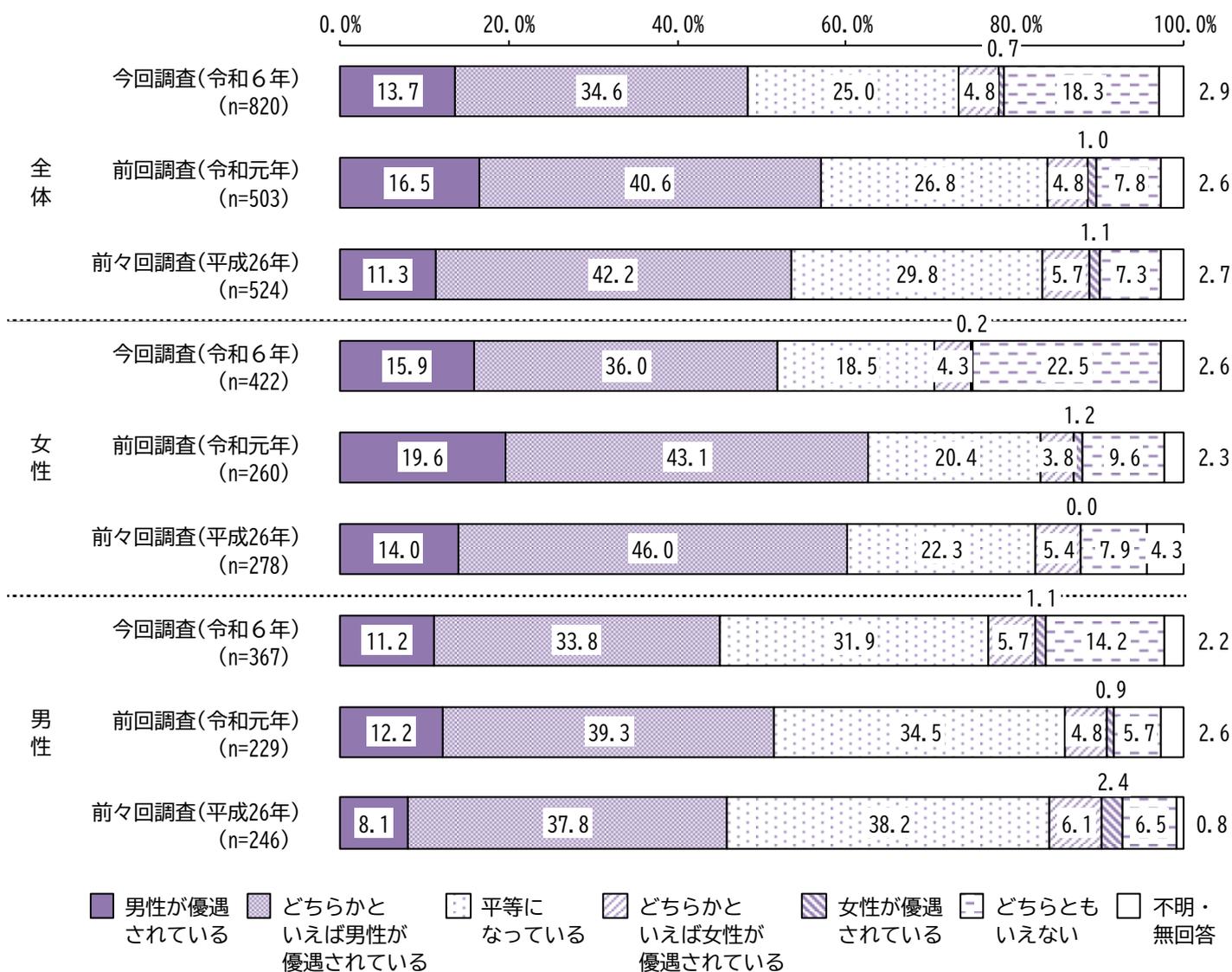
		母数 (n)	男女の置かれている状況 (自治会や地域)						不明・無回答	男性優遇	女性優遇
			男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない			
全体		820	13.7	34.6	25.0	4.8	0.7	18.3	2.9	48.3	5.5
性別	女性	422	15.9	36.0	18.5	4.3	0.2	22.5	2.6	51.9	4.5
	男性	367	11.2	33.8	31.9	5.7	1.1	14.2	2.2	45.0	6.8
	答えない	17	11.8	29.4	41.2	-	-	17.6	-	41.2	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	2.9	38.2	17.6	5.9	-	35.3	-	41.1	5.9
	30歳代	39	15.4	35.9	28.2	2.6	-	17.9	-	51.3	2.6
	40歳代	64	23.4	43.8	12.5	7.8	-	12.5	-	67.2	7.8
	50歳代	58	22.4	27.6	15.5	6.9	-	27.6	-	50.0	6.9
	60歳代	97	12.4	35.1	20.6	4.1	1.0	24.7	2.1	47.5	5.1
	70歳以上	128	15.6	35.2	18.8	1.6	-	21.9	7.0	50.8	1.6
	男性 20歳代以下	36	16.7	16.7	44.4	5.6	2.8	13.9	-	33.4	8.4
	30歳代	38	5.3	36.8	26.3	7.9	-	23.7	-	42.1	7.9
	40歳代	47	6.4	48.9	21.3	10.6	2.1	8.5	2.1	55.3	12.7
	50歳代	49	10.2	24.5	36.7	4.1	-	24.5	-	34.7	4.1
60歳代	81	9.9	34.6	30.9	8.6	-	13.6	2.5	44.5	8.6	
70歳以上	115	13.9	35.7	33.0	1.7	1.7	9.6	4.3	49.6	3.4	

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「どちらともいえない」が約10ポイント多くなっている分“男性優遇”の回答割合が少なくなっています。

性別でみると、全体の傾向と同様に、男女とも「どちらともいえない」が多くなって“男性優遇”の回答割合が少なくなっています。女性では前回調査よりも“男性優遇”が約10ポイント少なくなっています。

【⑤自治会や地域（経年比較）】

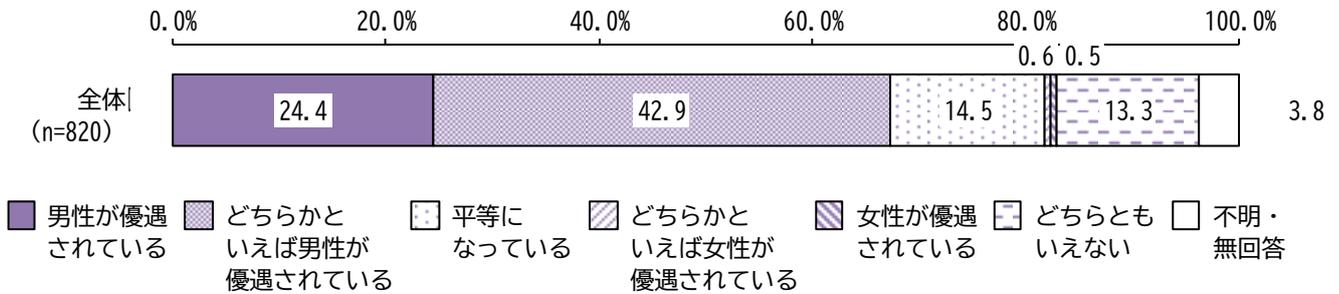


⑥ 政治・経済活動への参加では

【全体】

政治・経済活動への参加では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が42.9%で最も多く、次いで「男性が優遇されている」が24.4%、「平等になっている」が14.5%となっています。
 “男性優遇”は67.3%となっています。“女性優遇”は1.1%となっています。

【⑥政治・経済活動への参加】



【性別】

“男性優遇”は女性が72.3%と男性に比べて多くなっています。

【性・年齢別】

“男性優遇”は女性の30歳代以下では8割を超えて特に多くなっています。一方、男性の30歳代と60歳代は5割台で他の年齢に比べて少なくなっています。

単位：%

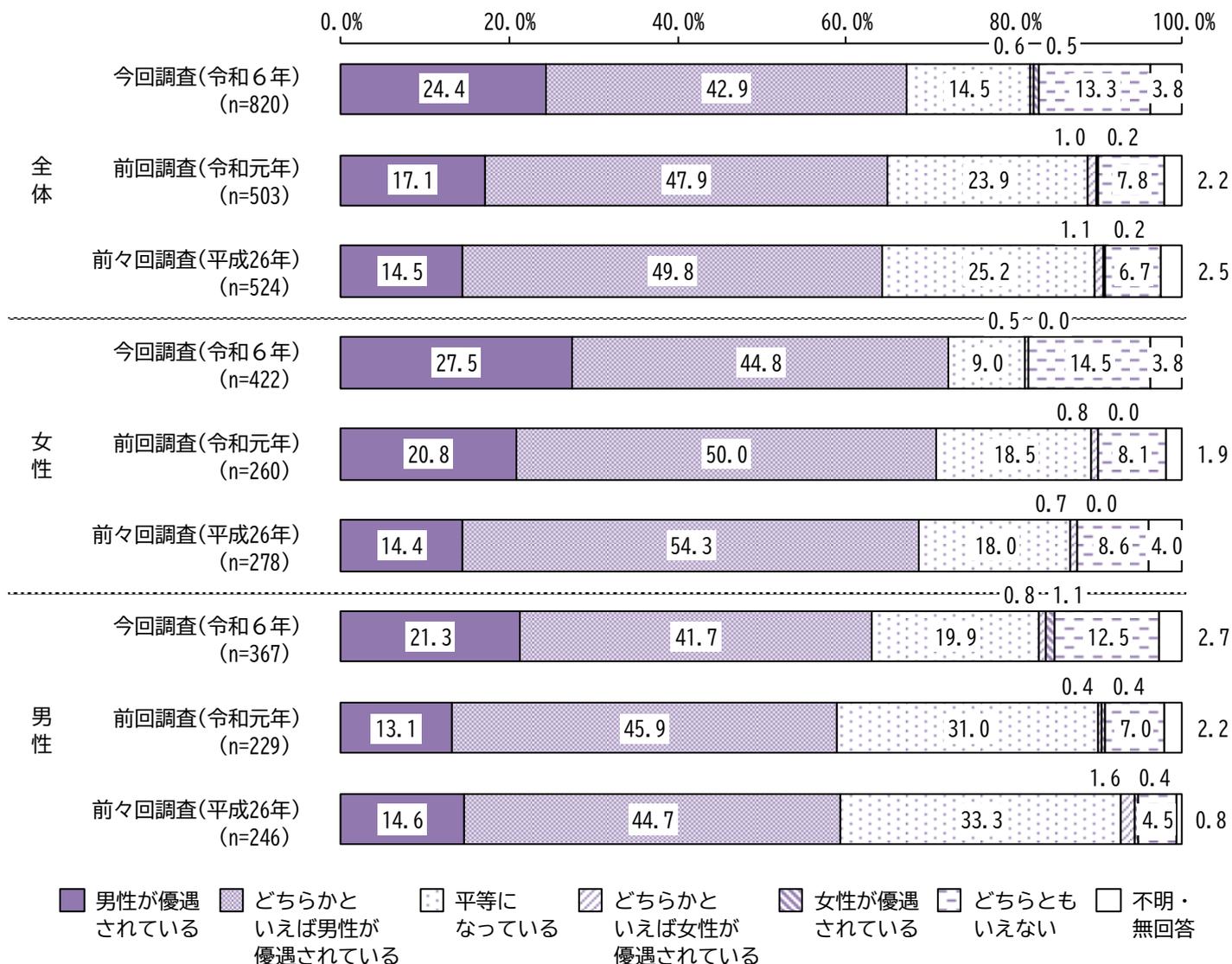
	母数 (n)	男女の置かれている状況（政治・経済活動への参加）							男性優遇	女性優遇	
		男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない	不明・無回答			
全体	820	24.4	42.9	14.5	0.6	0.5	13.3	3.8	67.3	1.1	
性別	女性	422	27.5	44.8	9.0	0.5	-	14.5	3.8	72.3	0.5
	男性	367	21.3	41.7	19.9	0.8	1.1	12.5	2.7	63.0	1.9
	答えない	17	29.4	29.4	35.3	-	-	5.9	-	58.8	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	35.3	52.9	5.9	-	-	5.9	-	88.2	-
	30歳代	39	35.9	46.2	10.3	-	-	7.7	-	82.1	-
	40歳代	64	40.6	34.4	12.5	-	-	12.5	-	75.0	-
	50歳代	58	27.6	43.1	8.6	-	-	20.7	-	70.7	-
	60歳代	97	17.5	44.3	11.3	1.0	-	20.6	5.2	61.8	1.0
	70歳以上	128	24.2	47.7	6.3	0.8	-	12.5	8.6	71.9	0.8
	男性 20歳代以下	36	30.6	33.3	22.2	-	5.6	8.3	-	63.9	5.6
	30歳代	38	26.3	26.3	28.9	-	-	18.4	-	52.6	-
	40歳代	47	21.3	46.8	19.1	-	2.1	10.6	-	68.1	2.1
	50歳代	49	16.3	46.9	12.2	4.1	-	20.4	-	63.2	4.1
60歳代	81	14.8	37.0	29.6	1.2	-	13.6	3.7	51.8	1.2	
70歳以上	115	23.5	47.8	13.0	-	0.9	8.7	6.1	71.3	0.9	

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「平等になっている」が10ポイント近く少なくなっており、「どちらともいえない」と「男性が優遇されている」が多くなっています。

性別でみると、男女とも全体の傾向と同様です。特に女性では「平等になっている」は9.0%と少なくなっています。

【⑥政治・経済活動への参加（経年比較）】

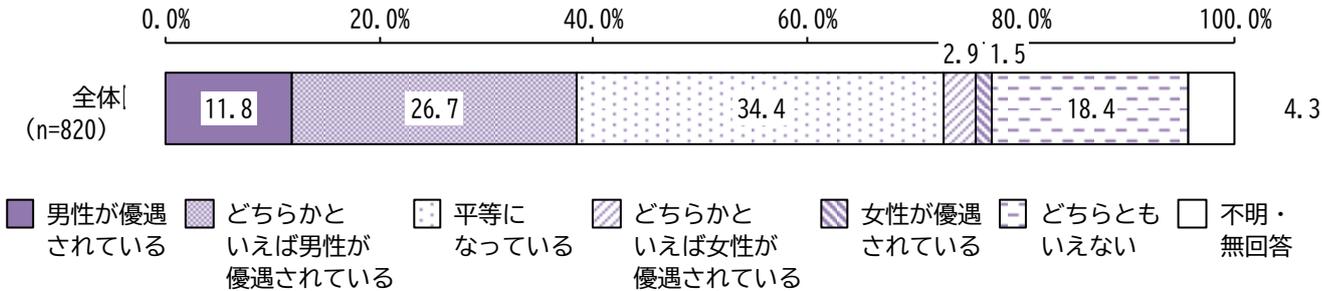


⑦ 法律や制度の上では

【全体】

法律や制度の上では、「平等になっている」が 34.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が 26.7%、「どちらともいえない」が 18.4%となっています。
 “男性優遇”は 38.5%となっています。“女性優遇”は 4.4%となっています。

【⑦法律や制度の上】



【性別】

男性は「平等になっている」が 44.7%で、女性の 25.6%に比べて 19.1 ポイント多くなっています。一方、女性では”男性優遇”が 45.8%で、男性の 29.7%に比べて 16.1 ポイント多く、男女の意識の違いが大きくなっています。

【性・年齢別】

女性 40 歳代は“男性優遇”が 57.8%と他の年齢に比べて多くなっています。
 男性の 20 歳代以下と 50 歳代では「平等になっている」が 5 割を超えています。また、男性 20 歳代以下は“女性優遇”が 2 割を超えています。

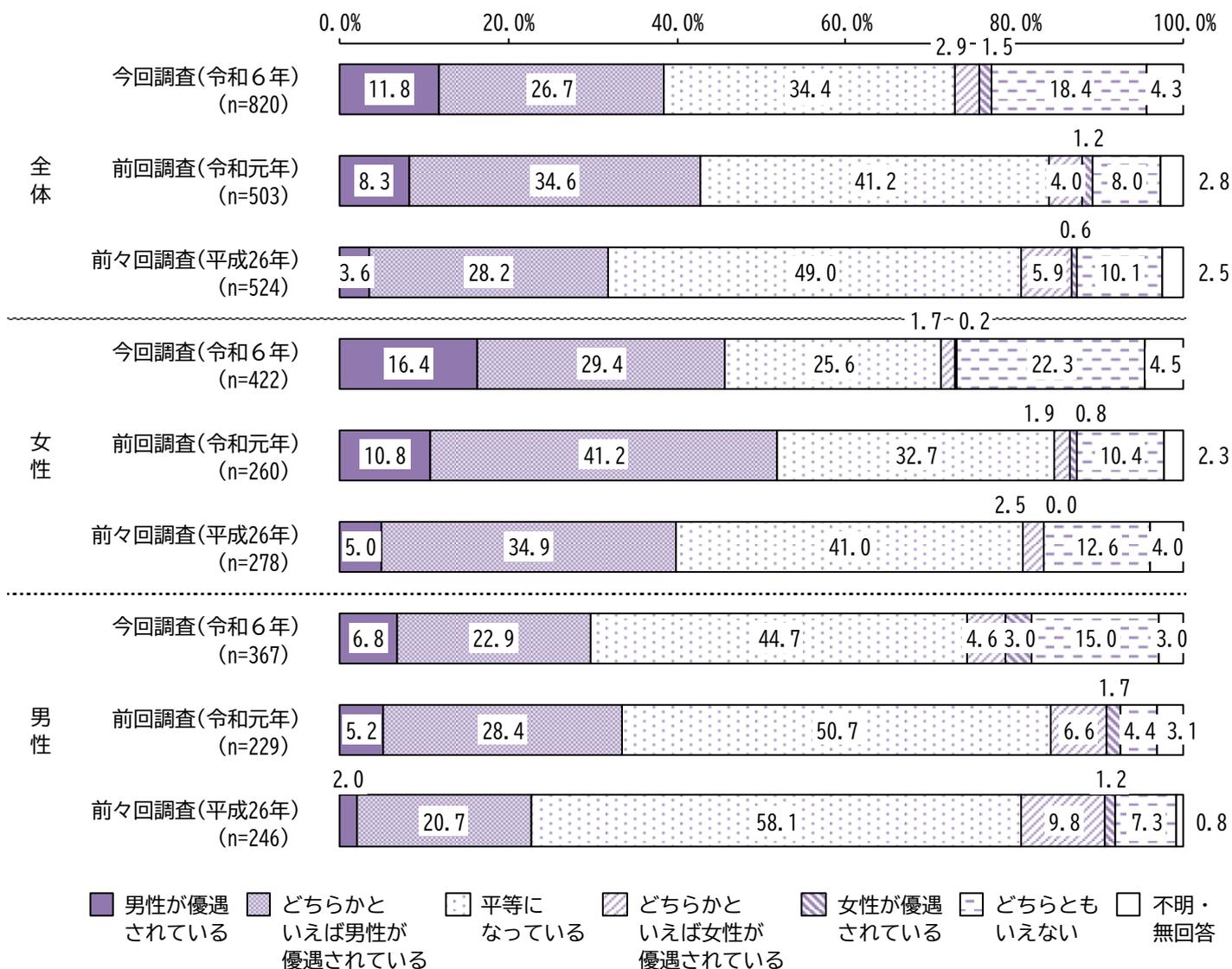
		母数 (n)	男女の置かれている状況 (法律や制度の上)							単位：%	
			男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない	不明・無回答	男性優遇	女性優遇
全体		820	11.8	26.7	34.4	2.9	1.5	18.4	4.3	38.5	4.4
性別	女性	422	16.4	29.4	25.6	1.7	0.2	22.3	4.5	45.8	1.9
	男性	367	6.8	22.9	44.7	4.6	3.0	15.0	3.0	29.7	7.6
	答えない	17	17.6	35.3	41.2	-	-	5.9	-	52.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	11.8	29.4	32.4	-	-	23.5	2.9	41.2	-
	30歳代	39	15.4	30.8	30.8	2.6	-	20.5	-	46.2	2.6
	40歳代	64	29.7	28.1	18.8	1.6	-	21.9	-	57.8	1.6
	50歳代	58	13.8	29.3	36.2	3.4	-	17.2	-	43.1	3.4
	60歳代	97	9.3	29.9	24.7	3.1	-	27.8	5.2	39.2	3.1
	70歳以上	128	18.0	28.9	21.9	-	0.8	20.3	10.2	46.9	0.8
	男性 20歳代以下	36	8.3	13.9	50.0	16.7	5.6	2.8	2.8	22.2	22.3
	30歳代	38	7.9	2.6	42.1	7.9	7.9	31.6	-	10.5	15.8
	40歳代	47	10.6	21.3	38.3	6.4	6.4	17.0	-	31.9	12.8
	50歳代	49	2.0	18.4	53.1	2.0	2.0	22.4	-	20.4	4.0
	60歳代	81	2.5	28.4	46.9	3.7	1.2	13.6	3.7	30.9	4.9
	70歳以上	115	8.7	31.3	41.7	0.9	0.9	10.4	6.1	40.0	1.8

【経年比較】

全体では、前々回調査では「平等になっている」が49.0%であったのが、今回調査では34.4%で14.6ポイント少なくなっており、「どちらともいえない」と「男性が優遇されている」が多くなっています。

性別で見ると、男女とも全体の傾向と同様ですが、特に女性で顕著になっています。

【⑦法律や制度の上（経年比較）】

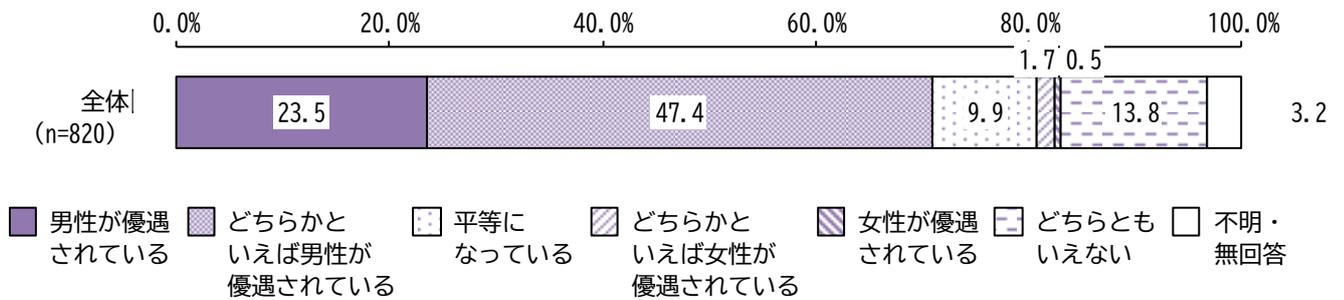


⑧ 社会の習慣やしきたりでは

【全体】

社会の習慣やしきたりでは、「どちらかといえば男性が優遇されている」が47.4%で最も多く、次いで「男性が優遇されている」が23.5%、「どちらともいえない」が13.8%となっています。
 “男性優遇”は70.9%となっています。“女性優遇”は2.2%となっています。

【⑧社会の習慣やしきたり】



【性別】

女性は“男性優遇”が74.6%で、男性に比べて多くなっています。

【性・年齢別】

女性の40歳代と50歳代は“男性優遇”が8割を超えて特に多くなっています。

男性は概ね年齢が若いほど“男性優遇”が少ない傾向です。男性の20歳代以下では“女性優遇”が19.5%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

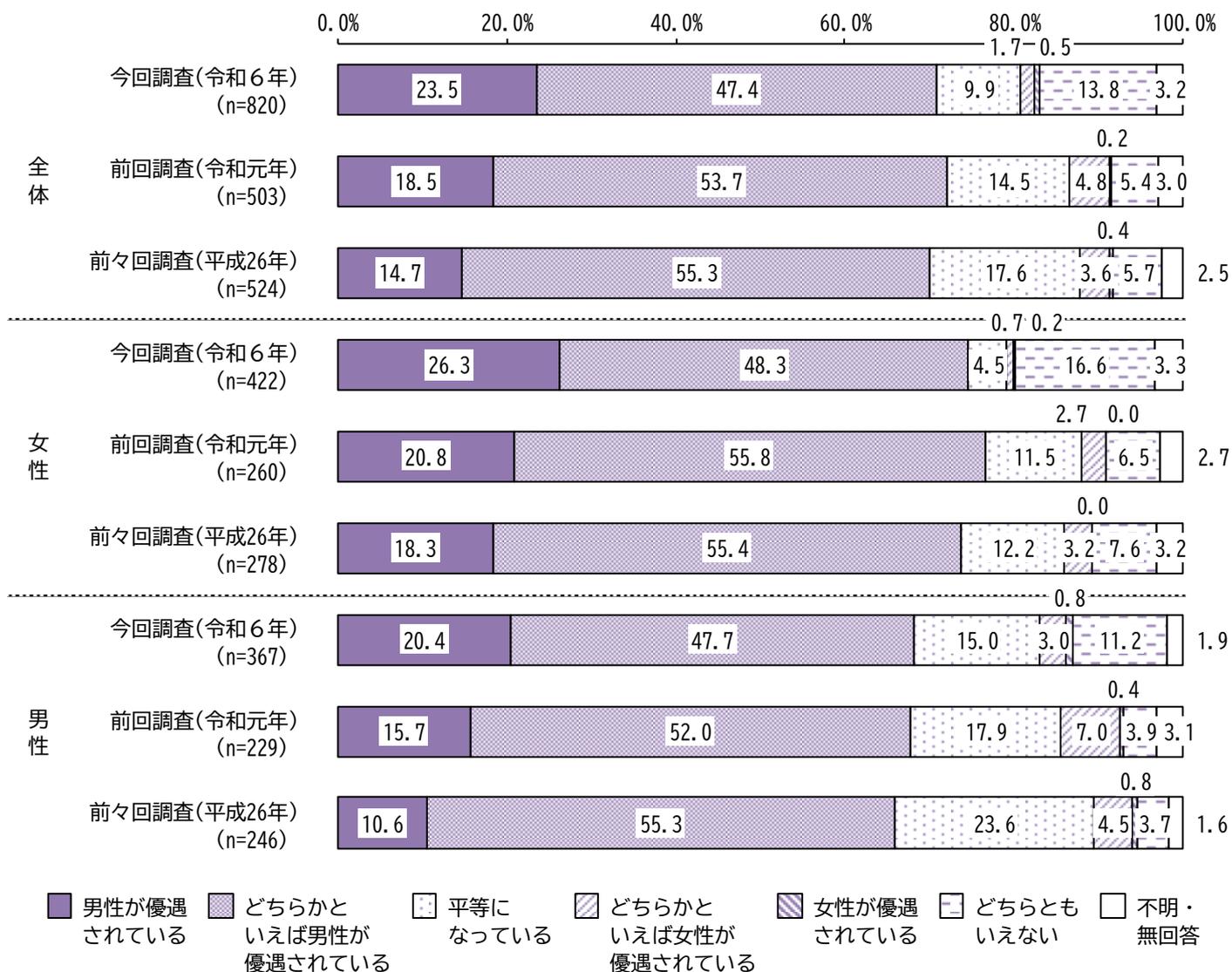
	母数 (n)	男女の置かれている状況（社会の習慣やしきたり）							男性優遇	女性優遇	
		男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない	不明・無回答			
全体	820	23.5	47.4	9.9	1.7	0.5	13.8	3.2	70.9	2.2	
性別	女性	422	26.3	48.3	4.5	0.7	0.2	16.6	3.3	74.6	0.9
	男性	367	20.4	47.7	15.0	3.0	0.8	11.2	1.9	68.1	3.8
	答えない	17	17.6	35.3	35.3	-	-	11.8	-	52.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	14.7	50.0	8.8	2.9	-	23.5	-	64.7	2.9
	30歳代	39	25.6	38.5	15.4	-	-	20.5	-	64.1	-
	40歳代	64	35.9	45.3	3.1	-	-	15.6	-	81.2	-
	50歳代	58	29.3	53.4	-	1.7	-	15.5	-	82.7	1.7
	60歳代	97	21.6	51.5	3.1	1.0	1.0	17.5	4.1	73.1	2.0
	70歳以上	128	27.3	46.9	3.9	-	-	14.1	7.8	74.2	-
	男性 20歳代以下	36	25.0	25.0	19.4	16.7	2.8	11.1	-	50.0	19.5
	30歳代	38	21.1	34.2	18.4	2.6	-	23.7	-	55.3	2.6
	40歳代	47	27.7	38.3	21.3	2.1	-	10.6	-	66.0	2.1
	50歳代	49	14.3	46.9	14.3	2.0	2.0	18.4	2.0	61.2	4.0
	60歳代	81	17.3	56.8	13.6	1.2	-	8.6	2.5	74.1	1.2
70歳以上	115	20.0	57.4	11.3	0.9	0.9	6.1	3.5	77.4	1.8	

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「どちらともいえない」が多くなっている分「平等になっている」の回答割合が少なくなっています。また、“男性優遇”はほとんど変わりませんが、そのうちの「男性が優遇されている」は調査ごとに多くなっています。

性別でみると、男女とも全体の傾向と同様ですが、特に女性では「平等になっている」は4.5%とわずかで前回より7.0ポイント少なくなっています。

【⑧社会の習慣やしきたり（経年比較）】



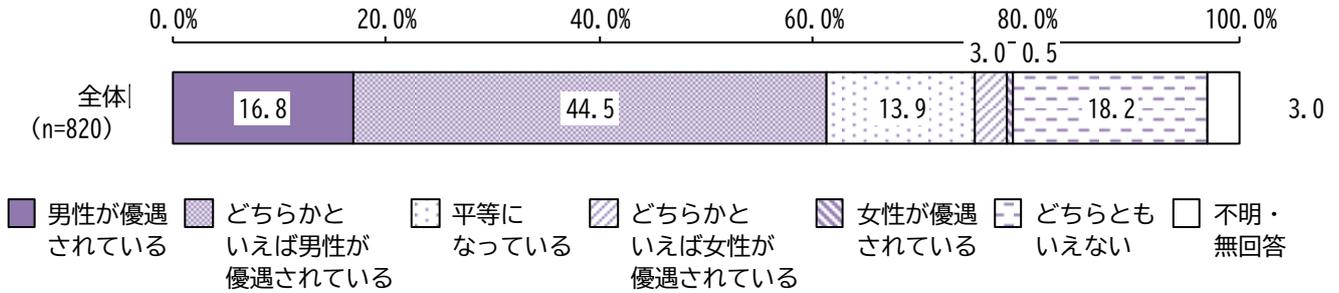
⑨ 社会全体では

【全体】

社会全体では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が44.5%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が18.2%、「男性が優遇されている」が16.8%となっています。

“男性優遇”は61.3%となっています。“女性優遇”は3.5%となっています。

【⑨社会全体】



【性別】

“男性優遇”は女性が65.4%と男性に比べて多くなっています。

【性・年齢別】

女性は年齢の違いによる差は小さいですが、男性の30歳代以下と50歳代は“男性優遇”が5割以下で他の年齢に比べて少なくなっています。

また、男性20歳代以下は“女性優遇”が約2割で他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

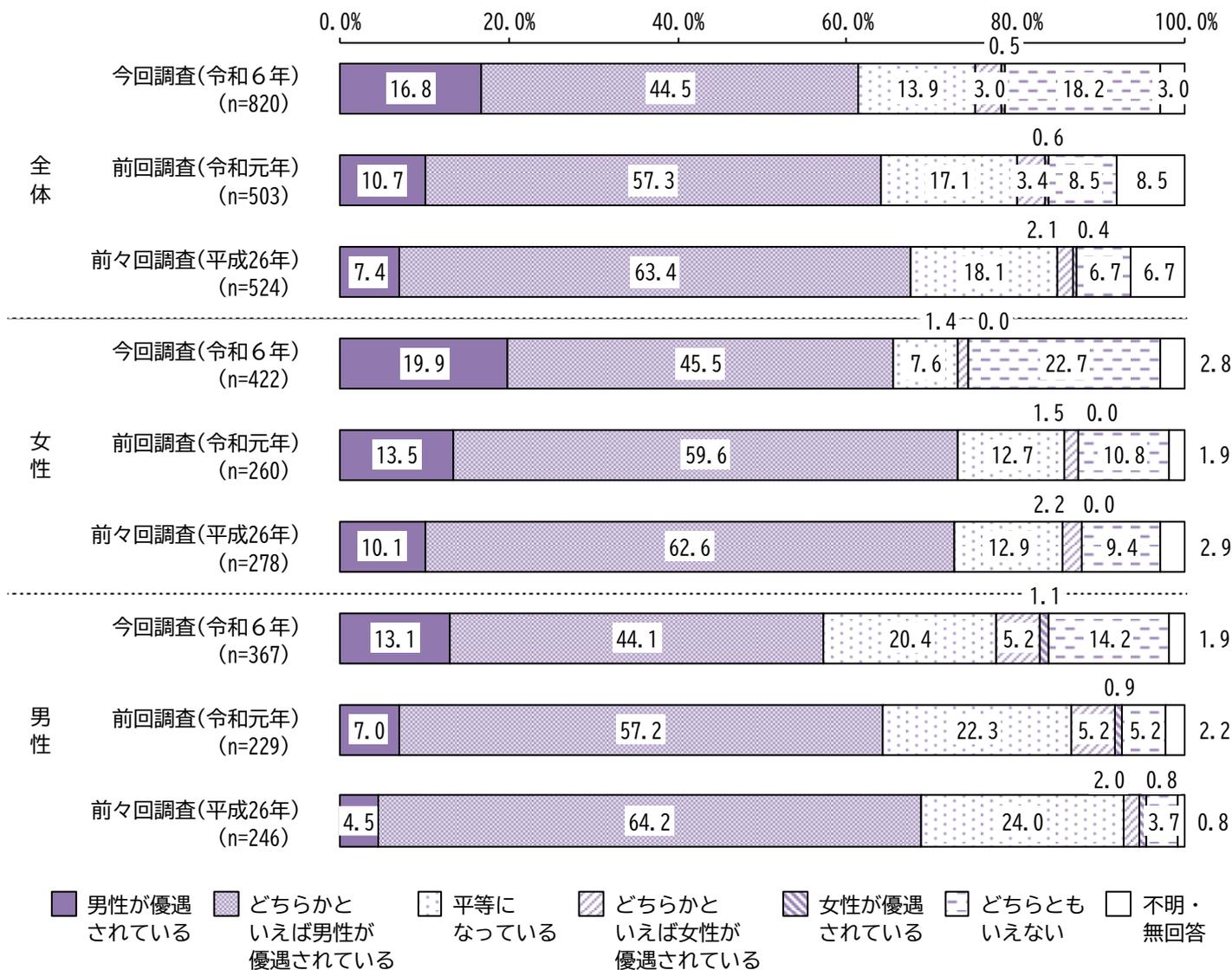
	母数 (n)	男女の置かれている状況 (社会全体)							男性優遇	女性優遇	
		男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない	不明・無回答			
全体	820	16.8	44.5	13.9	3.0	0.5	18.2	3.0	61.3	3.5	
性別	女性	422	19.9	45.5	7.6	1.4	-	22.7	2.8	65.4	1.4
	男性	367	13.1	44.1	20.4	5.2	1.1	14.2	1.9	57.2	6.3
	答えない	17	23.5	29.4	35.3	-	-	5.9	5.9	52.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	5.9	55.9	11.8	2.9	-	23.5	-	61.8	2.9
	30歳代	39	15.4	41.0	20.5	-	-	23.1	-	56.4	-
	40歳代	64	28.1	39.1	6.3	-	-	26.6	-	67.2	-
	50歳代	58	17.2	51.7	8.6	5.2	-	17.2	-	68.9	5.2
	60歳代	97	19.6	46.4	3.1	1.0	-	27.8	2.1	66.0	1.0
	70歳以上	128	22.7	43.0	6.3	0.8	-	19.5	7.8	65.7	0.8
	男性 20歳代以下	36	11.1	30.6	22.2	16.7	2.8	16.7	-	41.7	19.5
	30歳代	38	15.8	28.9	18.4	5.3	-	31.6	-	44.7	5.3
	40歳代	47	10.6	46.8	19.1	8.5	4.3	10.6	-	57.4	12.8
	50歳代	49	10.2	38.8	24.5	12.2	-	14.3	-	49.0	12.2
60歳代	81	11.1	53.1	16.0	1.2	-	16.0	2.5	64.2	1.2	
70歳以上	115	15.7	48.7	22.6	-	0.9	7.8	4.3	64.4	0.9	

【経年比較】

全体では、多くの分野と同様に前回調査と比べて「どちらともいえない」が多くなっている分「平等になっている」の回答割合が少なくなっています。また、「男性優遇」は大きく変わっていませんが、そのうちの「男性が優遇されている」は調査ごとに多くなっています。

性別でみると、前回調査に比べて「どちらともいえない」が増加しており、「男性優遇」は減少している一方で、そのうちの「男性が優遇されている」は調査ごとに多くなっています。

【⑨社会全体（経年比較）】



問2 次のようなことについてどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

①「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方

【全体】

「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方について、「少し抵抗を感じる」が48.0%で最も多く、次いで「非常に抵抗を感じる」が32.1%、「抵抗は感じない」が15.2%となっています。「少し抵抗を感じる」と「非常に抵抗を感じる」を合わせた“抵抗を感じる”は80.1%となっています。

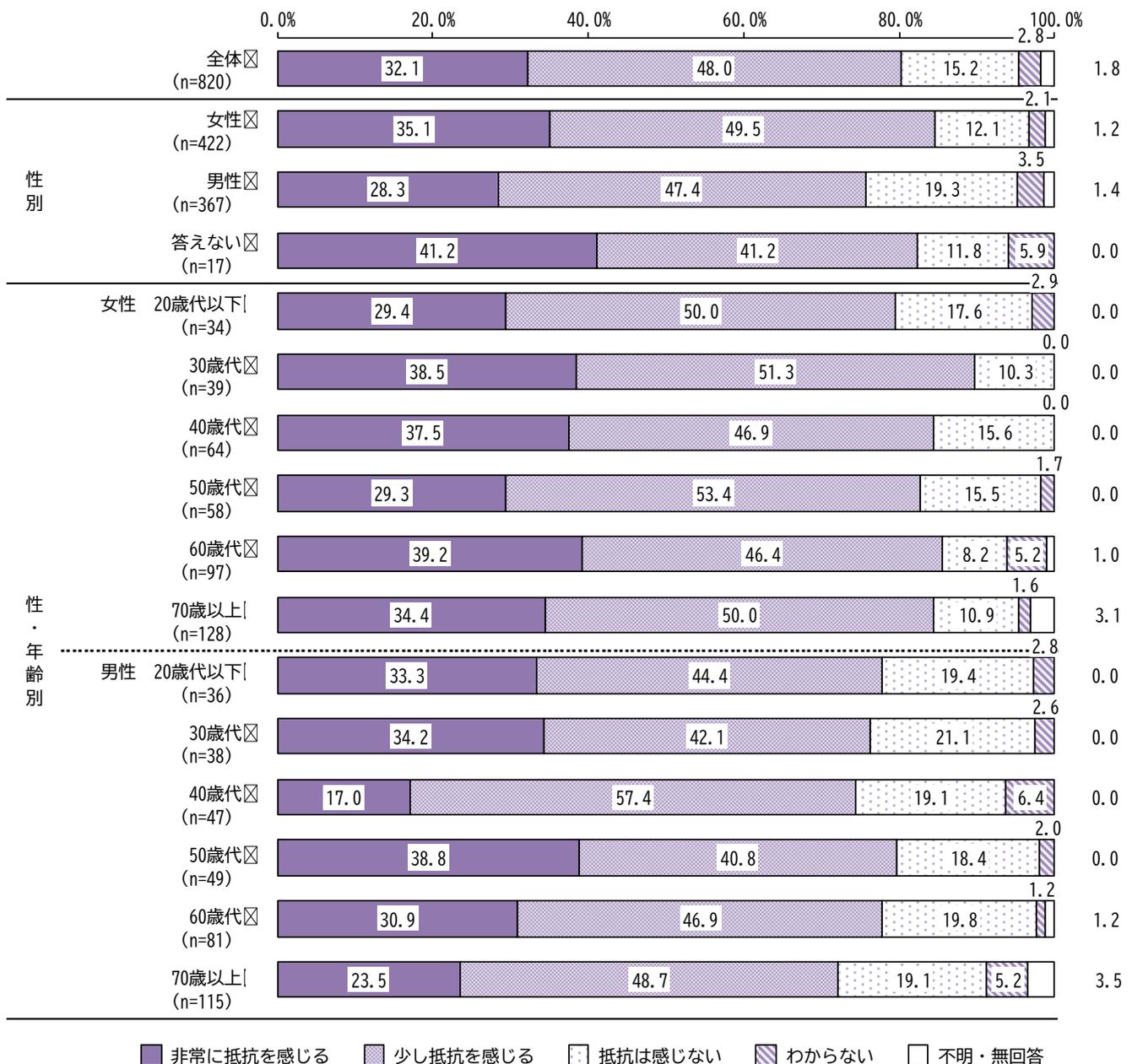
【性別】

“抵抗を感じる”は女性が84.6%、男性が75.7%で、女性の方が8.9ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の30歳代は“抵抗を感じる”が89.8%で約9割に上ります。男性30歳代の76.3%と比べて13.5ポイントの差がみられます。

①「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方

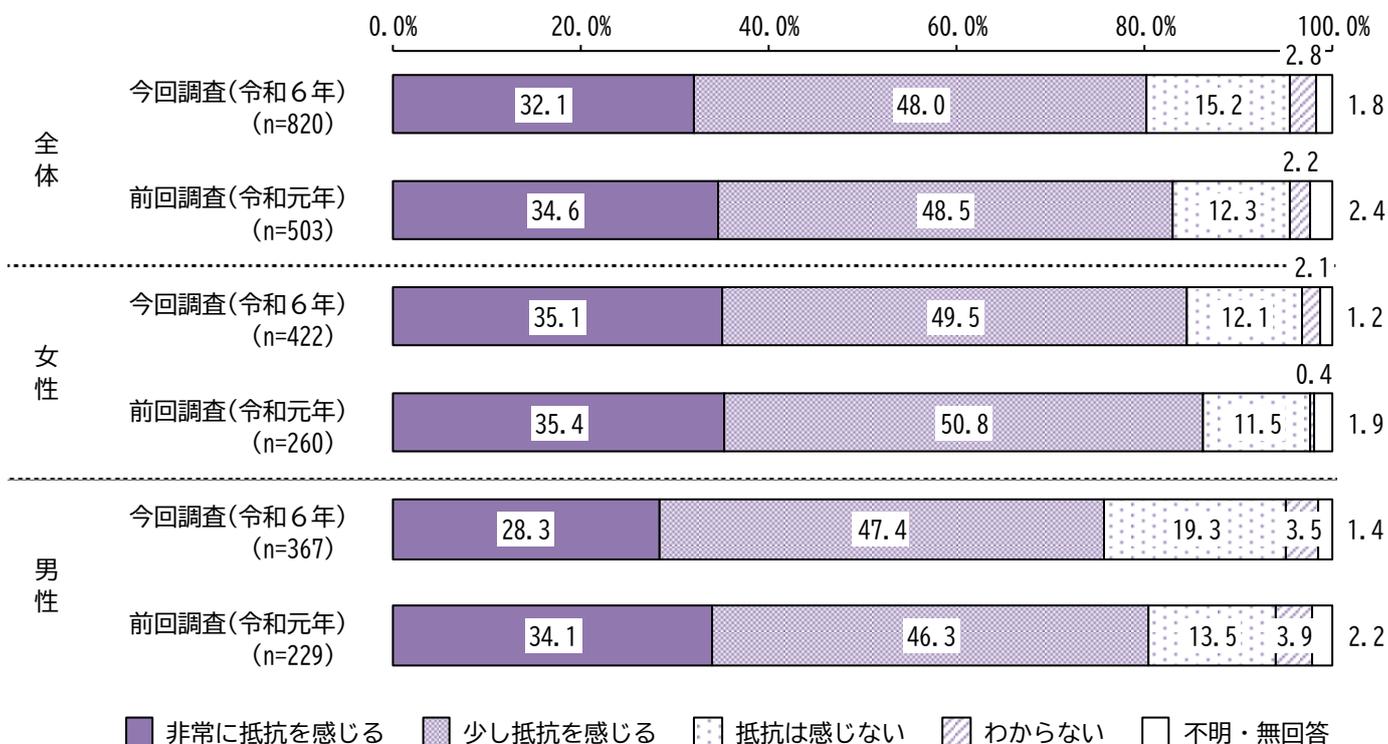


【経年比較】

全体では、前回調査と大きな変化はありません。

性別では、女性は前回調査とほぼ同じですが、男性は「抵抗は感じない」がやや増えて、「非常に抵抗を感じる」がやや少なくなっています。

【①「女（男）だから」「女（男）のくせに」といった言い方、考え方（経年比較）】



② 子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい

【全体】

「子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい」について、「少し抵抗を感じる」が36.1%で最も多く、次いで「抵抗は感じない」が29.0%、「非常に抵抗を感じる」が23.3%となっており、「抵抗を感じる」は59.4%となっています。

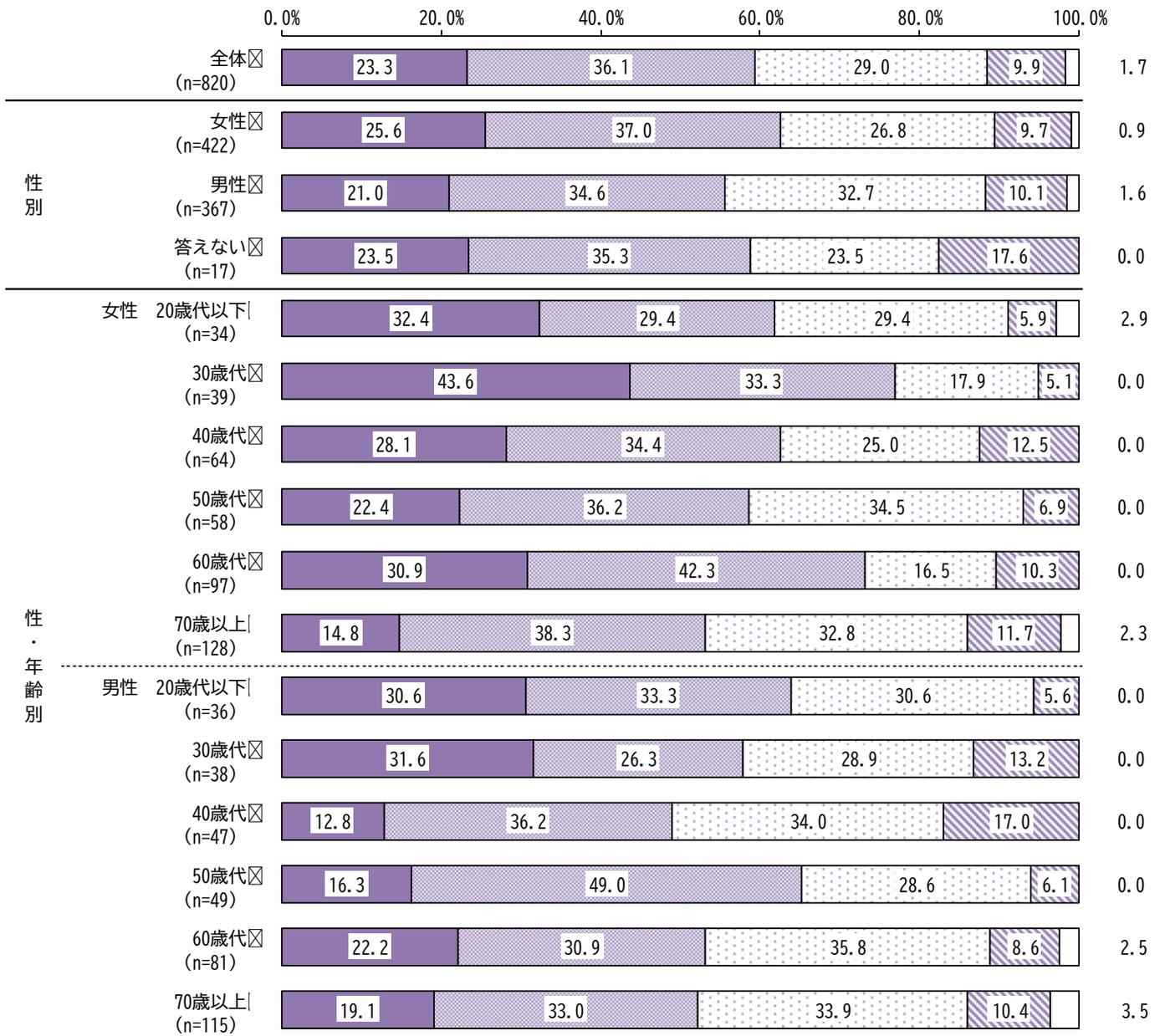
【性別】

“抵抗を感じる”は女性が62.6%、男性が55.6%で、女性の方が7.0ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の30歳代と60歳代では、“抵抗を感じる”が7割を超えて多くなっています。

【②子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい】



■ 非常に抵抗を感じる ■ 少し抵抗を感じる ■ 抵抗は感じない ■ わからない ■ 不明・無回答

③ 女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ

【全体】

「女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ」について、「非常に抵抗を感じる」が37.4%で最も多く、次いで「少し抵抗を感じる」が36.8%、「抵抗は感じない」が15.5%となっており、「抵抗を感じる」は74.2%となっています。

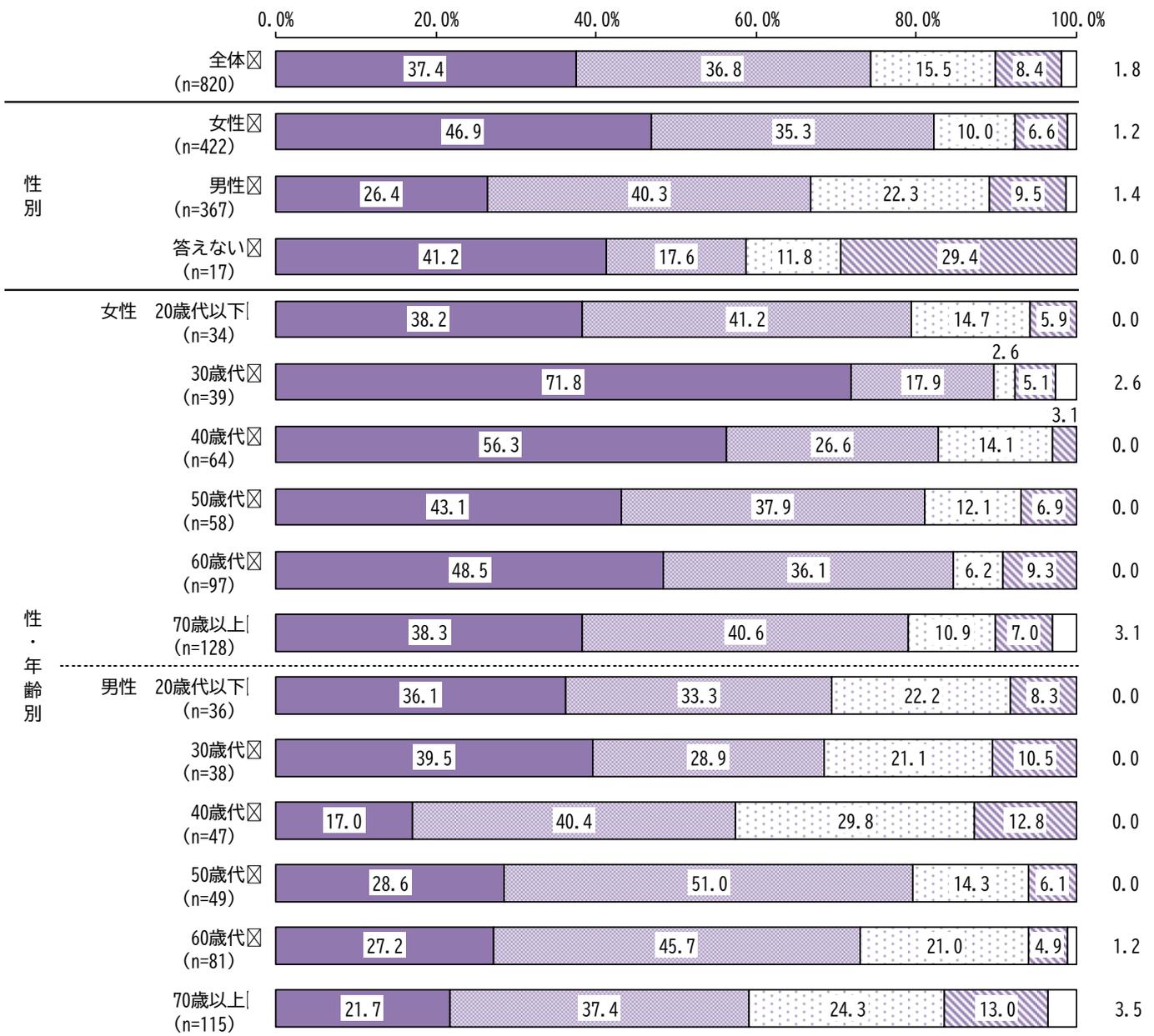
【性別】

“抵抗を感じる”は女性が82.2%、男性が66.7%で、女性の方が15.5ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性はいずれの年齢でも“抵抗を感じる”が約8～9割と多く、特に30歳代で89.7%と多くなっています。「抵抗は感じない」は男性の40歳代が29.8%と他の年齢に比べて多くなっています。

【③女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ】



■ 非常に抵抗を感じる ■ 少し抵抗を感じる ■ 抵抗は感じない ■ わからない □ 不明・無回答

④ 男性が育児休業、介護休業をとること

【全体】

「男性が育児休業、介護休業をとること」について、「抵抗は感じない」が71.6%で最も多く、次いで「少し抵抗を感じる」が17.0%、「わからない」が6.3%となっています。

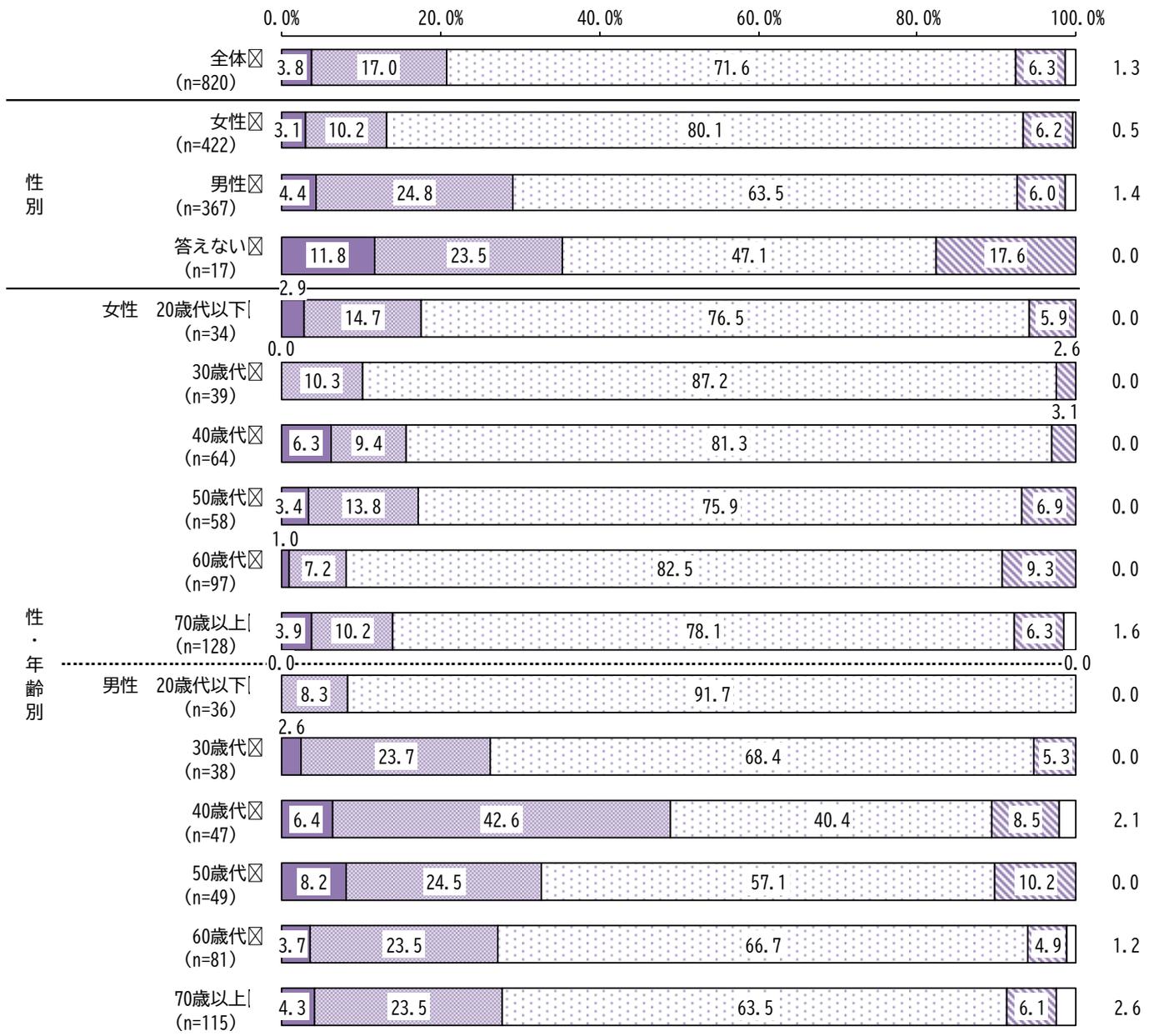
【性別】

「抵抗は感じない」は女性が80.1%、男性が63.5%で、女性の方が16.6ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、いずれの年齢でも「抵抗は感じない」が8割前後を占めています。男性では、20歳代以下は「抵抗は感じない」が91.7%を占めていますが、40歳代は“抵抗を感じる”が約5割です。

【④男性が育児休業、介護休業をとること】



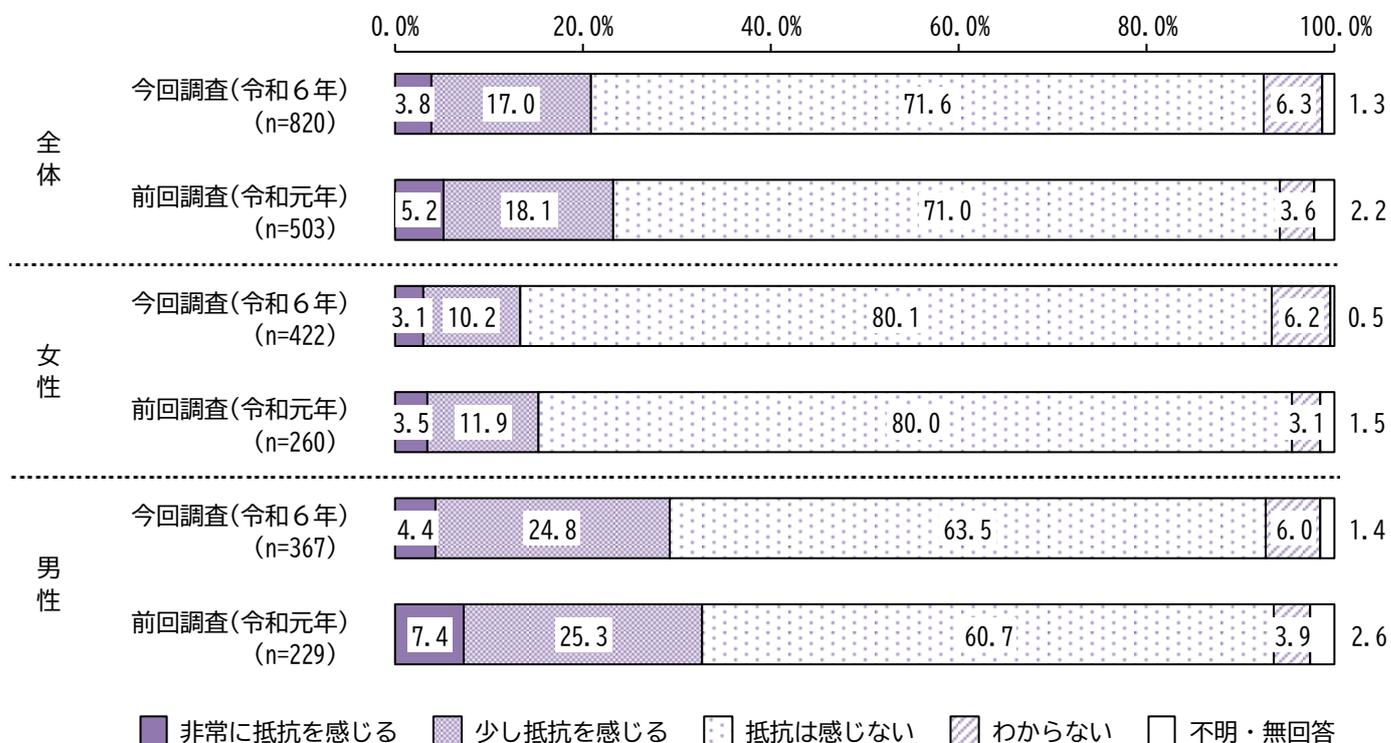
■ 非常に抵抗を感じる ■ 少し抵抗を感じる □ 抵抗は感じない ▨ わからない □ 不明・無回答

【経年比較】

全体では、前回調査と大きな変化はありません。

性別では、男性は「抵抗は感じない」がわずかに増えています。

【④男性が育児休業、介護休業をとること（経年比較）】



⑤ 女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること

【全体】

「女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること」について、「抵抗は感じない」が84.5%で最も多く、次いで「少し抵抗を感じる」が7.9%、「わからない」が5.0%となっています。

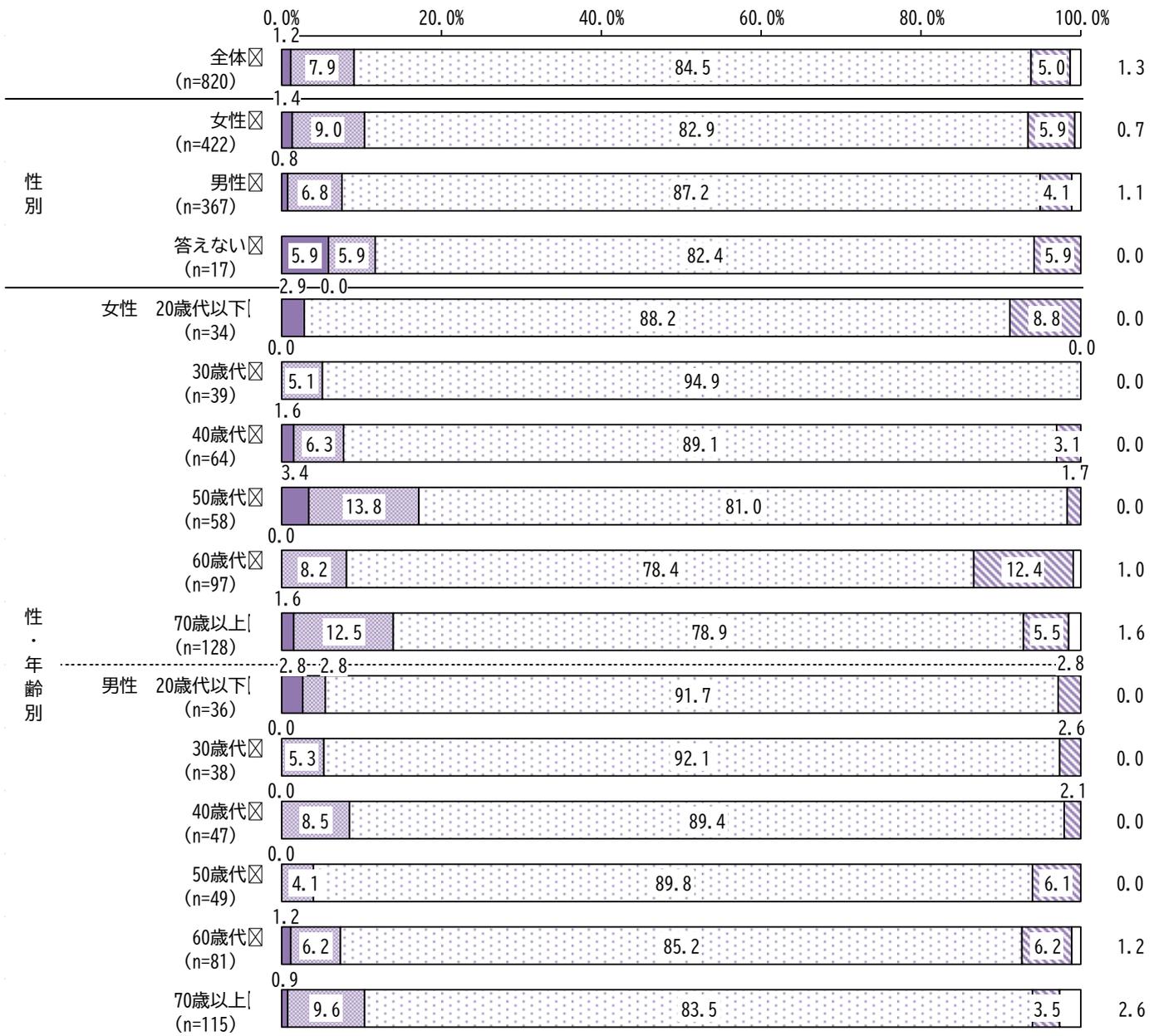
【性別】

「抵抗は感じない」は女性が82.9%、男性が87.2%で、男性の方がわずかに多くなっています。

【性・年齢別】

女性の40歳代以下、男性の50歳代以下では「抵抗は感じない」が約9割を占めていますが、女性の50歳代と70歳以上では「少し抵抗を感じる」が1割を超えています。

【⑤女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること】



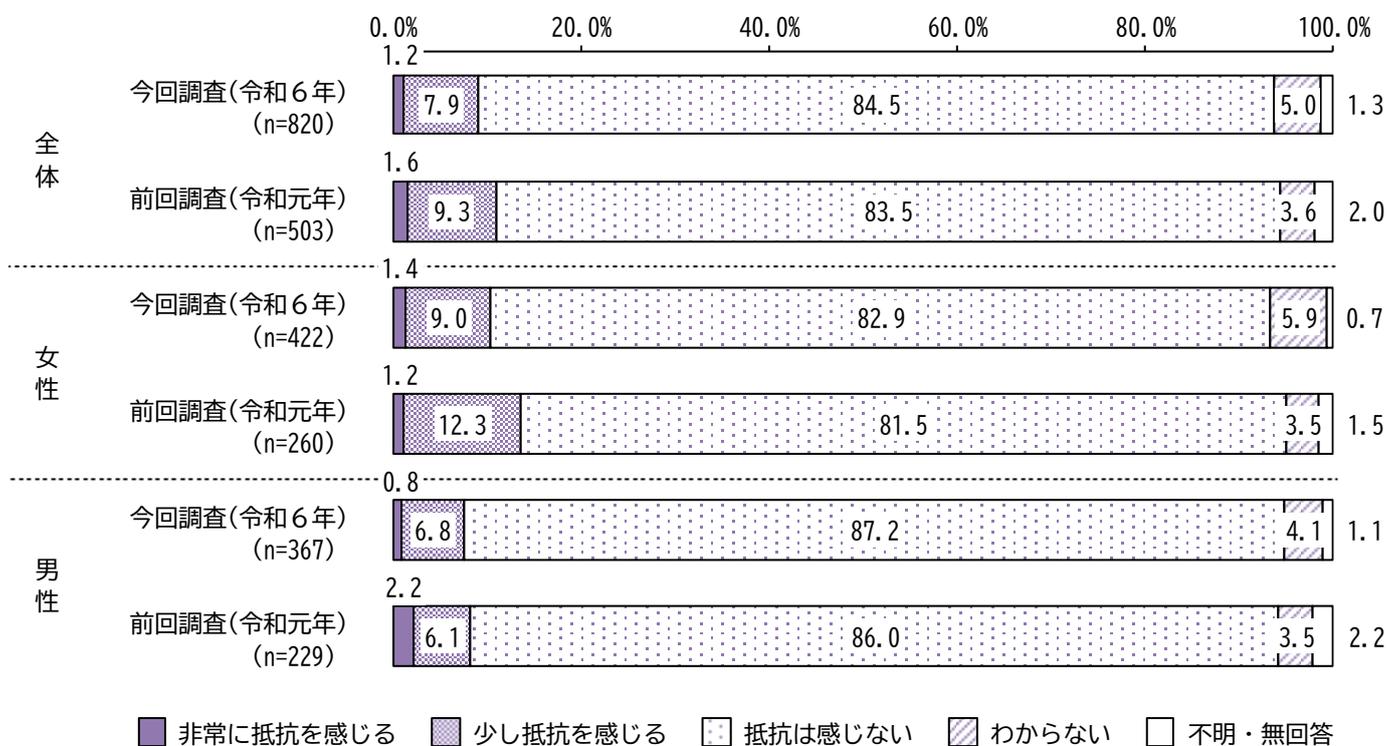
■ 非常に抵抗を感じる ■ 少し抵抗を感じる □ 抵抗は感じない ■ わからない □ 不明・無回答

【経年比較】

全体では、前回調査と大きな変化はありません。

性別では、女性は“抵抗を感じる”の減少が男性よりやや多くなっています。

【⑤女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること（経年比較）】



⑥ 夫婦別姓にすること

【全体】

「夫婦別姓にすること」について、「抵抗は感じない」が44.8%で最も多く、次いで「少し抵抗を感じる」が24.5%、「わからない」が15.4%となっています。

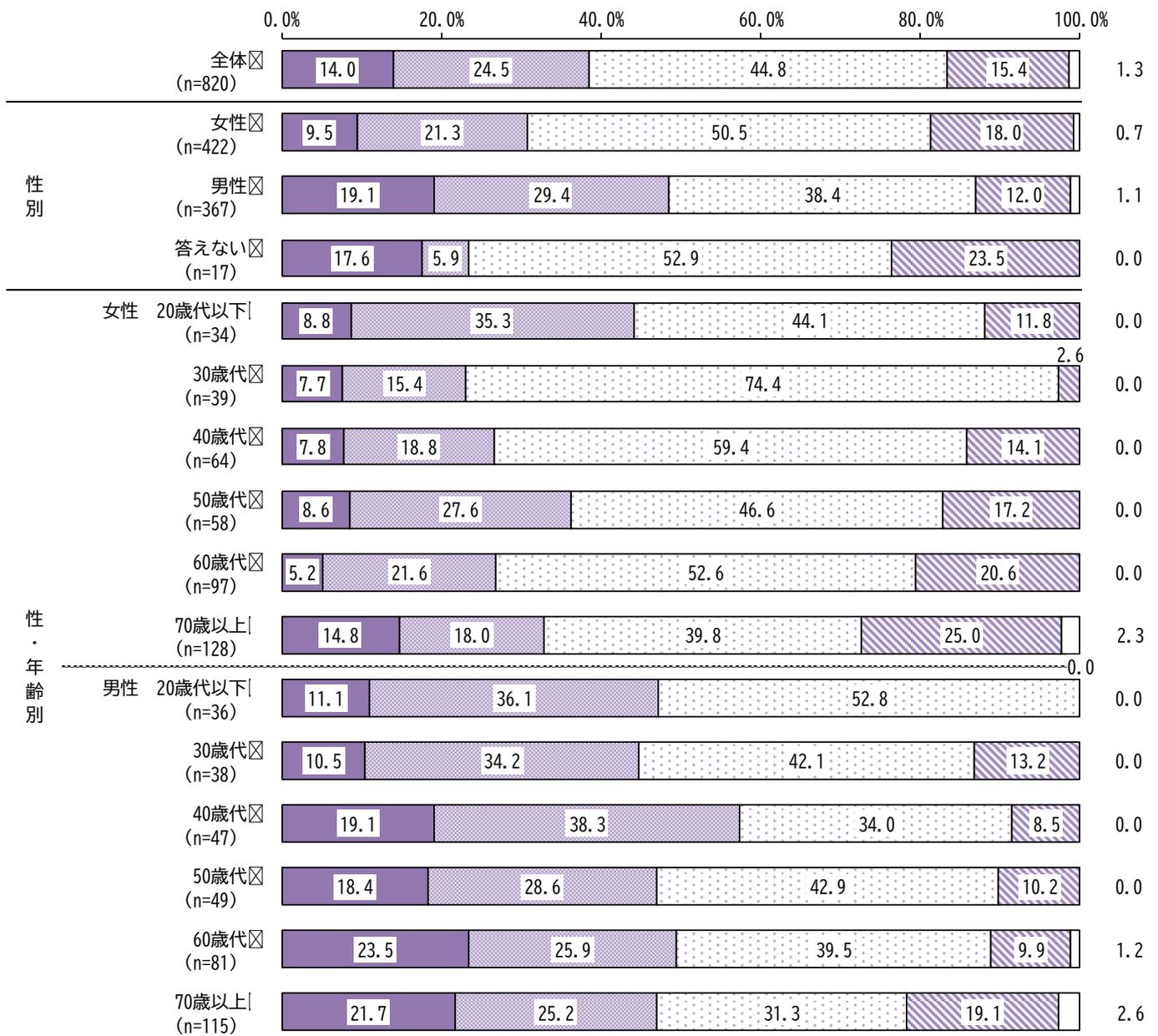
【性別】

“抵抗を感じる”は女性が30.8%、男性が48.5%で、女性の方が17.7ポイント少なくなっています。

【性・年齢別】

女性では、「抵抗は感じない」が30歳代で74.4%、40歳代で59.4%を占めています。男性の40歳代では“抵抗を感じる”が57.4%で女性の40歳代（26.6%）と比べて30.8ポイント高くなっています。また、男性の40歳代以上の各年齢では「非常に抵抗を感じる」が約2割となっています。

【⑥夫婦別姓にすること】



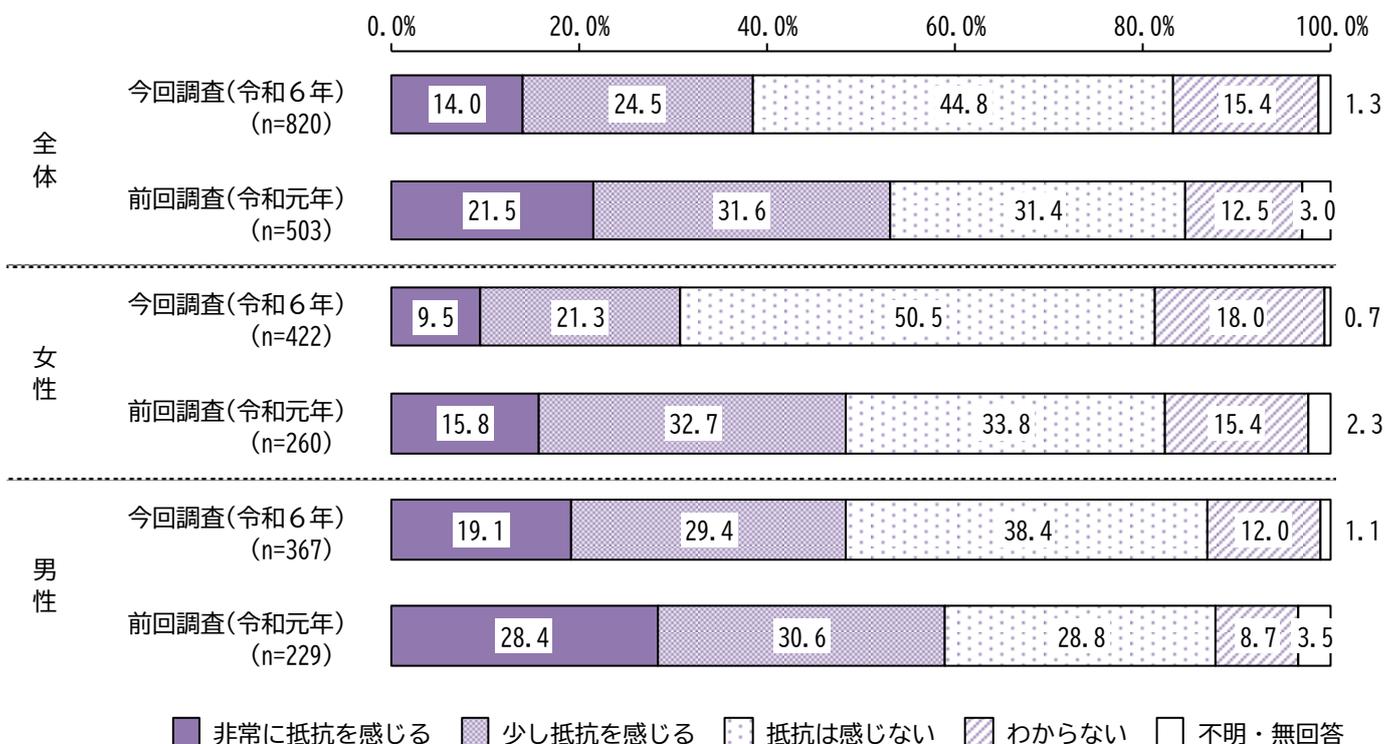
■ 非常に抵抗を感じる ■ 少し抵抗を感じる □ 抵抗は感じない ■ わからない □ 不明・無回答

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「抵抗は感じない」が13.4ポイント多くなっています。

性別では、男女とも「抵抗は感じない」が大きく増えていますが、特に女性は16.7ポイント増えており、男性の9.6ポイントに比べて増加幅が大きくなっています。

【⑥夫婦別姓にすること（経年比較）】



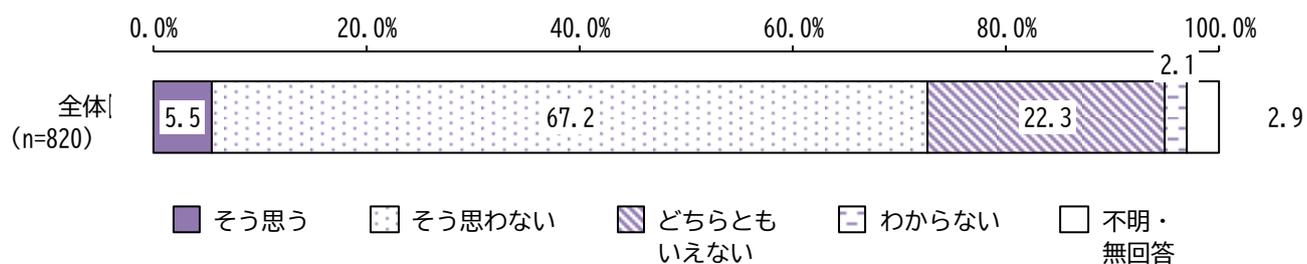
3. 性別役割分担について

問3 「男は仕事 女は家庭」というように性別によって役割を固定する考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇は1つだけ)

【全体】

性別役割分担について、「そう思わない」が 67.2%を占め、「そう思う」は 5.5%となっています。

【性別役割分担について】



【性別】

「そう思わない」は女性が71.1%、男性が63.8%で女性の方が7.3ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、30歳代と50歳代で「そう思わない」が8割以上と多くなっています。

男性では、20歳代以下と30歳代では「そう思わない」が7割を超えていますが、40歳代では「そう思わない」が53.2%と比較的少なく、「そう思う」が12.8%、「どちらともいえない」が34.0%となっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の場合、「そう思わない」が女性で83.9%、男性で75.0%となっています。

夫正規雇用、妻パート等の場合、女性では「そう思わない」が78.8%を占めていますが、男性では、「そう思わない」が57.6%、「どちらともいえない」が33.3%となっています。

夫婦とも働いていない場合の男性では「そう思う」が17.6%と他の就業状況と比べて多くなっています。

単位：％

		母数 (n)	性別役割分担について				
			そう 思 う	そ う 思 わ な い	い ど ち ら も い え な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体		820	5.5	67.2	22.3	2.1	2.9
性別	女性	422	4.3	71.1	20.4	2.1	2.1
	男性	367	7.4	63.8	24.3	1.6	3.0
	答えない	17	-	52.9	23.5	11.8	11.8
性・ 年齢別	女性 20歳代以下	34	5.9	64.7	20.6	5.9	2.9
	30歳代	39	2.6	84.6	12.8	-	-
	40歳代	64	4.7	65.6	28.1	-	1.6
	50歳代	58	-	81.0	19.0	-	-
	60歳代	97	3.1	74.2	17.5	3.1	2.1
	70歳以上	128	7.0	64.8	21.1	3.1	3.9
	男性 20歳代以下	36	2.8	77.8	13.9	2.8	2.8
	30歳代	38	-	71.1	18.4	2.6	7.9
	40歳代	47	12.8	53.2	34.0	-	-
	50歳代	49	6.1	65.3	26.5	2.0	-
60歳代	81	3.7	64.2	25.9	1.2	4.9	
70歳以上	115	12.2	60.9	22.6	1.7	2.6	
性・ 就業 状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	1.8	83.9	12.5	-	1.8
	夫正規雇用、妻パート等	52	1.9	78.8	17.3	1.9	-
	その他の就労形態	109	8.3	62.4	24.8	1.8	2.8
	夫婦とも働いていない	80	-	75.0	17.5	2.5	5.0
	男性 夫婦とも正規雇用	44	6.8	75.0	15.9	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	4.5	57.6	33.3	1.5	3.0
	その他の就労形態	104	5.8	66.3	25.0	1.0	1.9
夫婦とも働いていない	51	17.6	58.8	17.6	2.0	3.9	

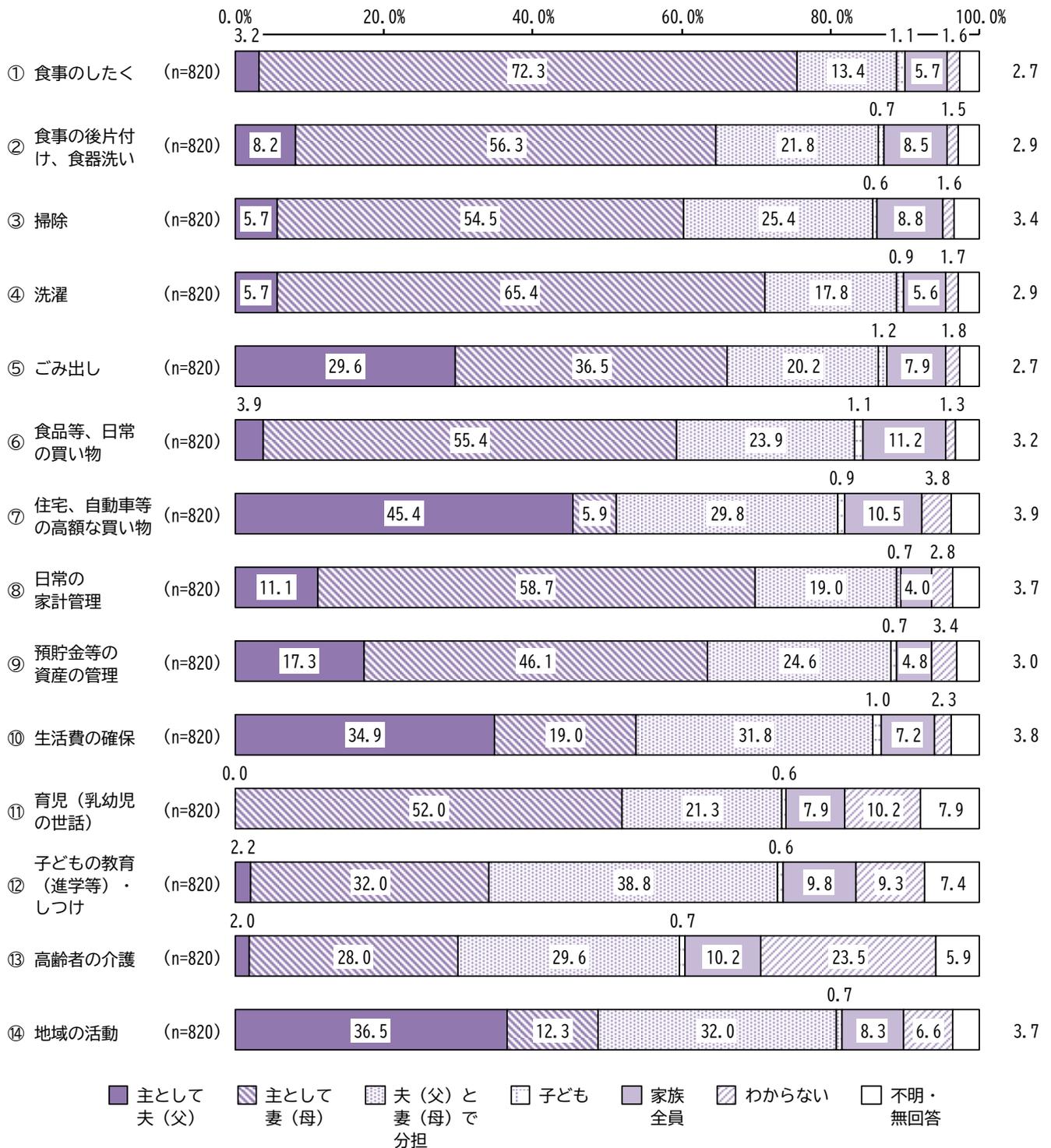
問4 あなたの家庭では、その役割を主にだれがしているか選んでください(配偶者や子ども、介護者がいない場合も、仮にいたと想定して選んでください)。(〇はそれぞれ1つずつ)

【全体】

家庭における役割で「夫(父)と妻(母)で分担」の回答は2割台の項目が多く、最も多い回答割合の項目は⑫子どもの教育(進学等)・しつけの38.8%となっています。

①食事のしたくから⑥食品等、日常の買い物までの家事にかかわる項目については、⑤ごみ出しを除いていずれの項目も「主として妻(母)」が5割を超えており、特に①食事のしたくは72.3%で特に多くなっています。ほかにも⑧日常の家計管理と⑪育児(乳幼児の世話)でも「主として妻(母)」が5割を超えています。

「主として夫(父)」の割合が多い項目としては⑦住宅、自動車等の高額な買い物、⑩生活費の確保、⑭地域の活動があげられます。

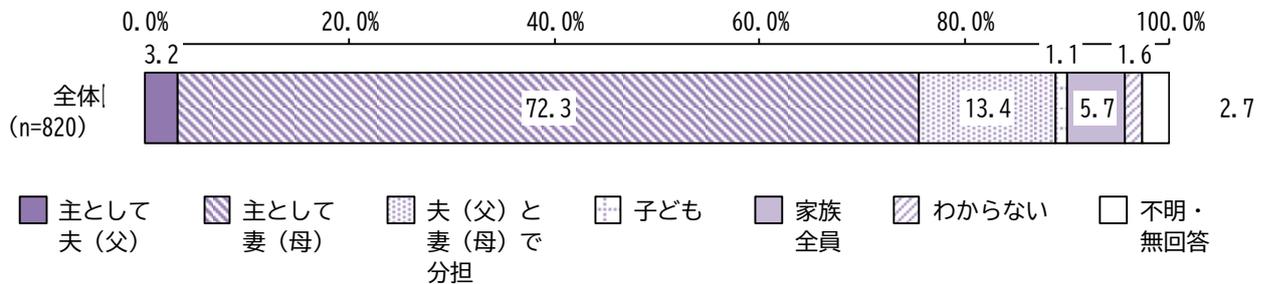


① 食事のしたく

【全体】

食事のしたくについて、「主として妻（母）」が72.3%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が13.4%、「主として夫（父）」が5.7%となっています。

【①食事のしたく】



【性別】

「主として妻（母）」は女性が78.4%、男性が67.3%で女性の方が11.1ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の40歳代、50歳代、70歳以上では「主として妻（母）」が8割以上と多くなっています。男性の30歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」が31.6%と他の年齢よりも多くなっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の男性では、「主として妻（母）」が52.3%と他の就業状況と比べて少なく、「夫（父）と妻（母）で分担」が25.0%、「主として夫（父）」が13.6%となっています。

単位：%

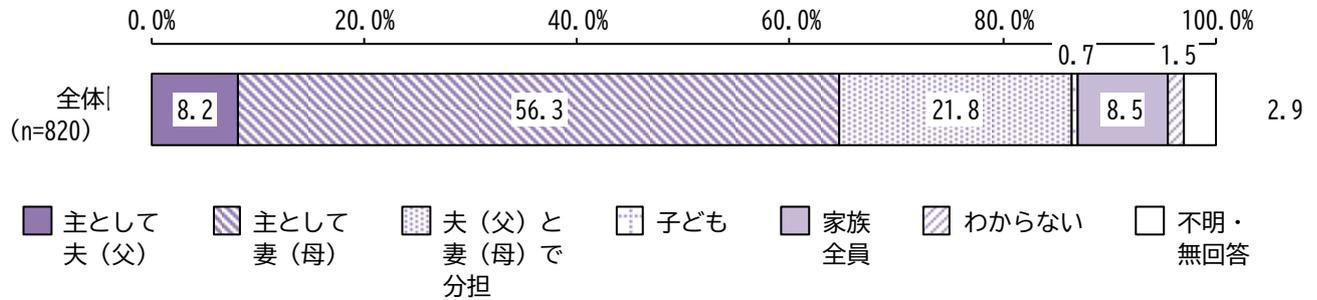
	母数 (n)	主な担当者（食事のしたく）							
		主として夫（父）	主として妻（母）	夫（父）と妻（母）で分担	子ども	家族全員	わからない	不明・無回答	
全体	820	3.2	72.3	13.4	1.1	5.7	1.6	2.7	
性別	女性	422	1.7	78.4	8.8	1.2	6.9	1.2	1.9
	男性	367	4.1	67.3	18.3	0.8	4.4	1.9	3.3
	答えない	17	5.9	58.8	17.6	-	5.9	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	2.9	70.6	11.8	2.9	8.8	2.9	-
	30歳代	39	5.1	71.8	15.4	-	7.7	-	-
	40歳代	64	1.6	81.3	9.4	1.6	3.1	3.1	-
	50歳代	58	3.4	84.5	8.6	-	1.7	1.7	-
	60歳代	97	1.0	74.2	12.4	-	10.3	1.0	1.0
	70歳以上	128	-	81.3	3.1	2.3	7.8	-	5.5
	男性 20歳代以下	36	5.6	63.9	16.7	-	5.6	8.3	-
	30歳代	38	2.6	47.4	31.6	-	10.5	2.6	5.3
	40歳代	47	8.5	66.0	17.0	2.1	6.4	-	-
	50歳代	49	2.0	71.4	18.4	2.0	4.1	2.0	-
60歳代	81	3.7	69.1	17.3	1.2	1.2	2.5	4.9	
70歳以上	115	3.5	72.2	15.7	-	3.5	-	5.2	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	7.1	75.0	14.3	-	3.6	-	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	3.8	80.8	13.5	-	1.9	-	-
	その他の就労形態	109	-	82.6	9.2	-	5.5	-	2.8
	夫婦とも働いていない	80	1.3	85.0	5.0	1.3	3.8	1.3	2.5
	男性 夫婦とも正規雇用	44	13.6	52.3	25.0	-	6.8	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	1.5	78.8	15.2	-	3.0	-	1.5
	その他の就労形態	104	3.8	78.8	17.3	-	-	-	-
	夫婦とも働いていない	51	2.0	84.3	5.9	-	2.0	2.0	3.9

② 食事の後片付け、食器洗い

【全体】

食事の後片付け、食器洗いについて、「主として妻（母）」が56.3%で最も多く、次いで「夫（父）」と妻（母）で分担」が21.8%、「家族全員」が8.5%となっています。

【②食事の後片付け、食器洗い】



【性別】

「主として妻（母）」は女性が64.5%、男性が48.8%で女性の方が15.7ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の40歳以上の各年齢では「主として妻（母）」が6割を超えています。

男性の30歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」が36.8%で最も多く、「主として妻（母）」は28.9%にとどまっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の場合、女性では「主として妻（母）」（64.3%）、男性では「夫（父）と妻（母）で分担」（38.6%）が最も多くなっています。

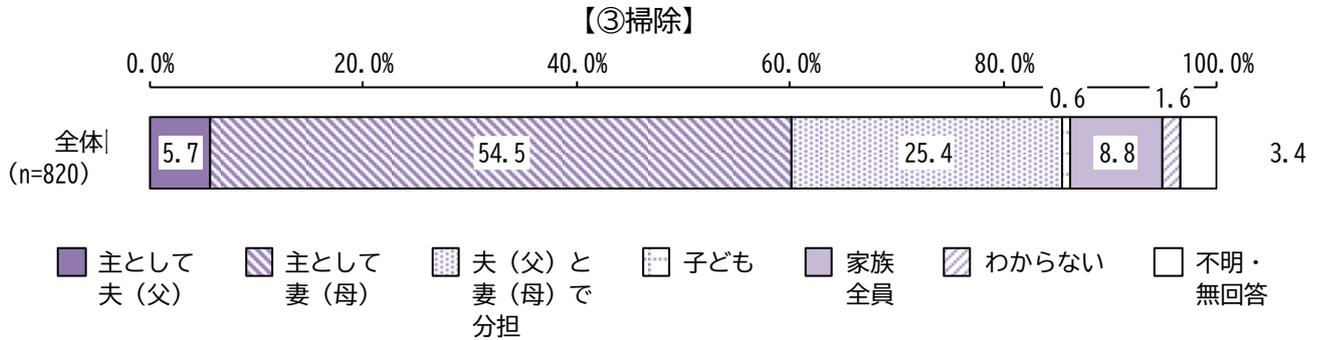
単位：%

	母数 (n)	主な担当者（食器の後片付け、食器洗い）						
		主として 夫（父） として	主として 妻（母） として	夫（父）と 妻（母） でと	子 ども	家 族 全 員	わ か ら な い	無 回 答 ・
全体	820	8.2	56.3	21.8	0.7	8.5	1.5	2.9
性別	女性	5.7	64.5	15.9	0.9	9.7	1.2	2.1
	男性	10.4	48.8	27.8	0.5	7.4	1.6	3.5
	答えない	17	17.6	41.2	23.5	5.9	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	11.8	50.0	17.6	17.6	2.9	-
	30歳代	39	5.1	48.7	28.2	15.4	-	-
	40歳代	64	15.6	65.6	7.8	6.3	1.6	-
	50歳代	58	6.9	67.2	19.0	3.4	1.7	-
	60歳代	97	3.1	66.0	18.6	-	9.3	1.0
	70歳以上	128	0.8	70.3	11.7	-	10.9	6.3
	男性 20歳代以下	36	13.9	47.2	16.7	-	13.9	8.3
	30歳代	38	15.8	28.9	36.8	-	13.2	5.3
	40歳代	47	10.6	44.7	29.8	2.1	10.6	2.1
	50歳代	49	6.1	49.0	36.7	2.0	4.1	2.0
60歳代	81	11.1	53.1	24.7	-	3.7	2.5	
70歳以上	115	8.7	54.8	25.2	-	6.1	5.2	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	12.5	64.3	19.6	-	3.6	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	13.5	63.5	17.3	-	5.8	-
	その他の就労形態	109	1.8	66.1	22.0	-	8.3	1.8
	夫婦とも働いていない	80	3.8	71.3	17.5	-	3.8	1.3
	男性 夫婦とも正規雇用	44	15.9	36.4	38.6	-	6.8	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	12.1	56.1	25.8	-	4.5	1.5
	その他の就労形態	104	13.5	59.6	23.1	-	2.9	1.0
	夫婦とも働いていない	51	7.8	56.9	29.4	-	2.0	2.0

③ 掃除

【全体】

掃除について、「主として妻（母）」が54.5%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が25.4%、「家族全員」が8.8%となっています。



【性別】

「主として妻（母）」は女性が62.6%、男性が46.9%で女性の方が15.7ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、20歳代以下と50歳代以上の各年齢で「主として妻（母）」が6割以上となっています。

男性では、20歳代以下と30歳代では「主として妻（母）」が約3割と他の年齢より低く、20歳代以下では「家族全員」が22.2%、30歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」が39.5%となっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の男性では「夫（父）と妻（母）で分担」が47.7%で最も多くなっています。その他の就労形態の女性では「主として妻（母）」が73.4%と特に多くなっています。

単位：%

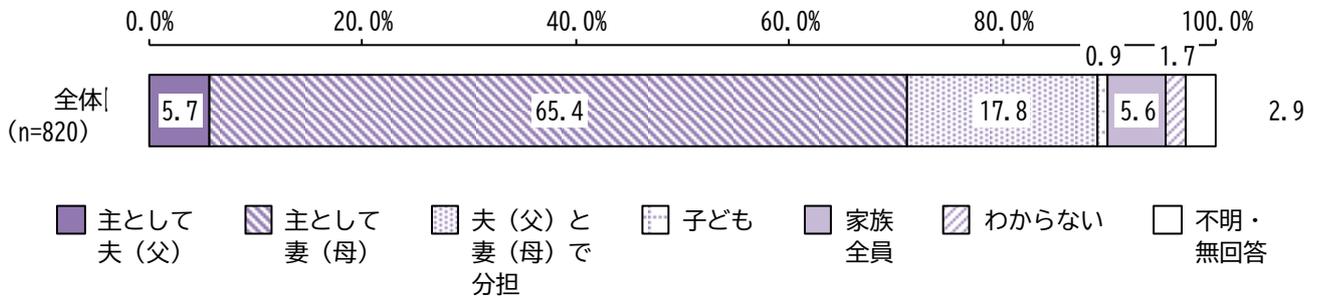
	母数 (n)	主な担当者（掃除）						
		夫主として	妻主として	分妻夫	子	家族	わ	無
		(父)として	(母)として	(母)と(父)で	ども	全員	からない	不明・無回答
全体	820	5.7	54.5	25.4	0.6	8.8	1.6	3.4
性別	女性	3.1	62.6	21.3	0.7	8.5	1.2	2.6
	男性	7.9	46.9	30.0	0.3	9.0	1.9	4.1
	答えない	11.8	35.3	29.4	-	11.8	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	8.8	61.8	14.7	2.9	5.9	5.9	-
	30歳代	5.1	48.7	33.3	-	12.8	-	-
	40歳代	6.3	56.3	21.9	1.6	7.8	1.6	4.7
	50歳代	-	62.1	32.8	-	3.4	1.7	-
	60歳代	2.1	67.0	18.6	-	8.2	1.0	3.1
	70歳以上	1.6	67.2	15.6	0.8	10.9	-	3.9
	男性 20歳代以下	11.1	30.6	27.8	-	22.2	8.3	-
	30歳代	13.2	28.9	39.5	-	13.2	-	5.3
	40歳代	10.6	51.1	29.8	-	8.5	-	-
	50歳代	4.1	57.1	28.6	-	8.2	2.0	-
60歳代	7.4	54.3	27.2	-	2.5	3.7	4.9	
70歳以上	5.2	47.0	30.4	0.9	8.7	-	7.8	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	5.4	57.1	28.6	-	5.4	-	3.6
	夫正規雇用、妻パート等	1.9	57.7	36.5	-	3.8	-	-
	その他の就労形態	2.8	73.4	15.6	-	5.5	-	2.8
	夫婦とも働いていない	2.5	58.8	27.5	1.3	7.5	1.3	1.3
	男性 夫婦とも正規雇用	9.1	34.1	47.7	-	6.8	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	10.6	63.6	18.2	-	6.1	-	1.5
	その他の就労形態	8.7	51.9	33.7	1.0	2.9	1.0	1.0
夫婦とも働いていない	3.9	58.8	25.5	-	5.9	2.0	3.9	

④ 洗濯

【全体】

洗濯について、「主として妻（母）」が65.4%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が17.8%、「主として夫（父）」が5.7%となっています。

【④洗濯】



【性別】

「主として妻（母）」は女性が73.5%、男性が57.5%で女性の方が16.0ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、50歳以上の各年齢で「主として妻（母）」が7割以上と多くなっています。

男性の30歳代では、「夫（父）と妻（母）で分担」が44.7%で最も多く、「主として妻（母）」は26.3%と他の年齢と比べて少なくなっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の場合、「夫（父）と妻（母）で分担」が女性で26.8%、男性で36.4%と他の就業状況に比べて多く、男性では最も割合が多くなっています。

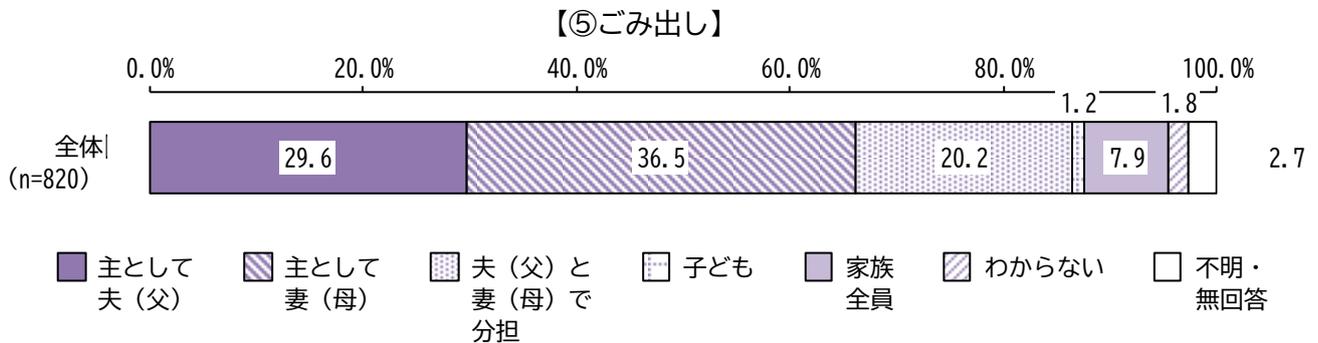
単位：%

	母数 (n)	主な担当者（洗濯）							
		主として夫（父）	主として妻（母）	夫（父）と妻（母）で分担	子ども	家族全員	わからない	不明・無回答	
全体	820	5.7	65.4	17.8	0.9	5.6	1.7	2.9	
性別	女性	4.3	73.5	12.3	1.4	5.2	0.9	2.4	
	男性	6.5	57.5	24.0	0.3	6.3	2.2	3.3	
	答えない	17	11.8	58.8	11.8	-	5.9	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	67.6	14.7	2.9	11.8	-	2.9
	30歳代	39	5.1	61.5	23.1	-	10.3	-	-
	40歳代	64	14.1	60.9	17.2	3.1	3.1	1.6	-
	50歳代	58	-	79.3	13.8	1.7	1.7	3.4	-
	60歳代	97	6.2	74.2	13.4	1.0	3.1	1.0	1.0
	70歳以上	128	0.8	81.3	4.7	0.8	6.3	-	6.3
	男性 20歳代以下	36	5.6	47.2	27.8	-	11.1	8.3	-
	30歳代	38	13.2	26.3	44.7	-	7.9	2.6	5.3
	40歳代	47	4.3	61.7	23.4	-	8.5	2.1	-
	50歳代	49	4.1	61.2	28.6	2.0	2.0	2.0	-
60歳代	81	9.9	61.7	17.3	-	3.7	2.5	4.9	
70歳以上	115	4.3	64.3	19.1	-	7.0	-	5.2	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	8.9	60.7	26.8	-	3.6	-	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	7.7	65.4	21.2	-	3.8	1.9	-
	その他の就労形態	109	3.7	83.5	7.3	-	3.7	-	1.8
	夫婦とも働いていない	80	5.0	77.5	10.0	1.3	2.5	1.3	2.5
	男性 夫婦とも正規雇用	44	20.5	34.1	36.4	-	6.8	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	6.1	74.2	15.2	-	3.0	-	1.5
	その他の就労形態	104	5.8	69.2	19.2	-	5.8	-	-
夫婦とも働いていない	51	3.9	76.5	15.7	-	-	2.0	2.0	

⑤ ごみ出し

【全体】

ごみ出しについて、「主として妻（母）」が 36.5%で最も多く、次いで「主として夫（父）」が 29.6%、「夫（父）と妻（母）で分担」が 20.2%となっています。



【性別】

「主として妻（母）」は女性が 44.5%、男性が 28.9%で女性の方が 15.6 ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、20 歳代以下と 40 歳代では「主として夫（父）」、30 歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」、50 歳代以上の各年齢では「主として妻（母）」の割合が最も多くなっています。

男性では、20 歳代以下と 30 歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」、40 歳代と 70 歳以上では「主として夫（父）」、50 歳代と 60 歳代では「主として妻（母）」の割合が最も多くなっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の場合、女性では「主として夫（父）」が 39.3%で最も多く、次いで「主として妻（母）」が 33.9%、男性では「夫（父）と妻（母）で分担」が 34.1%で最も多く、次いで「主として夫（父）」が 29.5%となっています。

単位：%

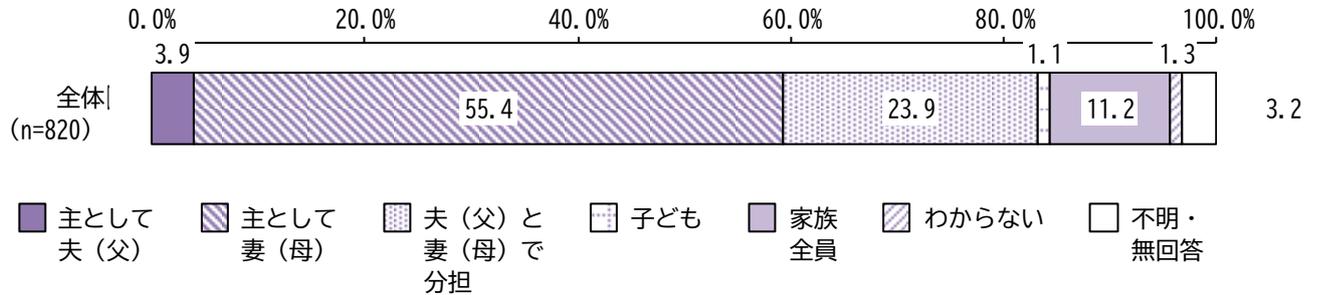
	母数 (n)	主な担当者（ごみ出し）							
		夫主として	妻主として	分妻夫分担（母父）でと	子ども	家族全員	わからない	無不明回答・	
全体	820	29.6	36.5	20.2	1.2	7.9	1.8	2.7	
性別	女性	28.9	44.5	14.7	1.4	6.9	1.7	1.9	
	男性	29.2	28.9	26.7	0.8	9.3	1.9	3.3	
	答えない	17	35.3	23.5	-	5.9	5.9	5.9	
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	41.2	35.3	5.9	2.9	8.8	5.9	-
	30歳代	39	30.8	20.5	33.3	2.6	12.8	-	-
	40歳代	64	37.5	34.4	12.5	4.7	7.8	3.1	-
	50歳代	58	29.3	55.2	8.6	1.7	1.7	1.7	1.7
	60歳代	97	26.8	49.5	14.4	-	7.2	1.0	1.0
	70歳以上	128	21.9	50.8	15.6	-	6.3	0.8	4.7
	男性 20歳代以下	36	25.0	25.0	27.8	-	13.9	8.3	-
	30歳代	38	26.3	15.8	36.8	2.6	13.2	-	5.3
	40歳代	47	29.8	27.7	21.3	4.3	14.9	2.1	-
	50歳代	49	26.5	40.8	22.4	-	8.2	2.0	-
60歳代	81	29.6	33.3	25.9	-	3.7	2.5	4.9	
70歳以上	115	31.3	27.0	27.8	-	8.7	-	5.2	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	39.3	33.9	19.6	1.8	3.6	1.8	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	32.7	40.4	21.2	1.9	3.8	-	-
	その他の就労形態	109	32.1	49.5	11.9	-	4.6	-	1.8
	夫婦とも働いていない	80	35.0	40.0	18.8	-	3.8	-	2.5
	男性 夫婦とも正規雇用	44	29.5	22.7	34.1	-	11.4	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	30.3	45.5	15.2	1.5	6.1	-	1.5
	その他の就労形態	104	35.6	36.5	25.0	-	2.9	-	-
	夫婦とも働いていない	51	33.3	33.3	25.5	-	3.9	2.0	2.0

⑥ 食品等、日常の買い物

【全体】

食品等、日常の買い物について、「主として妻（母）」が55.4%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が23.9%、「家族全員」が11.2%となっています。

【⑥食品等、日常の買い物】



【性別】

「主として妻（母）」は女性が63.5%、男性が48.0%で女性の方が15.5ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、40歳代、50歳代、60歳代で「主として妻（母）」が約7割と特に多くなっています。男性では、30歳代と50歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」が3割を超えています。

【性・就業状況別】

夫正規雇用、妻パート等の女性、その他の就労形態の女性では「主として妻（母）」が約7割と特に多くなっています。

夫婦とも正規雇用の男性では、「夫（父）と妻（母）で分担」が40.9%と他の就業状況に比べて多くなっています。

単位：%

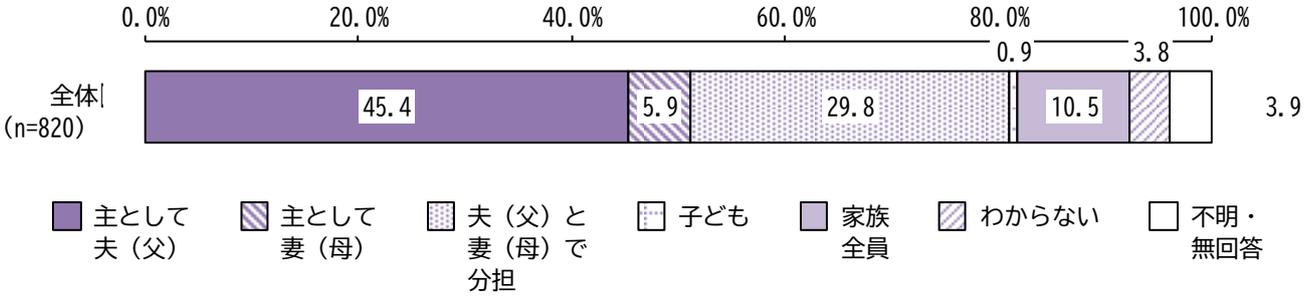
	母数 (n)	主な担当者（食品等、日常の買い物）							
		主として夫（父）	主として妻（母）	夫（父）と妻（母）で分担	子ども	家族全員	わからない	不明・無回答	
全体	820	3.9	55.4	23.9	1.1	11.2	1.3	3.2	
性別	女性	422	1.9	63.5	18.2	1.7	11.4	0.9	2.4
	男性	367	5.2	48.0	30.2	0.5	10.9	1.6	3.5
	答えない	17	5.9	41.2	23.5	-	17.6	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	58.8	29.4	-	8.8	2.9	-
	30歳代	39	-	56.4	28.2	-	15.4	-	-
	40歳代	64	4.7	68.8	17.2	1.6	6.3	1.6	-
	50歳代	58	-	69.0	20.7	-	8.6	1.7	-
	60歳代	97	2.1	68.0	15.5	1.0	11.3	1.0	1.0
	70歳以上	128	2.3	57.8	14.1	3.9	14.8	-	7.0
	男性 20歳代以下	36	2.8	50.0	25.0	-	13.9	8.3	-
	30歳代	38	2.6	42.1	34.2	-	15.8	-	5.3
	40歳代	47	4.3	53.2	29.8	2.1	10.6	-	-
	50歳代	49	10.2	42.9	34.7	2.0	8.2	2.0	-
60歳代	81	3.7	54.3	28.4	-	6.2	2.5	4.9	
70歳以上	115	6.1	45.2	29.6	-	13.0	-	6.1	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	3.6	64.3	28.6	-	3.6	-	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	-	67.3	23.1	-	9.6	-	-
	その他の就労形態	109	1.8	67.9	18.3	-	9.2	-	2.8
	夫婦とも働いていない	80	5.0	60.0	11.3	2.5	16.3	-	5.0
	男性 夫婦とも正規雇用	44	-	52.3	40.9	-	4.5	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	4.5	62.1	24.2	-	7.6	-	1.5
	その他の就労形態	104	3.8	53.8	30.8	-	10.6	-	1.0
夫婦とも働いていない	51	7.8	49.0	29.4	-	9.8	2.0	2.0	

⑦ 住宅、自動車等の高額な買い物

【全体】

主な担当者（住宅、自動車等の高額な買い物）について、「主として夫（父）」が45.4%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が29.8%、「家族全員」が10.5%となっています。

【⑦住宅、自動車等の高額な買い物】



【性別】

「夫（父）と妻（母）で分担」は女性が27.3%、男性が33.0%で男性の方が5.7ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の30歳代、50歳代、60歳代、男性の30歳代では「主として夫（父）」が5割を超えています。また、男性の30歳代では「家族全員」が21.1%と他の年齢と比べて多くなっています。

男性の40歳代以上の各年齢では「夫（父）と妻（母）で分担」が3割を超えており、60歳代では最も割合が多い項目となっています。

【性・就業状況別】

夫正規雇用、妻パート等の女性では「主として夫（父）」が65.4%で特に多くなっています。夫婦とも正規雇用では男女とも「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が他の就業状況に比べて多くなっており、特に男性は52.3%と半数を超えています。

単位：%

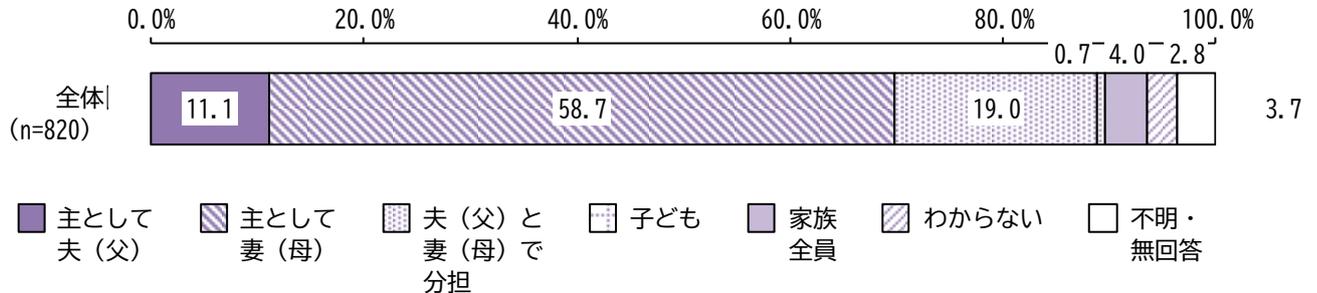
	母数 (n)	主な担当者（住宅、自動車等の高額な買い物）							
		主として 夫（父） として	主として 妻（母） として	分 担 夫 （ 母 父 ） と で	子 ど も	家 族 全 員	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明	
全体	820	45.4	5.9	29.8	0.9	10.5	3.8	3.9	
性別	女性	422	47.6	7.3	27.3	0.7	9.7	4.5	2.8
	男性	367	43.3	4.4	33.0	1.1	10.6	3.0	4.6
	答えない	17	41.2	5.9	17.6	-	23.5	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	47.1	8.8	26.5	-	8.8	5.9	2.9
	30歳代	39	51.3	5.1	25.6	-	10.3	5.1	2.6
	40歳代	64	48.4	6.3	29.7	1.6	6.3	7.8	-
	50歳代	58	55.2	10.3	22.4	-	6.9	5.2	-
	60歳代	97	52.6	4.1	28.9	1.0	10.3	2.1	1.0
	70歳以上	128	38.3	9.4	28.1	0.8	12.5	3.9	7.0
	男性 20歳代以下	36	41.7	5.6	27.8	-	16.7	8.3	-
	30歳代	38	52.6	-	21.1	-	21.1	-	5.3
	40歳代	47	40.4	6.4	34.0	2.1	12.8	4.3	-
	50歳代	49	49.0	4.1	36.7	2.0	4.1	2.0	2.0
60歳代	81	38.3	4.9	42.0	1.2	4.9	2.5	6.2	
70歳以上	115	42.6	4.3	30.4	0.9	11.3	2.6	7.8	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	48.2	5.4	42.9	-	3.6	-	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	65.4	1.9	21.2	-	7.7	3.8	-
	その他の就労形態	109	51.4	6.4	28.4	-	11.0	0.9	1.8
	夫婦とも働いていない	80	45.0	5.0	28.8	-	12.5	2.5	6.3
	男性 夫婦とも正規雇用	44	38.6	2.3	52.3	-	4.5	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	51.5	10.6	24.2	-	9.1	1.5	3.0
	その他の就労形態	104	46.2	3.8	36.5	-	11.5	1.0	1.0
	夫婦とも働いていない	51	45.1	3.9	29.4	-	11.8	3.9	5.9

⑧ 日常の家計管理

【全体】

日常の家計管理について、「主として妻（母）」が 58.7%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が 19.0%、「主として夫（父）」が 11.1%となっています。

【⑧日常の家計管理】



【性別】

「主として妻（母）」は女性が 63.3%、男性が 55.0%で女性の方が 8.3 ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の 20 歳代以下では、「夫（父）と妻（母）で分担」が 8.8%と他の年齢と比べて少なくなっています。

男性の 30 歳代では、「主として妻（母）」が 36.8%と他の年齢と比べて少なく、「夫（父）と妻（母）で分担」が 31.6%となっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用では男女とも「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が他の就業状況に比べて多くなっています。

単位：%

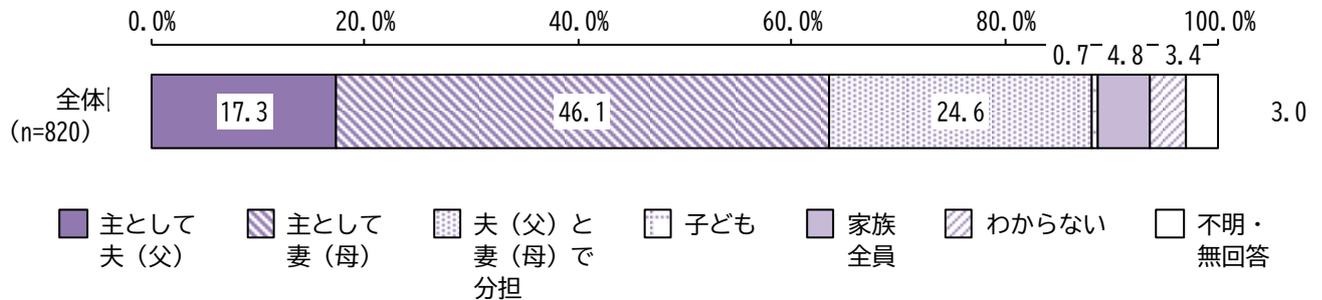
	母数 (n)	主な担当者（日常の家計管理）							
		主として 夫（父）	主として 妻（母）	夫（父）と 妻（母）で 分担	子 ども	家 族 全 員	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明	
全体	820	11.1	58.7	19.0	0.7	4.0	2.8	3.7	
性別	女性	8.1	63.3	18.5	0.9	4.0	2.1	3.1	
	男性	13.4	55.0	19.9	0.5	3.8	3.5	3.8	
	答えない	17	29.4	35.3	17.6	-	5.9	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	8.8	67.6	8.8	-	8.8	5.9	-
	30歳代	39	12.8	59.0	23.1	-	2.6	2.6	-
	40歳代	64	10.9	57.8	20.3	1.6	3.1	4.7	1.6
	50歳代	58	6.9	67.2	19.0	-	3.4	1.7	1.7
	60歳代	97	7.2	61.9	22.7	1.0	6.2	-	1.0
	70歳以上	128	6.3	64.8	15.6	1.6	2.3	1.6	7.8
	男性 20歳代以下	36	8.3	52.8	16.7	-	8.3	13.9	-
	30歳代	38	18.4	36.8	31.6	-	7.9	-	5.3
	40歳代	47	14.9	53.2	19.1	2.1	6.4	4.3	-
	50歳代	49	14.3	55.1	22.4	2.0	2.0	4.1	-
60歳代	81	9.9	56.8	21.0	-	2.5	2.5	7.4	
70歳以上	115	14.8	60.9	15.7	-	1.7	1.7	5.2	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	10.7	53.6	32.1	-	1.8	1.8	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	15.4	63.5	15.4	-	3.8	-	1.9
	その他の就労形態	109	8.3	67.0	17.4	-	3.7	-	3.7
	夫婦とも働いていない	80	8.8	63.8	17.5	1.3	3.8	-	5.0
	男性 夫婦とも正規雇用	44	9.1	43.2	43.2	-	2.3	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	21.2	57.6	12.1	-	6.1	1.5	1.5
	その他の就労形態	104	15.4	63.5	16.3	-	1.9	1.0	1.9
夫婦とも働いていない	51	9.8	66.7	15.7	-	2.0	2.0	3.9	

⑨ 預貯金等の資産の管理

【全体】

預貯金等の資産の管理について、「主として妻（母）」が46.1%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が24.6%、「主として夫（父）」が17.3%となっています。

【⑨預貯金等の資産の管理】



【性別】

「主として妻（母）」は女性が48.1%、男性が44.4%で女性の方が3.7ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の20歳代以下では「主として妻（母）」が70.6%を占めています。

男性の30歳代では、「夫（父）と妻（母）で分担」が36.8%で最も多く、「主として妻（母）」は28.9%にとどまっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の男女とも「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が他の就業状況に比べて10ポイント以上多くなっています。

夫正規雇用、妻パート等の男性では「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が他の就業状況に比べて低くなっています。

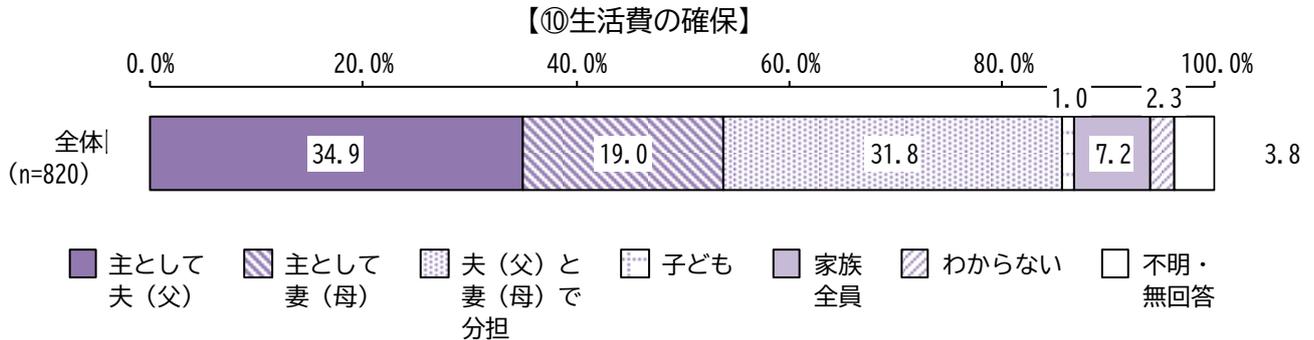
単位：%

	母数 (n)	主な担当者（預貯金等の資産の管理）							
		夫主 （と 父し て）	妻主 （と 母し て）	分妻 担 （夫 母父 ） でと	子 ど も	家 族 全 員	わ か ら な い	無 不 回 答 ・	
全体	820	17.3	46.1	24.6	0.7	4.8	3.4	3.0	
性別	女性	422	15.4	48.1	24.9	0.7	4.3	4.0	2.6
	男性	367	18.3	44.4	25.3	0.5	5.4	2.7	3.3
	答えない	17	29.4	41.2	11.8	-	5.9	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	8.8	70.6	8.8	-	5.9	5.9	-
	30歳代	39	15.4	43.6	30.8	-	2.6	5.1	2.6
	40歳代	64	15.6	45.3	28.1	1.6	4.7	4.7	-
	50歳代	58	13.8	51.7	27.6	-	3.4	3.4	-
	60歳代	97	20.6	39.2	28.9	1.0	6.2	3.1	1.0
	70歳以上	128	14.1	49.2	21.9	0.8	3.1	3.9	7.0
	男性 20歳代以下	36	8.3	47.2	22.2	-	11.1	11.1	-
	30歳代	38	18.4	28.9	36.8	-	7.9	2.6	5.3
	40歳代	47	17.0	48.9	23.4	2.1	6.4	2.1	-
50歳代	49	18.4	49.0	24.5	2.0	4.1	2.0	-	
60歳代	81	17.3	46.9	22.2	-	3.7	3.7	6.2	
70歳以上	115	22.6	42.6	26.1	-	4.3	-	4.3	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	12.5	46.4	35.7	-	1.8	1.8	1.8
	夫正規雇用、妻パート等	52	17.3	51.9	25.0	-	3.8	1.9	-
	その他の就労形態	109	20.2	50.5	23.9	-	2.8	0.9	1.8
	夫婦とも働いていない	80	20.0	41.3	27.5	-	5.0	2.5	3.8
	男性 夫婦とも正規雇用	44	11.4	43.2	40.9	-	2.3	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	25.8	54.5	13.6	-	4.5	-	1.5
	その他の就労形態	104	19.2	51.9	22.1	-	4.8	1.0	1.0
夫婦とも働いていない	51	25.5	43.1	27.5	-	-	2.0	2.0	

⑩ 生活費の確保

【全体】

生活費の確保について、「主として夫（父）」が34.9%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が31.8%、「主として妻（母）」が19.0%となっています。



【性別】

「主として夫（父）」は女性が37.0%、男性が33.0%で女性の方が4.0ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、いずれの年齢でも「主として夫（父）」の割合が最も多く、20歳代以下と50歳代では4割を超えています。

男性では、20歳代以下、40歳代、70歳以上では「夫（父）と妻（母）で分担」が「主として夫（父）」と並んで最も多くなっており、60歳代では「夫（父）と妻（母）で分担」が「主として夫（父）」よりも多くなっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の場合と夫婦とも働いていない場合では、男女とも「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が最も多くなっています。

夫正規雇用、妻パート等の場合とその他の就労形態の場合では、男女とも「主として夫（父）」の割合が最も多くなっています。

単位：%

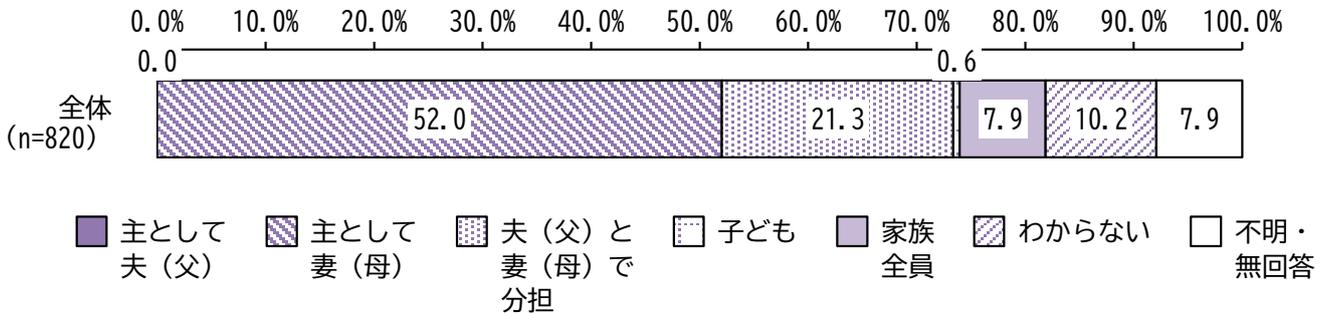
	母数 (n)	主な担当者（生活費の確保）							
		主として夫（父）	主として妻（母）	夫（父）と妻（母）で分担	子ども	家族全員	わからない	不明・無回答	
全体	820	34.9	19.0	31.8	1.0	7.2	2.3	3.8	
性別	女性	422	37.0	19.7	30.1	1.4	7.1	2.1	2.6
	男性	367	33.0	18.8	33.8	0.5	7.1	2.2	4.6
	答えない	17	17.6	17.6	35.3	-	17.6	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	44.1	8.8	29.4	-	14.7	2.9	-
	30歳代	39	38.5	23.1	35.9	-	2.6	-	-
	40歳代	64	37.5	17.2	31.3	1.6	4.7	4.7	3.1
	50歳代	58	41.4	17.2	31.0	-	6.9	3.4	-
	60歳代	97	35.1	18.6	34.0	1.0	10.3	-	1.0
	70歳以上	128	32.8	25.0	25.0	3.1	5.5	2.3	6.3
	男性 20歳代以下	36	30.6	13.9	30.6	-	16.7	8.3	-
	30歳代	38	39.5	5.3	36.8	-	10.5	2.6	5.3
	40歳代	47	36.2	14.9	36.2	2.1	8.5	2.1	-
	50歳代	49	34.7	26.5	30.6	2.0	4.1	2.0	-
60歳代	81	30.9	17.3	38.3	-	2.5	2.5	8.6	
70歳以上	115	31.3	23.5	31.3	-	7.0	-	7.0	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	25.0	14.3	55.4	-	5.4	-	-
	夫正規雇用、妻パート等	52	48.1	15.4	30.8	-	1.9	1.9	1.9
	その他の就労形態	109	49.5	24.8	17.4	-	5.5	0.9	1.8
	夫婦とも働いていない	80	31.3	20.0	37.5	2.5	5.0	-	3.8
	男性 夫婦とも正規雇用	44	15.9	18.2	61.4	-	2.3	-	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	39.4	22.7	31.8	-	4.5	-	1.5
	その他の就労形態	104	41.3	22.1	28.8	-	5.8	-	1.9
	夫婦とも働いていない	51	27.5	27.5	31.4	-	3.9	2.0	7.8

① 育児(乳幼児の世話)

【全体】

育児(乳幼児の世話)について、「主として妻(母)」が52.0%で最も多く、次いで「夫(父)と妻(母)で分担」が21.3%、「わからない」が10.2%となっています。

【①育児(乳幼児の世話)】



【性別】

「主として妻(母)」は女性が57.1%、男性が46.9%で女性の方が10.2ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の30歳代、男性の20歳代以下、30歳代では「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が約3~4割となっており、男性の20歳代以下では最も割合が多くなっています。

【性・就業状況別】

夫婦とも正規雇用の場合、「夫(父)と妻(母)で分担」の割合は女性で25.0%、男性で45.5%と男性の方が20.5ポイント多くなっており、男性では最も割合が多くなっています。

夫正規雇用、妻パート等の場合、「主として妻(母)」が女性で69.2%、男性で63.6%と他の就業状況と比べて多くなっています。

単位：%

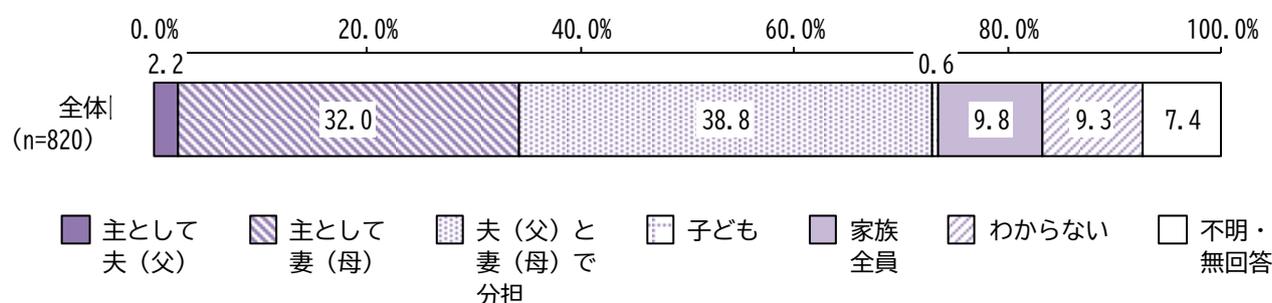
	母数 (n)	主な担当者(育児(乳幼児の世話))							
		主として 夫(父)	主として 妻(母)	夫(父)と 妻(母)で 分担	子 ども	家 族 全 員	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明	
全体	820	-	52.0	21.3	0.6	7.9	10.2	7.9	
性別	女性	422	-	57.1	18.2	0.9	7.6	9.0	7.1
	男性	367	-	46.9	25.9	0.3	7.9	11.4	7.6
	答えない	17	-	41.2	11.8	-	17.6	11.8	17.6
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	61.8	11.8	-	5.9	20.6	-
	30歳代	39	-	51.3	41.0	-	2.6	2.6	2.6
	40歳代	64	-	64.1	18.8	1.6	3.1	12.5	-
	50歳代	58	-	65.5	22.4	-	1.7	5.2	5.2
	60歳代	97	-	58.8	14.4	2.1	10.3	8.2	6.2
	70歳以上	128	-	49.2	14.1	0.8	12.5	7.8	15.6
	男性 20歳代以下	36	-	36.1	41.7	-	11.1	11.1	-
	30歳代	38	-	36.8	34.2	-	15.8	7.9	5.3
	40歳代	47	-	61.7	21.3	-	6.4	10.6	-
	50歳代	49	-	59.2	16.3	-	4.1	18.4	2.0
60歳代	81	-	49.4	21.0	-	3.7	11.1	14.8	
70歳以上	115	-	40.9	27.0	0.9	9.6	10.4	11.3	
性・就業状況別	女性 夫婦とも正規雇用	56	-	58.9	25.0	-	3.6	5.4	7.1
	夫正規雇用、妻パート等	52	-	69.2	23.1	-	1.9	5.8	-
	その他の就業形態	109	-	59.6	17.4	1.8	7.3	8.3	5.5
	夫婦とも働いていない	80	-	43.8	21.3	1.3	11.3	7.5	15.0
	男性 夫婦とも正規雇用	44	-	38.6	45.5	-	4.5	9.1	2.3
	夫正規雇用、妻パート等	66	-	63.6	13.6	-	7.6	13.6	1.5
	その他の就業形態	104	-	53.8	20.2	1.0	7.7	9.6	7.7
	夫婦とも働いていない	51	-	43.1	21.6	-	5.9	13.7	15.7

⑫ 子どもの教育(進学等)・しつけ

【全体】

子どもの教育(進学等)・しつけについて、「夫(父)と妻(母)で分担」が38.8%で最も多く、次いで「主として妻(母)」が32.0%、「家族全員」が9.8%となっています。

【⑫子どもの教育(進学等)・しつけ】



【性別】

「主として妻(母)」は女性が38.9%、男性が24.8%で女性の方が14.1ポイント多くなっており、女性では「主として妻(母)」、男性では「夫(父)と妻(母)で分担」が最も多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、30歳代は「夫(父)と妻(母)で分担」が61.5%で最も多くなっています。40歳代、50歳代、60歳代では、「主として妻(母)」が4割を超えています。

男性では、20歳代以下、30歳代、40歳代で「夫(父)と妻(母)で分担」が5割を超えて多くなっています。

単位：%

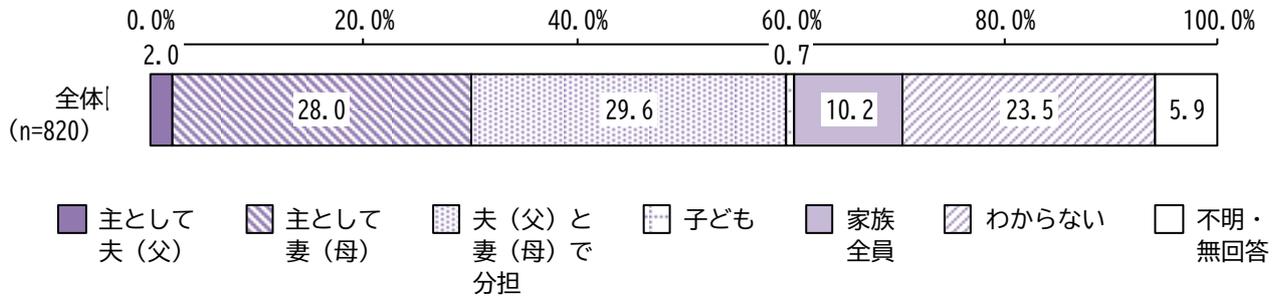
		母数 (n)	主な担当者(子どもの教育(進学等)・しつけ)						
			夫主 (父し)て	妻主 (母し)て	分妻夫 担(母父)と	子 ども	家 族 全 員	わ か ら な い	無不 回明 答・
全体		820	2.2	32.0	38.8	0.6	9.8	9.3	7.4
性別	女性	422	2.1	38.9	33.2	1.2	10.0	8.1	6.6
	男性	367	2.5	24.8	46.0	-	9.3	10.4	7.1
	答えない	17	-	23.5	23.5	-	17.6	17.6	17.6
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	38.2	35.3	-	8.8	17.6	-
	30歳代	39	2.6	28.2	61.5	-	2.6	2.6	2.6
	40歳代	64	3.1	45.3	34.4	1.6	4.7	10.9	-
	50歳代	58	-	53.4	32.8	-	3.4	6.9	3.4
	60歳代	97	2.1	43.3	26.8	1.0	13.4	8.2	5.2
	70歳以上	128	3.1	28.9	28.9	2.3	15.6	5.5	15.6
	男性 20歳代以下	36	2.8	16.7	58.3	-	8.3	13.9	-
	30歳代	38	-	15.8	57.9	-	13.2	7.9	5.3
	40歳代	47	-	29.8	51.1	-	8.5	10.6	-
	50歳代	49	6.1	34.7	34.7	-	8.2	16.3	-
	60歳代	81	-	28.4	39.5	-	7.4	9.9	14.8
70歳以上	115	4.3	21.7	45.2	-	10.4	7.8	10.4	

⑬ 高齢者の介護

【全体】

高齢者の介護について、「夫（父）と妻（母）で分担」が 29.6%で最も多く、次いで「主として妻（母）」が 28.0%、「わからない」が 23.5%となっています。

【⑬高齢者の介護】



【性別】

「主として妻（母）」は女性が 34.4%、男性が 21.5%で女性の方が 12.9 ポイント多くなっており、女性では「主として妻（母）」、男性では「夫（父）と妻（母）で分担」が最も多くなっています。

【性・年齢別】

男女とも、40 歳代以下の各年齢では「わからない」の割合が最も高くなっています。

女性では、50 歳代では、「夫（父）と妻（母）で分担」が最も多くなっていますが、60 歳代、70 歳以上では「主として妻（母）」が最も多くなっています。

男性では、50 歳代、60 歳代、70 歳以上いずれも「夫（父）と妻（母）で分担」が最も多くなっています。

単位：%

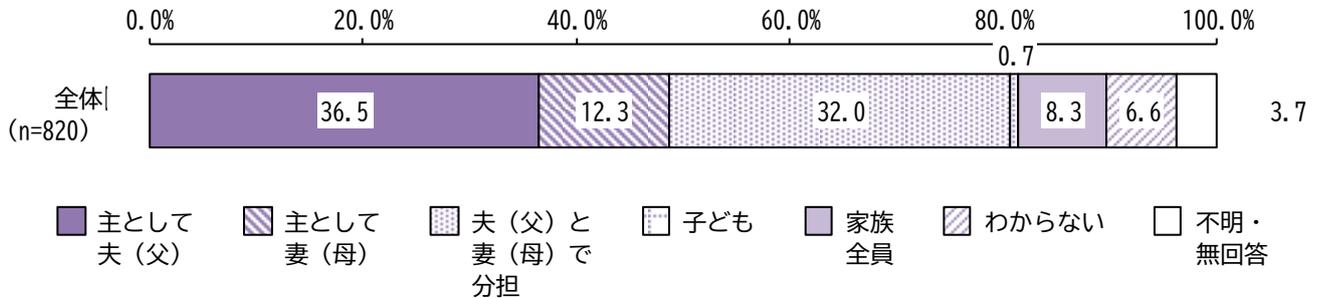
		母数 (n)	主な担当者（高齢者の介護）						
			主として夫（父）	主として妻（母）	夫（父）と妻（母）で分担	子ども	家族全員	わからない	不明・無回答
全体		820	2.0	28.0	29.6	0.7	10.2	23.5	5.9
性別	女性	422	1.2	34.4	24.4	1.2	10.7	23.7	4.5
	男性	367	3.0	21.5	35.1	0.3	10.1	24.0	6.0
	答えない	17	-	23.5	35.3	-	11.8	17.6	11.8
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	14.7	29.4	-	8.8	47.1	-
	30歳代	39	-	15.4	25.6	-	7.7	48.7	2.6
	40歳代	64	1.6	34.4	17.2	1.6	7.8	37.5	-
	50歳代	58	3.4	29.3	32.8	1.7	5.2	27.6	-
	60歳代	97	2.1	47.4	25.8	-	10.3	12.4	2.1
	70歳以上	128	-	36.7	21.9	2.3	16.4	10.2	12.5
	男性 20歳代以下	36	5.6	16.7	30.6	-	13.9	33.3	-
	30歳代	38	-	13.2	28.9	-	13.2	39.5	5.3
	40歳代	47	2.1	10.6	29.8	-	8.5	48.9	-
	50歳代	49	2.0	20.4	34.7	2.0	8.2	32.7	-
	60歳代	81	3.7	25.9	39.5	-	7.4	12.3	11.1
70歳以上	115	3.5	27.0	38.3	-	11.3	10.4	9.6	

⑭ 地域の活動

【全体】

地域の活動について、「主として夫（父）」が36.5%で最も多く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」が32.0%、「主として妻（母）」が12.3%となっています。

【⑭地域の活動】



【性別】

「主として夫（父）」は女性が30.1%、男性が44.4%で男性の方が14.3ポイント多くなっており、女性では「夫（父）と妻（母）で分担」、男性では「主として夫（父）」が最も多くなっています。

【性・年齢別】

女性の20歳代では「主として夫（父）」が14.7%と比較的低く、「わからない」が26.5%となっています。

男性では、50歳代は「夫（父）と妻（母）で分担」、60歳代と70歳以上は「主として夫（父）」が5割を超えています。

単位：%

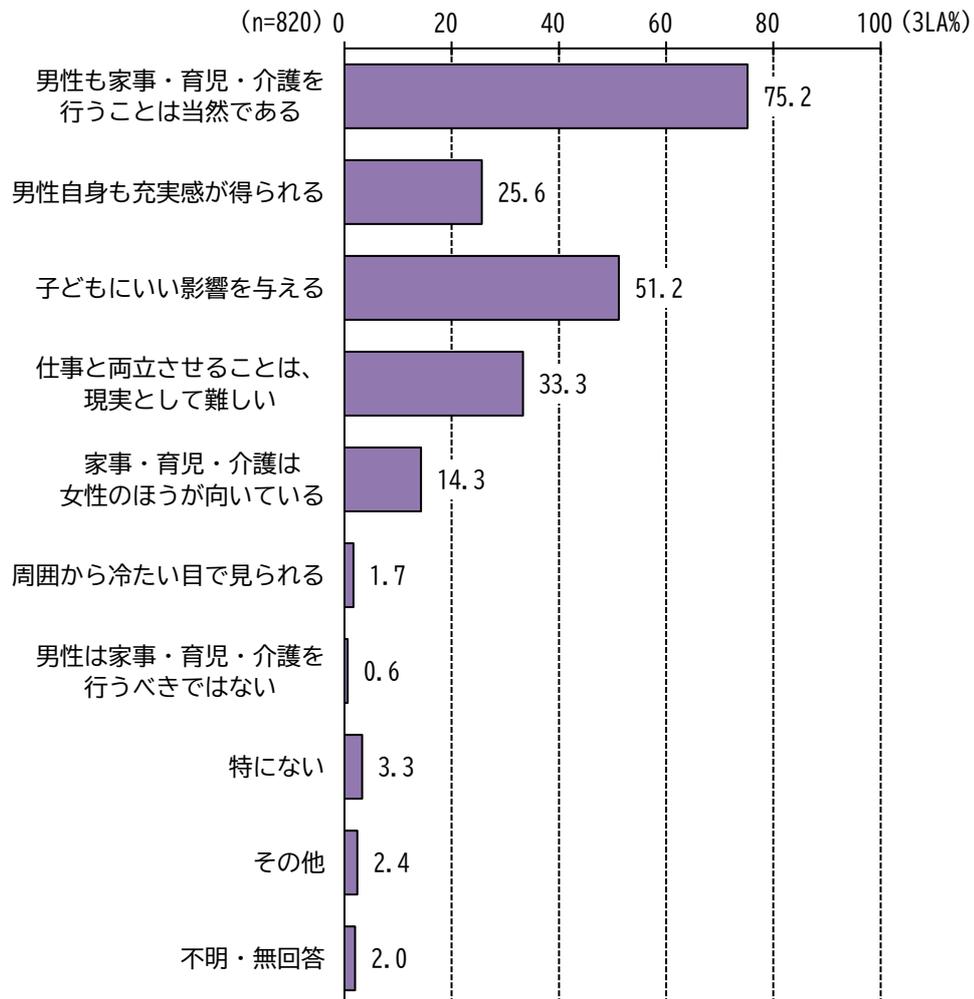
	母数 (n)	主な担当者（地域の活動）							
		主として 夫（父） （）	主として 妻（母） （）	夫（父）と 妻（母） で （）	子 ど も	家 族 全 員	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明	
全体	820	36.5	12.3	32.0	0.7	8.3	6.6	3.7	
性別	女性	422	30.1	16.1	33.2	0.5	10.0	7.3	2.8
	男性	367	44.4	7.9	30.8	1.1	6.3	5.7	3.8
	答えない	17	17.6	17.6	41.2	-	5.9	5.9	11.8
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	14.7	14.7	32.4	-	11.8	26.5	-
	30歳代	39	25.6	17.9	41.0	-	10.3	5.1	-
	40歳代	64	28.1	12.5	40.6	-	12.5	6.3	-
	50歳代	58	41.4	19.0	29.3	-	1.7	6.9	1.7
	60歳代	97	34.0	14.4	32.0	-	10.3	7.2	2.1
	70歳以上	128	28.9	18.0	28.9	1.6	11.7	3.9	7.0
	男性 20歳代以下	36	27.8	16.7	27.8	-	13.9	13.9	-
	30歳代	38	42.1	7.9	21.1	2.6	13.2	7.9	5.3
	40歳代	47	34.0	12.8	36.2	2.1	10.6	4.3	-
	50歳代	49	38.8	6.1	51.0	-	-	4.1	-
	60歳代	81	53.1	4.9	23.5	1.2	6.2	3.7	7.4
70歳以上	115	50.4	6.1	29.6	0.9	2.6	5.2	5.2	

問5 男性が家事・育児・介護を行うことについて、どのように考えますか。(〇は3つまで)

【全体】

男性が家事を行うことについての考えについて、「男性も家事・育児・介護を行うことは当然である」が75.2%で最も多く、次いで「子どもにいい影響を与える」が51.2%、「仕事と両立させることは、現実として難しい」が33.3%となっています。

【男性が家事を行うことについての考え (3LA)】



【性別】

「子どもにいい影響を与える」は女性が 58.1%、男性が 43.9%と女性の方が 14.2 ポイント多くなっています。また、「男性も家事・育児・介護を行うことは当然である」「男性自身も充実感が得られる」も女性の方が 5 ポイント以上多くなっています。

一方、「仕事と両立させることは、現実として難しい」「家事・育児・介護は女性のほうが向いている」は男性の方が女性よりも 5 ポイント以上多くなっています。

【性・年齢別】

「男性も家事・育児・介護を行うことは当然である」は女性の 30 歳代、男性の 40 歳代では約 9 割と特に多くなっています。

女性の 40 歳代と 70 歳以上では、「子どもにいい影響を与える」が 6 割を超えています。

一方、男性の 50 歳代の 60 歳代では、「子どもにいい影響を与える」が約 3 割にとどまり、男性の 50 歳代では「仕事と両立させることは、現実として難しい」が約 5 割となっています。

男性の 70 歳以上は、「家事・育児・介護は女性のほうが向いている」が 29.6%と他の年齢と比べて多くなっています。

単位：%

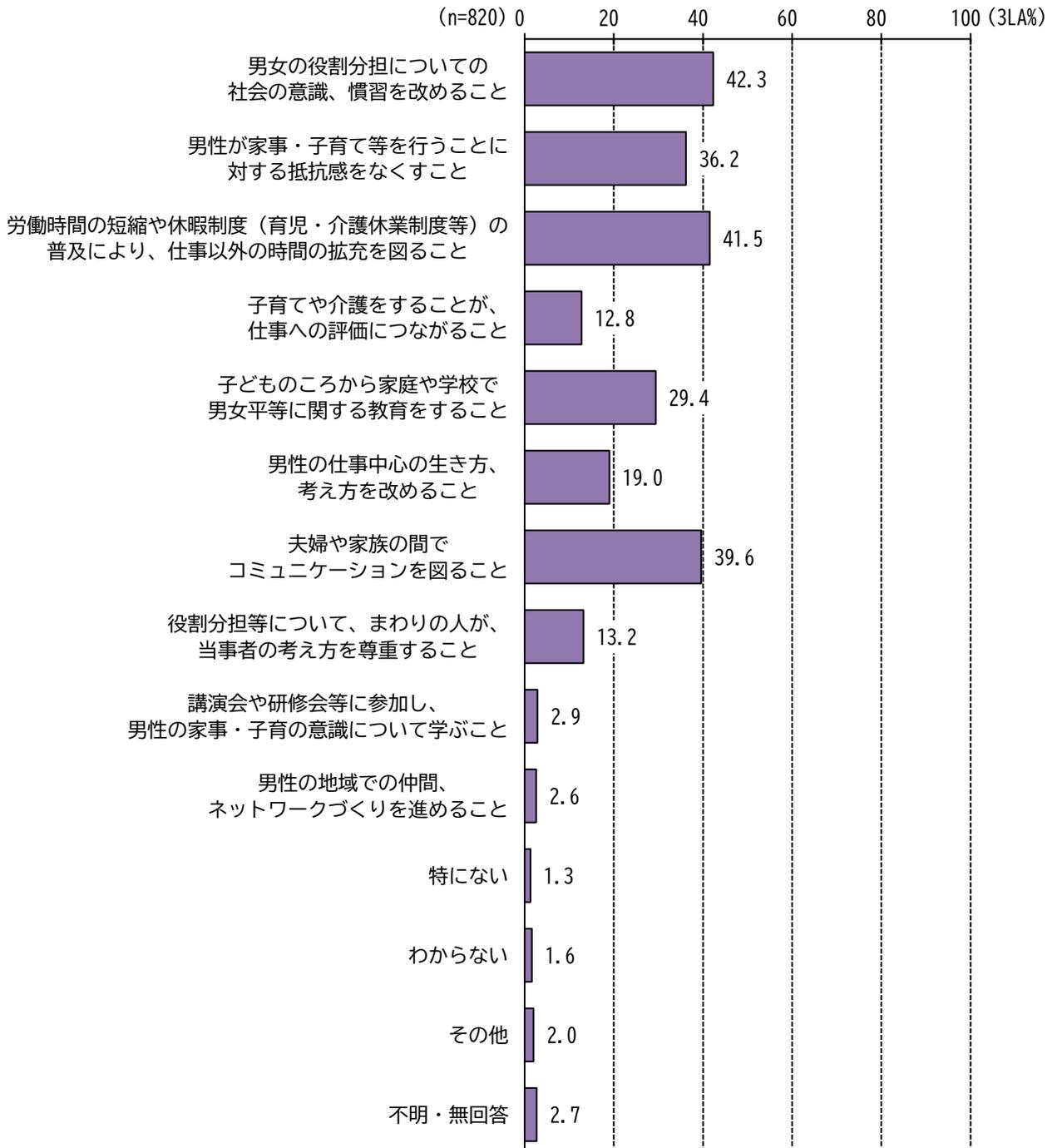
		母数 (n)	男性が家事を行うことについての考え (3LA)									
			男性も家事・育児・介護を 行うことは当然である	男性自身も充実感が得られる	子どもにいい影響を与える	現実として難しい	仕事と両立させることは、 難しい	家事・育児・介護は女性の ほうが向いている	周囲から冷たい目で見られる	男性は家事・育児・介護を すべきではない	特 に な い	そ の 他
全体		820	75.2	25.6	51.2	33.3	14.3	1.7	0.6	3.3	2.4	2.0
性別	女性	422	78.2	28.0	58.1	31.3	10.4	2.4	0.5	3.3	2.4	0.9
	男性	367	72.2	22.9	43.9	37.1	18.3	1.1	0.5	2.7	2.7	3.0
	答えない	17	70.6	5.9	35.3	11.8	11.8	-	5.9	17.6	-	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	73.5	17.6	58.8	26.5	5.9	-	-	8.8	-	-
	30歳代	39	87.2	23.1	56.4	17.9	2.6	2.6	-	2.6	-	-
	40歳代	64	75.0	29.7	65.6	31.3	4.7	4.7	-	4.7	3.1	-
	50歳代	58	79.3	29.3	55.2	34.5	8.6	5.2	-	1.7	1.7	-
	60歳代	97	77.3	22.7	49.5	34.0	9.3	2.1	1.0	2.1	4.1	2.1
	70歳以上	128	78.1	34.4	63.3	33.6	18.8	0.8	0.8	3.1	2.3	1.6
	男性 20歳代以下	36	72.2	30.6	58.3	27.8	-	-	-	5.6	2.8	-
	30歳代	38	76.3	31.6	47.4	21.1	2.6	2.6	-	7.9	2.6	5.3
	40歳代	47	87.2	21.3	53.2	42.6	17.0	2.1	-	2.1	-	-
	50歳代	49	67.3	24.5	32.7	49.0	14.3	2.0	2.0	2.0	6.1	-
60歳代	81	71.6	13.6	30.9	40.7	21.0	1.2	-	1.2	3.7	6.2	
70歳以上	115	67.0	23.5	47.8	35.7	29.6	-	0.9	1.7	1.7	3.5	

問6 男性が家事・育児・介護を行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

男性が家事・育児・介護を行うために必要なことについて、「男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること」が42.3%で最も多く、次いで「労働時間の短縮や休暇制度（育児・介護休業制度等）の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること」が41.5%、「夫婦や家族の間でコミュニケーションを図ること」が39.6%となっています。

【男性が家事・育児・介護を行うために必要なこと（3LA）】



【性別】

女性は「男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること」、男性は「労働時間の短縮や休暇制度（育児・介護休業制度等）の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること」が最も多くなっています。

女性は男性よりも「男性が家事・子育て等を行うことに対する抵抗感をなくすこと」「子どものころから家庭や学校で男女平等に関する教育をすること」「夫婦や家族の間でコミュニケーションを図ること」「役割分担等について、まわりの人が、当事者の考え方を尊重すること」、男性は女性よりも「子育てや介護をすることが、仕事への評価につながること」の割合が多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、20歳代以下は「男性が家事・子育て等を行うことに対する抵抗感をなくすこと」が最も多くなっています。30歳代は「労働時間の短縮や休暇制度（育児・介護休業制度等）の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること」が79.5%と多くなっています。50歳代は「男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること」と「男性が家事・子育て等を行うことに対する抵抗感をなくすこと」、60歳代は「男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること」、70歳以上は「夫婦や家族の間でコミュニケーションを図ること」がそれぞれ5割を超えて最も多くなっています。

男性では、60歳代以下の各年齢ではいずれも「労働時間の短縮や休暇制度（育児・介護休業制度等）の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること」が最も多く、加えて20歳代以下では「男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること」の割合も多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	男性が家事・育児・介護を行うために必要なこと (3LA)													その他	不明・無回答
			社会の意識、慣習を改めること	男女の役割分担、慣習を改めること	男性が家事・子育て等を行うことに対する抵抗感をなくすこと	仕事以外の時間（育児・介護休業制度等）の拡充を図ること	労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること	仕事への評価を高めること、子育てや介護をするための教育をすること	子ども等に関する家庭や学校での教育	改めること	男性の仕事中心の生き方、考え方を図ること	夫婦や家族の間でコミュニケーションを図ること	当事者の考え方を尊重すること	役割分担等について、まわりの人が、	家事・子育ての意識について学ぶこと		
全体		820	42.3	36.2	41.5	12.8	29.4	19.0	39.6	13.2	2.9	2.6	1.3	1.6	2.0	2.7	
性別	女性	422	44.8	41.5	40.0	9.7	32.9	19.7	43.6	15.6	3.1	2.6	0.7	1.7	1.2	2.1	
	男性	367	40.9	30.8	44.1	16.6	24.8	19.1	35.7	10.6	1.9	2.7	1.4	1.4	2.7	3.3	
	答えない	17	23.5	35.3	29.4	5.9	23.5	11.8	17.6	5.9	5.9	-	17.6	5.9	5.9	-	
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	35.3	47.1	41.2	11.8	14.7	14.7	44.1	14.7	-	-	-	2.9	-	2.9	
	30歳代	39	35.9	41.0	79.5	7.7	25.6	12.8	46.2	5.1	-	-	-	-	2.6	-	
	40歳代	64	46.9	34.4	39.1	17.2	32.8	17.2	37.5	20.3	3.1	6.3	1.6	1.6	1.6	-	
	50歳代	58	53.4	53.4	34.5	13.8	24.1	25.9	37.9	15.5	5.2	1.7	1.7	1.7	1.7	-	
	60歳代	97	52.6	38.1	39.2	7.2	40.2	19.6	41.2	13.4	1.0	4.1	1.0	3.1	2.1	1.0	
	70歳以上	128	39.1	40.6	32.0	6.3	38.3	21.9	50.0	18.8	5.5	0.8	-	0.8	-	5.5	
	男性 20歳代以下	36	50.0	38.9	50.0	22.2	11.1	13.9	47.2	5.6	2.8	-	-	-	5.6	-	
	30歳代	38	28.9	21.1	39.5	21.1	18.4	18.4	36.8	10.5	-	5.3	2.6	2.6	5.3	5.3	
	40歳代	47	48.9	25.5	53.2	19.1	23.4	21.3	42.6	10.6	-	2.1	2.1	-	-	-	
	50歳代	49	36.7	30.6	49.0	16.3	20.4	18.4	32.7	14.3	-	2.0	2.0	2.0	2.0	-	
	60歳代	81	28.4	33.3	46.9	13.6	34.6	19.8	34.6	11.1	1.2	1.2	-	1.2	2.5	4.9	
70歳以上	115	49.6	31.3	36.5	14.8	27.0	19.1	31.3	10.4	4.3	4.3	1.7	1.7	2.6	5.2		

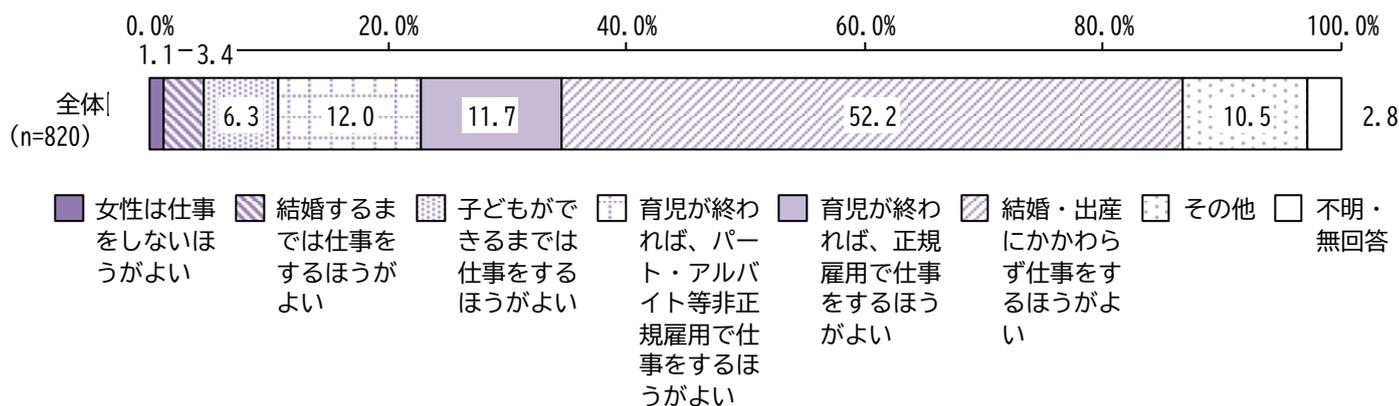
4. 仕事について

問7 一般的に女性が仕事をする事についてどのように思いますか。(○は1つだけ)

【全体】

女性が仕事をする事について、「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」が 52.2%で最も多く、次いで「育児が終われば、パート・アルバイト等非正規雇用で仕事をするほうがよい」が 12.0%、「育児が終われば、正規雇用で仕事をするほうがよい」が 11.7%となっています。

【女性が仕事をする事について】



【性別】

男女とも「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」の割合が最も高く、女性で55.5%、男性で47.4%と女性の方が8.1ポイント多くなっています。

男性では、「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」に次いで、「育児が終われば、正規雇用で仕事をするほうがよい」の割合が多く、女性より8.3ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の40歳代では「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」が64.1%と特に多くなっています。

男性では、20歳代以下と40歳代で、「育児が終われば、正規雇用で仕事をするほうがよい」が約2割となっています。

【性・職業別】

女性では、「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」の割合が正社員で72.1%、パート等で59.3%となっています。

単位：%

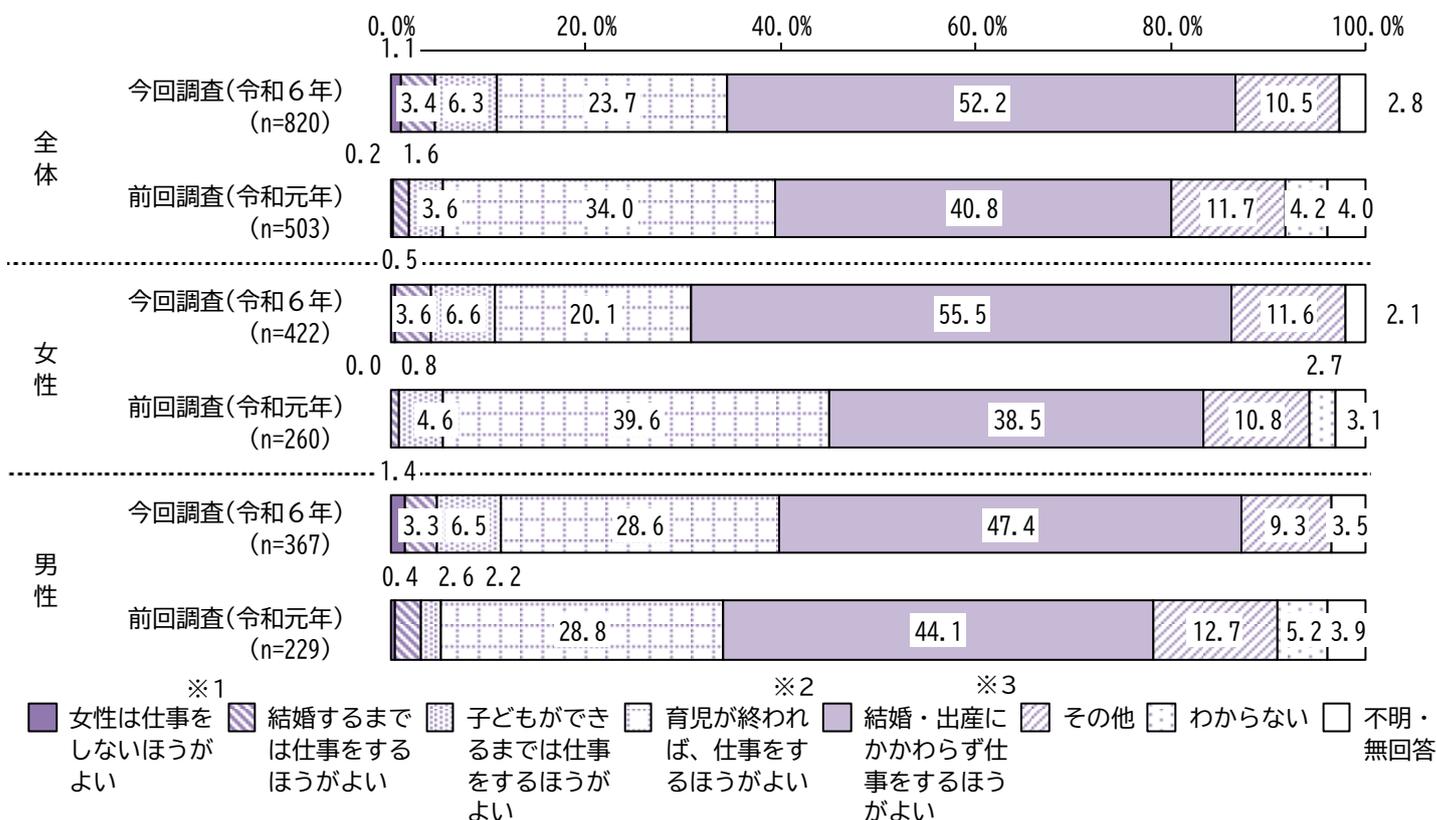
		母数 (n)	女性が仕事をする事について							その他	不明・無回答
			がよいは仕事をしないほう	するほうがよいは仕事を	結婚するまでは仕事を	子どもがでるまではよいは	仕事をするほうは	子どもがでるほうは	育児が終われば、パートで		
全体		820	1.1	3.4	6.3	12.0	11.7	52.2	10.5	2.8	
性別	女性	422	0.5	3.6	6.6	12.3	7.8	55.5	11.6	2.1	
	男性	367	1.4	3.3	6.5	12.5	16.1	47.4	9.3	3.5	
	答えない	17	11.8	-	-	-	5.9	64.7	17.6	-	
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	-	14.7	14.7	2.9	58.8	8.8	-	
	30歳代	39	-	2.6	2.6	2.6	5.1	56.4	30.8	-	
	40歳代	64	-	4.7	3.1	3.1	3.1	64.1	21.9	-	
	50歳代	58	-	3.4	3.4	17.2	12.1	56.9	6.9	-	
	60歳代	97	1.0	2.1	5.2	13.4	6.2	57.7	11.3	3.1	
	70歳以上	128	0.8	5.5	10.2	16.4	11.7	47.7	3.1	4.7	
	男性 20歳代以下	36	5.6	-	11.1	13.9	19.4	38.9	11.1	-	
	30歳代	38	-	-	-	7.9	10.5	55.3	21.1	5.3	
	40歳代	47	-	2.1	2.1	10.6	19.1	51.1	14.9	-	
	50歳代	49	-	4.1	10.2	14.3	16.3	42.9	12.2	-	
60歳代	81	2.5	3.7	6.2	12.3	13.6	49.4	6.2	6.2		
70歳以上	115	0.9	5.2	7.8	13.9	17.4	46.1	3.5	5.2		
性・職業別	女性 正社員	86	-	1.2	5.8	3.5	5.8	72.1	11.6	-	
	パート等	118	0.8	2.5	2.5	11.9	8.5	59.3	13.6	0.8	
	自営業・家族従事者・その他	35	-	8.6	-	14.3	8.6	51.4	11.4	5.7	
	主婦・主夫	110	0.9	4.5	10.9	18.2	8.2	38.2	15.5	3.6	
	学生・無職	72	-	4.2	11.1	13.9	8.3	56.9	2.8	2.8	
	男性 正社員	165	1.2	1.8	6.1	11.5	14.5	50.3	11.5	3.0	
	パート等	52	1.9	3.8	3.8	17.3	25.0	44.2	1.9	1.9	
	自営業・家族従事者・その他	52	-	5.8	1.9	13.5	13.5	48.1	15.4	1.9	
	主婦・主夫	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
学生・無職	97	2.1	4.1	11.3	11.3	15.5	43.3	6.2	6.2		

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」が11.4ポイント多くなっています。

性別では、「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」は、女性では17.0ポイントの大きな増加がみられますが、男性では3.3ポイントで増加幅は小さくなっています。

【女性が仕事をするについて（経年比較）】



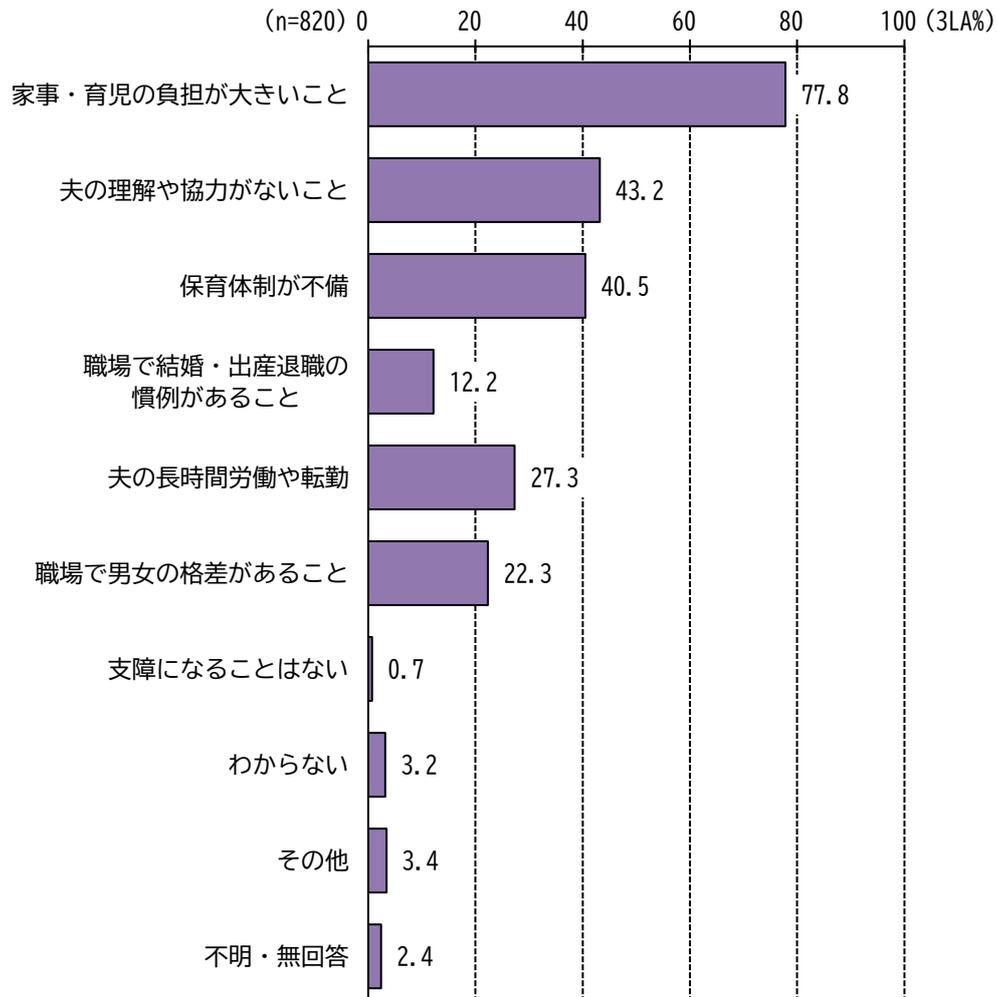
- ※1 前回調査では「女性は、仕事をもたない方がよい」
- ※2 今回調査は「育児が終われば、パート・アルバイト等非正規雇用で仕事をするほうがよい」と「育児が終われば、正規雇用で仕事をするほうがよい」の合計、前回調査では「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい」
- ※3 前回調査では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」

問8 女性が働き続ける上で支障となることはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

女性が働き続ける上で支障となることについて、「家事・育児の負担が大きいこと」が 77.8%で最も多く、次いで「夫の理解や協力ががないこと」が 43.2%、「保育体制が不備」が 40.5%となっています。

【女性が働き続ける上で支障となること (3LA)】



【性別】

「家事・育児の負担が大きいこと」は女性 83.2%、男性 71.9%、「夫の理解や協力がいないこと」は女性 48.1%、男性 37.3%と、いずれも女性の方が10ポイント以上多くなっています。

【性・年齢別】

女性では、30歳代以下で「保育体制が不備」が5割を超えています。50歳代では「家事・育児の負担が大きいこと」が91.4%と特に多くなっています。

男性では、30歳代以下で「職場で結婚・出産退職の慣例があること」が2割を超えています。

単位：%

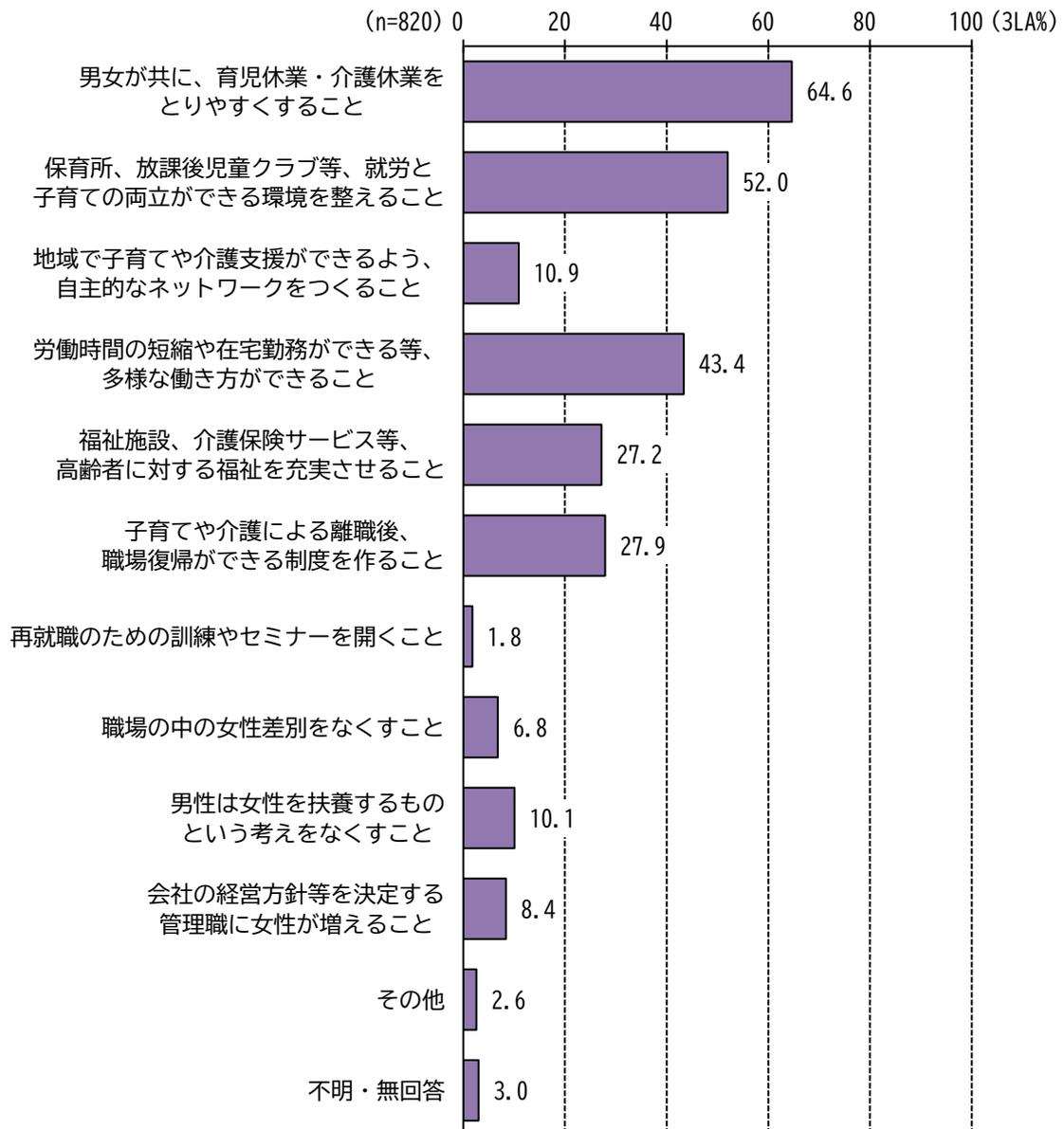
		母数 (n)	女性が働き続ける上で支障となること (3LA)									
			家事・育児の負担が大きいこと	夫の理解や協力がいないこと	保育体制が不備	職場で結婚・出産退職の慣例があること	夫の長時間労働や転勤	職場で男女の格差があること	支障になることはない	わからない	その他	不明・無回答
全体		820	77.8	43.2	40.5	12.2	27.3	22.3	0.7	3.2	3.4	2.4
性別	女性	422	83.2	48.1	43.6	10.4	27.3	22.7	0.2	3.1	2.6	1.2
	男性	367	71.9	37.3	37.6	14.2	28.1	21.5	1.1	3.3	4.1	3.8
	答えない	17	64.7	41.2	23.5	17.6	23.5	29.4	5.9	5.9	5.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	76.5	47.1	52.9	11.8	23.5	14.7	-	2.9	-	-
	30歳代	39	84.6	38.5	59.0	2.6	35.9	17.9	-	2.6	-	-
	40歳代	64	85.9	50.0	40.6	10.9	28.1	29.7	1.6	-	9.4	-
	50歳代	58	91.4	50.0	46.6	5.2	27.6	27.6	-	1.7	3.4	-
	60歳代	97	77.3	51.5	48.5	11.3	27.8	15.5	-	3.1	1.0	2.1
	70歳以上	128	83.6	46.1	33.6	14.1	25.0	26.6	-	5.5	1.6	2.3
	男性 20歳代以下	36	69.4	30.6	47.2	27.8	27.8	19.4	-	2.8	2.8	-
	30歳代	38	63.2	18.4	47.4	21.1	28.9	26.3	-	-	13.2	5.3
	40歳代	47	83.0	46.8	44.7	14.9	27.7	19.1	-	4.3	-	2.1
	50歳代	49	71.4	30.6	26.5	10.2	32.7	16.3	-	8.2	4.1	-
60歳代	81	69.1	44.4	39.5	2.5	30.9	19.8	2.5	2.5	3.7	6.2	
70歳以上	115	73.9	39.1	32.2	16.5	24.3	25.2	1.7	2.6	3.5	5.2	

問9 男女が共に働き活躍できるようにするには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

男女が共に働き活躍できるようにするために必要なことについて、「男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること」が64.6%で最も多く、次いで「保育所、放課後児童クラブ等、就労と子育ての両立ができる環境を整えること」が52.0%、「労働時間の短縮や在宅勤務ができる等、多様な働き方ができること」が43.4%となっています。

【男女が共に働き活躍できるようにするために必要なこと (3LA)】

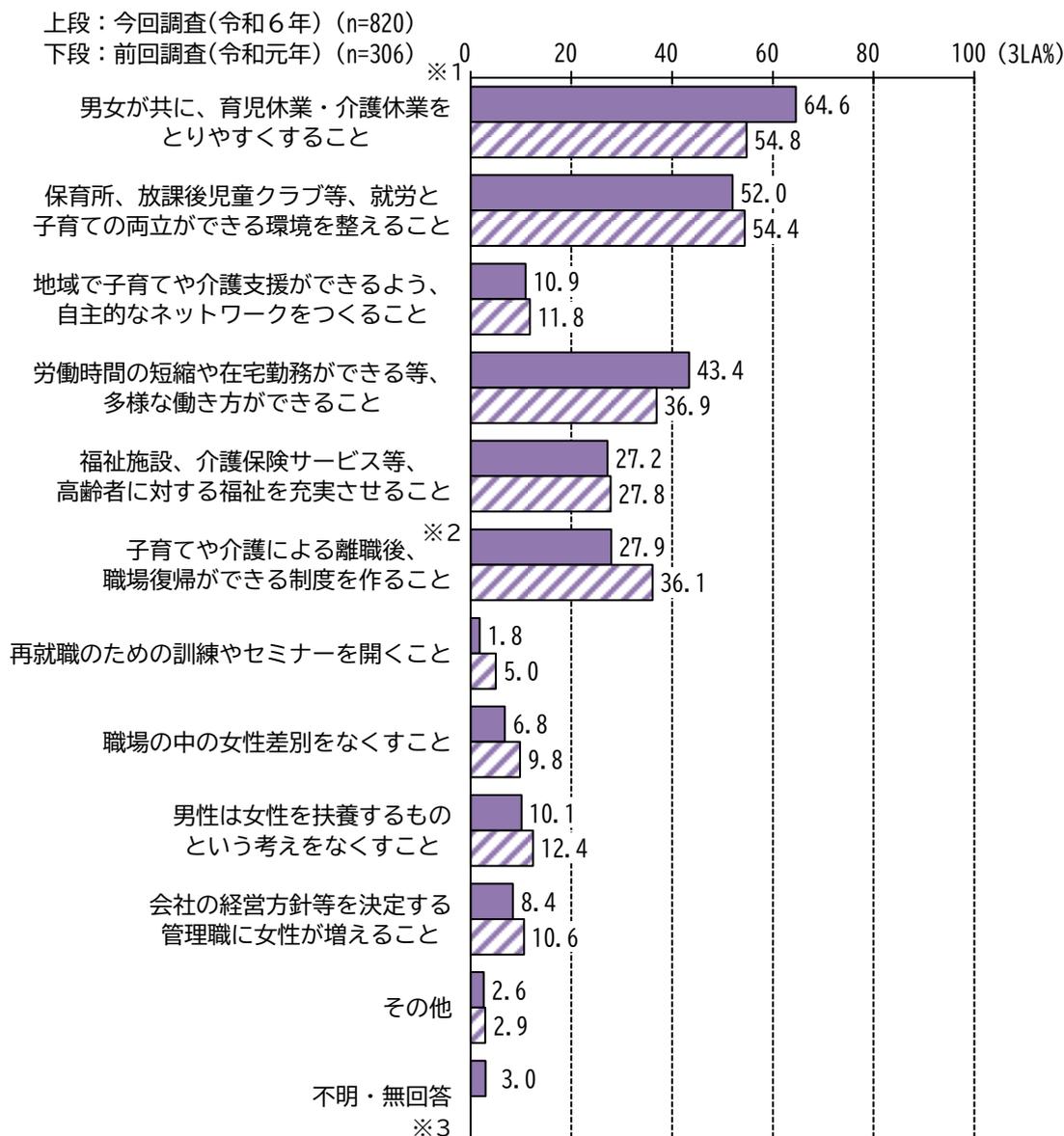


【経年比較】

「男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること」「保育所、放課後児童クラブ等、就労と子育ての両立ができる環境を整えること」「労働時間の短縮や在宅勤務ができる等、多様な働き方ができること」の上位3項目は前回調査と同様です。

第1位の「男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること」は前回調査に比べて約10ポイント高くなっています。

【男女が共に働き活躍できるようにするために必要なこと（経年比較）】



※1 前回調査では「男女が共に育児休業・介護休業をとりやすくなること」

※2 前回調査では「子育てや介護のための離職後、職場復帰ができる制度を作ること」

※3 前回調査では分母に「無回答」を含まない

5. 教育について

問10 次のようなことについてどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

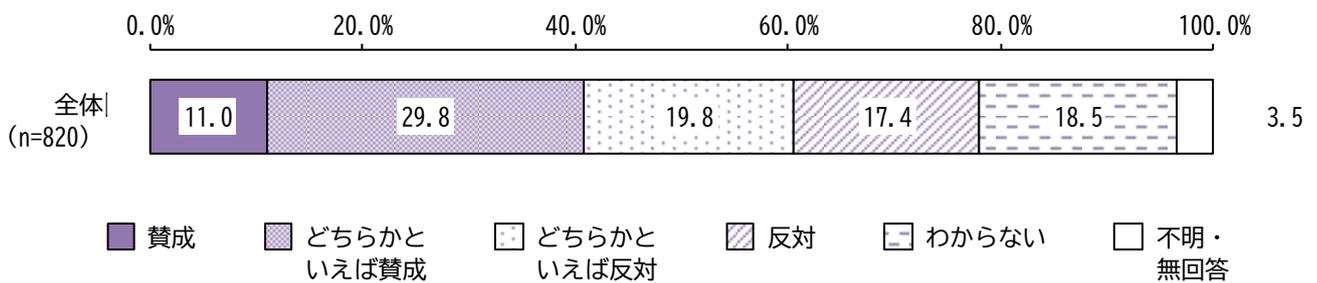
① 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい

【全体】

教育方針についての考え（女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい）について、「どちらかといえば賛成」が29.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が19.8%、「わからない」が18.5%となっています。

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は40.8%となっています。「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”は37.2%となっています。

【①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい】



【性別】

“賛成”は男性が52.0%で女性に比べて多く、“反対”は女性が46.7%で男性に比べて多くなっています。“賛成”と“反対”それぞれ男女で20ポイント前後の差がみられます。

【性・年齢別】

男性の40歳代と50歳代は“賛成”が6割を超えています。

女性の40歳代以下は“反対”が5割を超えています。

		母数 (n)	教育方針についての考え（女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい）					単位：%		
			賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答	賛 成	反 対
全体		820	11.0	29.8	19.8	17.4	18.5	3.5	40.8	37.2
性別	女性	422	7.1	23.9	27.0	19.7	18.5	3.8	31.0	46.7
	男性	367	15.5	36.5	12.5	14.7	17.7	3.0	52.0	27.2
	答えない	17	5.9	29.4	5.9	11.8	47.1	-	35.3	17.7
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	5.9	20.6	38.2	11.8	23.5	-	26.5	50.0
	30歳代	39	5.1	12.8	25.6	28.2	25.6	2.6	17.9	53.8
	40歳代	64	7.8	23.4	23.4	26.6	18.8	-	31.2	50.0
	50歳代	58	3.4	31.0	22.4	20.7	19.0	3.4	34.4	43.1
	60歳代	97	4.1	25.8	28.9	18.6	20.6	2.1	29.9	47.5
	70歳以上	128	11.7	23.4	26.6	16.4	13.3	8.6	35.1	43.0
	男性 20歳代以下	36	11.1	30.6	22.2	16.7	16.7	2.8	41.7	38.9
	30歳代	38	10.5	31.6	7.9	18.4	31.6	-	42.1	26.3
	40歳代	47	21.3	46.8	6.4	8.5	17.0	-	68.1	14.9
	50歳代	49	20.4	40.8	6.1	8.2	24.5	-	61.2	14.3
60歳代	81	11.1	37.0	14.8	18.5	16.0	2.5	48.1	33.3	
70歳以上	115	17.4	33.9	14.8	15.7	11.3	7.0	51.3	30.5	

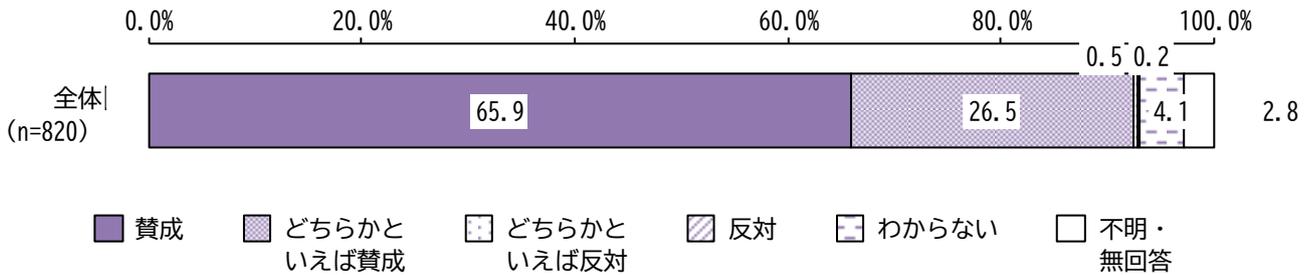
② 女の子も男の子も家事ができるように育てるのがよい

【全体】

教育方針についての考え（女の子も男の子も家事ができるように育てるのがよい）について、「賛成」が65.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が26.5%、「わからない」が4.1%となっています。

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は92.4%となっています。「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”は0.7%となっています。

【②女の子も男の子も家事ができるように育てるのがよい】



【性別】

男女とも“賛成”が9割を超えており、違いは小さくなっています。

【性・年齢別】

男性の70歳以上は“賛成”が他の年齢に比べて少なくなっています。

単位：%

	母数 (n)	教育方針についての考え（女の子も男の子も家事ができるように育てるのがよい）						賛成	反対	
		賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答			
全体	820	65.9	26.5	0.5	0.2	4.1	2.8	92.4	0.7	
性別	女性	422	73.5	21.6	0.2	-	2.6	2.1	95.1	0.2
	男性	367	57.8	32.2	0.5	0.5	5.4	3.5	90.0	1.0
	答えない	17	41.2	35.3	-	-	17.6	5.9	76.5	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	64.7	26.5	2.9	-	5.9	-	91.2	2.9
	30歳代	39	87.2	10.3	-	-	-	2.6	97.5	-
	40歳代	64	79.7	17.2	-	-	3.1	-	96.9	-
	50歳代	58	75.9	22.4	-	-	-	1.7	98.3	-
	60歳代	97	80.4	17.5	-	-	2.1	-	97.9	-
	70歳以上	128	63.3	27.3	-	-	3.9	5.5	90.6	-
	男性 20歳代以下	36	66.7	22.2	-	-	8.3	2.8	88.9	-
	30歳代	38	63.2	28.9	-	-	7.9	-	92.1	-
	40歳代	47	70.2	25.5	2.1	-	2.1	-	95.7	2.1
	50歳代	49	71.4	24.5	-	-	4.1	-	95.9	-
60歳代	81	60.5	34.6	-	-	2.5	2.5	95.1	-	
70歳以上	115	40.0	40.9	0.9	1.7	7.8	8.7	80.9	2.6	

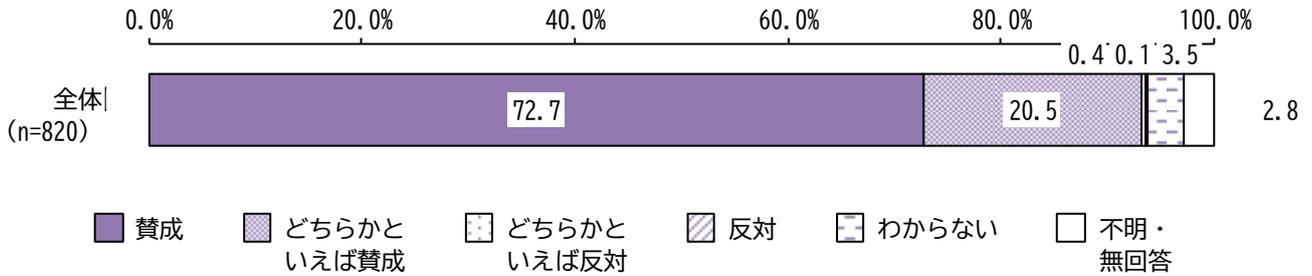
③ 女の子も男の子も経済的に自立できるように育てるのがよい

【全体】

教育方針についての考え（女の子も男の子も経済的に自立できるように育てるのがよい）について、「賛成」が72.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が20.5%、「わからない」が3.5%となっています。

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は93.2%となっています。「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”は0.5%となっています。

【③女の子も男の子も経済的に自立できるように育てるのがよい】



【性別】

男女とも“賛成”が9割を超えており、割合はほとんど差がありません。

【性・年齢別】

女性の70歳以上は“賛成”が他の年齢に比べてやや少なくなっています。

単位：%

	母数 (n)	教育方針についての考え（女の子も男の子も経済的に自立できるように育てるのがよい）						賛成	反対	
		賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わ か ら な い	不明・ 無回答			
全体	820	72.7	20.5	0.4	0.1	3.5	2.8	93.2	0.5	
性別	女性	422	76.1	17.8	0.2	-	2.8	3.1	93.9	0.2
	男性	367	69.5	23.4	0.5	-	4.1	2.5	92.9	0.5
	答えない	17	58.8	29.4	-	-	11.8	-	88.2	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	61.8	29.4	-	-	8.8	-	91.2	-
	30歳代	39	87.2	10.3	-	-	-	2.6	97.5	-
	40歳代	64	84.4	15.6	-	-	-	-	100.0	-
	50歳代	58	81.0	17.2	-	-	-	1.7	98.2	-
	60歳代	97	79.4	16.5	-	-	4.1	-	95.9	-
	70歳以上	128	68.8	18.0	0.8	-	3.9	8.6	86.8	0.8
	男性 20歳代以下	36	80.6	19.4	-	-	-	-	100.0	-
	30歳代	38	73.7	18.4	-	-	7.9	-	92.1	-
	40歳代	47	76.6	17.0	-	-	6.4	-	93.6	-
	50歳代	49	73.5	20.4	2.0	-	4.1	-	93.9	2.0
60歳代	81	67.9	25.9	-	-	3.7	2.5	93.8	-	
70歳以上	115	60.9	28.7	0.9	-	3.5	6.1	89.6	0.9	

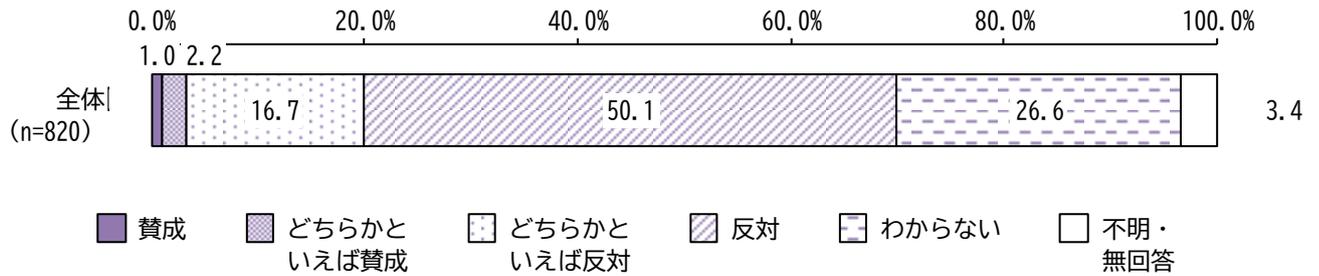
④ 男の子は理系、女の子は文系に進んだ方がよい

【全体】

教育方針についての考え（男の子は理系、女の子は文系に進んだ方がよい）について、「反対」が50.1%で最も多く、次いで「わからない」が26.6%、「どちらかといえば反対」が16.7%となっています。

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は3.2%となっています。「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”は66.8%となっています。

【④男の子は理系、女の子は文系に進んだ方がよい】



【性別】

男女とも“反対”が多数派となっています。

【性・年齢別】

女性の30歳代以下では“反対”8割を超えており、他の年代と10ポイント以上の差があります。

男性の50歳代は“反対”が55.1%で他の年齢よりも少ない一方で「わからない」の回答が多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	教育方針についての考え（男の子は理系、女の子は文系に進んだ方がよい）						賛成	反対	
		賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答			
全体	820	1.0	2.2	16.7	50.1	26.6	3.4	3.2	66.8	
性別	女性	422	0.7	0.5	18.7	52.1	24.9	3.1	1.2	70.8
	男性	367	1.1	3.5	14.7	49.6	27.2	3.8	4.6	64.3
	答えない	17	-	5.9	11.8	17.6	58.8	5.9	5.9	29.4
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	5.9	-	17.6	64.7	11.8	-	5.9	82.3
	30歳代	39	-	-	10.3	71.8	15.4	2.6	-	82.1
	40歳代	64	1.6	-	18.8	51.6	28.1	-	1.6	70.4
	50歳代	58	-	-	17.2	53.4	27.6	1.7	-	70.6
	60歳代	97	-	1.0	20.6	51.5	24.7	2.1	1.0	72.1
	70歳以上	128	-	0.8	20.3	43.0	28.9	7.0	0.8	63.3
	男性 20歳代以下	36	5.6	2.8	5.6	58.3	25.0	2.8	8.4	63.9
	30歳代	38	2.6	-	7.9	65.8	23.7	-	2.6	73.7
	40歳代	47	-	6.4	10.6	48.9	34.0	-	6.4	59.5
	50歳代	49	-	2.0	6.1	49.0	42.9	-	2.0	55.1
60歳代	81	-	2.5	22.2	46.9	23.5	4.9	2.5	69.1	
70歳以上	115	0.9	5.2	20.0	43.5	22.6	7.8	6.1	63.5	

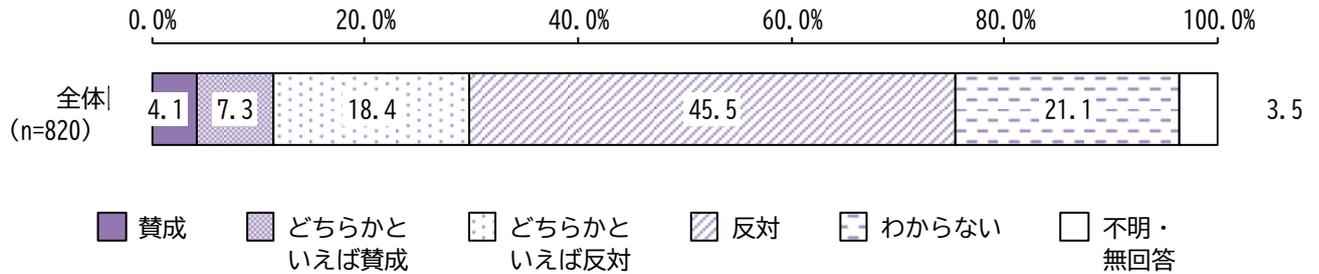
⑤ 女の子は浪人をしてまで志望校にいかなくてもよい

【全体】

教育方針についての考え（女の子は浪人をしてまで志望校にいかなくてもよい）について、「反対」が45.5%で最も多く、次いで「わからない」が21.1%、「どちらかといえば反対」が18.4%となっています。

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は11.4%となっています。「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”は63.9%となっています。

【⑤女の子は浪人をしてまで志望校にいかなくてもよい】



【性別】

“反対”は女性が68.5%で男性の59.9%に比べて8.6ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の50歳代と60歳代は“反対”が75%を超えて、他の年齢に比べて多くなっています。男性の20歳代以下では“反対”が44.4%と他の年齢に比べて少なくなっています。

単位：%

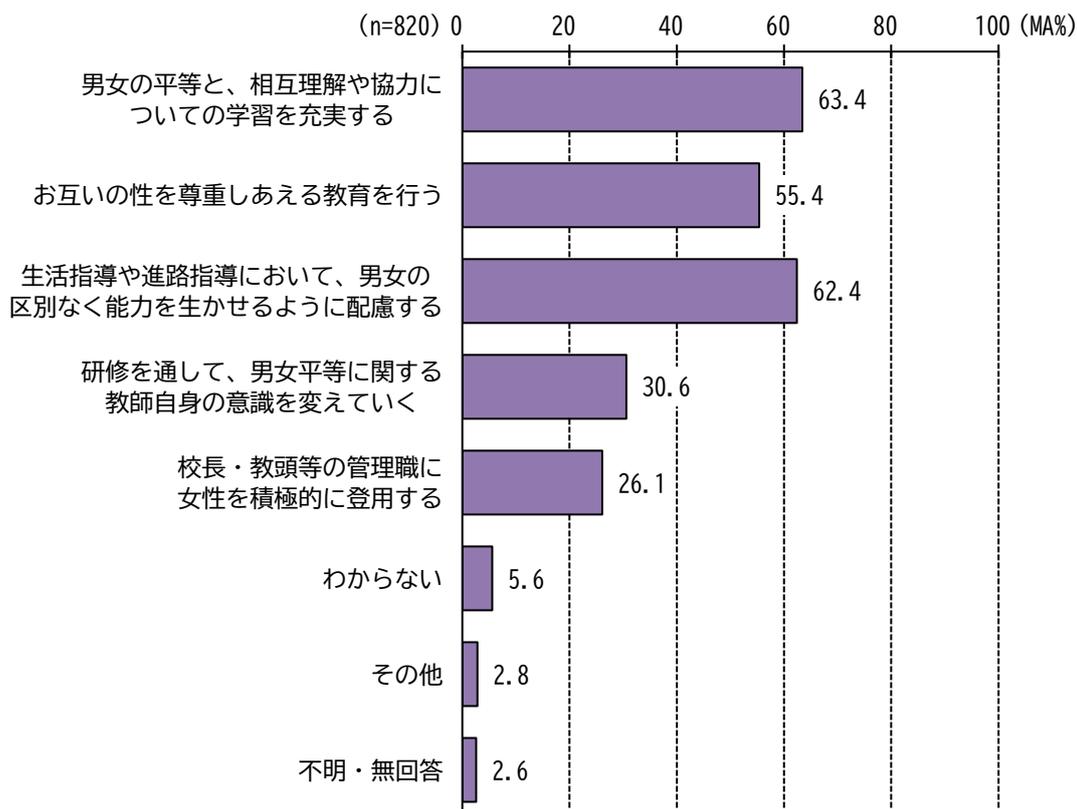
	母数 (n)	教育方針についての考え（女の子は浪人をしてまで志望校にいかなくてもよい）							賛成	反対
		賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答			
全体	820	4.1	7.3	18.4	45.5	21.1	3.5	11.4	63.9	
性別	女性	422	3.1	6.6	20.4	48.1	18.2	3.6	9.7	68.5
	男性	367	4.9	8.2	16.6	43.3	23.4	3.5	13.1	59.9
	答えない	17	5.9	5.9	11.8	23.5	52.9	-	11.8	35.3
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	8.8	5.9	23.5	47.1	14.7	-	14.7	70.6
	30歳代	39	5.1	2.6	12.8	53.8	20.5	5.1	7.7	66.6
	40歳代	64	3.1	4.7	14.1	57.8	20.3	-	7.8	71.9
	50歳代	58	-	3.4	31.0	48.3	15.5	1.7	3.4	79.3
	60歳代	97	2.1	3.1	22.7	52.6	17.5	2.1	5.2	75.3
	70歳以上	128	3.1	12.5	18.8	38.3	19.5	7.8	15.6	57.1
	男性 20歳代以下	36	8.3	8.3	8.3	36.1	36.1	2.8	16.6	44.4
	30歳代	38	2.6	-	18.4	44.7	34.2	-	2.6	63.1
	40歳代	47	4.3	12.8	8.5	44.7	29.8	-	17.1	53.2
	50歳代	49	6.1	4.1	18.4	42.9	28.6	-	10.2	61.3
60歳代	81	1.2	7.4	19.8	51.9	16.0	3.7	8.6	71.7	
70歳以上	115	6.1	11.3	19.1	39.1	16.5	7.8	17.4	58.2	

問11 男女共同参画を進めていくために、学校教育の現場ではどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】

男女共同参画を進めていくために、学校教育の現場で必要なことについて、「男女の平等と、相互理解や協力についての学習を充実する」が63.4%で最も多く、次いで「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」が62.4%、「お互いの性を尊重しあえる教育を行う」が55.4%となっています。

【男女共同参画を進めていくために、学校教育の現場で必要なこと (MA)】



【性別】

女性は「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」が66.4%で最も多くなっています。「わからない」「その他」を除くすべての選択肢で女性の回答割合の方が男性よりも多くなっています。

【性・年齢別】

「男女の平等と、相互理解や協力についての学習を充実する」は男性の30歳代が76.3%と他の年齢に比べて多くなっています。

「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」は女性の60歳以上は7割を超えており、他の年齢に比べて多くなっています。

「お互いの性を尊重しあえる教育を行う」は女性の30歳代と40歳代が他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	男女共同参画を進めていくために、学校教育の現場で必要なこと (MA)							
			の男女 学習の平 等と、相 互理解 や協力 につい て	お 互 い の 性 を 尊 重 し あ え る 教 育 を 行 う	区 別 な く 能 力 を 生 か せ る よ う に 、 配 慮 す る	生 活 指 導 や 進 路 指 導 に お い て 、 男 女 の 配 慮 す る	自 身 の 意 識 を 変 え て い く	研 修 を 通 し て 、 男 女 平 等 に 関 す る 教 師	に 校 長 ・ 教 頭 等 の 管 理 職 に 女 性 を 積 極 的	わ か ら な い
全体		820	63.4	55.4	62.4	30.6	26.1	5.6	2.8	2.6
性別	女性	422	65.4	56.9	66.4	32.7	27.0	4.3	1.9	2.1
	男性	367	61.9	54.8	58.9	28.6	25.1	6.5	3.8	3.0
	答えない	17	35.3	41.2	58.8	29.4	17.6	23.5	5.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	58.8	58.8	52.9	23.5	23.5	8.8	-	-
	30歳代	39	66.7	66.7	51.3	25.6	30.8	2.6	5.1	7.7
	40歳代	64	68.8	70.3	54.7	39.1	20.3	1.6	4.7	-
	50歳代	58	63.8	55.2	58.6	22.4	27.6	6.9	3.4	1.7
	60歳代	97	68.0	62.9	74.2	37.1	23.7	2.1	1.0	-
	70歳以上	128	64.1	43.0	78.1	35.2	32.8	5.5	-	3.9
	男性 20歳代以下	36	52.8	47.2	44.4	25.0	19.4	5.6	2.8	-
	30歳代	38	76.3	55.3	68.4	28.9	26.3	7.9	5.3	-
	40歳代	47	59.6	61.7	53.2	31.9	27.7	8.5	4.3	-
	50歳代	49	59.2	65.3	55.1	22.4	20.4	8.2	4.1	-
60歳代	81	58.0	59.3	54.3	25.9	19.8	4.9	7.4	3.7	
70歳以上	115	65.2	46.1	67.8	33.0	31.3	6.1	0.9	7.0	

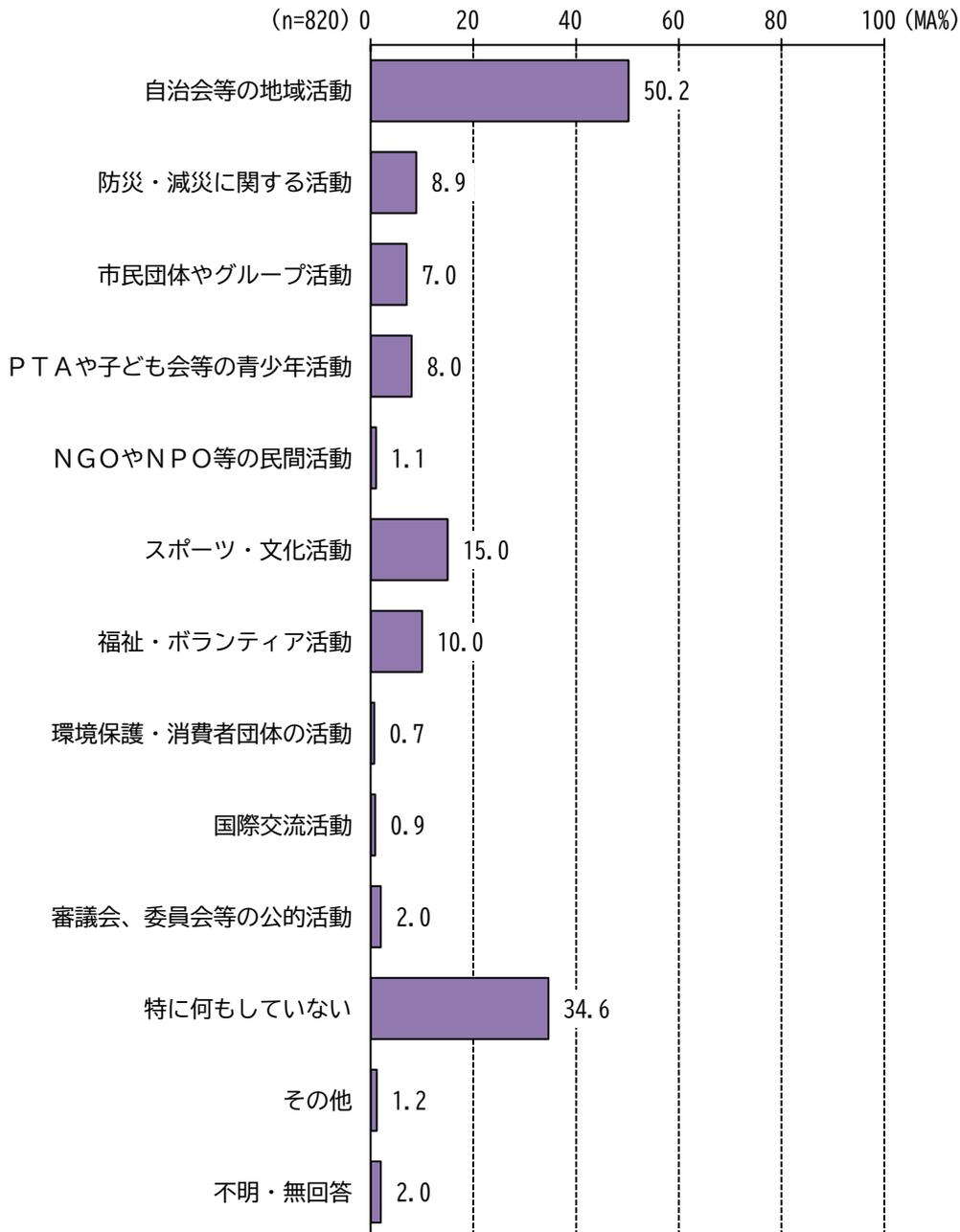
6. 社会活動への参加について

問12 現在、どのような社会活動に参加をしていますか。(〇はいくつでも)

【全体】

社会活動への参加状況について、「自治会等の地域活動」が 50.2%で最も多く、次いで「特に何もしていない」が 34.6%、「スポーツ・文化活動」が 15.0%となっています。

【社会活動への参加状況 (MA)】



【性別】

「自治会等の地域活動」は男性が58.9%と女性に比べて15.8ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

「自治会等の地域活動」は男性の60歳代は76.5%で特に多くなっています。一方で、男女とも20歳代以下では10%台で他の年齢に比べて少なくなっています。

「PTAや子ども会等の青少年活動」は女性の30歳代と40歳代がそれぞれ30.8%、35.9%で他の年齢に比べて多くなっています。

「特に何もしていない」は男女とも20歳代以下は6割台で他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

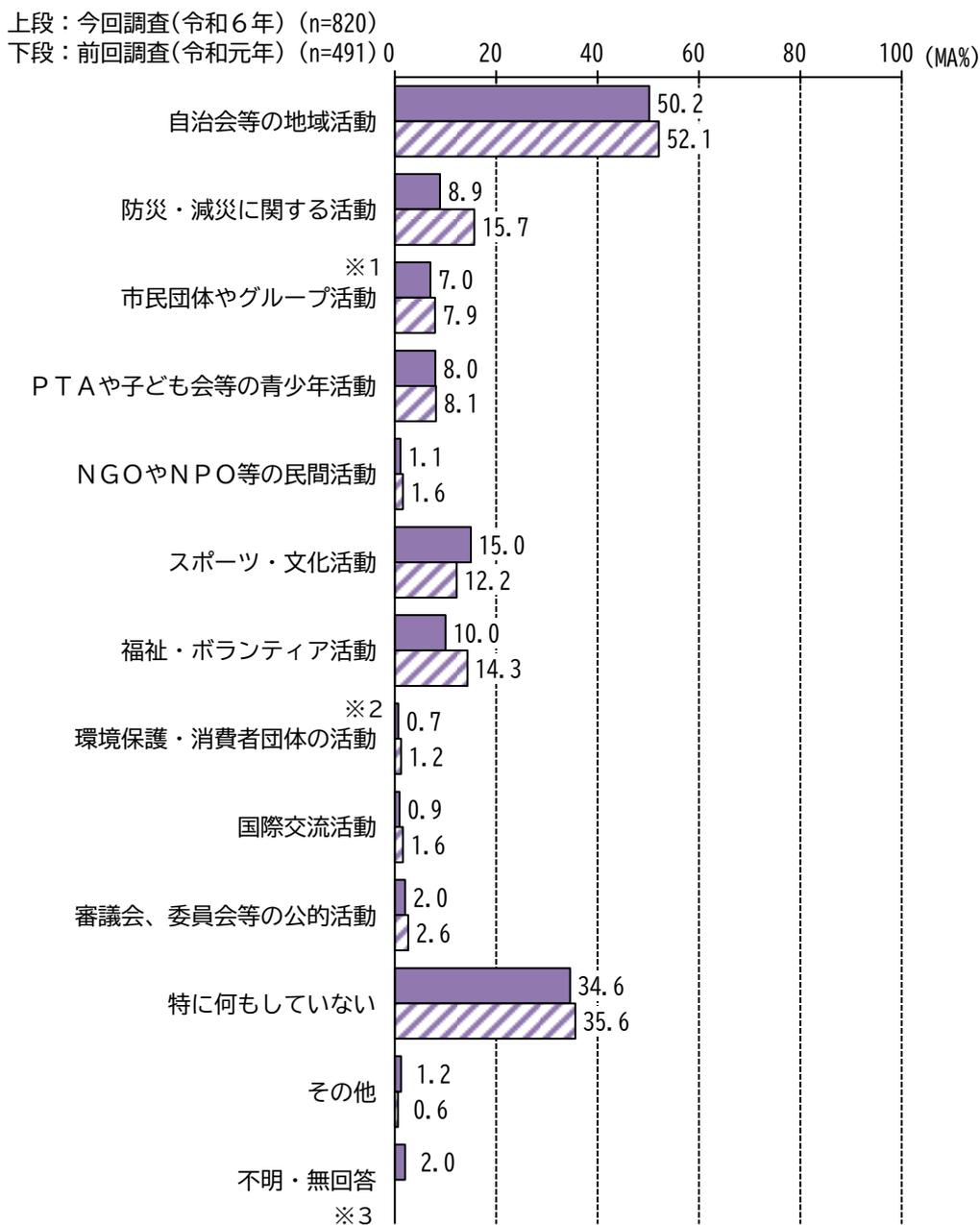
		母数 (n)	社会活動への参加状況 (MA)												
			自治会等の地域活動	防災・減災に関する活動	市民団体やグループ活動	PTAや子ども会等の青少年活動	NGOやNPO等の民間活動	スポーツ・文化活動	福祉・ボランティア活動	環境保護・消費者団体の活動	国際交流活動	審議会、委員会等の公的活動	特に何もしていない	その他	不明・無回答
全体		820	50.2	8.9	7.0	8.0	1.1	15.0	10.0	0.7	0.9	2.0	34.6	1.2	2.0
性別	女性	422	43.1	4.7	6.6	10.4	1.2	14.5	12.3	0.5	1.2	0.5	39.8	1.7	1.2
	男性	367	58.9	13.6	7.9	5.4	1.1	16.1	7.6	1.1	0.5	3.5	27.8	0.8	2.7
	答えない	17	41.2	11.8	-	-	-	5.9	-	-	-	-	52.9	-	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	14.7	2.9	2.9	8.8	-	5.9	5.9	-	2.9	-	67.6	2.9	-
	30歳代	39	46.2	-	-	30.8	5.1	15.4	7.7	-	2.6	-	38.5	-	2.6
	40歳代	64	54.7	6.3	4.7	35.9	-	17.2	3.1	-	-	-	29.7	-	-
	50歳代	58	48.3	3.4	6.9	8.6	1.7	13.8	6.9	-	1.7	-	37.9	1.7	1.7
	60歳代	97	39.2	5.2	6.2	-	-	10.3	14.4	1.0	1.0	-	43.3	1.0	-
	70歳以上	128	43.8	5.5	10.9	0.8	1.6	18.8	19.5	0.8	-	1.6	36.7	3.1	2.3
	男性 20歳代以下	36	13.9	5.6	5.6	5.6	-	19.4	5.6	-	2.8	-	63.9	-	-
	30歳代	38	57.9	10.5	2.6	7.9	-	15.8	2.6	-	-	-	34.2	-	-
	40歳代	47	57.4	17.0	4.3	19.1	-	19.1	6.4	-	-	-	31.9	-	2.1
	50歳代	49	59.2	16.3	8.2	8.2	2.0	16.3	12.2	-	2.0	4.1	28.6	-	-
	60歳代	81	76.5	16.0	7.4	2.5	-	13.6	4.9	1.2	-	4.9	13.6	1.2	3.7
70歳以上	115	60.9	12.2	12.2	-	2.6	15.7	10.4	2.6	-	6.1	22.6	1.7	5.2	

【経年比較】

「自治会等の地域活動」が最も多く、次いで「特に何もしていない」が多いのは、前回調査と同様で、回答割合もほとんど変わっていません。

「防災・減災に関する活動」と「福祉・ボランティア活動」が前回調査に比べてやや少なくなっています。

【社会活動への参加状況（経年比較）】



※1 前回調査では「女性団体やグループ活動」

※2 前回調査では「環境保護・消費者運動」

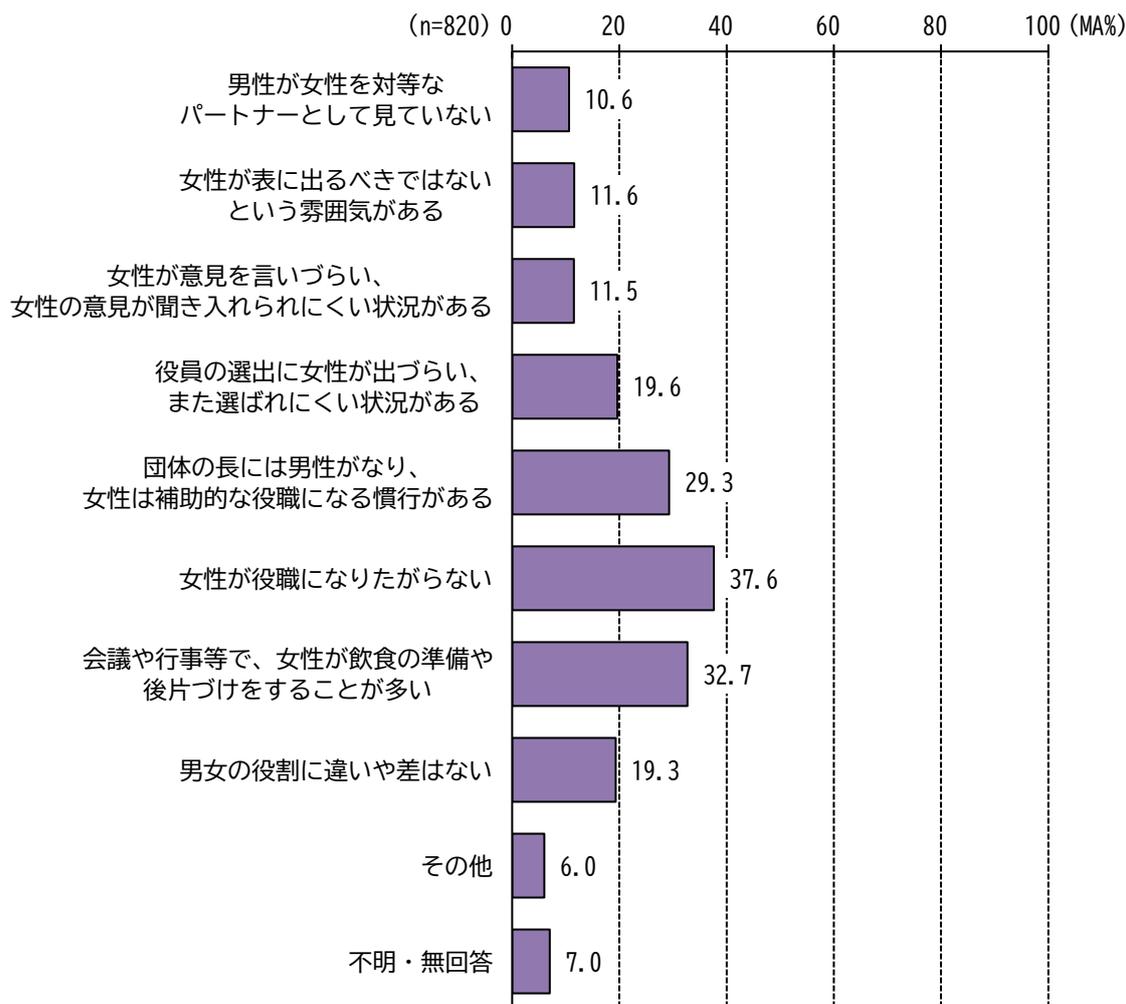
※3 前回調査では分母に「無回答」を含まない

問13 あなたが住んでいる地域(自治会等)で、男女によって役割に違いがあると思いますか。(〇はいいくつでも)

【全体】

住んでいる地域での男女の役割について、「女性が役職になりたがらない」が 37.6%で最も多く、次いで「会議や行事等で、女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い」が 32.7%、「団体の長には男性がなり、女性は補助的な役職になる慣行がある」が 29.3%となっています。
「男女の役割に違いは差はない」は 19.3%となっています。

【住んでいる地域での男女の役割 (MA)】



【性別】

「役員の選出に女性が出づらい、また選ばれにくい状況がある」「女性が役員になりたがらない」「男女の役割に違いや差はない」は男性の方が女性より多くなっていますが、その他の選択肢はいずれも女性の方が多くなっています。

【性・年齢別】

男性の60歳代以上では「女性が役職になりたがらない」が5割前後で他の年齢に比べて多くなっています。

女性の40歳代と50歳代は「女性が表に出るべきではないという雰囲気がある」の回答が約2割となっています。女性の40歳代では「男性が女性を対等なパートナーとして見ていない」も他の年齢に比べて多くなっています。

男性70歳以上は「役員の選出に女性が出づらい、また選ばれにくい状況がある」が30.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

女性70歳以上は「会議や行事等で、女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い」が41.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

「男女の役割に違いや差はない」は男性20歳代以下が50.0%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	住んでいる地域での男女の役割 (MA)									
			男性が女性を対等なパートナーとして	女性が表に出るべきではないという雰囲気がある	女性が意見を言うにづらい状況がある	女性の意見が聞き入れられない	役員に選出に状況がある	団体の職長には慣行があり、女性は補助	女性が役職になりたがらない	会議や行事等で、女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い	男女の役割に違いや差はない	その他
全体		820	10.6	11.6	11.5	19.6	29.3	37.6	32.7	19.3	6.0	7.0
性別	女性	422	11.6	13.0	13.3	16.1	32.7	34.6	35.1	17.3	6.2	8.8
	男性	367	9.5	10.4	9.3	24.5	25.3	41.4	30.0	22.1	5.7	5.4
	答えない	17	5.9	-	5.9	11.8	5.9	35.3	17.6	23.5	11.8	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	8.8	5.9	5.9	14.7	26.5	29.4	26.5	26.5	2.9	5.9
	30歳代	39	10.3	7.7	12.8	17.9	23.1	23.1	33.3	25.6	10.3	10.3
	40歳代	64	17.2	18.8	17.2	15.6	32.8	32.8	34.4	15.6	14.1	4.7
	50歳代	58	8.6	19.0	15.5	19.0	29.3	43.1	32.8	13.8	5.2	6.9
	60歳代	97	9.3	12.4	12.4	11.3	33.0	38.1	32.0	20.6	8.2	9.3
	70歳以上	128	13.3	11.7	13.3	18.8	38.3	33.6	41.4	11.7	0.8	11.7
	男性 20歳代以下	36	-	2.8	11.1	8.3	11.1	13.9	25.0	50.0	8.3	2.8
	30歳代	38	5.3	7.9	-	21.1	13.2	23.7	21.1	36.8	13.2	7.9
	40歳代	47	10.6	8.5	12.8	25.5	31.9	42.6	34.0	21.3	2.1	4.3
	50歳代	49	6.1	14.3	10.2	24.5	26.5	36.7	28.6	30.6	8.2	-
	60歳代	81	13.6	8.6	9.9	24.7	25.9	54.3	23.5	11.1	4.9	6.2
70歳以上	115	12.2	13.0	9.6	30.4	29.6	48.7	37.4	13.0	3.5	7.8	

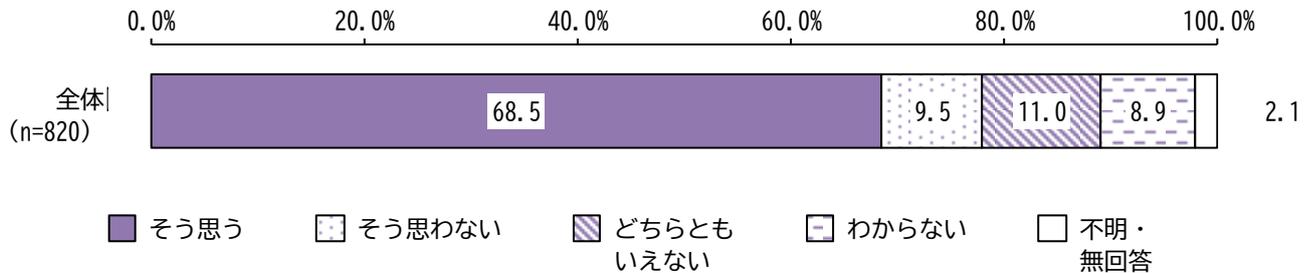
7. 防災について

問14 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

【全体】

防災・災害復興対策における性別に配慮した対応について、「そう思う」が68.5%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が11.0%、「そう思わない」が9.5%となっています。

【防災・災害復興対策における性別に配慮した対応】



【性別】

「そう思う」は女性72.3%、男性65.4%で女性の方が6.9ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

女性の40歳代と60歳代は「そう思う」が8割前後で他の年齢に比べて多くなっています。男性の40歳代以上に「そう思わない」の回答がやや多い傾向です。

単位：%

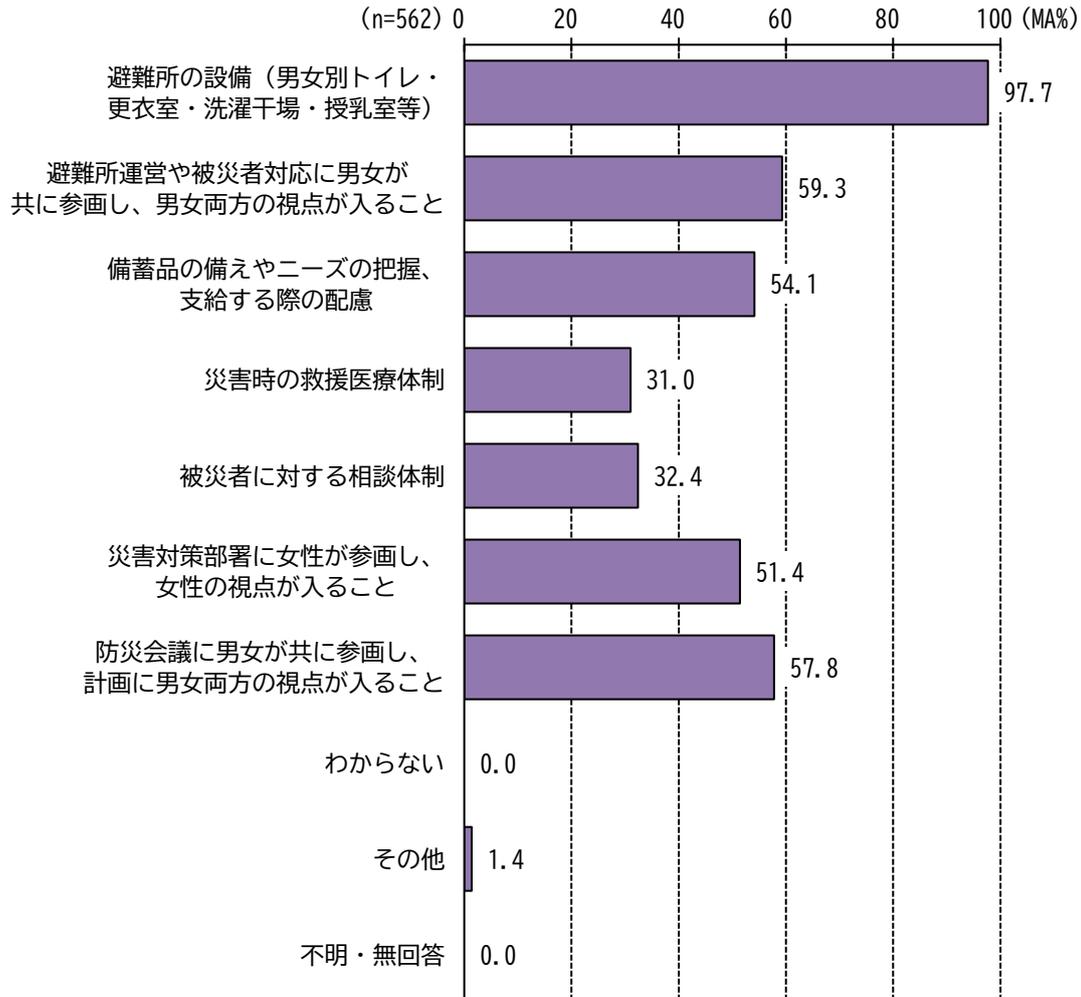
	母数 (n)	防災・災害復興対策における性別に配慮した対応					
		そう思う	そう思わない	どちらともいえない	わからない	不明・無回答	
全体	820	68.5	9.5	11.0	8.9	2.1	
性別	女性	422	72.3	5.9	11.6	8.8	1.4
	男性	367	65.4	13.9	9.8	8.7	2.2
	答えない	17	52.9	5.9	11.8	11.8	17.6
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	70.6	8.8	8.8	11.8	-
	30歳代	39	74.4	5.1	12.8	5.1	2.6
	40歳代	64	82.8	4.7	6.3	6.3	-
	50歳代	58	69.0	3.4	12.1	15.5	-
	60歳代	97	79.4	5.2	8.2	7.2	-
	70歳以上	128	62.5	7.8	17.2	8.6	3.9
	男性 20歳代以下	36	52.8	11.1	22.2	13.9	-
	30歳代	38	73.7	7.9	5.3	13.2	-
	40歳代	47	66.0	14.9	12.8	6.4	-
	50歳代	49	71.4	14.3	4.1	8.2	2.0
60歳代	81	67.9	16.0	6.2	8.6	1.2	
70歳以上	115	62.6	14.8	11.3	6.1	5.2	

問15 問14で「1. そう思う」と答えた方におたずねします。防災・災害復興対策で性別に配慮した対応が必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

【全体】

防災・災害復興対策において必要だと思う性別に配慮した対応について、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・洗濯干場・授乳室等）」が 97.7%で最も多く、次いで「避難所運営や被災者対応に男女が共に参画し、男女両方の視点が入ること」が 59.3%、「防災会議に男女が共に参画し、計画に男女両方の視点が入ること」が 57.8%となっています。

【防災・災害復興対策において必要だと思う性別に配慮した対応（MA）】



【性別】

性別による回答の違いはほとんどありません。

【性・年齢別】

いずれの年齢とも「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・洗濯干場・授乳室等）」が最も多いことは共通しています。

女性の50歳代、男性の20歳代以下は「避難所運営や被災者対応に男女が共に参画し、男女両方の視点が入ること」が他の年齢に比べて少なくなっています。

「防災会議に男女が共に参画し、計画に男女両方の視点が入ること」は男性70歳代以上が72.2%と他の年齢に比べて多くなっています。

女性の20歳代以下は「備蓄品の備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が75.0%と他の年齢に比べて多くなっています。

「災害時の救援医療体制」は男性30歳代が46.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

「被災者に対する相談体制」は男性30歳代が46.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	防災・災害復興対策において必要だと思う性別に配慮した対応 (MA)									
			洗濯干場・設備（男女別トイレ・更衣室・授乳室等）	避難所、運営や被災者対応に男女が共に参画すること	備蓄品の備えやニーズの把握、支給すること	災害時の救援医療体制	被災者に対する相談体制	災害対策部署に女性が参画し、女性の視点が入ること	防災会議に男女が共に参画し、計画に男女両方の視点が入ること	わからない	その他	不明・無回答
全体		562	97.7	59.3	54.1	31.0	32.4	51.4	57.8	-	1.4	-
性別	女性	305	98.0	58.4	55.4	30.2	31.1	50.5	57.4	-	1.0	-
	男性	240	97.1	61.7	53.8	32.1	35.0	52.1	59.2	-	2.1	-
	答えない	9	100.0	33.3	33.3	22.2	22.2	55.6	22.2	-	-	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	24	100.0	62.5	75.0	16.7	16.7	41.7	33.3	-	-	-
	30歳代	29	96.6	62.1	51.7	27.6	27.6	48.3	51.7	-	-	-
	40歳代	53	100.0	54.7	64.2	32.1	32.1	54.7	58.5	-	1.9	-
	50歳代	40	97.5	45.0	57.5	25.0	35.0	47.5	47.5	-	2.5	-
	60歳代	77	100.0	62.3	53.2	37.7	36.4	51.9	61.0	-	-	-
	70歳以上	80	95.0	60.0	47.5	30.0	30.0	52.5	66.3	-	1.3	-
	男性 20歳代以下	19	100.0	36.8	52.6	31.6	26.3	42.1	47.4	-	5.3	-
	30歳代	28	92.9	57.1	64.3	46.4	46.4	46.4	64.3	-	7.1	-
	40歳代	31	96.8	67.7	54.8	29.0	32.3	54.8	45.2	-	-	-
	50歳代	35	100.0	68.6	62.9	31.4	40.0	48.6	48.6	-	2.9	-
60歳代	55	92.7	63.6	47.3	30.9	30.9	52.7	58.2	-	1.8	-	
70歳以上	72	100.0	62.5	50.0	29.2	34.7	56.9	72.2	-	-	-	

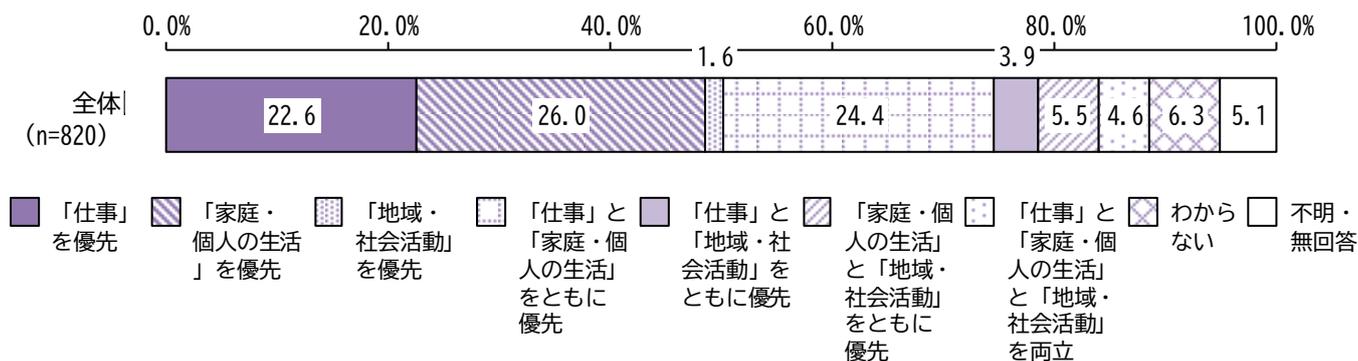
8. ワーク・ライフ・バランスについて

問16 生活の中での、「仕事」、「家庭・個人の生活」、「地域・社会活動」の優先度について、あなたに最も近いものをそれぞれ1つだけ選んでください。

【全体】

生活の中での優先度（現状（現実））について、「家庭・個人の生活」を優先」が 26.0%で最も多く、次いで「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先」が 24.4%、「仕事」を優先」が 22.6%となっています。

【生活の中での優先度（現状（現実））】



【性別】

「仕事」を優先は男性が27.8%で女性に比べて約10ポイント多い一方で、「家庭・個人の生活」を優先は女性が31.8%で男性と比べて約10ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

「仕事」を優先は男性の40歳代と50歳代が4割を超えて特に多くなっています。

「家庭・個人の生活」を優先は女性70歳以上が43.0%で他の年齢と比べて多くなっています。

「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先は男女とも30歳代は他の年齢に比べて多くなっています。

【性・職業別】

「仕事」を優先は男女とも正社員と自営業で他の職業に比べて多くなっています。

「家庭・個人の生活」を優先は女性の主婦と学生・無職が約5割で他の職業に比べて多くなっています。

「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先は女性のパート等が特に多いですが、男女とも正社員でも3割を超えています。

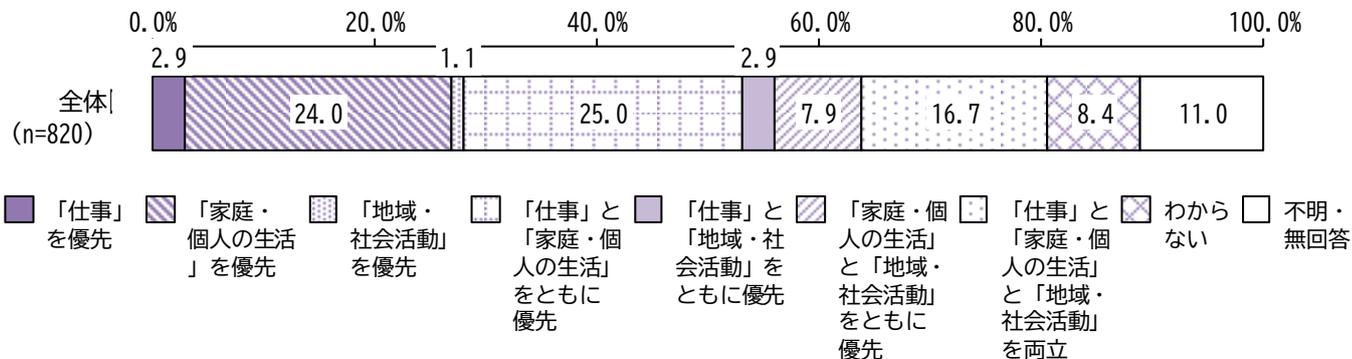
単位：%

		母数 (n)	生活の中での優先度（現状（現実））								不明・無回答
			「仕事」を優先	「家庭・個人の生活」を優先	「地域・社会活動」を優先	の「生活」と「仕事」をともに優先	活動」と「地域・社会	「仕事」と「地域・社会活動」をともに優先	「家庭・個人の生活」と「地域・社会活動」を両立	わからない	
全体		820	22.6	26.0	1.6	24.4	3.9	5.5	4.6	6.3	5.1
性別	女性	422	18.2	31.8	1.4	25.4	2.1	6.4	3.6	6.6	4.5
	男性	367	27.8	19.3	1.6	24.0	6.0	4.9	6.3	5.7	4.4
	答えない	17	11.8	35.3	-	11.8	-	-	-	11.8	29.4
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	20.6	29.4	-	35.3	-	-	-	14.7	-
	30歳代	39	23.1	28.2	-	41.0	-	-	5.1	-	2.6
	40歳代	64	31.3	32.8	-	21.9	6.3	4.7	1.6	1.6	-
	50歳代	58	25.9	13.8	1.7	39.7	3.4	1.7	6.9	5.2	1.7
	60歳代	97	15.5	29.9	2.1	30.9	1.0	9.3	3.1	6.2	2.1
	70歳以上	128	8.6	43.0	2.3	9.4	-	10.9	3.9	10.2	11.7
	男性 20歳代以下	36	38.9	16.7	-	27.8	2.8	-	5.6	8.3	-
	30歳代	38	23.7	23.7	-	39.5	5.3	-	-	5.3	2.6
	40歳代	47	44.7	14.9	-	34.0	6.4	-	-	-	-
	50歳代	49	42.9	10.2	2.0	24.5	6.1	2.0	6.1	4.1	2.0
60歳代	81	25.9	19.8	1.2	23.5	6.2	3.7	13.6	2.5	3.7	
70歳以上	115	13.0	24.3	3.5	13.9	7.0	12.2	6.1	10.4	9.6	
性・職業別	女性 正社員	86	45.3	5.8	1.2	34.9	4.7	1.2	2.3	3.5	1.2
	パート等	118	12.7	25.4	1.7	44.9	2.5	-	5.9	5.1	1.7
	自営業・家族従事者・その他	35	34.3	25.7	-	34.3	2.9	-	2.9	-	-
	主婦・主夫	110	6.4	50.9	0.9	6.4	-	16.4	0.9	9.1	9.1
	学生・無職	72	5.6	47.2	2.8	6.9	-	11.1	5.6	12.5	8.3
	男性 正社員	165	37.0	13.9	-	31.5	5.5	0.6	6.7	2.4	2.4
	パート等	52	26.9	21.2	3.8	23.1	7.7	3.8	11.5	-	1.9
	自営業・家族従事者・その他	52	38.5	9.6	-	23.1	11.5	1.9	5.8	5.8	3.8
	主婦・主夫	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
学生・無職	97	7.2	33.0	4.1	12.4	2.1	14.4	3.1	14.4	9.3	

【全体】

生活の中での優先度（希望）について、「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先が25.0%で最も多く、次いで「家庭・個人の生活」を優先が24.0%、「仕事」と「家庭・個人の生活」と「地域・社会活動」を両立が16.7%となっています。

【生活の中での優先度（希望）】



【性別】

希望は現実と異なり、男女とも「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先」「家庭・個人の生活」を優先」が2割台で、性別による回答の差は小さくなっています。全体で3番目に多い「仕事」と「家庭・個人の生活」と「地域・社会活動」を両立」は男女とも16.6%で同じ割合です。

【性・年齢別】

女性の30歳代は「家庭・個人の生活」を優先」が48.7%で特に多くなっています。

「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先」は女性の50歳代、男性の30歳代、40歳代で4割を超えており、他の年齢に比べて多くなっています。

【性・職業別】

男女とも正社員は「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先」が他の職業に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	生活の中での優先度（希望）								
			「仕事」を優先	「家庭・個人の生活」を優先	「地域・社会活動」を優先	の「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先	活動」と「地域・社会」をともに優先	社会活動」と「家庭・個人の生活」と「地域・社会活動」をともに優先	と「仕事」と「家庭・個人の生活」を両立	わからない	不明・無回答
全体		820	2.9	24.0	1.1	25.0	2.9	7.9	16.7	8.4	11.0
性別	女性	422	0.7	25.4	0.9	24.2	2.4	9.0	16.6	9.5	11.4
	男性	367	5.7	22.6	1.4	27.0	3.8	6.8	16.6	6.5	9.5
	答えない	17	-	41.2	-	5.9	-	-	11.8	23.5	17.6
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	29.4	2.9	38.2	-	-	11.8	14.7	2.9
	30歳代	39	-	48.7	-	35.9	-	-	10.3	-	5.1
	40歳代	64	1.6	34.4	-	26.6	3.1	4.7	18.8	7.8	3.1
	50歳代	58	1.7	24.1	-	46.6	1.7	-	15.5	6.9	3.4
	60歳代	97	1.0	17.5	-	20.6	5.2	11.3	23.7	10.3	10.3
	70歳以上	128	-	19.5	2.3	8.6	1.6	18.8	12.5	12.5	24.2
	男性 20歳代以下	36	8.3	22.2	-	36.1	5.6	-	11.1	16.7	-
	30歳代	38	5.3	28.9	-	42.1	-	5.3	7.9	7.9	2.6
	40歳代	47	10.6	31.9	-	40.4	2.1	2.1	8.5	4.3	-
	50歳代	49	10.2	22.4	2.0	32.7	-	-	20.4	6.1	6.1
60歳代	81	2.5	21.0	2.5	28.4	1.2	9.9	21.0	3.7	9.9	
70歳以上	115	3.5	18.3	1.7	10.4	7.8	12.2	20.0	6.1	20.0	
性・職業別	女性 正社員	86	-	26.7	-	43.0	2.3	2.3	18.6	2.3	4.7
	パート等	118	1.7	31.4	-	27.1	3.4	2.5	16.9	7.6	9.3
	自営業・家族従事者・その他	35	2.9	8.6	2.9	31.4	-	5.7	22.9	11.4	14.3
	主婦・主夫	110	-	29.1	0.9	11.8	0.9	19.1	11.8	10.9	15.5
	学生・無職	72	-	16.7	2.8	12.5	4.2	13.9	16.7	18.1	15.3
	男性 正社員	165	7.3	25.5	-	37.0	2.4	3.0	15.2	6.1	3.6
	パート等	52	1.9	13.5	5.8	25.0	3.8	9.6	23.1	7.7	9.6
	自営業・家族従事者・その他	52	7.7	15.4	-	30.8	-	5.8	23.1	5.8	11.5
主婦・主夫	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
学生・無職	97	4.1	25.8	2.1	9.3	8.2	12.4	12.4	7.2	18.6	

【経年比較】

(現実)

全体では、前回調査と比べて「仕事」を優先」と「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先」がわずかに増加しています。

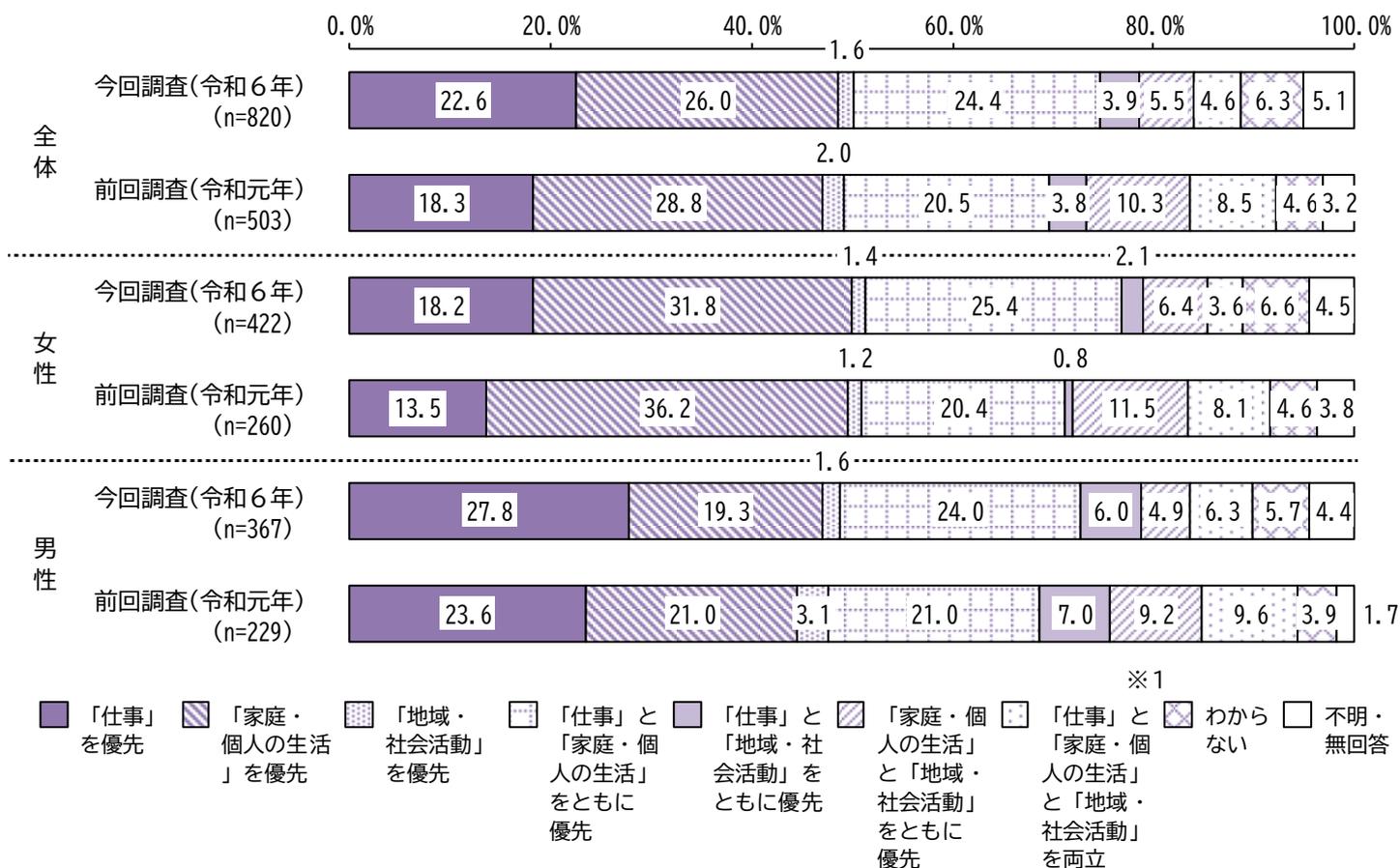
性別でみると、男女とも全体と同様の傾向となっています。

(理想)

全体では、前回調査と比べて「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先」が減少しています。それ以外の選択肢では大きな変化はみられませんが、「わからない」と不明・無回答の割合が前回調査に比べて10.0ポイント増加しています。

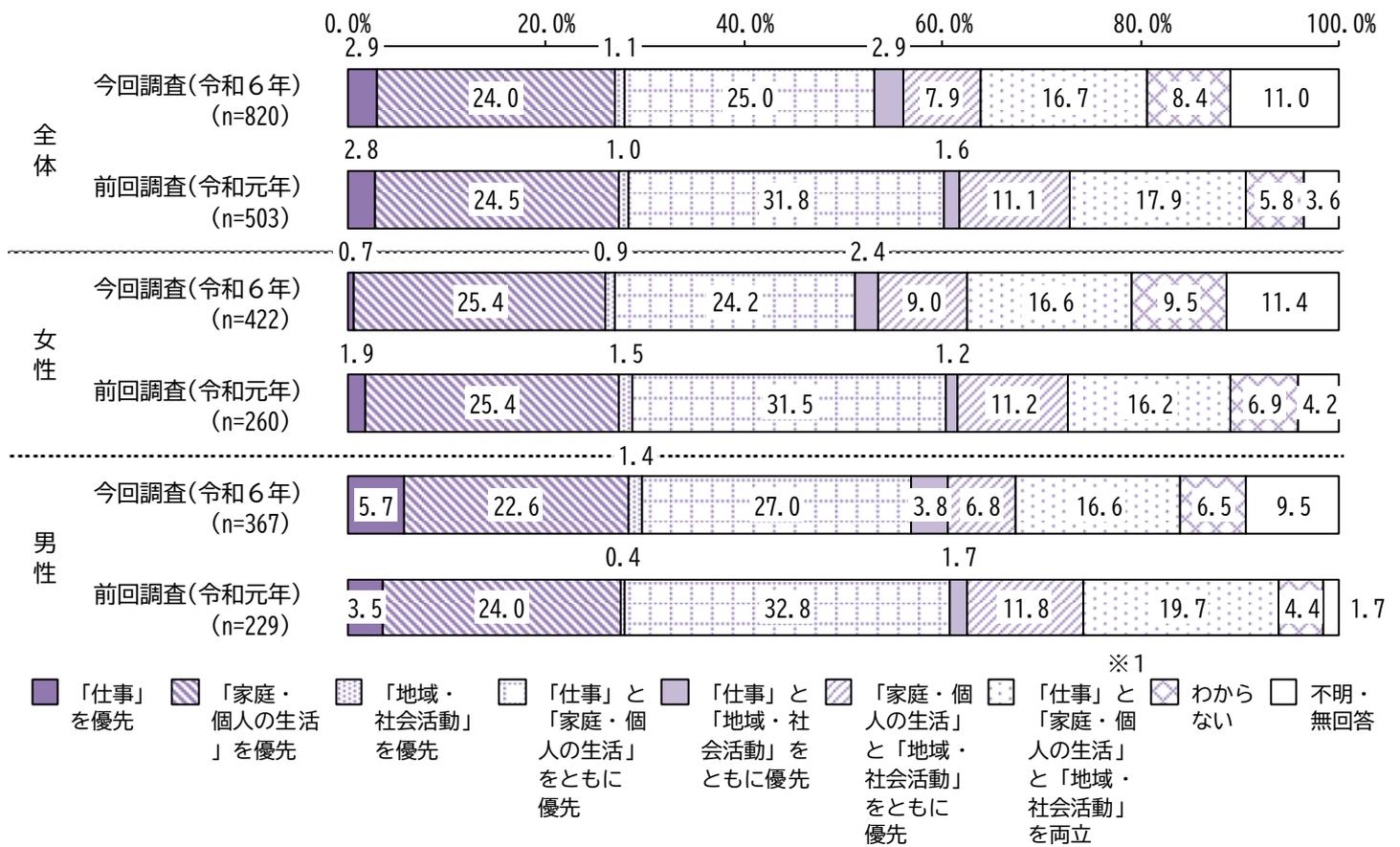
性別でみると、男女とも概ね全体と同様の傾向となっています。

【生活の中での優先度（現状（現実））（経年比較）】



※1 前回調査では「『仕事』と『家庭・個人の生活』と『地域・社会活動』をともに優先」

【生活の中での優先度（希望）（経年比較）】



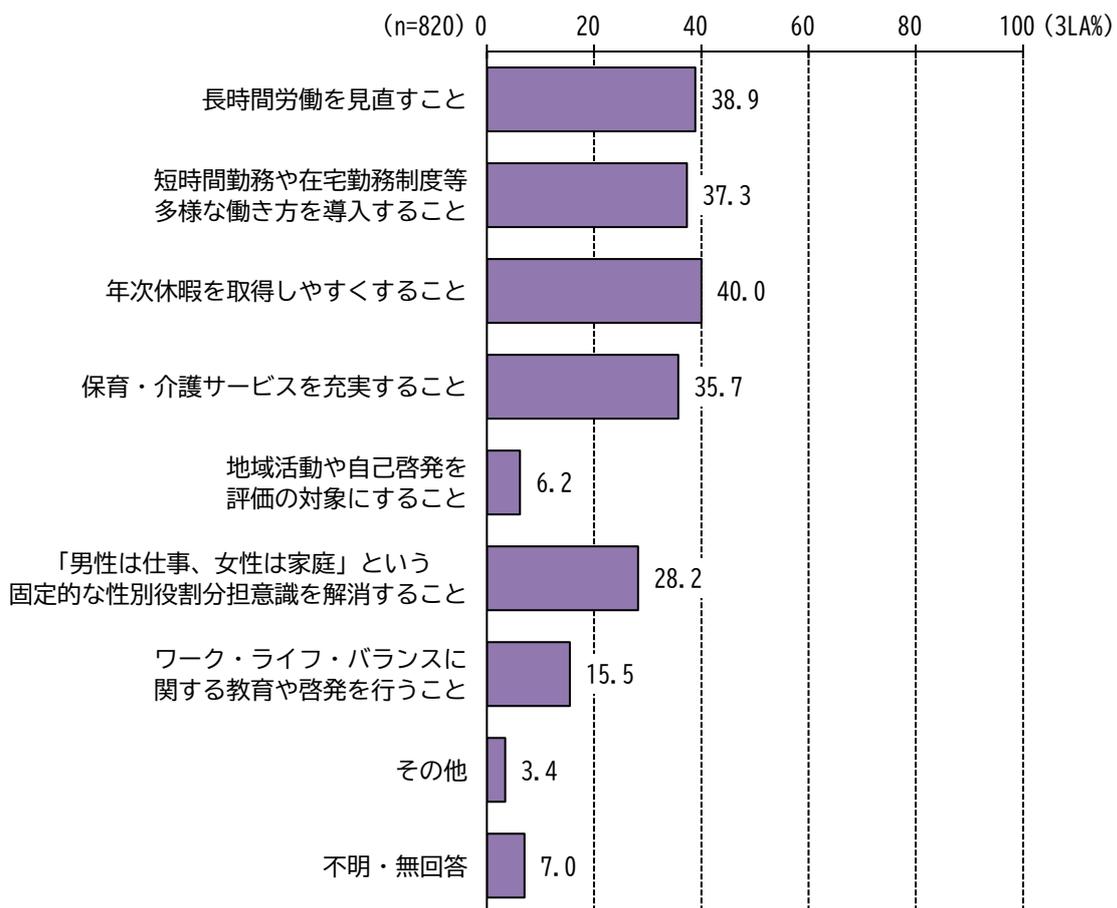
※1 前回調査では「『仕事』と『家庭・個人の生活』と『地域・社会活動』をともに」

問17 ワーク・ライフ・バランスを推進し、生活の中での優先度をあなたの希望に近付けるためにはどのようにすればいいと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

希望する優先度に近づけるために必要なことについて、「年次休暇を取得しやすくすること」が40.0%で最も多く、次いで「長時間労働を見直すこと」が38.9%、「短時間勤務や在宅勤務制度等多様な働き方を導入すること」が37.3%となっています。

【希望する優先度に近づけるために必要なこと (3LA)】



【性別】

「長時間労働を見直すこと」は男性が 45.0%と女性に比べて多く、「保育・介護サービスを充実すること」は女性が 40.0%と男性に比べて多く、それぞれ約 10 ポイントの差がみられています。

また、「男性は仕事、女性は家庭」という固定的な性別役割分担意識を解消すること」は女性の方が多くなっています。

【性・年齢別】

「長時間労働を見直すこと」は男性の 40 歳代以下と女性の 20 歳代以下と 40 歳代では 5 割を超えています。

「短時間勤務や在宅勤務制度等多様な働き方を導入すること」は女性 30 歳代が 56.4%で他の年齢に比べて多くなっています。

「保育・介護サービスを充実すること」は女性 60 歳代が 52.6%と他の年齢に比べて多くなっており、介護との両立の課題がうかがえます。

「男性は仕事、女性は家庭」という固定的な性別役割分担意識を解消すること」は女性の 50 歳代以上と男性の 40 歳代と 70 歳以上では 3 割を超えています。

「ワーク・ライフ・バランスに関する教育や啓発を行うこと」は女性 50 歳代が 31.0%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	希望する優先度に近づくために必要なこと (3LA)								
			長時間労働を見直すこと	短時間勤務や在宅勤務制度等多様な働き方を導入すること	年次休暇を取得しやすくすること	保育・介護サービスを充実すること	地域活動や自己啓発を評価の対象にすること	固定的な性別役割分担意識を解消すること	「男性は仕事、女性は家庭」という意識を解消すること	ワーク・ライフ・バランスに関する教育や啓発を行うこと	その他
全体		820	38.9	37.3	40.0	35.7	6.2	28.2	15.5	3.4	7.0
性別	女性	422	34.6	39.3	38.2	40.0	4.5	31.5	14.7	2.4	8.1
	男性	367	45.0	35.7	42.8	31.6	8.4	24.8	16.6	4.6	5.2
	答えない	17	29.4	29.4	41.2	29.4	-	23.5	5.9	-	11.8
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	52.9	44.1	50.0	20.6	5.9	11.8	20.6	-	-
	30歳代	39	46.2	56.4	41.0	41.0	-	23.1	5.1	5.1	-
	40歳代	64	51.6	39.1	46.9	34.4	7.8	20.3	10.9	4.7	-
	50歳代	58	36.2	37.9	46.6	24.1	1.7	36.2	31.0	5.2	-
	60歳代	97	27.8	40.2	37.1	52.6	5.2	40.2	12.4	1.0	4.1
	70歳以上	128	22.7	33.6	27.3	45.3	4.7	36.7	12.5	0.8	22.7
	男性 20歳代以下	36	58.3	44.4	52.8	38.9	8.3	11.1	11.1	2.8	-
	30歳代	38	55.3	42.1	47.4	26.3	10.5	15.8	7.9	10.5	-
	40歳代	47	53.2	36.2	57.4	31.9	2.1	36.2	21.3	-	-
	50歳代	49	49.0	30.6	46.9	28.6	12.2	12.2	14.3	4.1	2.0
	60歳代	81	33.3	40.7	38.3	30.9	7.4	23.5	17.3	7.4	7.4
70歳以上	115	40.9	29.6	33.9	32.2	9.6	33.0	20.0	3.5	10.4	

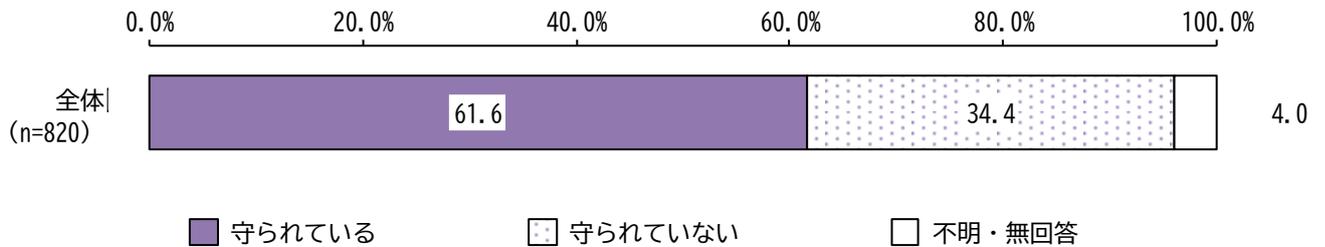
9. 女性に対する人権侵害について

問18 あなたは、女性の人権は守られていると思いますか。(○は1つだけ)

【全体】

女性の人権が守られているかについて、「守られている」が 61.6%、「守られていない」が 34.4%となっています。

【女性の人権が守られているか】



【性別】

「守られていない」は女性が 37.9%で男性に比べて多くなっています。

【性・年齢別】

「守られていない」は女性の 40 歳代が 48.4%と半数近くを占めて特に多く、男性 60 歳代も 40.7%で他の年齢に比べて多くなっています。

「守られている」は男性の 20 歳代以下が 88.9%と特に多く、30 歳代以下では男女とも他の年齢に比べて多い傾向です。

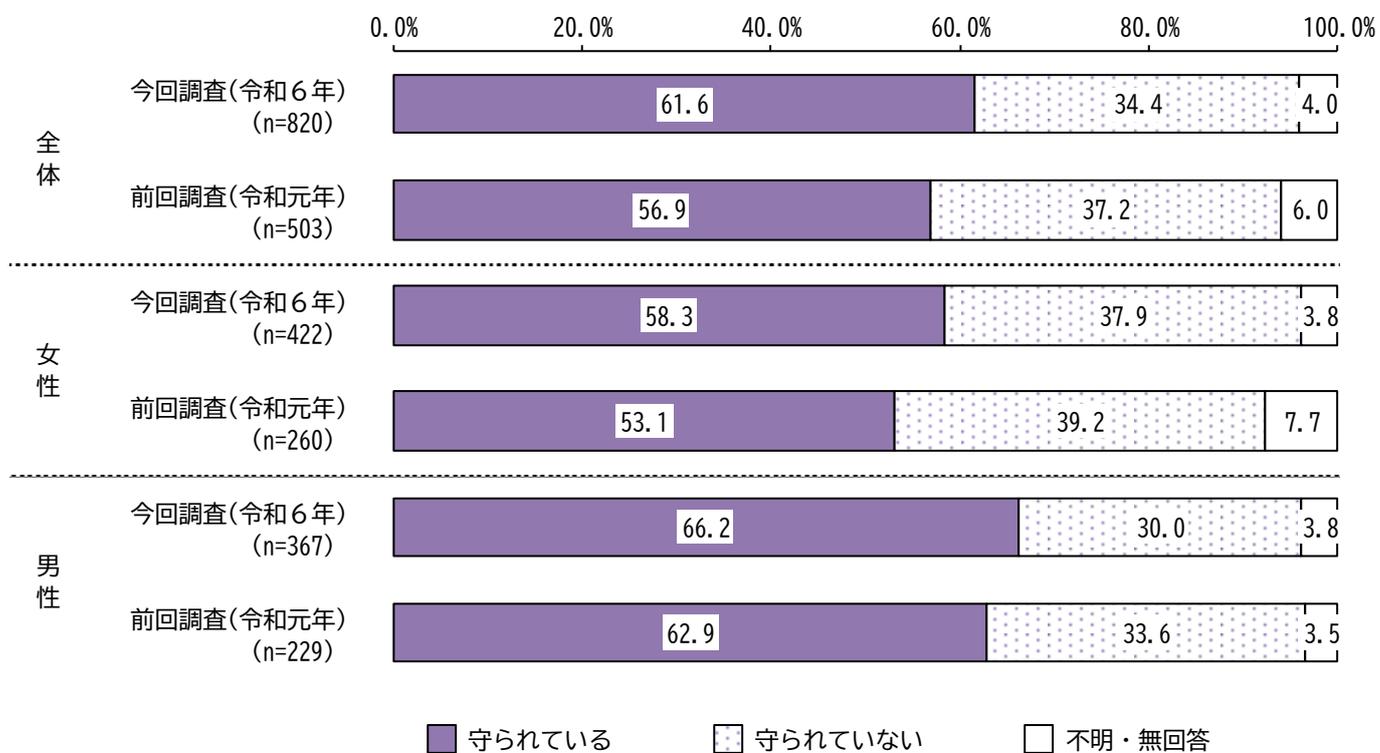
単位：%

		母数 (n)	女性の人権が守られているか		
			守られている	守られていない	不明・無回答
全体		820	61.6	34.4	4.0
性別	女性	422	58.3	37.9	3.8
	男性	367	66.2	30.0	3.8
	答えない	17	58.8	29.4	11.8
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	73.5	26.5	-
	30歳代	39	74.4	25.6	-
	40歳代	64	51.6	48.4	-
	50歳代	58	63.8	36.2	-
	60歳代	97	60.8	38.1	1.0
	70歳以上	128	48.4	40.6	10.9
	男性 20歳代以下	36	88.9	11.1	-
	30歳代	38	78.9	21.1	-
	40歳代	47	68.1	31.9	-
	50歳代	49	75.5	22.4	2.0
	60歳代	81	56.8	40.7	2.5
	70歳以上	115	56.5	33.9	9.6

【経年比較】

全体では、前回調査と比べて「守られている」が4.7ポイント増加しています。
性別で見ると、男女とも全体と同様の傾向となっています。

【女性の人権が守られているか（経年比較）】

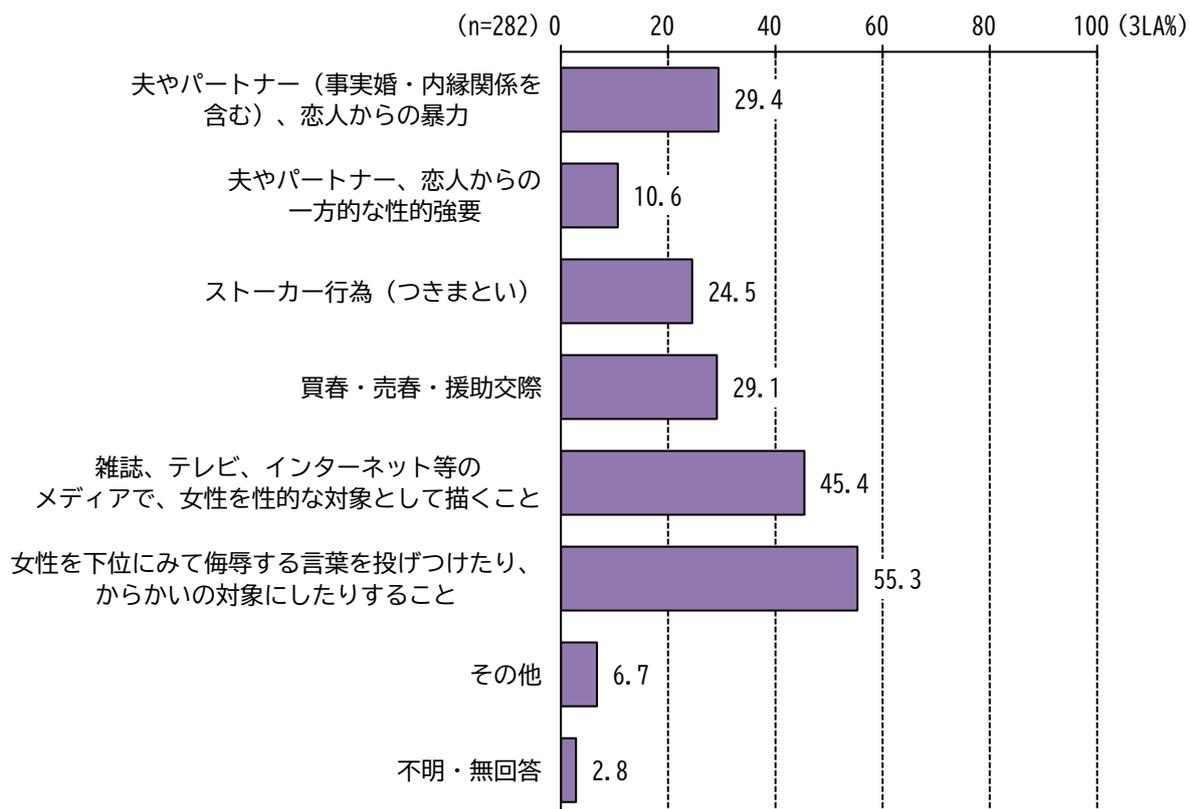


問19 問18で「2. 守られていない」に○印をつけた方におたずねします。
その理由をお答えください。(○は3つまで)

【全体】

守られていない理由について、「女性を下位にみて侮辱する言葉を投げつけたり、からかいの対象にしたりすること」が 55.3%で最も多く、次いで「雑誌、テレビ、インターネット等のメディアで、女性を性的な対象として描くこと」が 45.4%、「夫やパートナー（事実婚・内縁関係を含む）、恋人からの暴力」が 29.4%となっています。

【守られていない理由（3LA）】



【性別】

「女性を下位にみて侮辱する言葉を投げつけたり、からかいの対象にしたりすること」は女性が65.0%で男性に比べて約20ポイント多くなっています。「夫やパートナー（事実婚・内縁関係を含む）、恋人からの暴力」は男性が40.0%で女性に比べて約20ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

男性の60歳代は「夫やパートナー（事実婚・内縁関係を含む）、恋人からの暴力」が6割を超えて特に多く、また、「夫やパートナー、恋人からの一方的な性的強要」も他の年齢に比べて多くなっています。

女性の40歳代は「雑誌、テレビ、インターネット等のメディアで、女性を性的な対象として描くこと」が64.5%で他の年齢に比べて多くなっています。

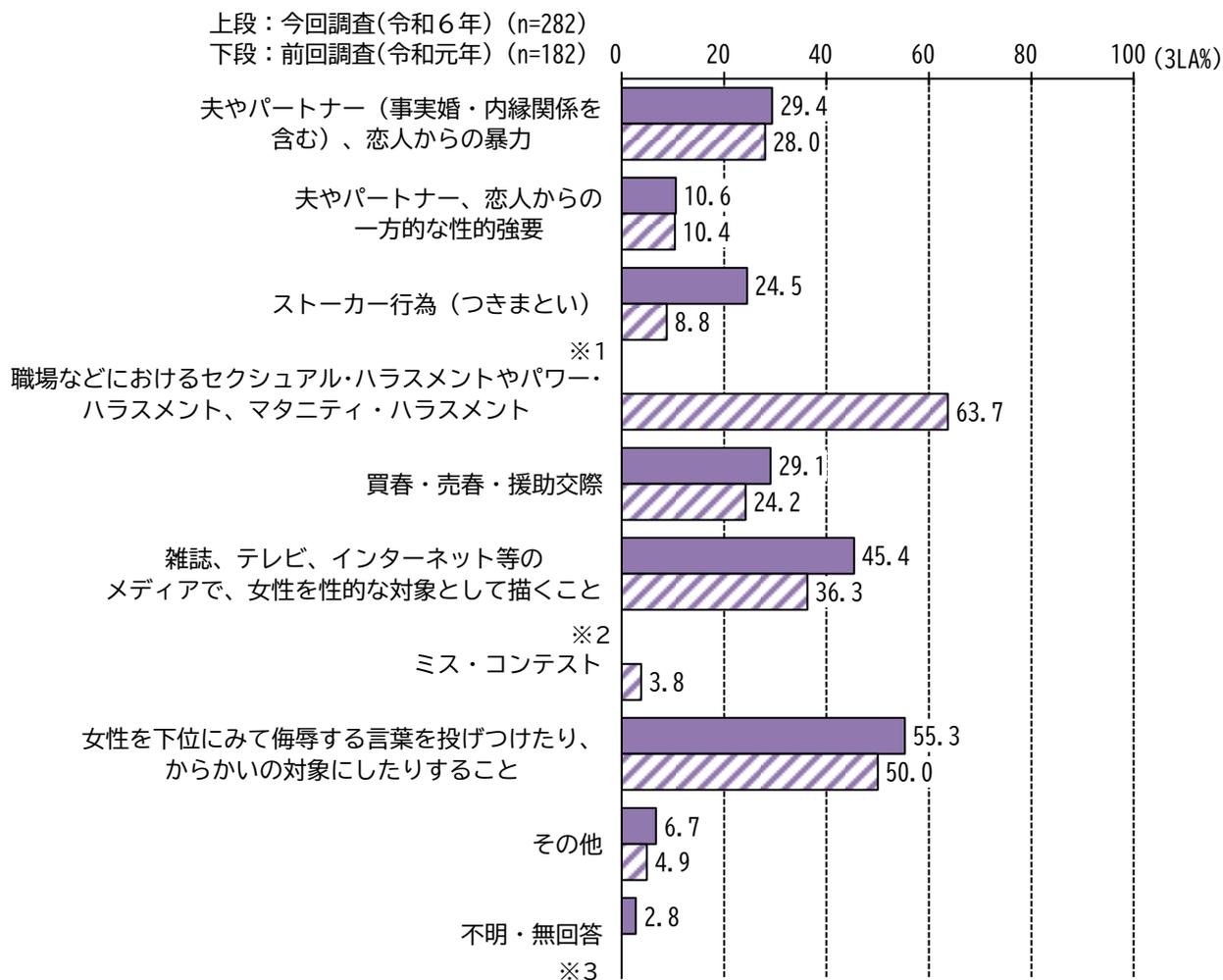
単位：%

		母数 (n)	守られていない理由 (3LA)							
			夫やパートナーからの暴力（事実婚・内縁関係を含む）、	夫やパートナー、恋人からの一方的な性的強要	ストーカー行為（つきまとい）	買春・売春・援助交際	で、雑誌、テレビ、インターネット等のメディアで、女性を性的な対象として描くこと	からかいの対象にみて侮辱する言葉を投げつけたり、	その他	不明・無回答
全体		282	29.4	10.6	24.5	29.1	45.4	55.3	6.7	2.8
性別	女性	160	21.3	8.1	18.8	28.1	50.6	65.0	6.3	3.1
	男性	110	40.0	15.5	32.7	29.1	38.2	45.5	7.3	1.8
	答えない	5	-	-	-	-	60.0	40.0	-	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	9	11.1	11.1	22.2	33.3	44.4	88.9	11.1	-
	30歳代	10	20.0	-	10.0	30.0	60.0	70.0	-	-
	40歳代	31	25.8	9.7	25.8	19.4	64.5	61.3	12.9	-
	50歳代	21	19.0	4.8	9.5	14.3	38.1	76.2	9.5	-
	60歳代	37	27.0	16.2	13.5	32.4	59.5	62.2	5.4	5.4
	70歳以上	52	17.3	3.8	23.1	34.6	40.4	59.6	1.9	5.8
	男性 20歳代以下	4	50.0	-	25.0	50.0	25.0	75.0	-	-
	30歳代	8	62.5	12.5	62.5	37.5	12.5	25.0	12.5	-
	40歳代	15	20.0	6.7	40.0	40.0	20.0	40.0	13.3	6.7
	50歳代	11	36.4	9.1	18.2	36.4	45.5	36.4	9.1	-
60歳代	33	63.6	30.3	30.3	12.1	42.4	33.3	3.0	-	
70歳以上	39	23.1	10.3	30.8	33.3	46.2	61.5	7.7	2.6	

【経年比較】

前回調査と選択肢が異なるため参考となりますが、「ストーカー行為（つきまとい）」は前回調査に比べて15.7ポイント増加しているほか、その他の項目も前回調査よりも回答割合が高くなっています。

【守られていない理由（経年比較）】



※1、※2 前回調査では「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント」、「ミス・コンテスト」を含む選択肢から最大3つ選択

10. 暴力について

問20 あなたは、過去3年間にドメスティック・バイオレンス(配偶者または元配偶者、パートナー、恋人からの暴力)を受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

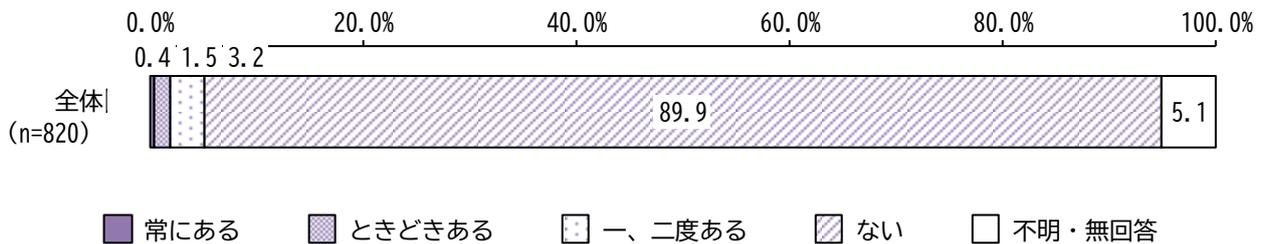
① 身体的な暴力

【全体】

過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無(身体的な暴力(なぐる、ける、物を投げつける等の行為))について、「ない」が89.9%で最も多く、次いで「一、二度ある」が3.2%となっています。

「常にある」「ときどきある」「一、二度ある」を合わせた“ある”は5.1%となっています。

【①身体的な暴力(なぐる、ける、物を投げつける等の行為)】



【性別】

“ある”の割合は女性が5.9%(25人)、男性が4.3%(16人)となっています。女性では0.7%(3人)が「常にある」と回答しています。

【性・年齢別】

“ある”は女性30歳代が10.3%、女性40歳代が12.6%、男性50歳代が10.2%とそれぞれ1割を超えています。

単位：%

	母数 (n)	過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無(身体的な暴力(なぐる、ける、物を投げつける等の行為))					ある	
		常にある	ときどきある	一、二度ある	ない	不明・無回答		
全体	820	0.4	1.5	3.2	89.9	5.1	5.1	
性別	女性	422	0.7	1.4	3.8	88.4	5.7	5.9
	男性	367	-	1.6	2.7	91.3	4.4	4.3
	答えない	17	-	-	-	94.1	5.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代	39	-	2.6	7.7	87.2	2.6	10.3
	40歳代	64	1.6	4.7	6.3	84.4	3.1	12.6
	50歳代	58	1.7	1.7	3.4	91.4	1.7	6.8
	60歳代	97	1.0	1.0	5.2	89.7	3.1	7.2
	70歳以上	128	-	-	1.6	85.2	13.3	1.6
	男性 20歳代以下	36	-	-	2.8	97.2	-	2.8
	30歳代	38	-	2.6	2.6	92.1	2.6	5.2
	40歳代	47	-	2.1	4.3	91.5	2.1	6.4
	50歳代	49	-	4.1	6.1	89.8	-	10.2
	60歳代	81	-	1.2	1.2	91.4	6.2	2.4
70歳以上	115	-	0.9	1.7	89.6	7.8	2.6	

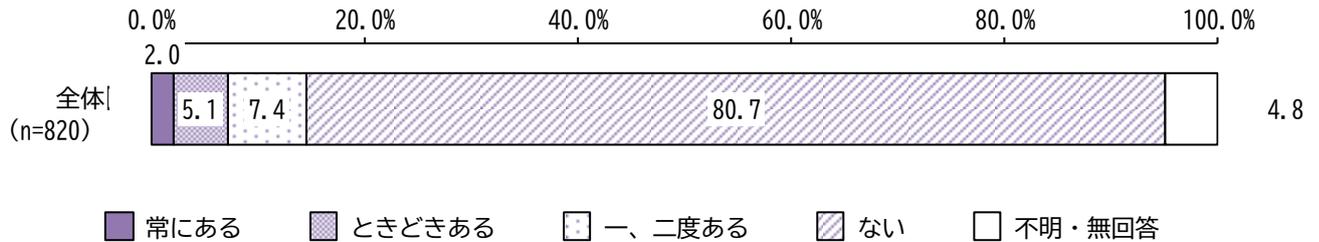
② 精神的な暴力

【全体】

過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（精神的な暴力（ののしりの言葉、何を言っても無視する、おどす等の行為））について、「ない」が80.7%で最も多く、次いで「一、二度ある」が7.4%、「ときどきある」が5.1%となっています。

「常にある」「ときどきある」「一、二度ある」を合わせた“ある”は14.5%となっています。

【②精神的な暴力（ののしりの言葉、何を言っても無視する、おどす等の行為）】



【性別】

“ある”の割合は女性が18.3%（77人）、男性が10.7%（39人）となっています。女性では2.4%（10人）、男性は1.4%（5人）が「常にある」と回答しています。

【性・年齢別】

“ある”は女性の40歳代が26.6%、50歳代が31.0%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（精神的な暴力（ののしりの言葉、何を言っても無視する、おどす等の行為））					ある	
		常にある	ときどきある	一、二度ある	ない	不明・無回答		
全体	820	2.0	5.1	7.4	80.7	4.8	14.5	
性別	女性	422	2.4	6.9	9.0	77.0	4.7	18.3
	男性	367	1.4	3.0	6.3	85.0	4.4	10.7
	答えない	17	-	5.9	-	88.2	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	-	5.9	94.1	-	5.9
	30歳代	39	-	5.1	12.8	79.5	2.6	17.9
	40歳代	64	4.7	12.5	9.4	71.9	1.6	26.6
	50歳代	58	1.7	17.2	12.1	69.0	-	31.0
	60歳代	97	4.1	3.1	9.3	80.4	3.1	16.5
	70歳以上	128	1.6	4.7	7.0	75.0	11.7	13.3
	男性 20歳代以下	36	2.8	-	2.8	94.4	-	5.6
	30歳代	38	-	5.3	-	92.1	2.6	5.3
	40歳代	47	2.1	8.5	6.4	83.0	-	17.0
	50歳代	49	2.0	-	6.1	89.8	2.0	8.1
60歳代	81	2.5	2.5	8.6	80.2	6.2	13.6	
70歳以上	115	-	2.6	7.0	82.6	7.8	9.6	

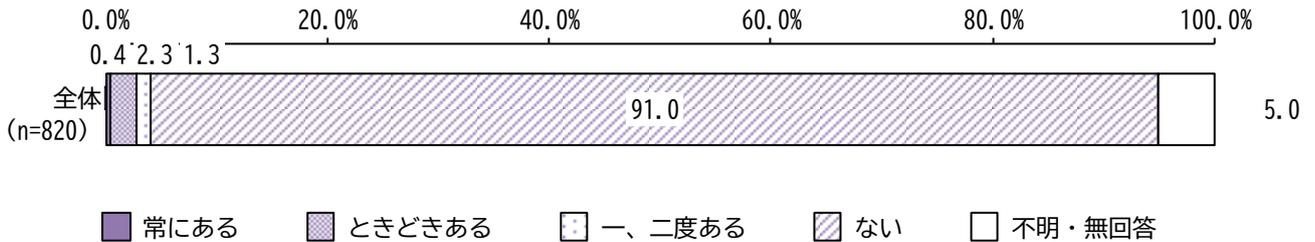
③ 社会的な暴力

【全体】

過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（社会的な暴力（実家・友だちとの付き合いを禁止する、外出の制限をする、携帯電話・メール、ラインのチェックをする等の行為））について、「ない」が91.0%で最も多く、次いで「ときどきある」が2.3%となっています。

「常にある」「ときどきある」「一、二度ある」を合わせた“ある”は4.0%となっています。

【③社会的な暴力（実家・友だちとの付き合いを禁止する、外出の制限をする、携帯電話・メール、ラインのチェックをする等の行為）】



【性別】

“ある”の割合は女性が6.6%（28人）、男性が1.0%（4人）となっています。女性では0.7%（3人）が「常にある」と回答しています。

【性・年齢別】

“ある”は女性の40歳代が15.6%、50歳代が12.0%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（社会的な暴力（実家・友だちとの付き合いを禁止する、外出の制限をする、携帯電話・メール、ラインのチェックをする等の行為））					ある	
		常にある	ときどきある	一、二度ある	ない	不明・無回答		
全体	820	0.4	2.3	1.3	91.0	5.0	4.0	
性別	女性	422	0.7	3.8	2.1	88.2	5.2	6.6
	男性	367	-	0.5	0.5	94.3	4.6	1.0
	答えない	17	-	-	-	94.1	5.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	5.9	-	94.1	-	5.9
	30歳代	39	-	2.6	-	94.9	2.6	2.6
	40歳代	64	3.1	7.8	4.7	82.8	1.6	15.6
	50歳代	58	-	10.3	1.7	86.2	1.7	12.0
	60歳代	97	-	2.1	2.1	92.8	3.1	4.2
	70歳以上	128	0.8	-	2.3	84.4	12.5	3.1
	男性 20歳代以下	36	-	2.8	2.8	94.4	-	5.6
	30歳代	38	-	-	-	97.4	2.6	-
	40歳代	47	-	2.1	-	97.9	-	2.1
	50歳代	49	-	-	-	98.0	2.0	-
	60歳代	81	-	-	-	92.6	7.4	-
70歳以上	115	-	-	0.9	91.3	7.8	0.9	

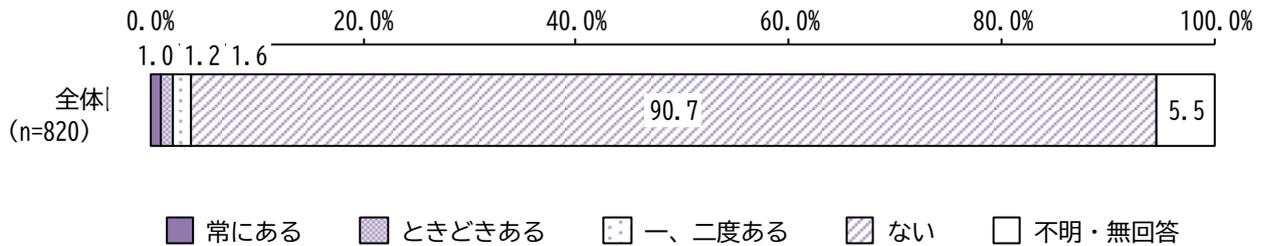
④ 経済的な暴力

【全体】

過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（経済的な暴力（生活費を渡さない、金の使い道を細かくチェックする、仕事に就かせない等の行為））について、「ない」が90.7%で最も多く、次いで「一、二度ある」が1.6%となっています。

「常にある」「ときどきある」「一、二度ある」を合わせた“ある”は3.8%となっています。

【④経済的な暴力（生活費を渡さない、金の使い道を細かくチェックする、仕事に就かせない等の行為）】



【性別】

“ある”の割合は女性が5.0%（21人）、男性が1.9%（7人）となっています。

【性・年齢別】

“ある”は女性の30歳代と40歳代がそれぞれ7.8%、50歳代が10.3%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（経済的な暴力（生活費を渡さない、金の使い道を細かくチェックする、仕事に就かせない等の行為））					ある	
		常にある	ときどきある	一、二度ある	ない	不明・無回答		
全体	820	1.0	1.2	1.6	90.7	5.5	3.8	
性別	女性	422	1.9	1.4	1.7	89.3	5.7	5.0
	男性	367	-	0.3	1.6	92.9	5.2	1.9
	答えない	17	-	5.9	-	88.2	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代	39	2.6	2.6	2.6	89.7	2.6	7.8
	40歳代	64	4.7	-	3.1	90.6	1.6	7.8
	50歳代	58	1.7	5.2	3.4	87.9	1.7	10.3
	60歳代	97	2.1	2.1	1.0	90.7	4.1	5.2
	70歳以上	128	0.8	-	0.8	85.2	13.3	1.6
	男性 20歳代以下	36	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代	38	-	-	2.6	92.1	5.3	2.6
	40歳代	47	-	-	2.1	97.9	-	2.1
	50歳代	49	-	-	2.0	95.9	2.0	2.0
60歳代	81	-	-	-	92.6	7.4	-	
70歳以上	115	-	0.9	2.6	87.8	8.7	3.5	

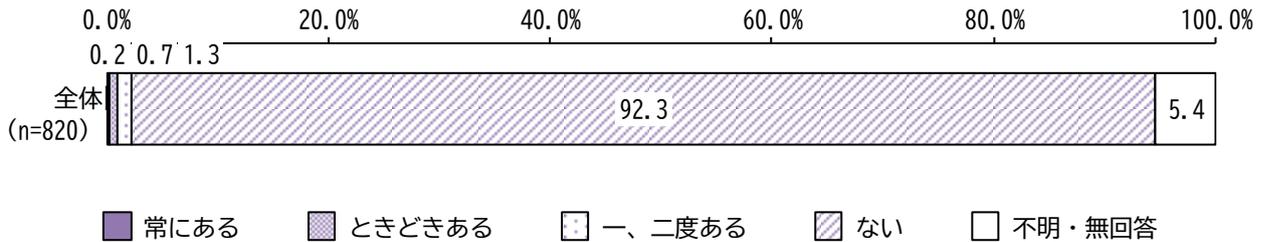
⑤ 性的な暴力

【全体】

過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（性的な暴力（無理矢理セックスをする、避妊に協力しない、ポルノ雑誌を無理矢理見せる等の行為））について、「ない」が92.3%で最も多く、次いで「一、二度ある」が1.3%となっています。

「常にある」「ときどきある」「一、二度ある」を合わせた“ある”は2.2%となっています。

【⑤性的な暴力（無理矢理セックスをする、 避妊に協力しない、ポルノ雑誌を無理矢理見せる等の行為）】



【性別】

“ある”の割合は女性が4.1%（17人）、男性が0.3%（1人）となっています。

【性・年齢別】

“ある”は女性40歳代が9.4%と他の年齢に比べて多くなっています。また、女性はその年齢層にも“ある”と回答した人がいます。

単位：%

	母数 (n)	過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（性的な暴力（無理矢理セックスをする、避妊に協力しない、ポルノ雑誌を無理矢理見せる等の行為））					ある	
		常にある	ときどきある	一、二度ある	ない	不明・無回答		
全体	820	0.2	0.7	1.3	92.3	5.4	2.2	
性別	女性	422	0.5	1.2	2.4	90.8	5.2	4.1
	男性	367	-	-	0.3	94.6	5.2	0.3
	答えない	17	-	-	-	94.1	5.9	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	-	2.9	97.1	-	2.9
	30歳代	39	-	-	2.6	94.9	2.6	2.6
	40歳代	64	1.6	3.1	4.7	89.1	1.6	9.4
	50歳代	58	-	-	5.2	94.8	-	5.2
	60歳代	97	-	3.1	1.0	91.8	4.1	4.1
	70歳以上	128	0.8	-	0.8	85.9	12.5	1.6
	男性 20歳代以下	36	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代	38	-	-	-	97.4	2.6	-
	40歳代	47	-	-	-	97.9	2.1	-
	50歳代	49	-	-	-	98.0	2.0	-
	60歳代	81	-	-	-	92.6	7.4	-
70歳以上	115	-	-	0.9	90.4	8.7	0.9	

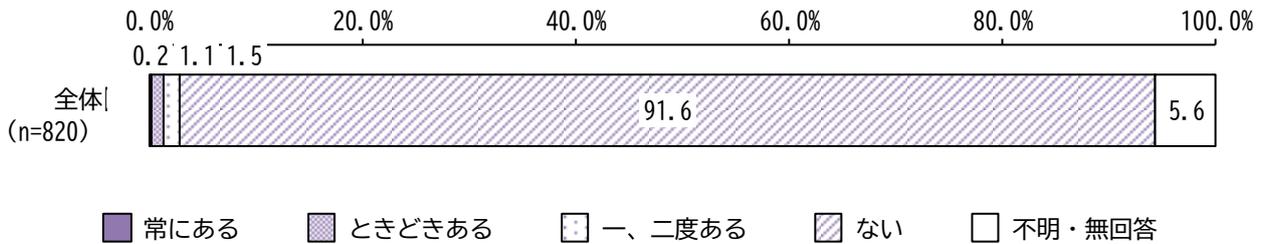
⑥ 子どもを巻き添えにした暴力

【全体】

過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（子どもを巻き添えにした暴力（子どもの前で暴力をふるう等の行為））について、「ない」が91.6%で最も多く、次いで「一、二度ある」が1.5%となっています。

「常にある」「ときどきある」「一、二度ある」を合わせた“ある”は2.8%となっています。

【⑥子どもを巻き添えにした暴力（子どもの前で暴力をふるう等の行為）】



【性別】

“ある”の割合は女性が3.6%（15人）、男性が2.1%（8人）となっています。

【性・年齢別】

“ある”は女性40歳代が9.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

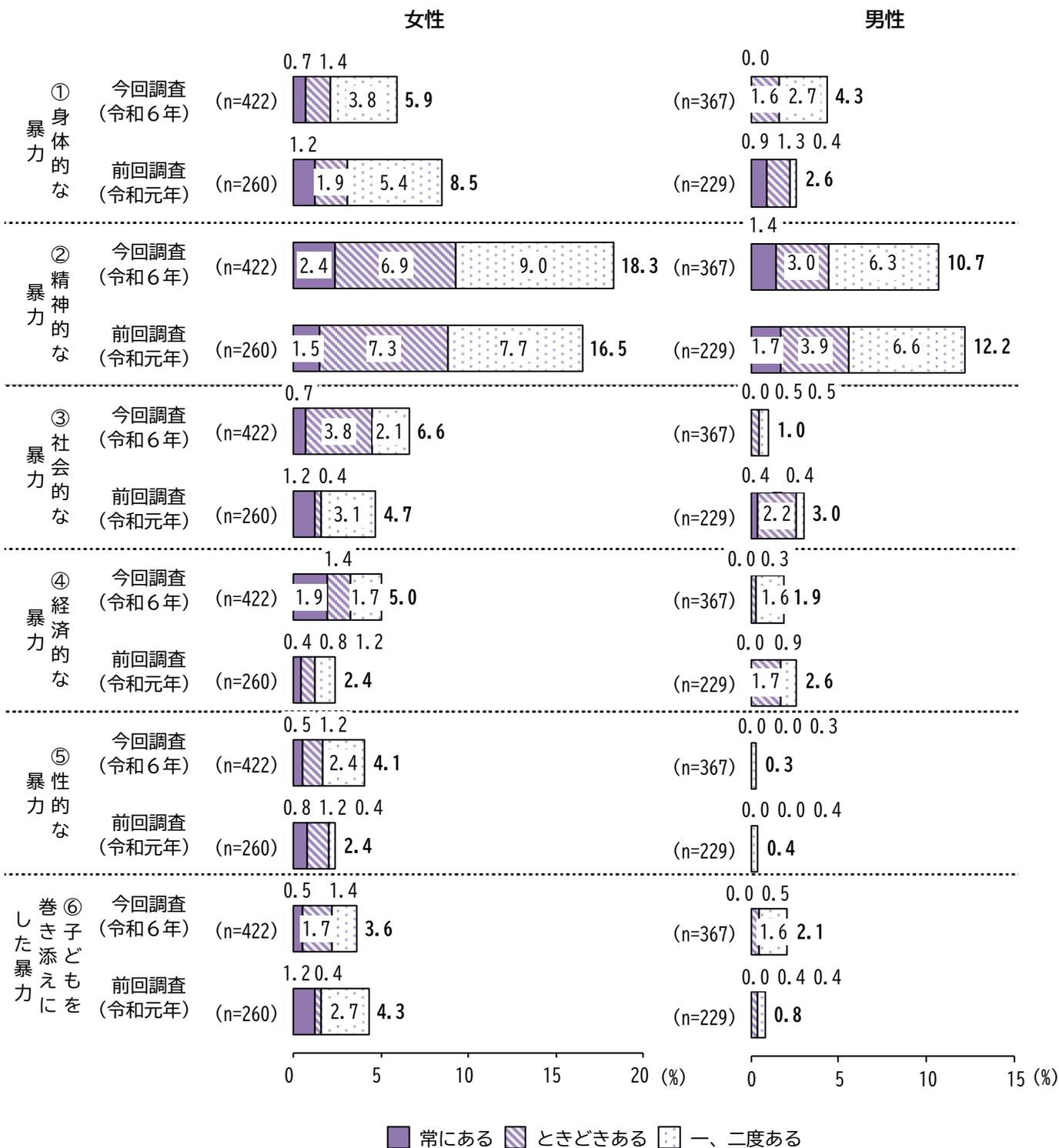
単位：%

	母数 (n)	過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（子どもを巻き添えにした暴力（子どもの前で暴力をふるう等の行為））					ある	
		常にある	ときどきある	一、二度ある	ない	不明・無回答		
全体	820	0.2	1.1	1.5	91.6	5.6	2.8	
性別	女性	422	0.5	1.7	1.4	90.8	5.7	3.6
	男性	367	-	0.5	1.6	92.9	4.9	2.1
	答えない	17	-	-	-	88.2	11.8	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代	39	2.6	2.6	-	92.3	2.6	5.2
	40歳代	64	-	3.1	6.3	89.1	1.6	9.4
	50歳代	58	1.7	3.4	-	93.1	1.7	5.1
	60歳代	97	-	2.1	1.0	93.8	3.1	3.1
	70歳以上	128	-	-	0.8	85.2	14.1	0.8
	男性 20歳代以下	36	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代	38	-	2.6	2.6	92.1	2.6	5.2
	40歳代	47	-	2.1	2.1	95.7	-	4.2
	50歳代	49	-	-	4.1	93.9	2.0	4.1
60歳代	81	-	-	1.2	91.4	7.4	1.2	
70歳以上	115	-	-	0.9	90.4	8.7	0.9	

【経年比較】

ドメスティック・バイオレンスに当たる行為で前回調査よりも被害経験の割合が多くなっている項目をみると、女性では、②精神的な暴力、③社会的な暴力、④経済的な暴力、⑤性的な暴力があげられます。男性では、①身体的な暴力、⑥子どもを巻き添えにした暴力があげられます。

【過去3年間のドメスティック・バイオレンスの有無（経年比較）】



問21 問20で①から⑥の項目のいずれかに「常にある」、「ときどきある」、「一、二度ある」に○をされた方におたずねします。
その行為についてだれか(どこか)に相談しましたか。(○はいくつでも)

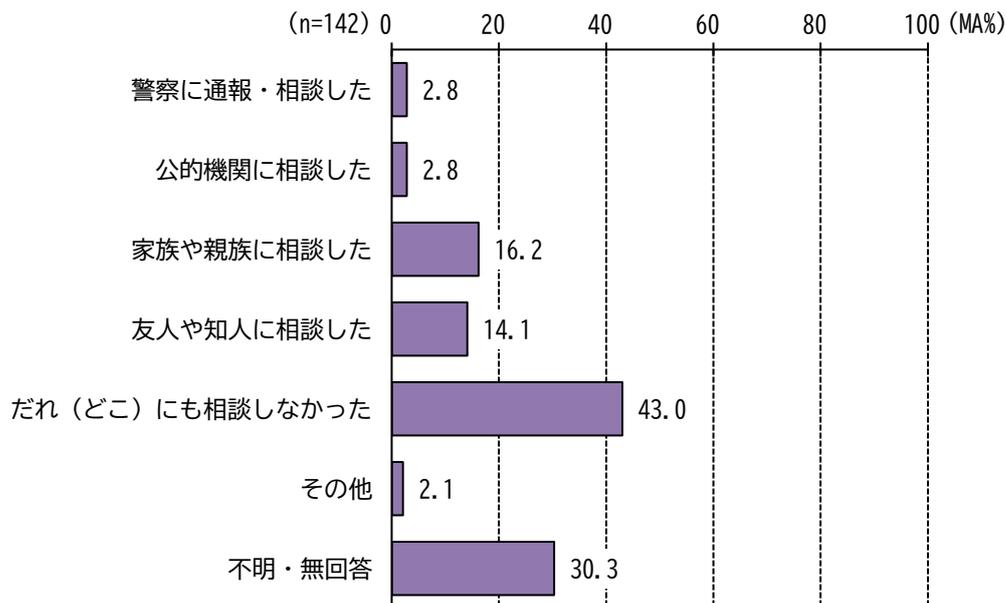
【全体】

ドメスティック・バイオレンスを受けた際の相談先について、「だれ(どこ)にも相談しなかった」が43.0%で最も多く、次いで「家族や親族に相談した」が16.2%となっています。

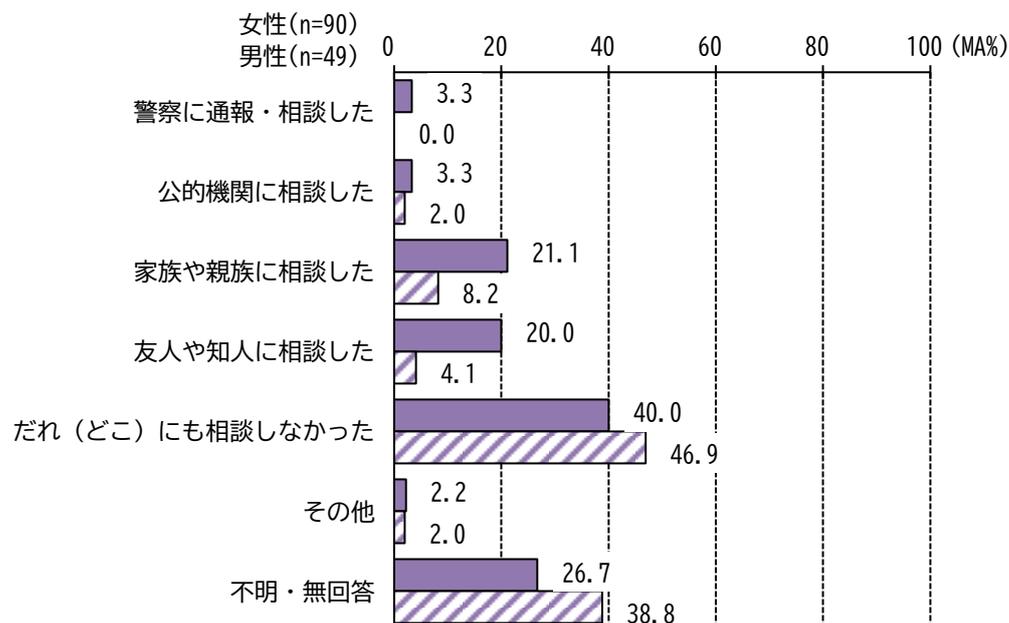
【性別】

男女とも「だれ(どこ)にも相談しなかった」が最も多いのは共通しています。女性は「家族や親族に相談した」「友人や知人に相談した」がそれぞれ約2割となっていますが、男性ではいずれも1割以下で少なくなっています。一方で、男性は「だれ(どこ)にも相談しなかった」と「不明・無回答」が女性よりも多くなっています。

【ドメスティック・バイオレンスを受けた際の相談先 (MA)】



【性別 ドメスティック・バイオレンスを受けた際の相談先 (MA)】

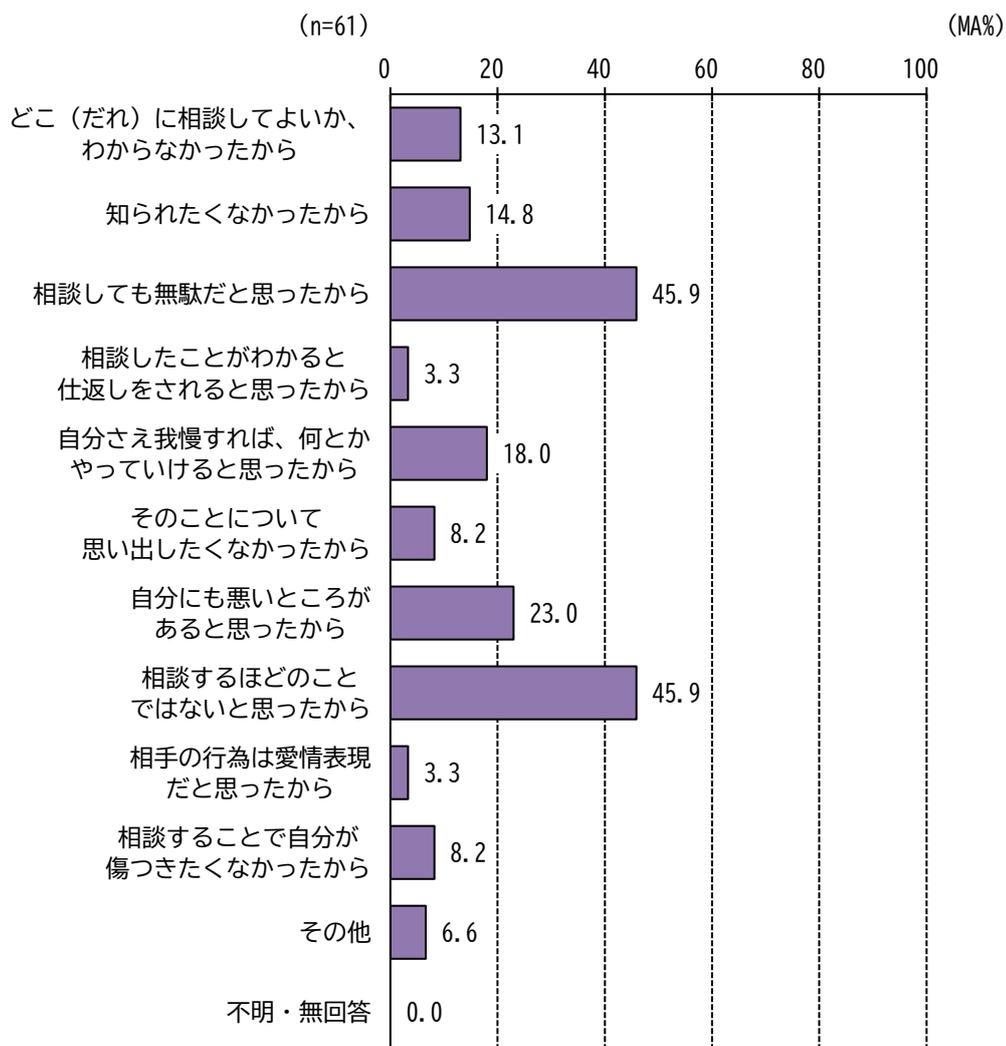


問22 問21で「5. だれ(どこ)にも相談しなかった」の理由は何ですか。
(〇はいくつでも)

【全体】

ドメスティック・バイオレンスを受けた際に相談しなかった理由について、「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ 45.9%で最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 23.0%、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」が 18.0%となっています。

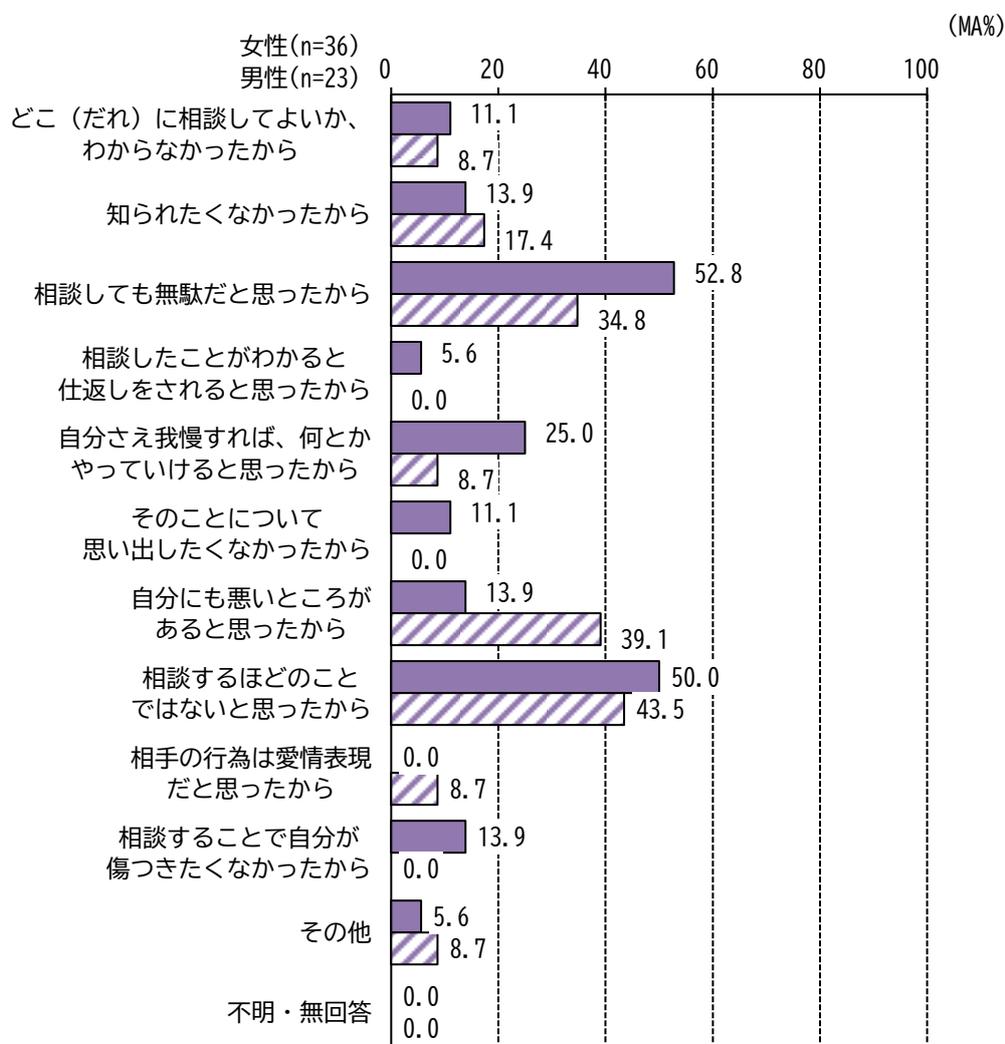
【ドメスティック・バイオレンスを受けた際に相談しなかった理由 (MA)】



【性別】

女性は「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ 52.8%、50.0%で約半数を占めています。男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が 39.1%で女性よりも多くなっています。また、男女それぞれ約 1 割が「どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから」と回答しています。

【性別 ドメスティック・バイオレンスを受けた際に相談しなかった理由 (MA)】

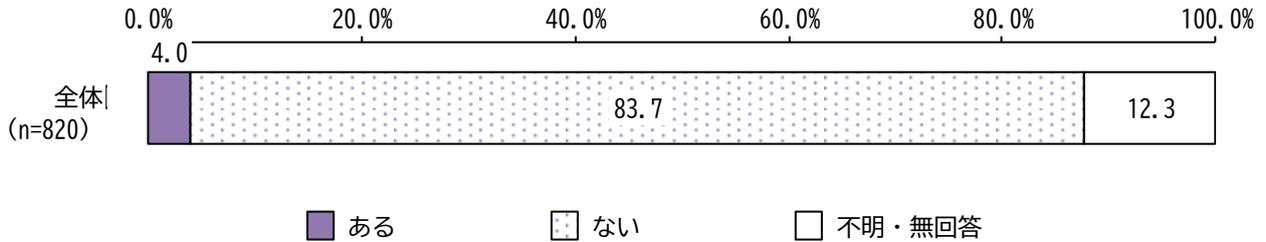


問23 過去3年間に、問20の行為を配偶者、元配偶者、パートナーまたは恋人に、どれか1つでも行ったことがありますか。どちらかに○をつけてください。

【全体】

過去3年間にドメスティック・バイオレンスに当たる行為を行ったかについて、「ない」が83.7%、「ある」が4.0%となっています。

【過去3年間にドメスティック・バイオレンスを行ったか】



【性別】

「ある」は男性が6.3%、女性が2.4%となっています。

【性・年齢別】

「ある」は男性40歳代が10.6%で他の年齢に比べてやや多くなっています。

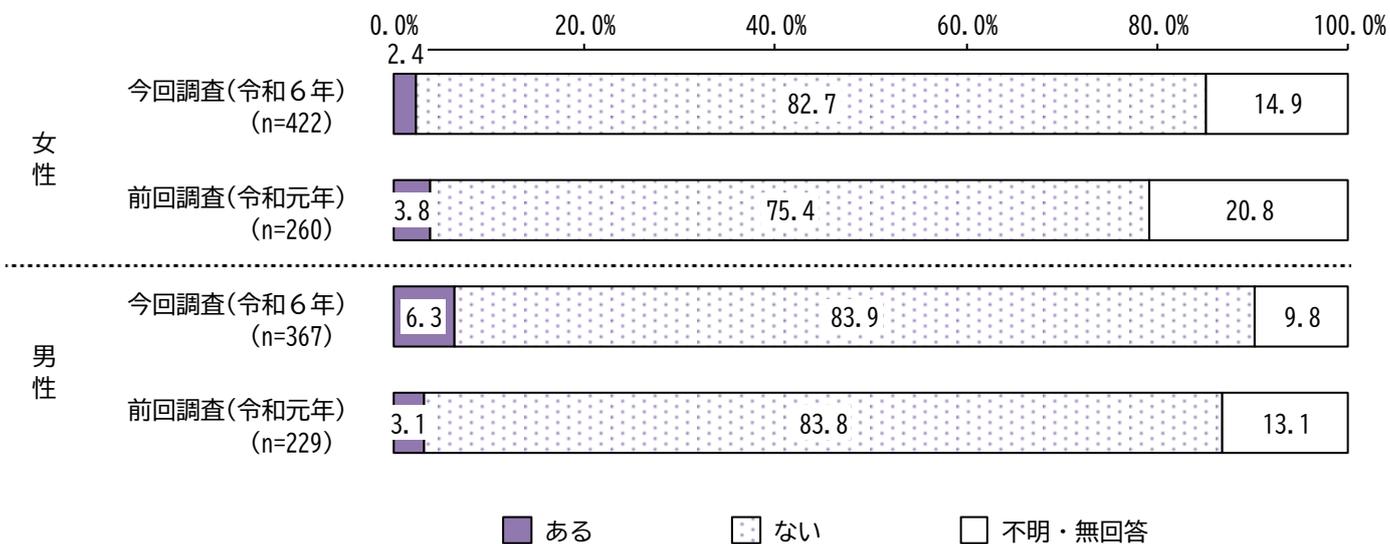
単位：%

	母数 (n)	過去3年間のドメスティック・バイオレンスを行ったか			
		ある	ない	不明・無回答	
全体	820	4.0	83.7	12.3	
性別	女性	422	2.4	82.7	14.9
	男性	367	6.3	83.9	9.8
	答えない	17	-	88.2	11.8
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	2.9	88.2	8.8
	30歳代	39	2.6	76.9	20.5
	40歳代	64	4.7	92.2	3.1
	50歳代	58	3.4	87.9	8.6
	60歳代	97	2.1	87.6	10.3
	70歳以上	128	0.8	71.9	27.3
	男性 20歳代以下	36	-	91.7	8.3
	30歳代	38	2.6	89.5	7.9
	40歳代	47	10.6	83.0	6.4
	50歳代	49	6.1	87.8	6.1
	60歳代	81	6.2	82.7	11.1
70歳以上	115	7.8	79.1	13.0	

【経年比較】

ドメスティック・バイオレンスに当たる行為を行った経験では、「ある」の回答は、女性では減少していますが、男性では増加しています。

【過去3年間にドメスティック・バイオレンスを行ったか（経年比較）】

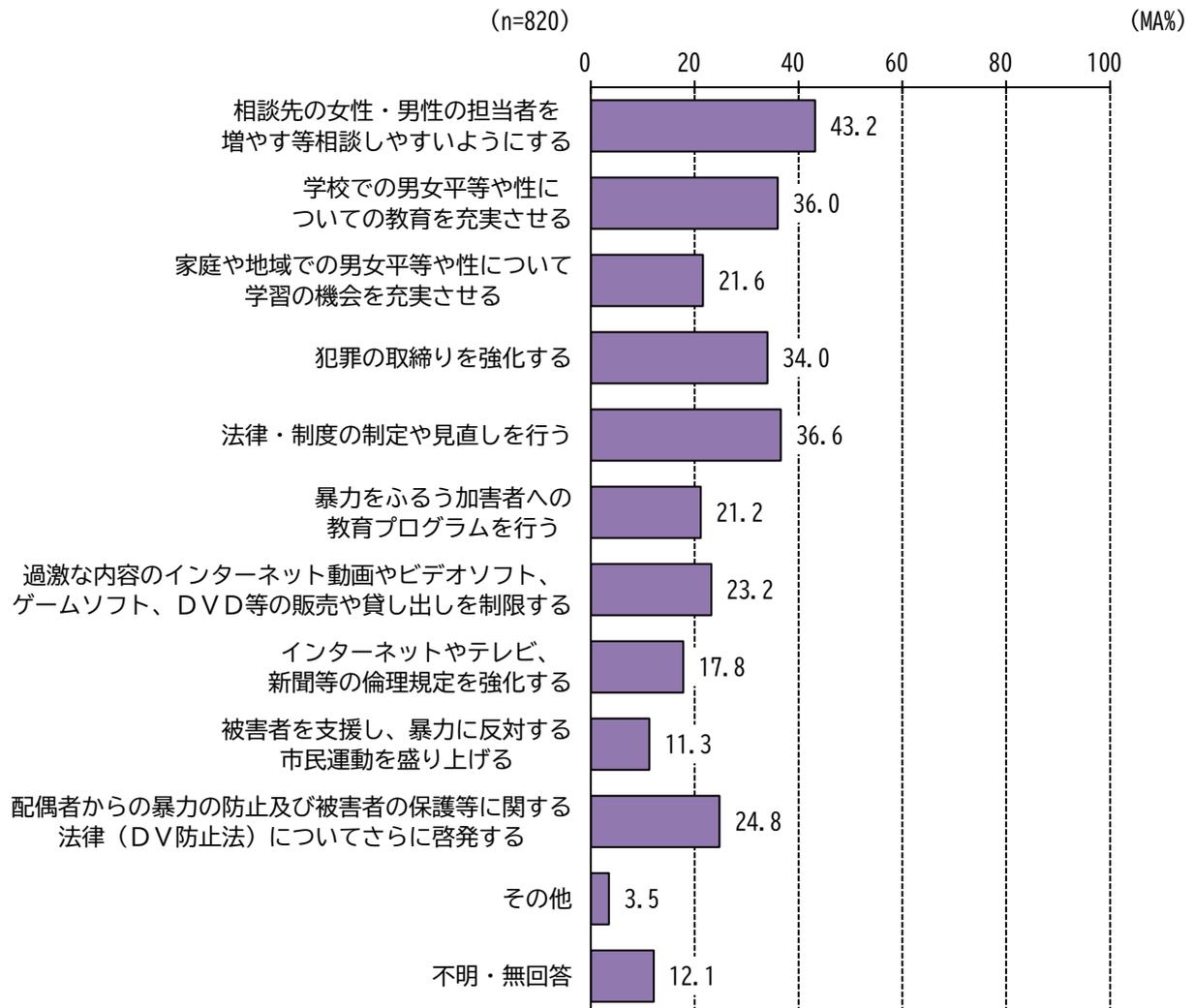


問24 あなたは、ドメスティック・バイオレンス等、暴力を防止するためにどのようにすればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】

ドメスティック・バイオレンス等、暴力を防止するために必要なことについて、「相談先の女性・男性の担当者を増やす等相談しやすいようにする」が43.2%で最も多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」が36.6%、「学校での男女平等や性についての教育を充実させる」が36.0%となっています。

【ドメスティック・バイオレンス等、暴力を防止するために必要なこと (MA)】



【性別】

全体で上位3項目の回答割合は性別でみても大きな違いはありませんが、「過激な内容のインターネット動画やビデオソフト、ゲームソフト、DVD等の販売や貸し出しを制限する」は女性が28.0%と男性に比べて10ポイント多くなっています。また、「インターネットやテレビ、新聞等の倫理規定を強化する」も女性が20.6%と男性に比べて5.9ポイント多くなっています。

一方で「家庭や地域での男女平等や性について学習の機会を充実させる」は男性が25.1%で女性に比べて6.6ポイント多くなっています。その他の選択肢では男女の差は5ポイント以内です。

【性・年齢別】

「相談先の女性・男性の担当者を増やす等相談しやすいようにする」は女性の30歳代以下と60歳代、男性の20歳代以下と40歳代、50歳代がそれぞれ5割を超えており、他の年齢よりも多くなっています。

「法律・制度の制定や見直しを行う」は男性30歳代が65.8%と特に多くなっています。

「犯罪の取締りを強化する」は男女とも30歳代以下では5割を超えており、他の年齢に比べて多くなっています。

「過激な内容のインターネット動画やビデオソフト、ゲームソフト、DVD等の販売や貸し出しを制限する」は女性70歳以上が37.5%で他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	ドメスティック・バイオレンス等、暴力を防止するために必要なこと (MA)											
			相談先の女性・男性の担当者を増やす等	学校での男女平等や性についての教育を充実させる	家庭や地域での男女平等や性について学習の機会を充実させる	犯罪の取締りを強化する	法律・制度の制定や見直しを行う	暴力をふるう加害者への教育プログラムを行う	販売や貸し出しを制限する	過激な内容のインターネット動画やビデオソフト、DVD等の	規定を強化する	インターネットやテレビ、新聞等の倫理	被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	啓発する法律(DV防止法)についてさら
全体		820	43.2	36.0	21.6	34.0	36.6	21.2	23.2	17.8	11.3	24.8	3.5	12.1
性別	女性	422	41.9	34.6	18.5	33.4	36.3	22.7	28.0	20.6	10.7	27.0	2.8	13.5
	男性	367	45.5	37.3	25.1	32.7	36.2	19.6	18.0	14.7	12.0	23.2	4.4	10.9
	答えない	17	17.6	17.6	11.8	58.8	58.8	5.9	11.8	11.8	11.8	11.8	5.9	5.9
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	52.9	35.3	23.5	55.9	44.1	20.6	11.8	14.7	11.8	23.5	-	2.9
	30歳代	39	56.4	28.2	20.5	51.3	46.2	28.2	12.8	15.4	12.8	20.5	7.7	7.7
	40歳代	64	37.5	35.9	17.2	29.7	43.8	28.1	28.1	20.3	6.3	21.9	4.7	4.7
	50歳代	58	43.1	32.8	22.4	31.0	46.6	27.6	19.0	13.8	5.2	31.0	5.2	6.9
	60歳代	97	50.5	40.2	24.7	27.8	33.0	24.7	33.0	19.6	17.5	32.0	2.1	10.3
	70歳以上	128	29.7	32.0	10.9	29.7	25.8	15.6	37.5	27.3	9.4	27.3	0.8	28.1
	男性 20歳代以下	36	50.0	25.0	22.2	50.0	38.9	13.9	5.6	16.7	13.9	22.2	-	8.3
	30歳代	38	39.5	28.9	18.4	55.3	65.8	31.6	15.8	7.9	15.8	28.9	13.2	2.6
	40歳代	47	59.6	42.6	23.4	36.2	48.9	25.5	12.8	17.0	14.9	19.1	-	-
	50歳代	49	51.0	36.7	30.6	34.7	24.5	14.3	12.2	14.3	4.1	14.3	6.1	6.1
	60歳代	81	39.5	32.1	24.7	24.7	30.9	16.0	22.2	13.6	6.2	21.0	4.9	14.8
70歳以上	115	42.6	44.3	26.1	23.5	28.7	20.0	24.3	16.5	16.5	28.7	3.5	18.3	

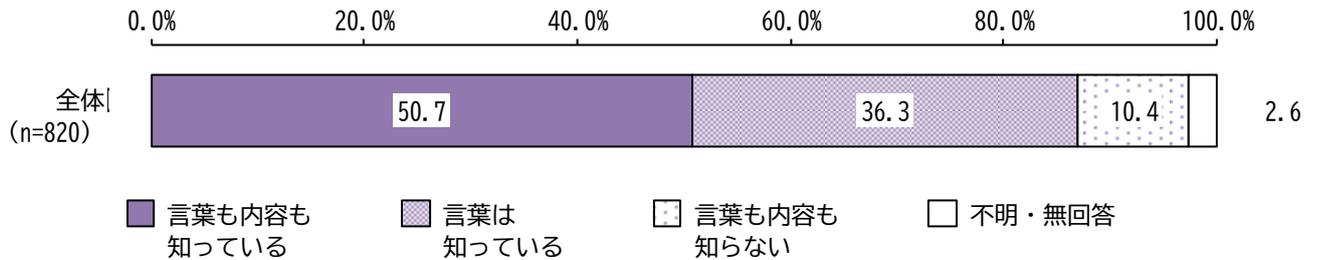
11. 男女共同参画社会について

問25 あなたは、ジェンダー平等について知っていますか。(○は1つだけ)

【全体】

ジェンダー平等についての認知状況について、「言葉も内容も知っている」が 50.7%で最も多く、次いで「言葉は知っている」が 36.3%、「言葉も内容も知らない」が 10.4%となっています。

【ジェンダー平等についての認知状況】



【性別】

「言葉も内容も知っている」は女性が 53.1%、男性が 49.0%で女性の方がやや多くなっています。

【性・年齢別】

「言葉も内容も知っている」は男性の 20 歳代以下が 75.0%と特に多く、女性では 30 歳代から 50 歳代は 6 割を超えて他の年齢よりも多くなっています。一方で、70 歳以上は男女とも 3 割台で少なくなっています。

単位：%

		母数 (n)	ジェンダー平等についての認知状況			
			知 言 つ 葉 も 内 容 も	知 言 つ 葉 は 知 っ て い る	知 言 ら 葉 な も 内 容 も	不 明 ・ 無 回 答
全体		820	50.7	36.3	10.4	2.6
性別	女性	422	53.1	34.4	10.4	2.1
	男性	367	49.0	37.9	9.8	3.3
	答えない	17	41.2	47.1	11.8	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	55.9	44.1	-	-
	30歳代	39	66.7	30.8	-	2.6
	40歳代	64	62.5	29.7	6.3	1.6
	50歳代	58	60.3	32.8	6.9	-
	60歳代	97	53.6	34.0	11.3	1.0
	70歳以上	128	39.1	36.7	19.5	4.7
	男性 20歳代以下	36	75.0	25.0	-	-
	30歳代	38	50.0	42.1	7.9	-
	40歳代	47	53.2	40.4	6.4	-
	50歳代	49	59.2	30.6	8.2	2.0
	60歳代	81	51.9	30.9	13.6	3.7
70歳以上	115	32.2	47.8	13.0	7.0	

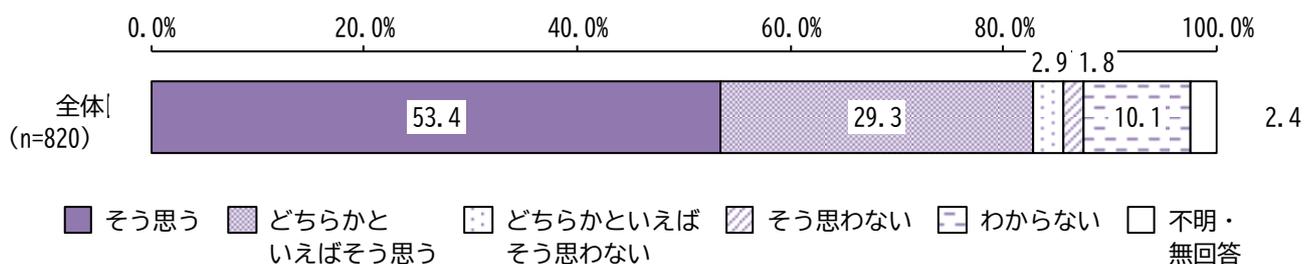
問26 女性が知事や市町村長や議会議員、企業の管理職や役員等になって政策や企業の運営に女性の意見がもっと反映されるようになればよいと思いますか。(○は1つだけ)

【全体】

女性の意見の反映について、「そう思う」が 53.4%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 29.3%、「わからない」が 10.1%となっています。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”は 82.7%となっています。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”は 4.7%となっています。

【女性の意見の反映について】



【性別】

女性の方が“そう思う”がやや多いものの男女の差はあまりありません。

【性・年齢別】

女性 20 歳代以下は“そう思う”が 94.1%と他の年齢に比べて多くなっています。一方で男性 20 歳代以下では“そう思う”が 69.5%で他の年齢に比べて少なく、20 歳代以下の男女の意識差が大きくなっています。また、30 歳代も“そう思う”が女性は 84.6%に対して、男性は 71.1%で 10 ポイント以上の差がみられます。

【性・職業別】

女性の正社員と男性のパート等は“そう思う”が9割を超えており、他の職業に比べて多くなっています。

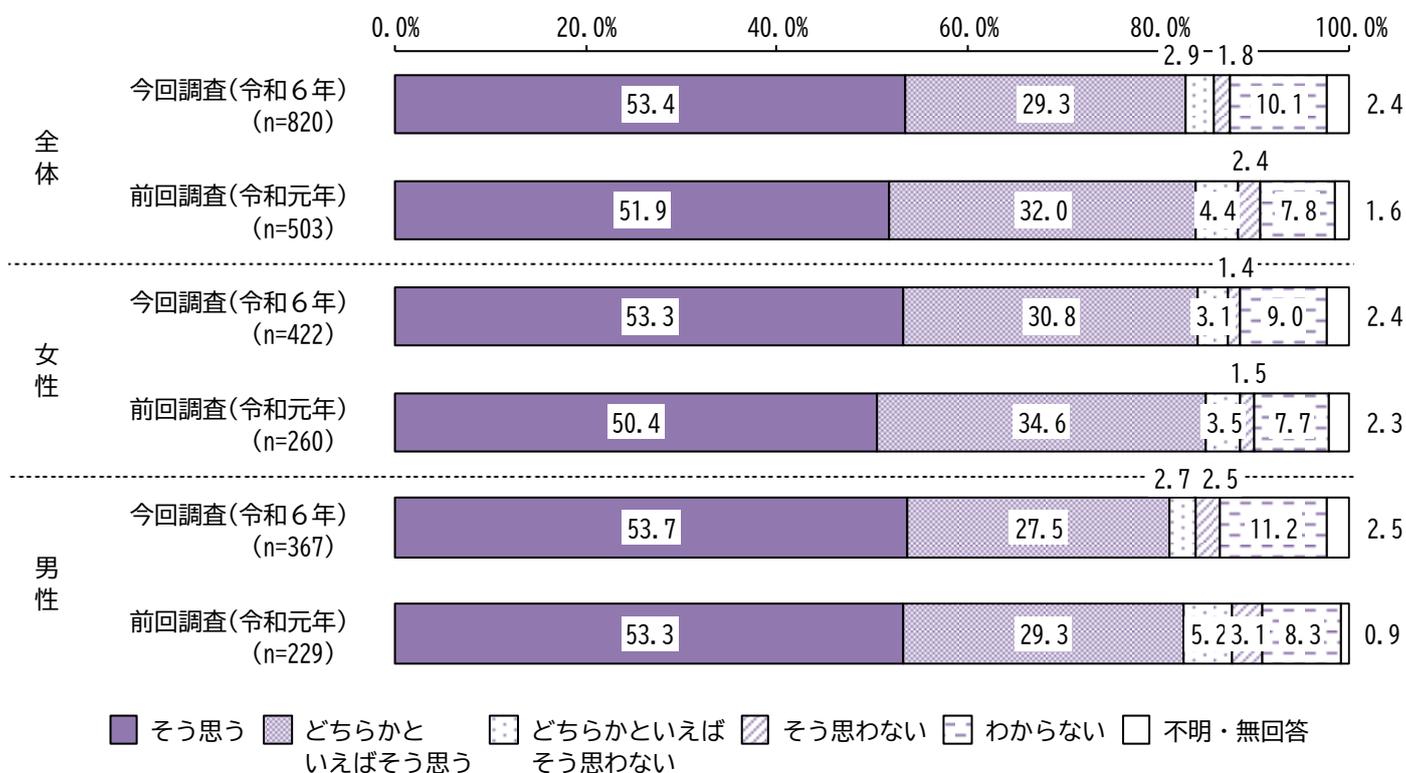
単位：%

	母数 (n)	女性の意見の反映について						“ そう 思う ”	“ そう 思わ ない ”	
		そ う 思 う	そ ど う 思 う か と い え ば	そ ど う 思 わ か な い い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答			
全体	820	53.4	29.3	2.9	1.8	10.1	2.4	82.7	4.7	
性別	女性	422	53.3	30.8	3.1	1.4	9.0	2.4	84.1	4.5
	男性	367	53.7	27.5	2.7	2.5	11.2	2.5	81.2	5.2
	答えない	17	47.1	41.2	-	-	58.8	-	88.3	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	52.9	41.2	-	-	5.9	-	94.1	-
	30歳代	39	69.2	15.4	2.6	-	10.3	2.6	84.6	2.6
	40歳代	64	57.8	29.7	3.1	1.6	6.3	1.6	87.5	4.7
	50歳代	58	58.6	22.4	3.4	1.7	13.8	-	81.0	5.1
	60歳代	97	47.4	39.2	3.1	-	8.2	2.1	86.6	3.1
	70歳以上	128	49.2	30.5	3.1	3.1	9.4	4.7	79.7	6.2
	男性 20歳代以下	36	41.7	25.0	5.6	2.8	22.2	-	69.5	8.4
	30歳代	38	55.3	15.8	2.6	7.9	18.4	-	71.1	10.5
	40歳代	47	55.3	27.7	4.3	2.1	8.5	2.1	83.0	6.4
	50歳代	49	51.0	26.5	4.1	2.0	16.3	-	77.5	6.1
60歳代	81	53.1	32.1	1.2	2.5	7.4	3.7	85.2	3.7	
70歳以上	115	57.4	28.7	1.7	0.9	7.0	4.3	86.1	2.6	
性・職業別	女性 正社員	86	66.3	24.4	3.5	1.2	4.7	-	90.7	4.7
	パート等	118	50.8	30.5	2.5	1.7	11.9	2.5	81.3	4.2
	自営業・家族従事者・その他	35	57.1	31.4	5.7	-	2.9	2.9	88.5	5.7
	主婦・主夫	110	44.5	39.1	0.9	0.9	11.8	2.7	83.6	1.8
	学生・無職	72	54.2	26.4	4.2	2.8	8.3	4.2	80.6	7.0
	男性 正社員	165	50.9	25.5	4.2	4.2	12.7	2.4	76.4	8.4
	パート等	52	55.8	36.5	-	-	7.7	-	92.3	-
	自営業・家族従事者・その他	52	53.8	28.8	1.9	1.9	11.5	1.9	82.6	3.8
	主婦・主夫	1	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
学生・無職	97	56.7	25.8	2.1	1.0	10.3	4.1	82.5	3.1	

【経年比較】

全体では、前回調査とほとんど変化がありません。
性別でも、男女とも全体と同様の傾向です。

【女性の意見の反映について（経年比較）】

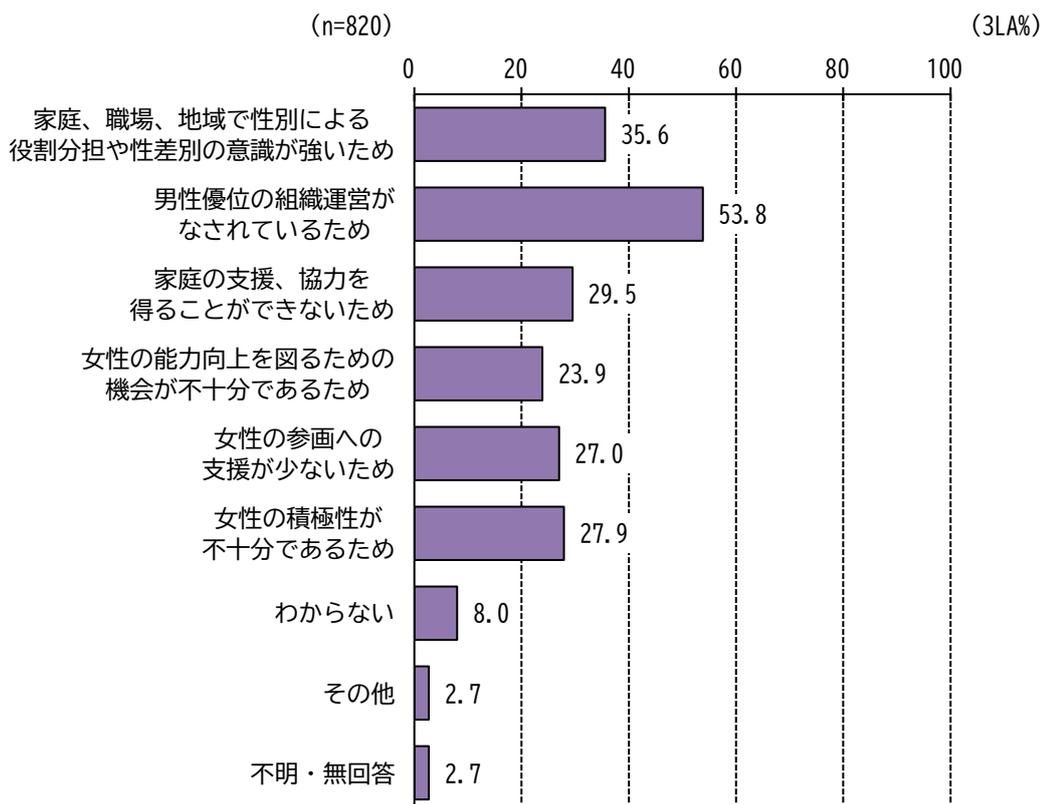


問27 「政治や行政、企業の運営等において、女性の参画が少ない」と言われていますが、あなたは、その原因は何だと思えますか。(〇は3つまで)

【全体】

政治や行政、企業の運営等において、女性の参画が少ない原因について、「男性優位の組織運営がなされているため」が 53.8%で最も多く、次いで「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強いため」が 35.6%、「家庭の支援、協力を得ることができないため」が 29.5%となっています。

【政治や行政、企業の運営等において、女性の参画が少ない原因（3LA）】



【性別】

「家庭の支援、協力を得ることができないため」で女性の方が男性よりも6ポイント多いほかは、男女の差は5ポイント以内となっています。

【性・年齢別】

「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強い」は女性の30歳代が46.2%、40歳代が50.0%で他の年齢に比べて多くなっています。

「男性優位の組織運営がなされているため」は女性20歳代以下が70.6%で特に多いほか、女性の30歳代、男性の40歳代でも6割を超えており、他の年齢に比べて多くなっています。

「家庭の支援、協力を得ることができないため」は女性の40歳代と50歳代がそれぞれ4割を超えており、他の年齢に比べて多くなっています。

「女性の参画への支援が少ないため」は男性20歳代以下が44.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

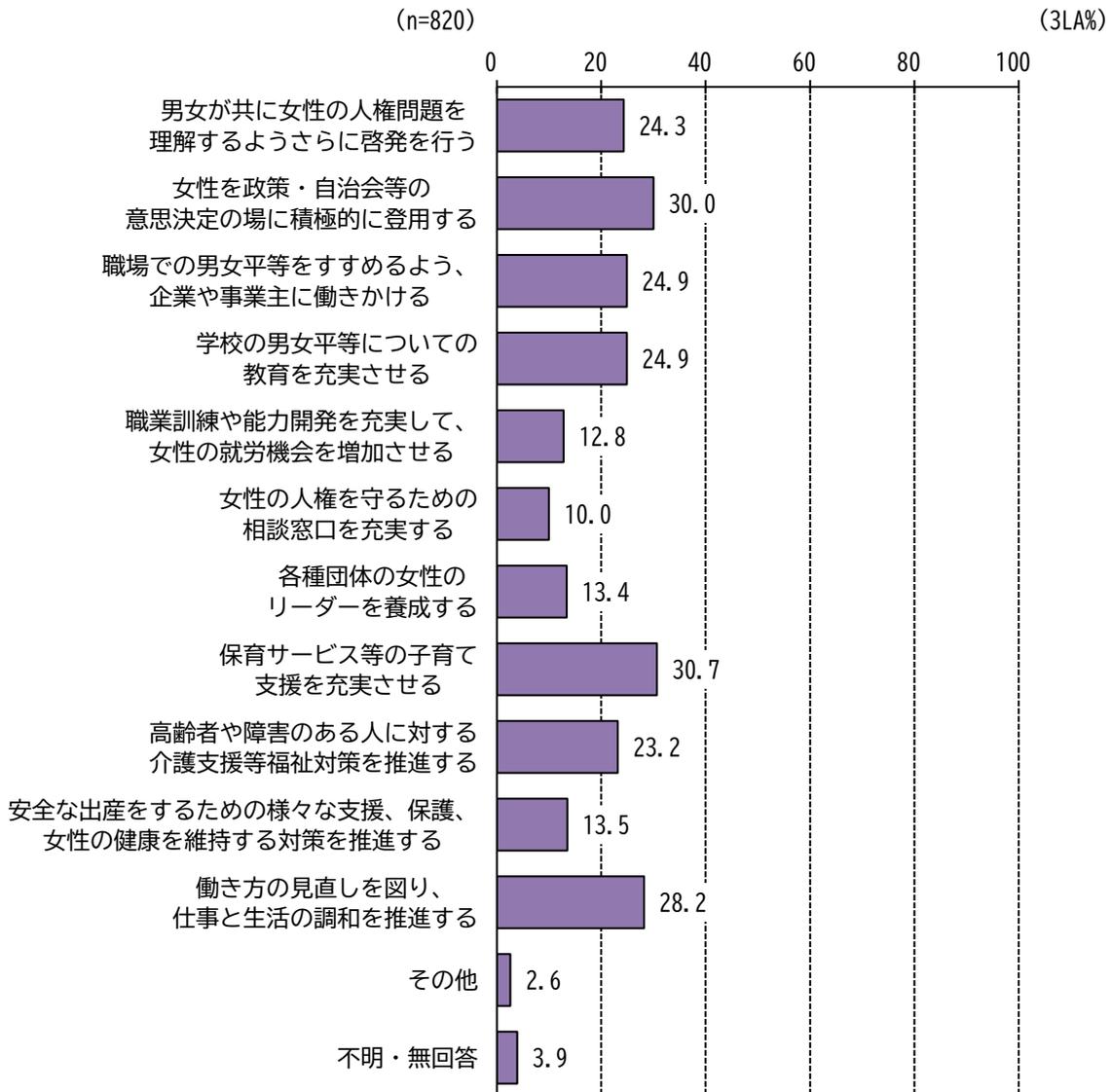
		母数 (n)	政治や行政、企業の運営等において、女性の参画が少ない原因(3LA)								
			役割分担や性別意識が強い	男性優位の組織運営がなされている	家庭の支援、協力を得ることができない	女性の能力向上を図るための機会が不十分である	女性の参画への支援が少ない	女性の積極性が不十分である	わからない	その他	不明・無回答
全体		820	35.6	53.8	29.5	23.9	27.0	27.9	8.0	2.7	2.7
性別	女性	422	37.2	54.5	32.7	26.3	24.6	27.7	8.1	0.9	2.4
	男性	367	34.9	54.0	26.7	21.8	29.4	28.6	6.8	4.9	3.0
	答えない	17	5.9	47.1	17.6	11.8	58.8	17.6	29.4	-	-
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	41.2	70.6	29.4	29.4	23.5	26.5	8.8	-	-
	30歳代	39	46.2	66.7	30.8	23.1	25.6	20.5	7.7	2.6	2.6
	40歳代	64	50.0	59.4	40.6	17.2	28.1	20.3	1.6	1.6	1.6
	50歳代	58	36.2	48.3	46.6	24.1	17.2	27.6	6.9	-	-
	60歳代	97	33.0	52.6	34.0	32.0	19.6	26.8	11.3	-	3.1
	70歳以上	128	30.5	48.4	22.7	27.3	30.5	34.4	9.4	1.6	3.9
	男性 20歳代以下	36	33.3	25.0	22.2	5.6	44.4	19.4	8.3	8.3	-
	30歳代	38	28.9	47.4	31.6	18.4	18.4	23.7	18.4	10.5	-
	40歳代	47	36.2	63.8	19.1	23.4	29.8	21.3	10.6	-	-
	50歳代	49	28.6	44.9	30.6	16.3	26.5	26.5	8.2	10.2	2.0
	60歳代	81	30.9	49.4	25.9	25.9	22.2	32.1	4.9	4.9	4.9
70歳以上	115	41.7	56.5	27.8	27.0	34.8	34.8	1.7	1.7	5.2	

問28 男女が共に輝いて生きる男女共同社会を築くため、今後、福知山市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

今後、市が力を入れていくべきことについて、「保育サービス等の子育て支援を充実させる」が30.7%で最も多く、次いで「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」が30.0%、「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」が28.2%となっています。

【今後市が力を入れていくべきこと (3LA)】



【性別】

女性は「保育サービス等の子育て支援を充実させる」が34.4%で最も多く、次いで「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」が33.9%となっています。

男性は「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」が34.6%で最も高く、次いで「保育サービス等の子育て支援を充実させる」が27.5%となっています。

「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」は女性の方が男性より約10ポイント多くなっています。

【性・年齢別】

「保育サービス等の子育て支援を充実させる」は男女とも30歳代は4割を超えており、特に女性は48.7%と半数近くなっています。また、女性では40歳代と60歳代でも4割を超えています。

「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」は男性の40歳代が40.4%と他の年齢に比べて多くなっています。

「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」は男性20歳代以下が50.0%と特に多く、女性の40歳代も4割を超えて他の年齢に比べて多くなっています。

「高齢者や障害のある人に対する介護支援等福祉対策を推進する」は女性の60歳代が37.1%、70歳以上が37.5%と他の年齢に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	今後市が力を入れるべきこと (3LA)															
			さらに女性が啓発を行う	男女共に女性の権利問題を理解するよう	積極的に政策・自治会等の意思決定の場に	女性を政策・自治会等の意思決定の場に	事業主の働きかけ	職場での男女平等をすすめるよう、企業や	学校の男女平等についての教育を充実させる	機会を増加させる	職業訓練や能力開発を充実して、女性の就労	女性の権利を守るための相談窓口を充実する	各種団体の女性のリーダーを養成する	保育サービス等の子育て支援を充実させる	福祉対策を推進する	高齢者や障害のある人に対する介護支援等	女性の健康を維持するための様々な支援、保護、	安全な出産をするための対策を推進する
全体		820	24.3	30.0	24.9	24.9	12.8	10.0	13.4	30.7	23.2	13.5	28.2	2.6	3.9			
性別	女性	422	22.5	25.6	23.5	25.6	12.3	9.2	12.3	34.4	28.4	11.6	33.9	2.6	3.3			
	男性	367	25.6	34.6	27.2	24.0	13.6	10.9	14.7	27.5	17.2	15.0	22.3	2.5	4.4			
	答えない	17	29.4	35.3	17.6	29.4	58.8	11.8	5.9	23.5	23.5	17.6	29.4	5.9	-			
性・年齢別	女性 20歳代以下	34	17.6	35.3	32.4	20.6	8.8	14.7	11.8	26.5	14.7	17.6	35.3	-	-			
	30歳代	39	23.1	30.8	30.8	25.6	10.3	5.1	15.4	48.7	7.7	10.3	20.5	7.7	2.6			
	40歳代	64	18.8	21.9	23.4	26.6	3.1	7.8	12.5	40.6	18.8	4.7	43.8	9.4	3.1			
	50歳代	58	20.7	24.1	22.4	22.4	17.2	6.9	12.1	32.8	25.9	15.5	37.9	1.7	5.2			
	60歳代	97	29.9	18.6	24.7	27.8	12.4	10.3	12.4	41.2	37.1	15.5	33.0	-	-			
	70歳以上	128	21.1	28.1	18.8	25.8	16.4	10.2	11.7	25.0	37.5	9.4	32.0	0.8	6.3			
	男性 20歳代以下	36	8.3	25.0	25.0	27.8	16.7	5.6	11.1	22.2	8.3	30.6	50.0	2.8	2.8			
	30歳代	38	21.1	26.3	23.7	13.2	18.4	15.8	10.5	42.1	7.9	13.2	31.6	2.6	-			
	40歳代	47	25.5	40.4	29.8	23.4	17.0	10.6	19.1	27.7	12.8	12.8	25.5	2.1	-			
	50歳代	49	26.5	34.7	28.6	26.5	4.1	8.2	8.2	24.5	16.3	10.2	24.5	6.1	2.0			
	60歳代	81	24.7	35.8	22.2	16.0	18.5	13.6	12.3	28.4	18.5	14.8	17.3	2.5	7.4			
70歳以上	115	33.0	37.4	31.3	30.4	10.4	10.4	19.1	25.2	24.3	13.9	12.2	0.9	7.0				

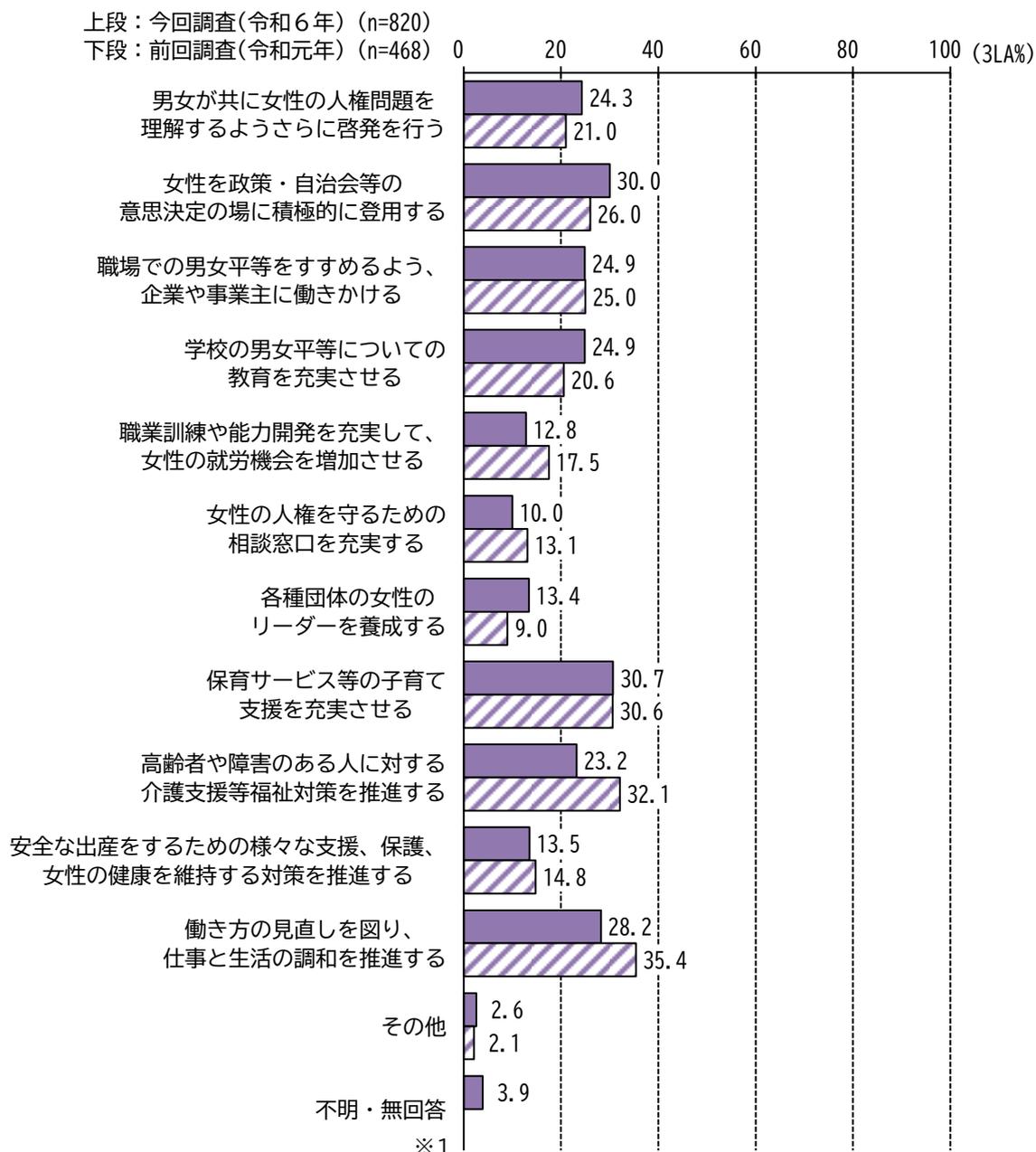
【経年比較】

前回調査の上位2項目である「働き方の見直しを図り、仕事と生活の調和を推進する」と「高齢者や障害のある人に対する介護支援等福祉対策を推進する」は、前回調査に比べて回答割合が減少しています。

前回調査で第3位であった「保育サービス等の子育て支援を充実させる」が今回調査では第1位になっていますが、回答割合はほとんど変わっていません。

前回調査よりも回答割合が増加した項目としては、「男女が共に女性の人権問題を理解するようさらに啓発を行う」「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」「学校の男女平等についての教育を充実させる」「各種団体の女性のリーダーを養成する」があげられます。

【今後市が力を入れるべきこと（経年比較）】



※1 前回調査では分母に「無回答」を含まない

令和6年度福知山市男女共同参画に関する市民意識調査

福知山市では、人権尊重を基調に、性別にかかわらず、一人ひとりの個性や能力を認め合い、十分に発揮できる男女共同参画社会をめざして、「福知山市男女共同参画推進条例」の基本理念のもと、「第4次福知山市男女共同参画計画はばたきプラン2021」を策定し、様々な取組を進めています。

「男女共同参画に関する市民意識調査」は、現在の「第4次福知山市男女共同参画計画はばたきプラン2021」を見直し、市の実情にあった後期計画を策定するための基礎資料として実施するものです。

回答いただいた内容は、すべて統計的に処理し、厳重に管理しますので、外部にもれることや、この調査の目的以外に使用することはありません。

本調査の趣旨を理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和6年9月4日

福知山市長 大橋 一夫

回答にあたって

- 1 封筒の宛名の本人が回答してください(記入は家族の方の代筆でも結構です)。
- 2 アンケートは無記名になっており、個人を特定するものではありません。
- 3 回答は問1から順に、質問ごとに選択肢の中からあなた自身の考えにあてはまるものを選んでください。記述式の回答欄には具体的に記入してください。回答にかかる時間は15分程度です。
- 4 次のどちらかの方法で回答してください。

① インターネットで回答	○右の二次元コードをスマートフォン等で読み取り、操作手順に従い回答してください。	
② 郵送で回答	○調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れ、切手をはらずにそのまま返送してください。	

○円滑な集計のため、インターネットでの回答にご協力をお願いします。

- 5 回答期限は9月30日(月)です。※必ず期限内に回答をお願いします。

【問合せ先】 福知山市 地域振興部 人権推進室 男女共同参画推進係
〒620-0035 福知山市字内記100
電話:0773-24-7022 Fax:0773-23-6537

■あなたご自身のことについておたずねします。

① あなたが捉えている性別を教えてください。(〇は1つだけ)

1. 女性	2. 男性	3. 答えない
-------	-------	---------

② あなたの年齢を教えてください。(〇は1つだけ)

1. 16~17歳	2. 18~19歳	3. 20~29歳	4. 30~39歳
5. 40~49歳	6. 50~59歳	7. 60~69歳	8. 70歳以上

③ あなたの職業を教えてください。(〇は1つだけ)

1. 自営業(個人事業主・農林水産業を含む)	2. 家族従事者	
3. 正社員(従業員)・公務員		
4. 契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等、非正規雇用		
5. 専業主婦・専業主夫	6. 学生	7. 無職
8. その他(具体的に)

④ あなたは、現在結婚していますか。(〇は1つだけ)

1. 結婚していない	2. 結婚している(同棲、事実婚を含む)
3. 結婚していたが離別、死別した	

⑤ 上記の設問で「2. 結婚している」と答えた方におたずねします。あなたと配偶者(同棲・事実婚含む)の働き方について教えてください。(〇は1つだけ)

1. 夫婦とも正規雇用で働いている	
2. 夫は正規雇用、妻はパート等非正規雇用で働いている	
3. 妻は正規雇用、夫はパート等非正規雇用で働いている	
4. 夫婦とも非正規雇用で働いている	
5. 夫だけ働いている	
6. 妻だけ働いている	
7. 夫婦とも働いていない(退職の場合も含む)	
8. その他(具体的に)

⑥ あなたの家族構成を教えてください。(〇は1つだけ)

1. 一人世帯(ひとり暮らし)	2. 夫婦のみ(同棲、事実婚を含む)
3. 二世帯世帯(夫婦と子、親と子等)	4. 三世帯世帯(祖父母と親と子)
5. その他(具体的に)



みなさんの意見をお聞かせください。
最後まで、よろしくお願いします♪

■男女平等意識についておたずねします。

問1 今、日本の社会において男女のおかれている状況はどの程度平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
② 雇用の機会や働く分野では	1	2	3	4	5	6
③ 賃金や待遇では	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
⑤ 自治会や地域では	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治・経済活動への参加では	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会の習慣やしきたりでは	1	2	3	4	5	6
⑨ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問2 次のようなことについてどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	非常に抵抗を感じる	少し抵抗を感じる	抵抗は感じない	わからない
① 「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方	1	2	3	4
② 子どもが小さいときは母親が子育てに専念したほうがよい	1	2	3	4
③ 女性が仕事をするのはよいが家事・育児はきちんとすべきだ	1	2	3	4
④ 男性が育児休業、介護休業をとること	1	2	3	4
⑤ 女性が自治会、公民館等団体の代表や企業の代表になること	1	2	3	4
⑥ 夫婦別姓にすること	1	2	3	4

■性別役割分担についておたずねします。

問3 「男は仕事 女は家庭」というように性別によって役割を固定する考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

1. そう思う	2. そう思わない
3. どちらともいえない	4. わからない

問4 あなたの家庭では、その役割を主にだれがしているか選んでください(配偶者や子ども、介護者がいない場合も、仮にいたと想定して選んでください)。(○はそれぞれ1つずつ)

	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	わからない
① 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
② 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6
③ 掃除	1	2	3	4	5	6
④ 洗濯	1	2	3	4	5	6
⑤ ごみ出し	1	2	3	4	5	6
⑥ 食品等、日常の買い物	1	2	3	4	5	6
⑦ 住宅、自動車等の高額な買い物	1	2	3	4	5	6
⑧ 日常の家計管理	1	2	3	4	5	6
⑨ 預貯金等の資産の管理	1	2	3	4	5	6
⑩ 生活費の確保	1	2	3	4	5	6
⑪ 育児(乳幼児の世話)	1	2	3	4	5	6
⑫ 子どもの教育(進学等)・しつけ	1	2	3	4	5	6
⑬ 高齢者の介護	1	2	3	4	5	6
⑭ 地域の活動	1	2	3	4	5	6

問5 男性が家事・育児・介護を行うことについて、どのように考えますか。(○は3つまで)

1. 男性も家事・育児・介護を行うことは当然である 2. 男性自身も充実感が得られる 3. 子どもにいい影響を与える 4. 仕事と両立させることは、現実として難しい 5. 家事・育児・介護は女性のほうが向いている 6. 周囲から冷たい目で見られる 7. 男性は家事・育児・介護を行うべきではない 8. 特にな 9. その他(具体的に)
--

問6 男性が家事・育児・介護を行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

1. 男女の役割分担についての社会の意識、慣習を改めること
2. 男性が家事・子育て等を行うことに対する抵抗感をなくすこと
3. 労働時間の短縮や休暇制度(育児・介護休業制度等)の普及により、仕事以外の時間の拡充を図ること
4. 子育てや介護をすることが、仕事への評価につながる
5. 子どものころから家庭や学校で男女平等に関する教育をすること
6. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
7. 夫婦や家族の間でコミュニケーションを図ること
8. 役割分担等について、まわりの人が、当事者の考え方を尊重すること
9. 講演会や研修会等に参加し、男性の家事・子育ての意識について学ぶこと
10. 男性の地域での仲間、ネットワークづくりを進めること
11. 特にな
12. わから
13. その他(具体的に)

■仕事についておたずねします。

問7 一般的に女性が仕事をするについてどのように思いますか。(〇は1つだけ)

1. 女性は仕事をしないほうがよい
2. 結婚するまでは仕事をするほうがよい
3. 子どもができるまでは仕事をするほうがよい
4. 育児が終われば、パート・アルバイト等非正規雇用で仕事をするほうがよい
5. 育児が終われば、正規雇用で仕事をするほうがよい
6. 結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい
7. その他(具体的に)

問8 女性が働き続ける上で支障となることはどのようなことだと思いますか。
(〇は3つまで)

1. 家事・育児の負担が大きいこと
2. 夫の理解や協力がでないこと
3. 保育体制が不備
4. 職場で結婚・出産退職の慣例があること
5. 夫の長時間労働や転勤
6. 職場で男女の格差があること
7. 支障になることはない
8. わから
9. その他(具体的に)

問9 男女が共に働き活躍できるようにするには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

- | | |
|---|---|
| 1. 男女が共に、育児休業・介護休業をとりやすくすること
2. 保育所、放課後児童クラブ等、就労と子育ての両立ができる環境を整えること
3. 地域で子育てや介護支援ができるよう、自主的なネットワークをつくること
4. 労働時間の短縮や在宅勤務ができる等、多様な働き方ができること
5. 福祉施設、介護保険サービス等、高齢者に対する福祉を充実させること
6. 子育てや介護による離職後、職場復帰ができる制度を作ること
7. 再就職のための訓練やセミナーを開くこと
8. 職場の中の女性差別をなくすこと
9. 男性は女性を扶養するものという考えをなくすこと
10. 会社の経営方針等を決定する管理職に女性が増えること
11. その他(具体的に |) |
|---|---|

■教育についておたずねします。

問10 次のようなことについてどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
① 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい	1	2	3	4	5
② 女の子も男の子も家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
③ 女の子も男の子も経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
④ 男の子は理系、女の子は文系に進んだ方がよい	1	2	3	4	5
⑤ 女の子は浪人をしてまで志望校にいかなくてもよい	1	2	3	4	5

問11 男女共同参画を進めていくために、学校教育の現場ではどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男女の平等と、相互理解や協力についての学習を充実する
2. お互いの性を尊重しあえる教育を行う
3. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する
4. 研修を通して、男女平等に関する教師自身の意識を変えていく
5. 校長・教頭等の管理職に女性を積極的に登用する
6. わからない
7. その他(具体的に)

■社会活動への参加についておたずねします。

問12 現在、どのような社会活動に参加をしていますか。(〇はいくつでも)

1. 自治会等の地域活動
2. 防災・減災に関する活動
3. 市民団体やグループ活動
4. PTAや子ども会等の青少年活動
5. NGO(※1)やNPO(※2)等の民間活動
6. スポーツ・文化活動
7. 福祉・ボランティア活動
8. 環境保護・消費者団体の活動
9. 国際交流活動
10. 審議会、委員会等の公的活動
11. 特に何もしていない
12. その他(具体的に)

※ 1 「NGO」とは

政府や国際機関などに属さず、世界的な問題(人権の促進・環境保護・教育の提供など)に対して活動を行う市民団体のことです。

※ 2 「NPO」とは

社会的な目的や使命(ミッション)を持ち、利益ではなくその目的を達成するために活動する「非営利団体」のことです。外務省は「日本では、海外の課題に取り組む活動を行う団体をNGO、国内の課題に対して活動する団体をNPOと呼ぶ傾向にあるようです」と説明しています。どちらも政府から自立した民間の立場であり、社会問題に取り組んでいるなどの共通点があります。

問13 あなたが住んでいる地域(自治会等)で、男女によって役割に違いがあると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男性が女性を対等なパートナーとして見ていない
2. 女性が表に出るべきではないという雰囲気がある
3. 女性が意見を言いづらい、女性の意見が聞き入れられにくい状況がある
4. 役員の選出に女性が出づらい、また選ばれにくい状況がある
5. 団体の長には男性がなり、女性は補助的な役職になる慣行がある
6. 女性が役職になりたがらない
7. 会議や行事等で、女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い
8. 男女の役割に違いや差はない
9. その他(具体的に)

■防災についておたずねします。

問14 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いませんか。
(○は1つだけ)

1. そう思う	2. そう思わない
3. どちらともいえない	4. わからない

問15 問14で「1. そう思う」と答えた方におたずねします。防災・災害復興対策で性別に配慮した対応が必要だと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

1. 避難所の設備(男女別トイレ・更衣室・洗濯干場・授乳室等) 2. 避難所運営や被災者対応に男女が共に参画し、男女両方の視点が入ること 3. 備蓄品の備えやニーズの把握、支給する際の配慮 4. 災害時の救援医療体制 5. 被災者に対する相談体制 6. 災害対策部署に女性が参画し、女性の視点が入ること 7. 防災会議に男女が共に参画し、計画に男女両方の視点が入ること 8. わからない 9. その他(具体的に)

■ワーク・ライフ・バランス(※3)についておたずねします。

問16 生活の中での、「仕事」、「家庭・個人の生活」、「地域・社会活動」の優先度について、あなたに最も近いものをそれぞれ1つだけ選んでください。

	「仕事」を優先	「家庭・個人の生活」を優先	「地域・社会活動」を優先	「仕事」と「家庭・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「地域・社会活動」をともに優先	「家庭・個人の生活」と「地域・社会活動」を両立	わからない	
現状(現実)	1	2	3	4	5	6	7	8
希望	1	2	3	4	5	6	7	8



半分終わりました♪
あと半分よろしくお願いします！

問17 ワーク・ライフ・バランスを推進し、生活の中での優先度をあなたの希望に近付けるためにはどのようにすればいいと思いますか。(〇は3つまで)

1. 長時間労働を見直すこと
2. 短時間勤務や在宅勤務制度等多様な働き方を導入すること
3. 年次休暇を取得しやすくすること
4. 保育・介護サービスを充実すること
5. 地域活動や自己啓発を評価の対象にすること
6. 「男性は仕事、女性は家庭」という固定的な性別役割分担意識を解消すること
7. ワーク・ライフ・バランスに関する教育や啓発を行うこと
8. その他(具体的に)

※ 3 「ワーク・ライフ・バランス」とは

日本語で「仕事と生活の調和」を意味し、政府広報オンラインでは、「働くすべての人々が、『仕事』と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった『仕事以外の生活』との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方」と定義されています。男女共同参画社会の実現には、性別に関係なく自らが希望するバランスでその年代に応じて展開できる社会が必要とされています。

■女性に対する人権侵害についておたずねします。

問18 あなたは、女性の人権は守られていると思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 守られている | 2. 守られていない |
|-----------|------------|

問19 問18で「2. 守られていない」に〇印をつけた方におたずねします。
その理由をお答えください。(〇は3つまで)

1. 夫やパートナー(事実婚・内縁関係を含む)、恋人からの暴力
2. 夫やパートナー、恋人からの一方的な性的強要
3. ストーカー行為(つきまとい)
4. 買春・売春・援助交際
5. 雑誌、テレビ、インターネット等のメディアで、女性を性的な対象として描くこと
6. 女性を下位にみて侮辱する言葉を投げつけたり、からかいの対象にしたりすること
7. その他(具体的に)

■暴力についておたずねします。

問20 あなたは、過去3年間にドメスティック・バイオレンス（配偶者または元配偶者、パートナー、恋人からの暴力）を受けたことがありますか。（○はそれぞれ1つ）

	常にある	ときどきある	一、二度ある	ない
① 身体的な暴力（なぐる、ける、物を投げつける等の行為）	1	2	3	4
② 精神的な暴力（ののしりの言葉、何を言っても無視する、おどす等の行為）	1	2	3	4
③ 社会的な暴力（実家・友だちとの付き合いを禁止する、外出の制限をする、携帯電話・メール、ラインのチェックをする等の行為）	1	2	3	4
④ 経済的な暴力（生活費を渡さない、金の使い道を細かくチェックする、仕事に就かせない等の行為）	1	2	3	4
⑤ 性的な暴力（無理矢理セックスをする、避妊に協力しない、ポルノ雑誌を無理矢理見せる等の行為）	1	2	3	4
⑥ 子どもを巻き添えにした暴力（子どもの前で暴力をふるう等の行為）	1	2	3	4

問21 問20で①から⑥の項目のいずれかに「常にある」、「ときどきある」、「一、二度ある」に○をされた方におたずねします。

その行為についてだれか（どこか）に相談しましたか。（○はいくつでも）

1. 警察に通報・相談した	2. 公的機関に相談した
3. 家族や親族に相談した	4. 友人や知人に相談した
5. だれ（どこ）にも相談しなかった	
6. その他（具体的に	）

問22 問21で「5. だれ（どこ）にも相談しなかった」の理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから
2. 知られたいくなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると仕返しをされると思ったから
5. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから
6. そのことについて思い出したくなかったから
7. 自分にも悪いところがあると思ったから
8. 相談するほどのことではないと思ったから
9. 相手の行為は愛情表現だと思ったから
10. 相談することで自分が傷つきたくなかったから
11. その他（具体的に
）

問23 過去3年間に、問20の行為を配偶者、元配偶者、パートナーまたは恋人に、どれか1つでも行ったことがありますか。どちらかに○をつけてください。

1. ある

2. ない

問24 あなたは、ドメスティック・バイオレンス等、暴力を防止するためにどのようにすればよいと思いますか。(○はいくつでも)

1. 相談先の女性・男性の担当者を増やす等相談しやすいようにする
2. 学校での男女平等や性についての教育を充実させる
3. 家庭や地域での男女平等や性について学習の機会を充実させる
4. 犯罪の取締りを強化する
5. 法律・制度の制定や見直しを行う
6. 暴力をふるう加害者への教育プログラムを行う
7. 過激な内容のインターネット動画やビデオソフト、ゲームソフト、DVD等の販売や貸し出しを制限する
8. インターネットやテレビ、新聞等の倫理規定を強化する
9. 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
10. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)についてさらに啓発する
11. その他(具体的に)

■男女共同参画社会についておたずねします。

問25 あなたは、ジェンダー平等について知っていますか。(○は1つだけ)

1. 言葉も内容も知っている 2. 言葉は知っている 3. 言葉も内容も知らない

問26 女性が知事や市町村長や議会議員、企業の管理職や役員等になって政策や企業の運営に女性の意見がもっと反映されるようになればよいと思いますか。(○は1つだけ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

福知山市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和 7 年 3 月発行

福知山市役所 市民生活部 人権推進室

〒620-0035

京都府福知山市字内記 100

電 話 :0773-24-7022

F A X :0773-23-6537